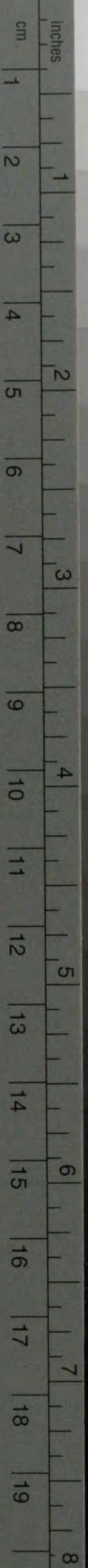


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]
[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]

00
58

600-268
1200501530029

7.2.16

惠峰 石田傳吉著

通俗
寫真入

近世文化年代記

全

發兌元 地方改良協會

惠峰

石田傳吉著

通俗
寫真入

近世文化年代記

全



發兌元
地方改良協會

編輯要領

本書は、通俗的に題名するから近世一百年の年代記であるが、其の内容は堂々たる近世日本の文明史でありて又近代日本の膨脹史でもある。或は又趣味の社會的國民史でもある。故に吾等、日本民族のある處、必らず一本は無かる可らざる國民座右の至寶であるのである。

畏れ多くも、神武天皇 御即位以來、二千六百餘年、人皇一百廿四代中、明治大帝の御治世を中心とする約一百年は、國家として、又國民として、過去の生存上に曾つて經驗しないまでの大革命——燦然たる大進歩の行はれたる劃時代であるのである。

武門武士を中心とする鎖國——封建制度は、明治大帝の大御代に於て、全くその根底は崩壊されて了ひ、日に新たに日に又新らたに、四民平等の御親政は布かれた、加ふるに開國の御政道と共に、歐米の文物は澎湃とし

編輯要領

て日も又足らんまでに輸入されて、國家を治むる諸機關は云ふまでもなく吾等民人の生産上及び生活上の様式の殆んどが、明治の御代を中心として驚く可きまでに、更生して、一大革新が行はれたのである。所謂舶來品なる代名詞が、國民上下の腦裡に深く刻み付けられたのも、此劃時代であつて、今尙、それを拭ひ去ることの出来ないのは、現代國民の總意して反省を要することと思ふ。

斯くて我が日本の國家は、この短時間に於て、曾つて世界萬國史上にも是迄に無きまでの大進歩——大躍進が行はれて、國威の宣揚せらるゝも世界の隅々までも赫々として輝いてゐる。最もこの意義深かりし一百年間に於ける、内外公私の生活に最も多端多様なりし時代の變遷の跡を尋ねて、その又新らしく起つたる事物の起原などを一目瞭然と知悉するとき痛絶なる愉快を感じることは云ふまでもない。

殊に自覺ある近代國民の常識として、國家的にも又、國民的にも、斯の

赫々たる空前の大飛躍の跡と、この異常なる生活上の革新されたることを研究するに興味をもつた吾等は、啓蒙運動者として南船北馬の多忙裡に寸閑をぬすんで採録し始めたのは、今から數十年前のことである。この度時事に感ずる處ありて、急にその得たる資料を整理して本書の編輯を企てたのである。然も雜然たる資料を前にして如何にこれを配列し、鹽梅すべきかと工夫するとき、その材料の選擇に迷ひ、或は又未だ研究の足らざるものの多きを覺えた。調べれば調べるほど範圍は廣大されて、容易ならざる事業たることを知るに及び、一時は微力なる吾等一人の力の良くなすなきを感じて筆を措かんとしたこともあつたが、幸ひにも知己ある人々の鞭撻と、親切なる助成を得たので、再び微力を振り起して、漸く編輯を終つたので上梓することにした。その不備なる點は版を改むるに従つて訂正もし又追加をも加へたいと思ふものである。

幸ひにして、本書を手になされたる方々にして編者の不行届きなる點に御

氣付きもある場合には、何卒遠慮なく御叱責下さると共に、希くは格別なる御同情を以つて指示を給はりたく、著者は謹んでそれを承はり早速改訂増補もいたしまして諸賢の眷顧に御答へいたしたきことを附言する。

昭和六年初冬

郊外烏山眞樂莊にて

著者識

惠峰生

日の出づる大和男子の胸とは、寒風かほる白梅の花。

通俗寫真入 (文化、文政、天保、弘化、嘉永、安政、萬延、文久、元治、慶應、明治、大正、現代) 近世文化年代記 總目次

卷頭 寫真 二八頁小目次

- 一、國寶 東郷元帥書 國歌 君ケ代。
- 肖像 東郷元帥 乃木大將 大山元帥。
- 御宸筆 明治天皇。
- 三、御尊影 仁孝天皇。孝明天皇。明治天皇。大正天皇。今上陛下。
- 四、宮城概況 日本人第二十號(明治二十二年一月十八日發行)に依る御所圖解。
- 五、近代文化のリーダーと昔時の大名行列の光景。
- 六、近代文化のリーダーと昔時の長崎風景。
- 七、近代文化のリーダーと嘉永の頃の横濱村の風景。
- 八、近代文化のリーダーと嘉永七年米國使節を幕吏饗應する光景。
- 九、近代文化のリーダーと彰義隊苦戦の光景。
- 一〇、近代文化のリーダーと白虎隊の悲壯 飯盛山最後の光景。
- 一一、近代文化のリーダーと鳳輦を迎え奉る江戸日本橋通りの光景。
- 一二、近代文化の片影 大隈侯と來島恒喜の影。
- 一三、近代文化のリーダーと白瀬大尉を中心とする南極探検隊の壯況。

一四、近代文化のリーダーと世界大戦に際し遠くその任に就く日本赤十字社の看護婦隊出發の光景

一五、近代文化の片影——滿洲馬賊統領と日清戰役の實況

一六、近代文化の片影——明石將軍と廣瀨中佐と日露戰役の實況

一七、近代文化の片影——大正大地震大火災の實況

一八、近代文化の片影——大正大地震大火災の實況

一九、近代文化の片影——甘粕大尉と復興されたる大東京の光景

二〇、近代文化の片影——大杉夫妻と復興されたる大東京の光景

二一、近代文化のリーダーと復興されたる大東京の光景

二二、近代文化のリーダーと復興されたる大東京の光景

二三、近代文化のリーダーと復興されたる新大阪城の光景

二四、近代文化のリーダーと滿蒙の大風景

二五、近代文化のリーダーと明治神宮外苑野球戰の光景

第一編 總論

第一章 年代記の以つ可き新しい意義

第二章 山雨將に到らんとして風樓に滿つるの光景

第三章 明治大帝御降誕——大革新成る

△五箇條の御誓文——億兆安撫國威宣布の宸翰

第二編 仁孝天皇——御代二十年記

第一章 文化十四年より弘化三年迄

△珍らしい目出度い話

第二編 孝明天皇——御代二十年記

第一章 弘化三年より慶應二年迄

△男女懷妊自在法

第四編 明治天皇——御代四十六年記

第一章 慶應三年より明治十年迄

△明治初年東海道富士川——天龍川の渡船賃表

第二章 明治十一年より二十年迄

△散髪師より泥的が増し

第三章 明治二十一年より三十年迄

△墨の貞操帶

第四章 明治三十一年より四十五年迄

一三

第五編 大正天皇—御代十五年記

一三五

第一章 大正元年より十五年迄

一三五

△テキヤの先輩

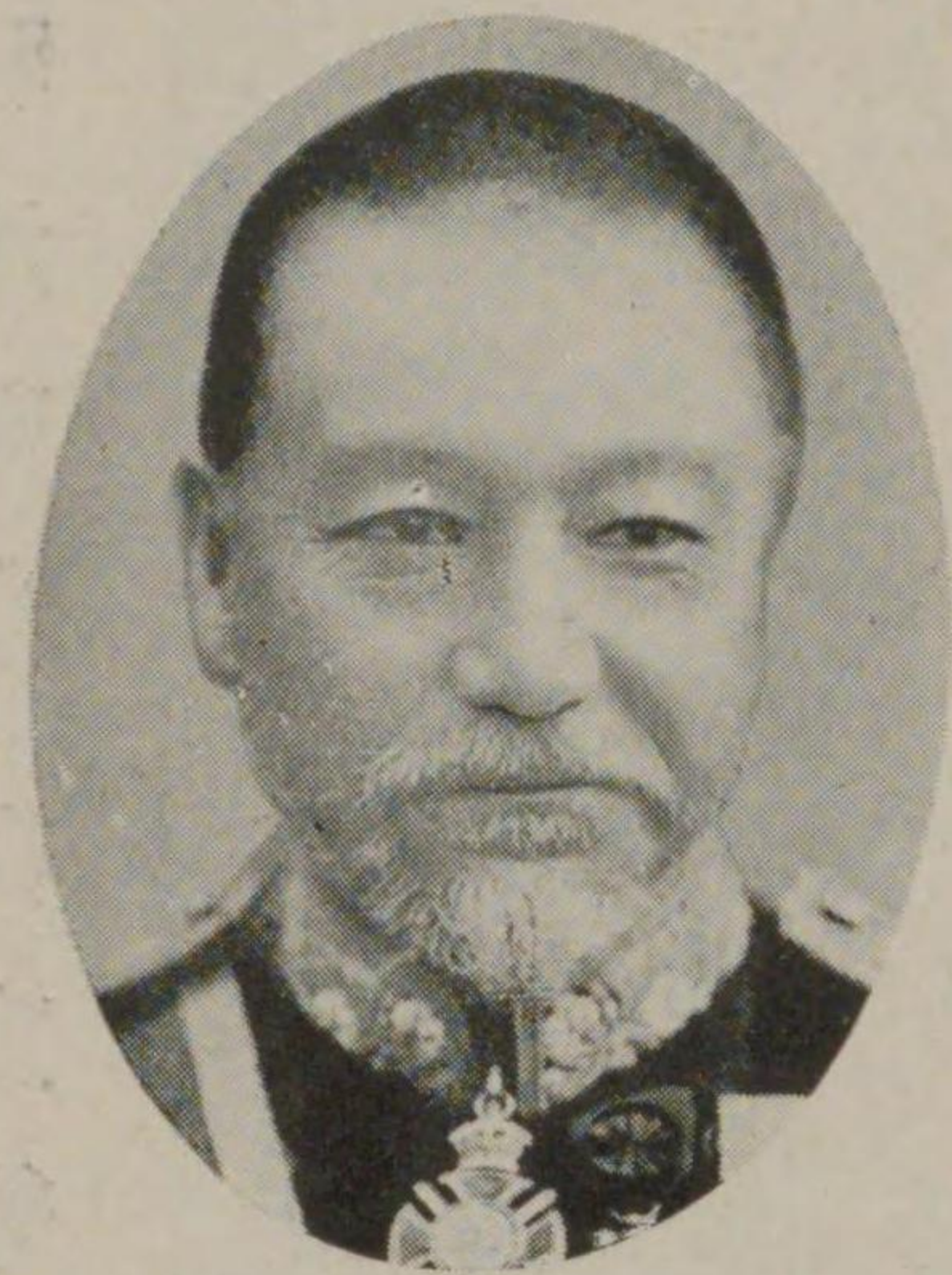
一六四

第六編 今上陛下—御代萬々歳

一六五

第一章 昭和元年より

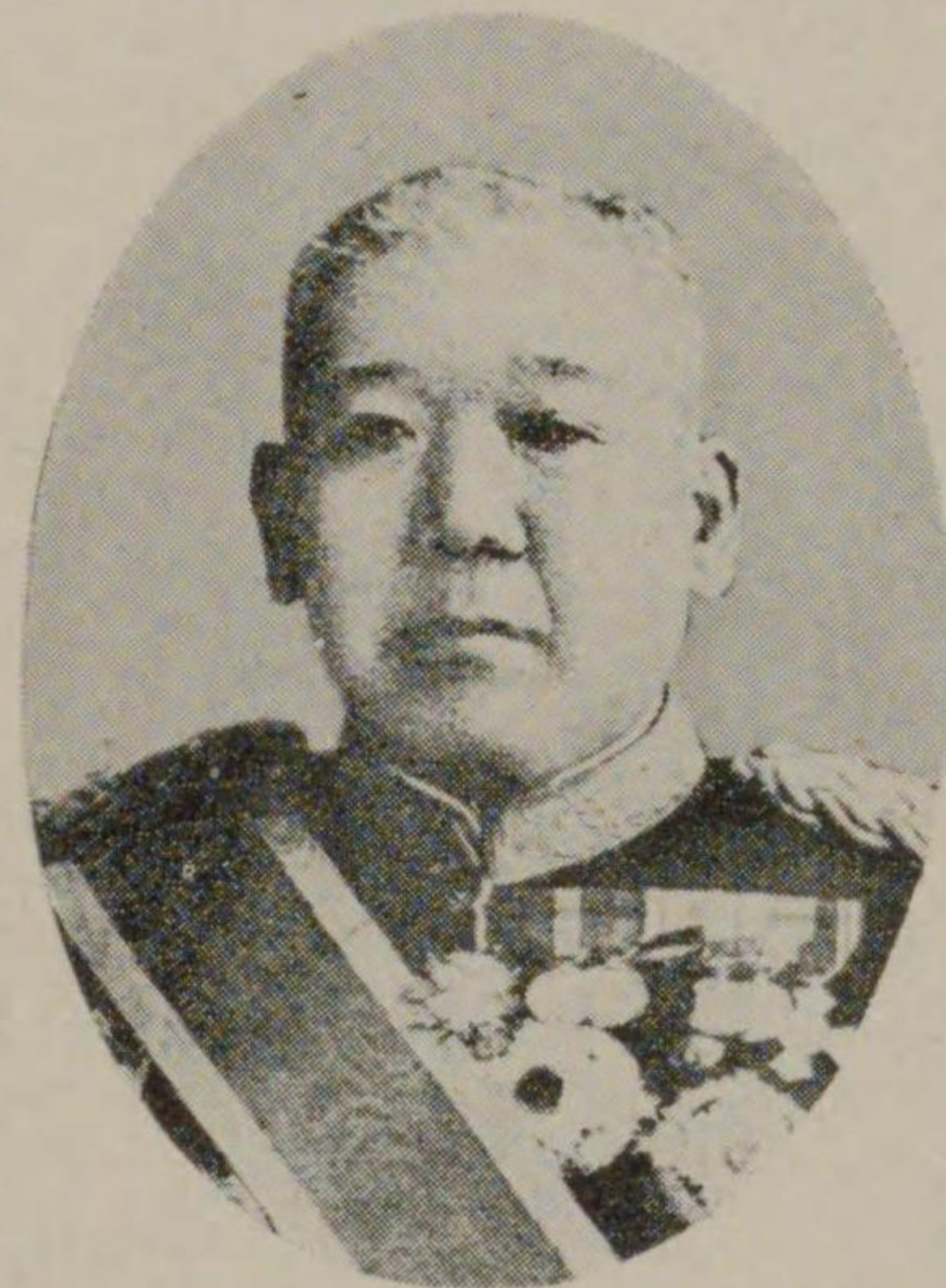
一六五



伯帥元郷東寶國るげ生



下閣將大木乃化權の魂本日るげ逝

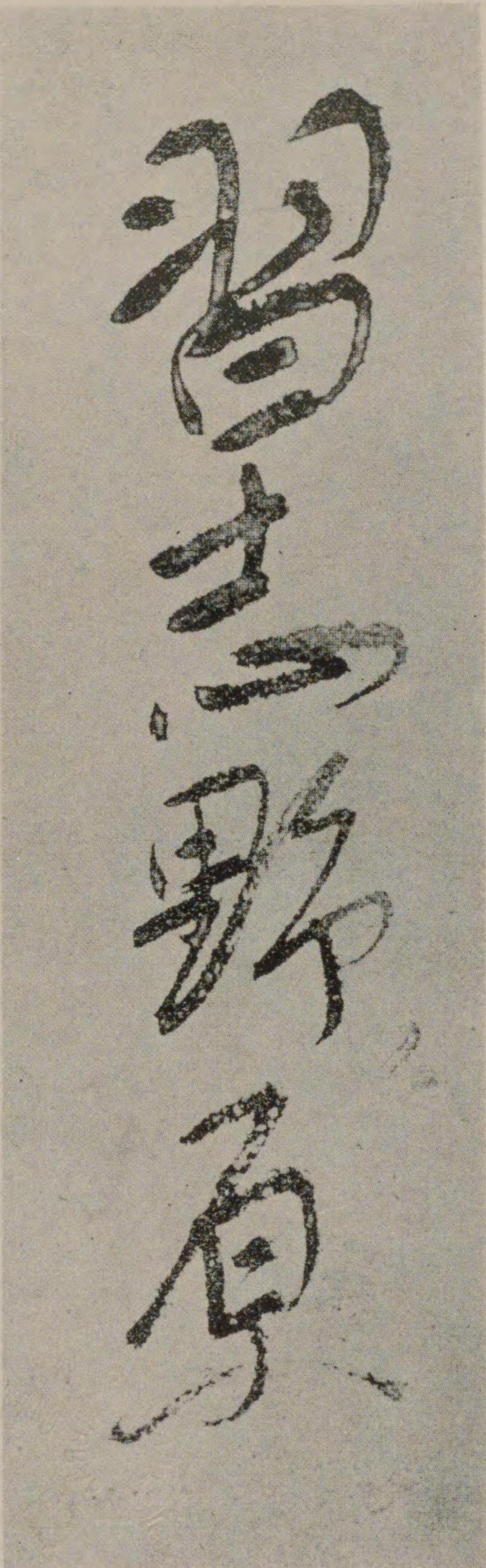


露日、官令司軍一第清征はに役の清日
公巖山大しりた官令司軍露征はに役の

君が代を子代に、子代を孫代の
いもはととなりておけらむもまた

大勲位伯爵東郷平八郎謹言

明治天皇 御宸筆



畏くも此御宸筆は、明治六年五月十三日時、今の千葉縣千葉郡大和田町及二宮村の一部を以て陸軍訓練場を設置するにあたり、德太寺宮内卿を以て陸軍少將篠原國幹を被爲召、下總國千葉郡の内原の地名を「習志野原」と改稱賜はりし際、別紙御直筆を以て御渡相成候事と承る。尙それより先き四月廿九日近衛兵を御引率ありて此原へ演習御統監のため行幸ありし折りには、豫て御用意の御幕營に御假泊あらせられ貴き御體験を得させられし御遺跡もある。尙又下の寫眞は最近に習志野練兵場附近に於ける新戰器タングの威力を試験されつゝある實寫である。斯の如き大木もよく數分にして折倒して了ふと云ふ。



皇室

百二十四代
 今上天皇 御名 裕仁
 大正天皇第一皇子
 御降誕 明治三十四年四月廿九日
 立太子式 大正五年十一月三日
 攝政御就任 大正十年十一月二十五日
 御踐祚 昭和元年十二月二十五日
 即位禮 昭和三年十一月十日
 皇 后 御名 良子
 故邦彦王第一王女
 御誕生 明治三十六年三月六日
 御入輿 大正十三年一月二十六日
 立皇后 昭和元年十二月二十五日
 皇 太 后 御名 節子
 故公爵九條道孝第四女 大正天皇皇后
 御誕生 明治十七年六月二十五日
 御入輿 明治三十三年五月十日
 第一皇女 照宮成子内親王 御誕生 大正十四年十二月六日
 第三皇女 孝宮和子内親王 御誕生 昭和四年九月三十日
 第四皇女 順宮厚子内親王 御誕生 昭和六年三月七日
 大正天皇第四皇子 澄宮崇仁親王 御誕生 大正四年十二月二日

皇族

秩父宮	高松宮	閑院宮	東伏見宮	伏見宮	山階宮	賀陽宮	久邇宮	梨本宮	朝香宮	東久邇宮	北白川宮	竹田宮
妃	妃	妃	故依仁親王妃	妃	故菊麿王妃	故邦憲王妃	故邦彦王妃	妃	妃	妃	故成久王妃	故能久親王妃
雅仁親王	宜仁親王	喜仁親王	智仁親王	春仁親王	直仁親王	周仁親王	經仁親王	朝仁親王	武朝親王	常武親王	恒武親王	敏武親王
知子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
明治卅五年六月廿五日	明治卅八年九月九日	明治卅四年十二月廿六日	明治卅五年五月廿二日	明治卅五年八月廿三日	明治卅五年九月廿五日	明治卅五年十月廿六日	明治卅五年十一月廿七日	明治卅五年十二月廿八日	明治卅六年一月廿九日	明治卅六年二月三十日	明治卅六年三月三十一日	明治卅六年四月一日

朝鮮王公族

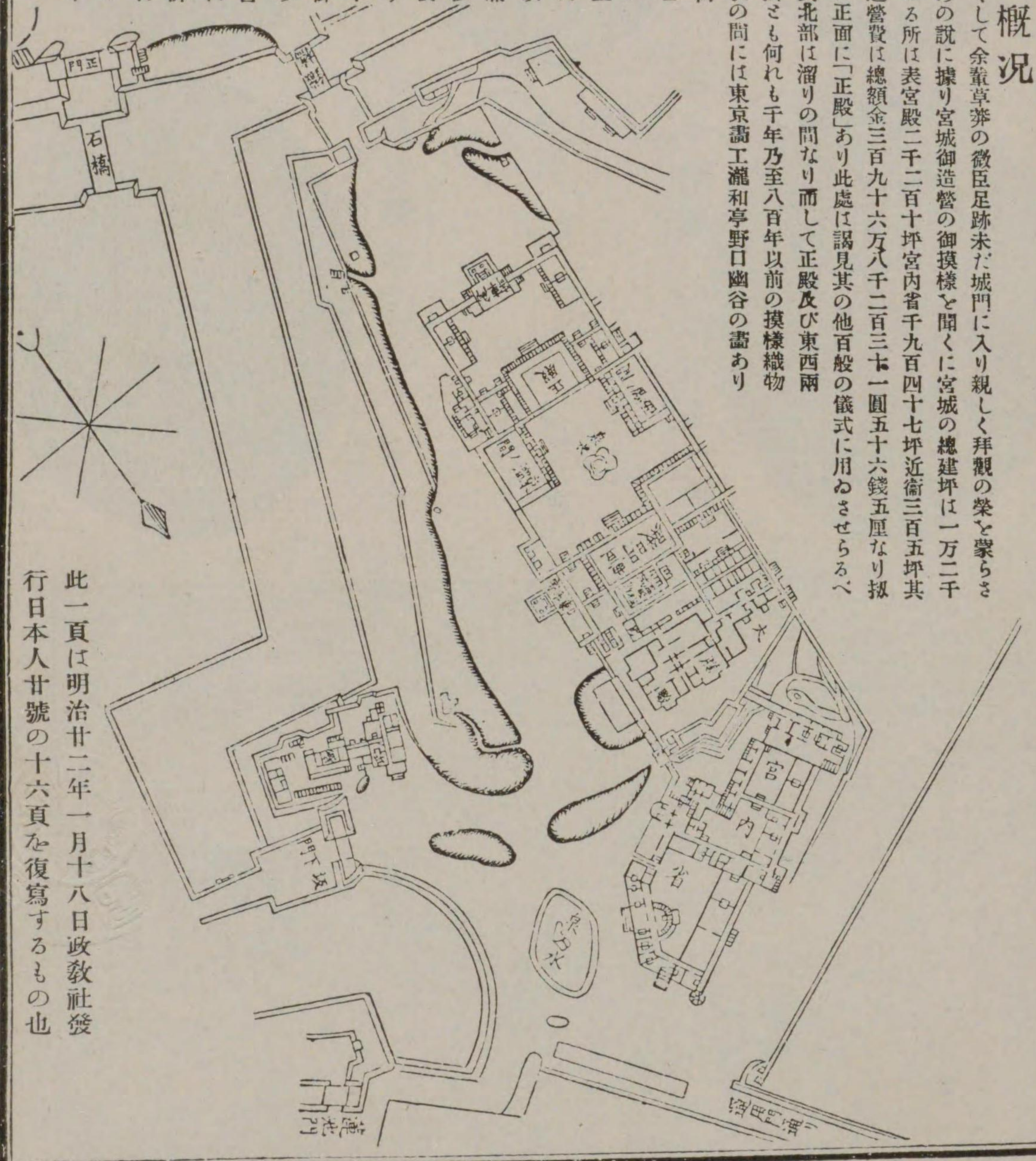
昌德宮李王 璵
 同 妃 方子女王 明治三十年十月二十日
 故李太王妃 尹氏 明治三十四年十一月四日
 李 嬪 公 明治廿七年九月十九日
 同 妃 金氏 明治十年三月三十日
 李 嬪 公 李嬪公 繼嗣 明治十一年十二月廿二日
 李 嬪 公 李嬪公 繼嗣 大正元年十一月十五日
 李 嬪 公 李嬪公 繼嗣 明治十六年七月十日
 李 嬪 公 李嬪公 繼嗣 明治十一年七月八日

巨籍へ御降下の皇族

爵 家名 御 父
 伯 上野 正雄 北白川宮能久親王
 侯 小松 輝久 北白川宮能久親王
 侯 山階 芳麿 山階宮菊麿王
 侯 久邇 邦久 久邇宮邦彦王
 侯 華頂 邦信 伏見宮博恭王
 侯 筑波 藤麿 山階宮菊麿王
 侯 鹿島 萩麿 山階宮菊麿王
 伯 葛城 茂麿 山階宮菊麿王
 伯 東伏見 邦英 久邇宮邦彦王

● 宮城概況

九重の宮雲深く九仞の墻月高くして余輩草莽の微臣足跡未だ城門に入り親しく拜觀の榮を蒙らざれども今ま世上に傳播する所の説に據り宮城御造營の御摸樣を聞くに宮城の總建坪は一万二千七百三坪にして今圖面に掲載せる所は表宮殿二千二百十坪宮内省千九百四十七坪近衛三百五坪其他は裏宮殿なり而して此の御造營費は總額金三百九十六万八千二百三十一圓五十六錢五厘なり扱て御車寄を入りて眞直に進めば正面に「正殿」あり此處は謁見其他百般の儀式に用ゐさせらるべき所なり其の左右は化粧の間其北部は溜りの間なり而して正殿及び東西兩溜の間東西兩化粧の間は壁窓掛も何れも千年乃至八百以前の摸樣織物を垂れ其美譽へん方なし東化粧の間には東京畫工瀧和亭野口幽谷の畫あり西化粧の間には西京畫工久保田米仙幸野梅嶺の畫あり(豊明殿)は内外百官に宴を賜ふべき所にして其の西部は宴會後の休憩室なり此室は後席の間と稱ふ豊明殿と後席の間とは共に六百年以來の織物を以て粧飾し就中後席の間は最近の物を用ひ花卉數多の粧飾を爲したる由西溜の間後席の間の西に沿ふたる通路より西北の方は裏宮殿にして兩陛下御常の御殿皇太后宮陛下の臨御殿内謁見御殿等あり殿内通路の幅員は大抵二間半の由に承る宮殿の形狀を概して評するときは外形は日本造にして内部の粧飾は和洋を折衷し金色玉光燦爛目を奪ひ實に新日本帝室の大範として見奉るべきかかしこみく護んで白す



此一頁は明治廿二年一月十八日政教社發行日本人廿號の十六頁を復寫するもの也

近代文化のリーダー



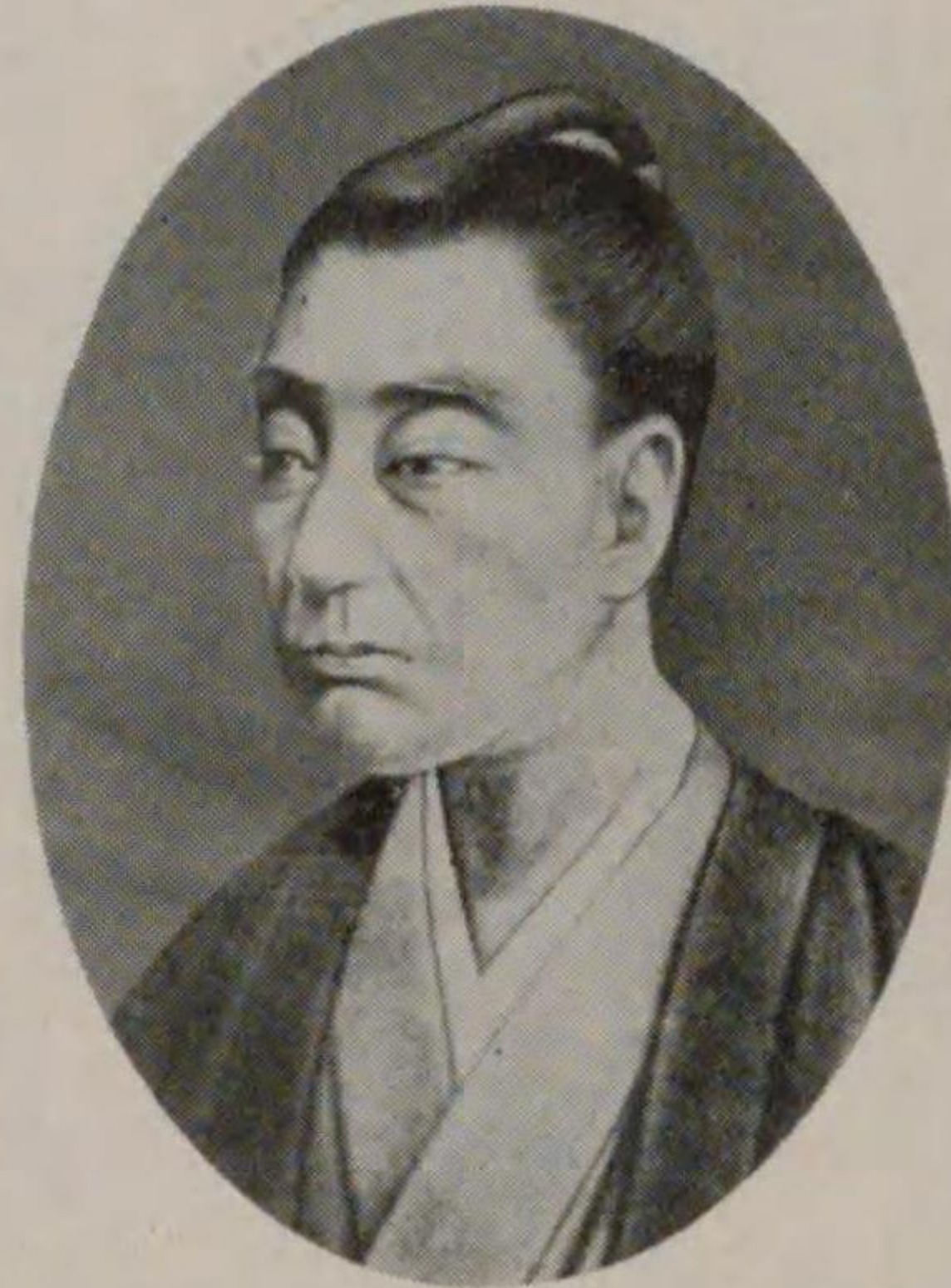
上杉鷹山公 下平野國臣氏

左

中央 島津齋彬公

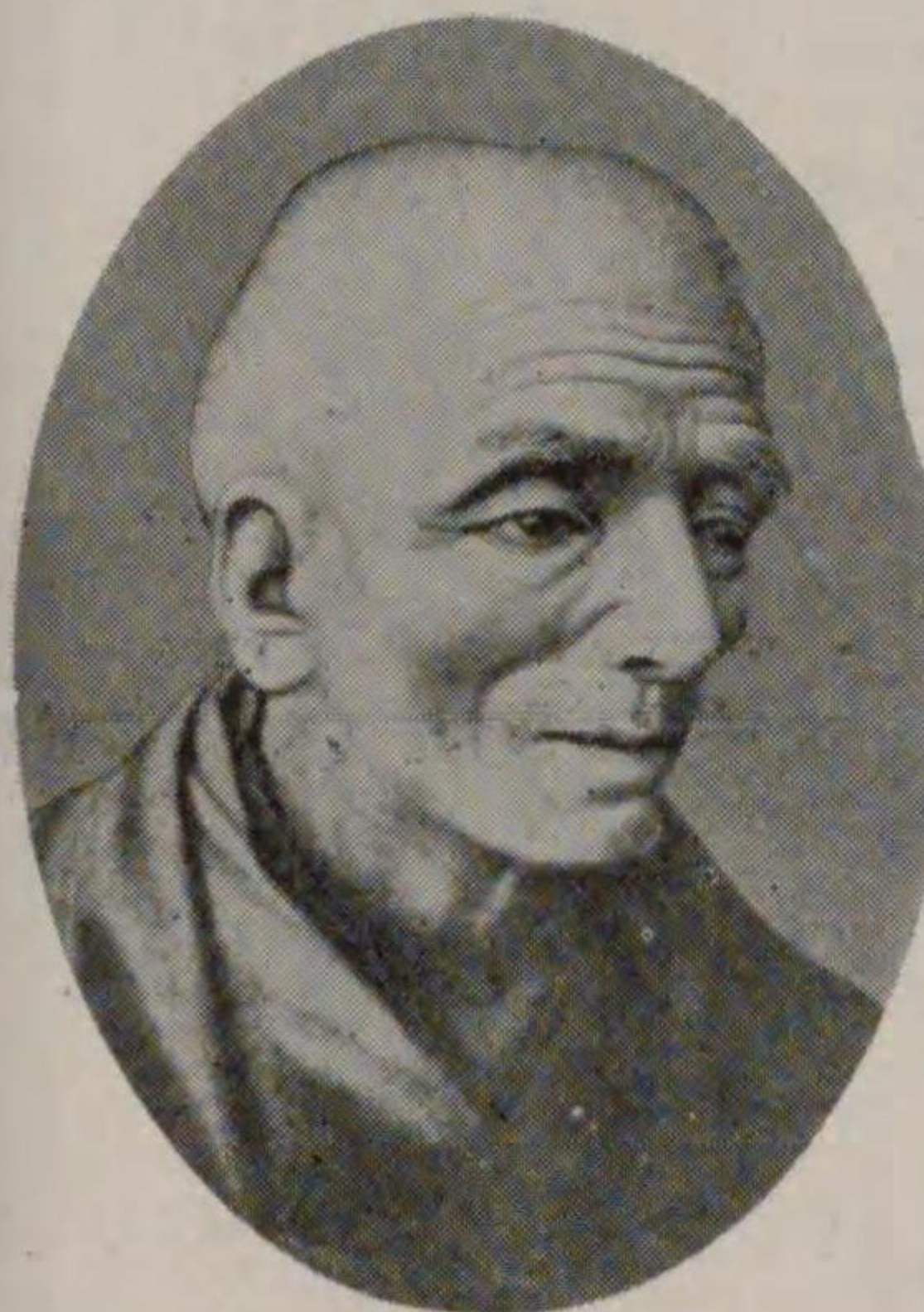
右

二宮尊徳氏と本居宣長大人



(昔時の長崎風景)

近代文化のリーダー



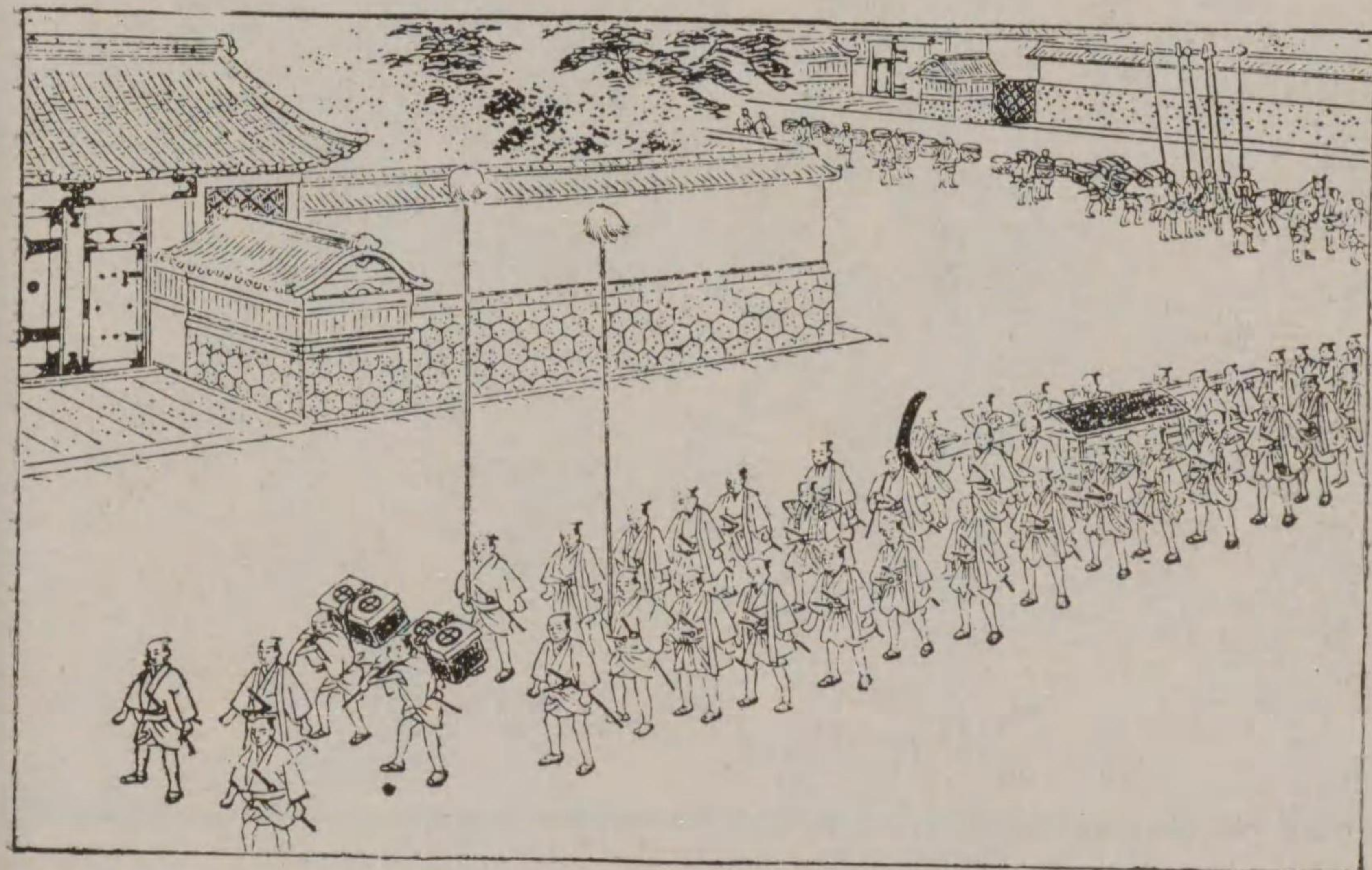
左 松平樂翁と杉田玄白氏

左

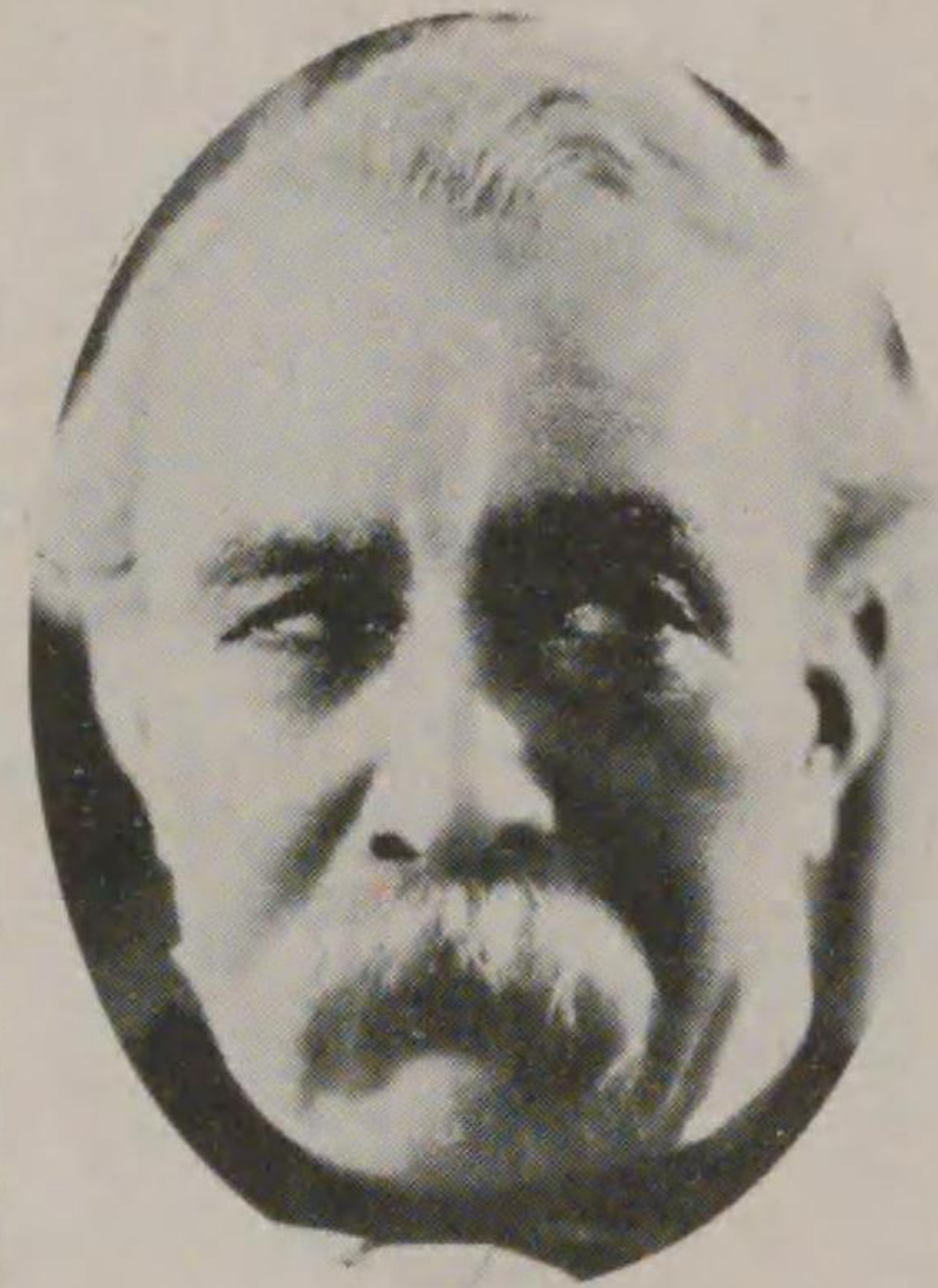
中央 頼山陽先生

右

水戸齋昭公と林子平氏



(昔時の大名行列)



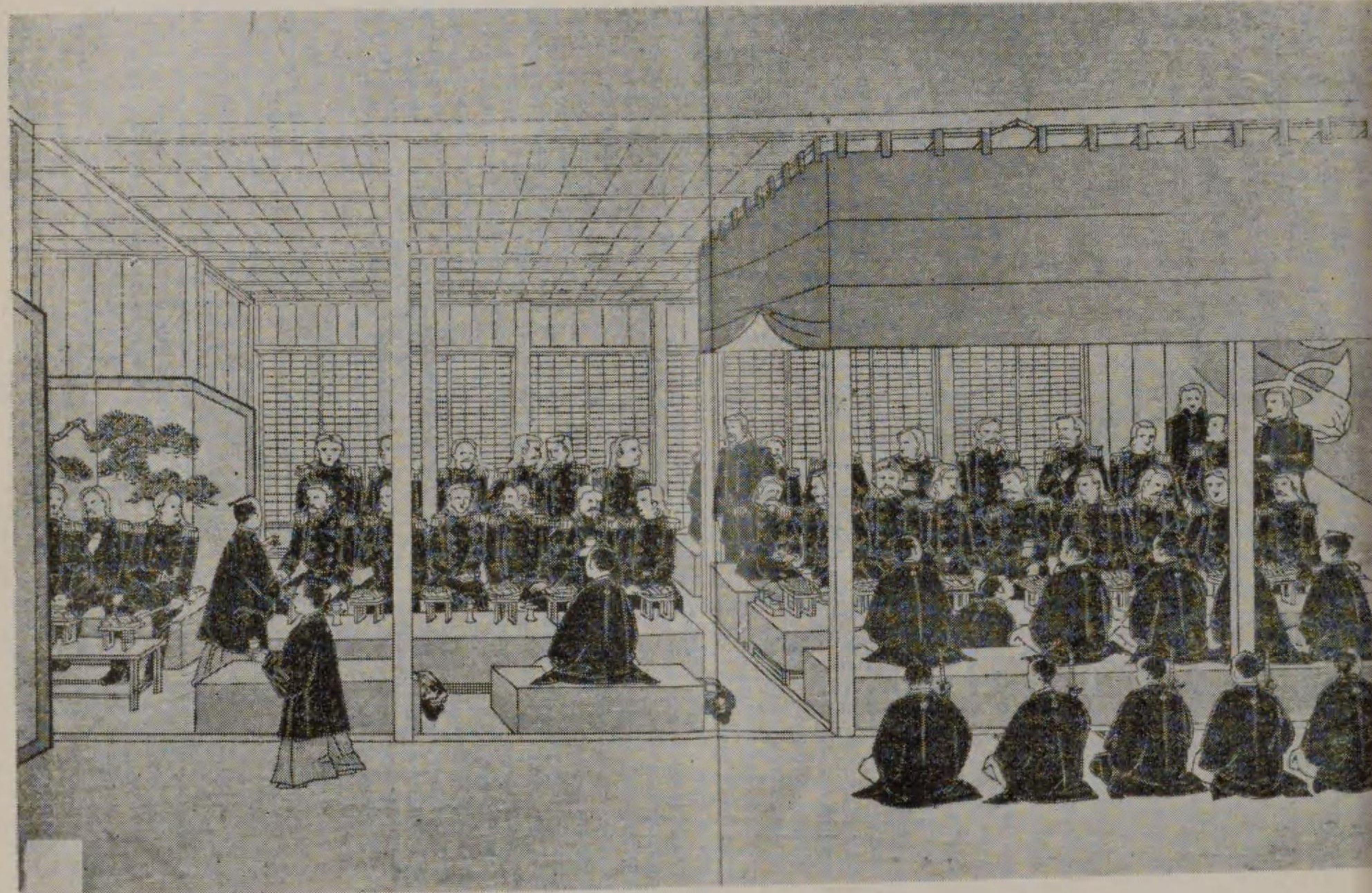
井伊直弼公と佐久間象山先生

左

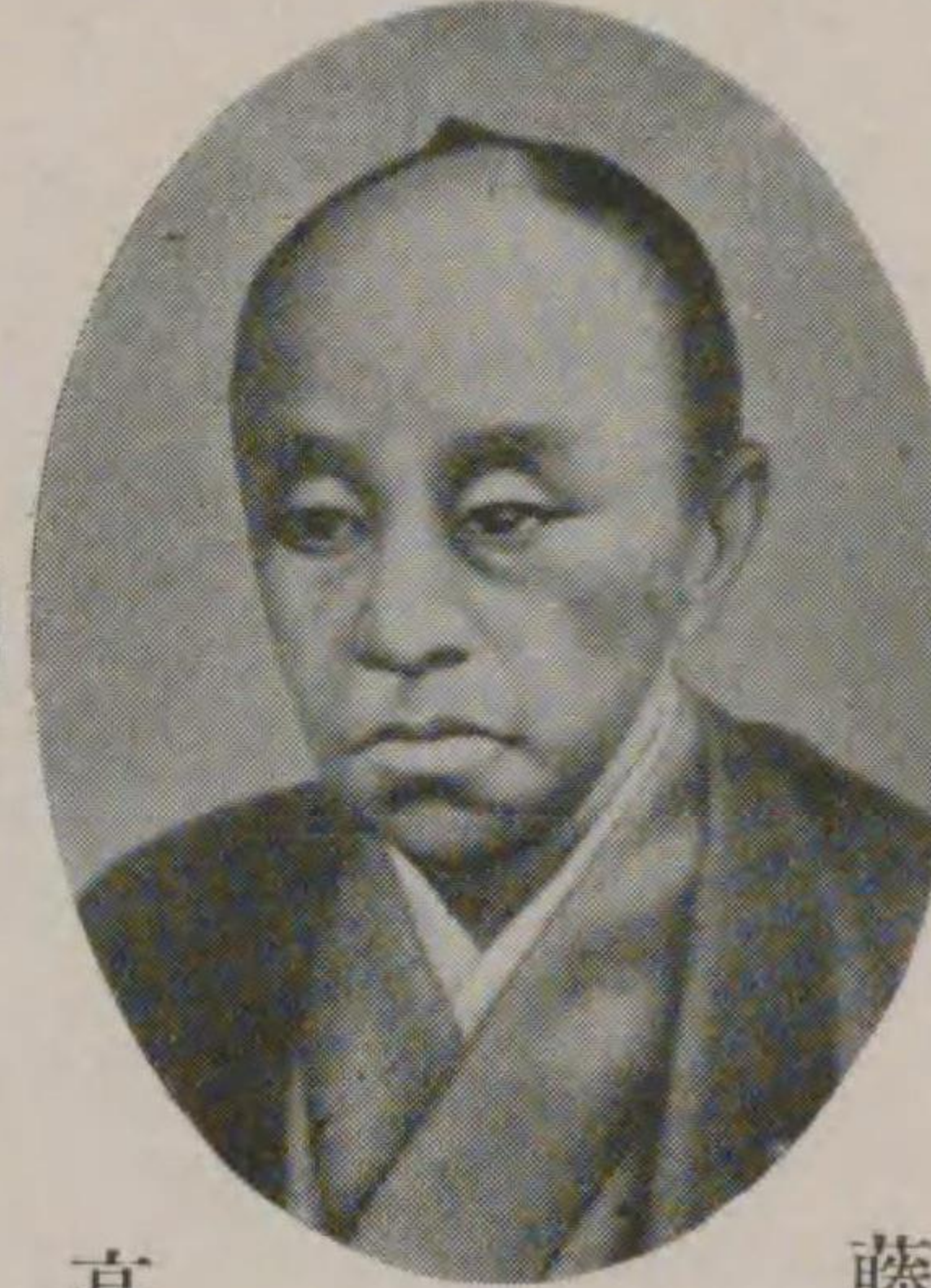
中央 ペルリ提督

右

ハリス總領事と吉田松陰先生



(幕府の米使使應)



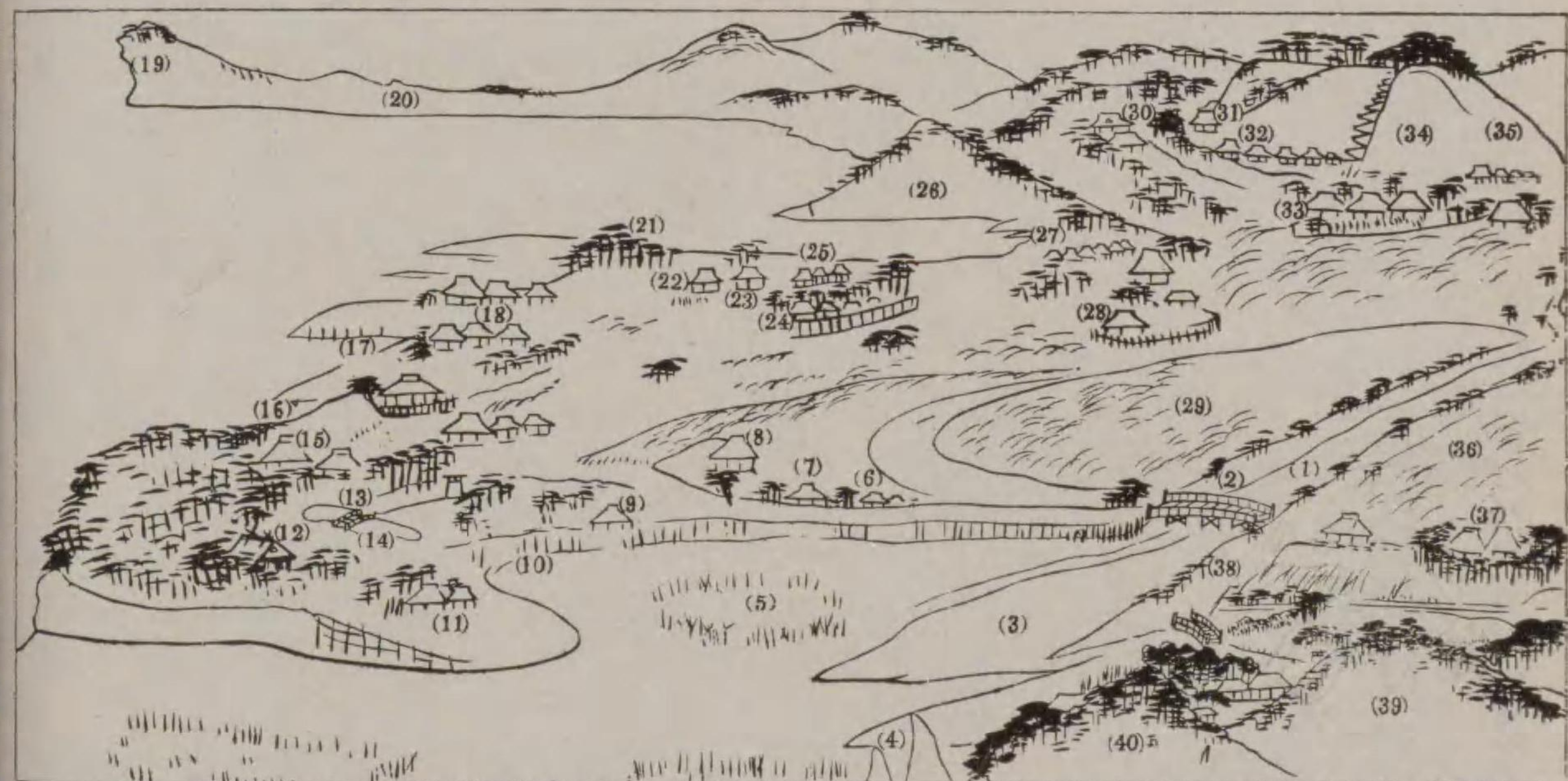
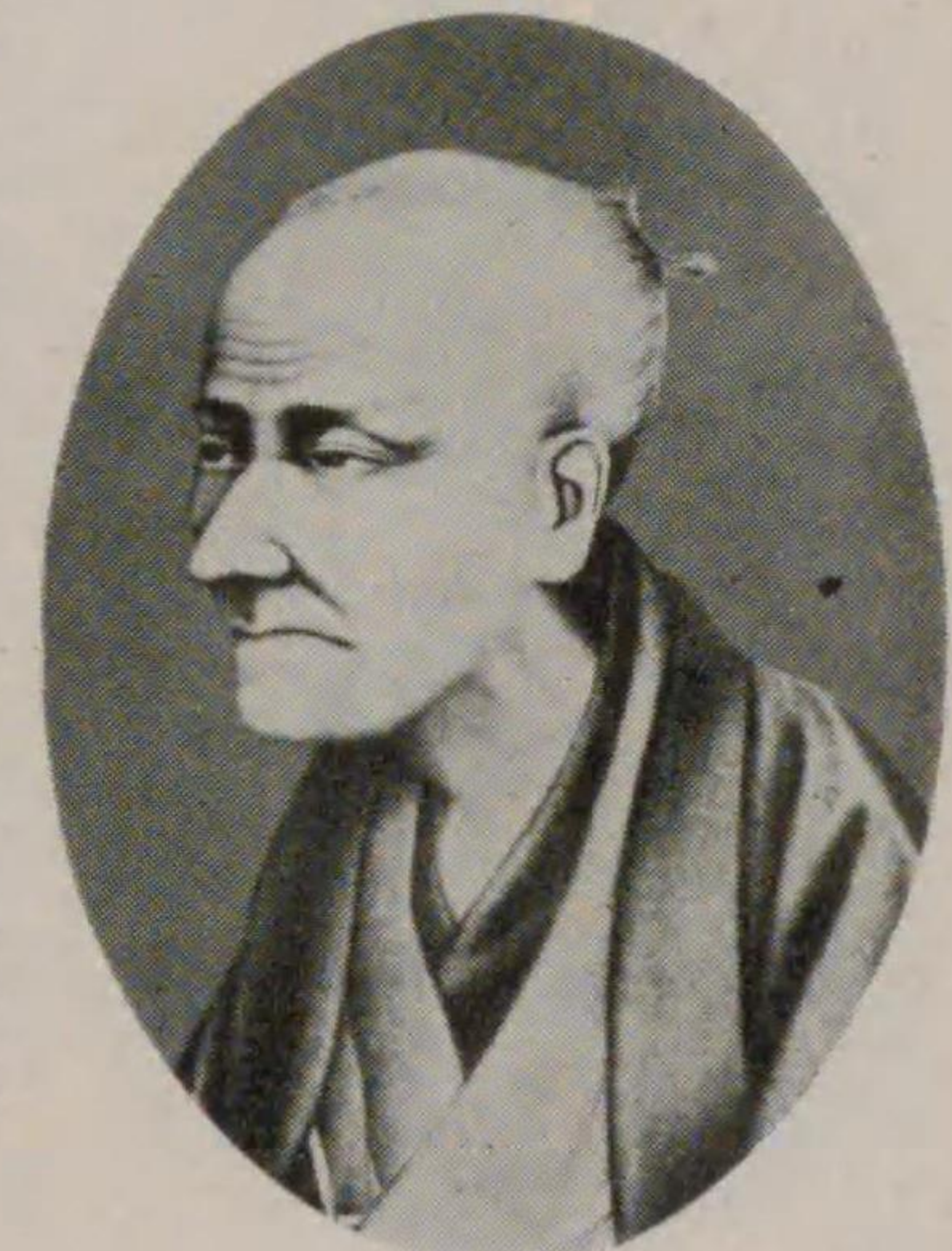
高杉晋作氏と蒲生君平氏

左

中央 山内容堂公

右

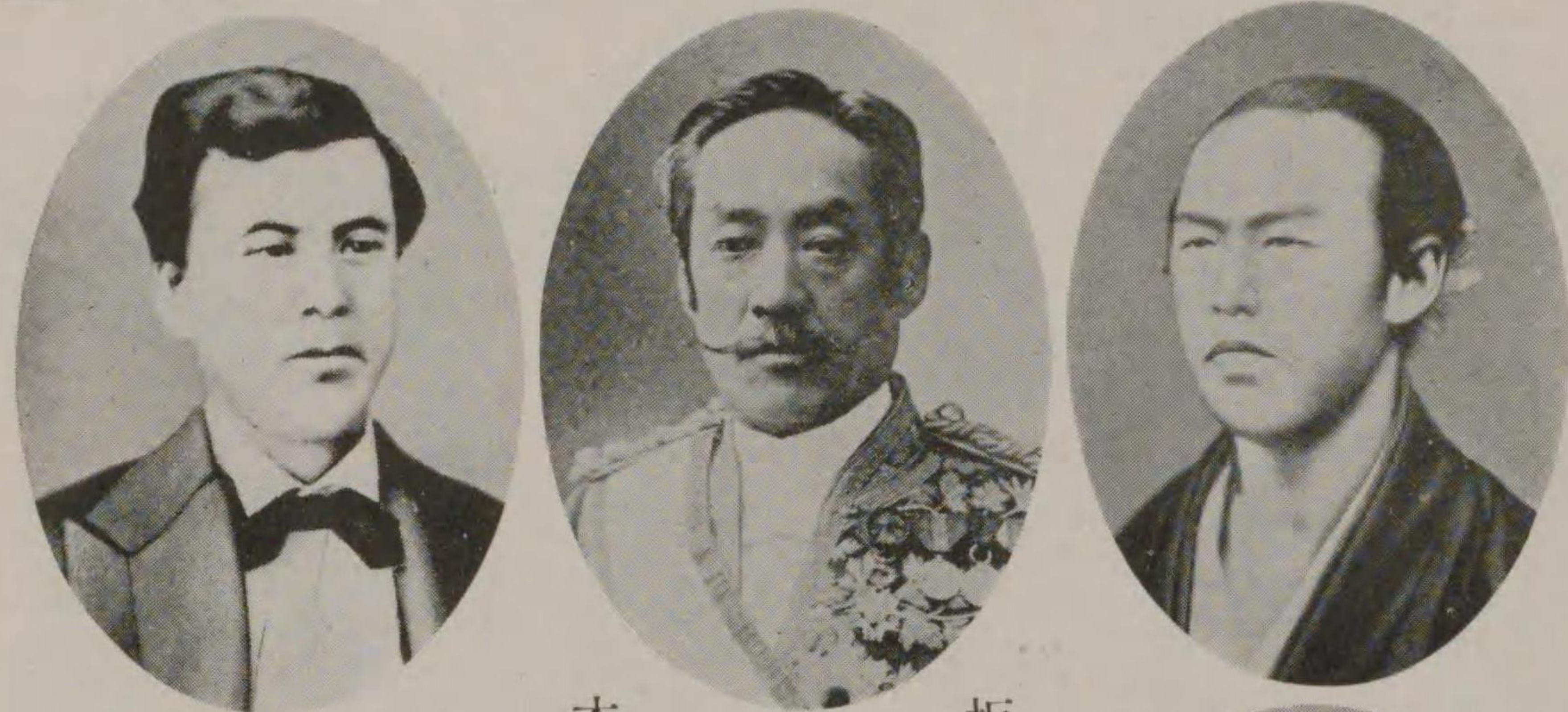
藤田東湖先生 高山彦九郎氏



- (40) 大岡
- (39) 大岡
- (38) 大岡
- (37) 大岡
- (36) 大岡
- (35) 大岡
- (34) 大岡
- (33) 大岡
- (32) 大岡
- (31) 大岡
- (30) 大岡
- (29) 大岡
- (28) 大岡
- (27) 大岡
- (26) 大岡
- (25) 大岡
- (24) 大岡
- (23) 大岡
- (22) 大岡
- (21) 大岡
- (20) 大岡
- (19) 大岡
- (18) 大岡
- (17) 大岡
- (16) 大岡
- (15) 大岡
- (14) 大岡
- (13) 大岡
- (12) 大岡
- (11) 大岡
- (10) 大岡
- (9) 大岡
- (8) 大岡
- (7) 大岡
- (6) 大岡
- (5) 大岡
- (4) 大岡
- (3) 大岡
- (2) 大岡
- (1) 大岡

(嘉永頃の横濱村)

近代文化のリーダー



木戸孝允公と山縣有朋侯

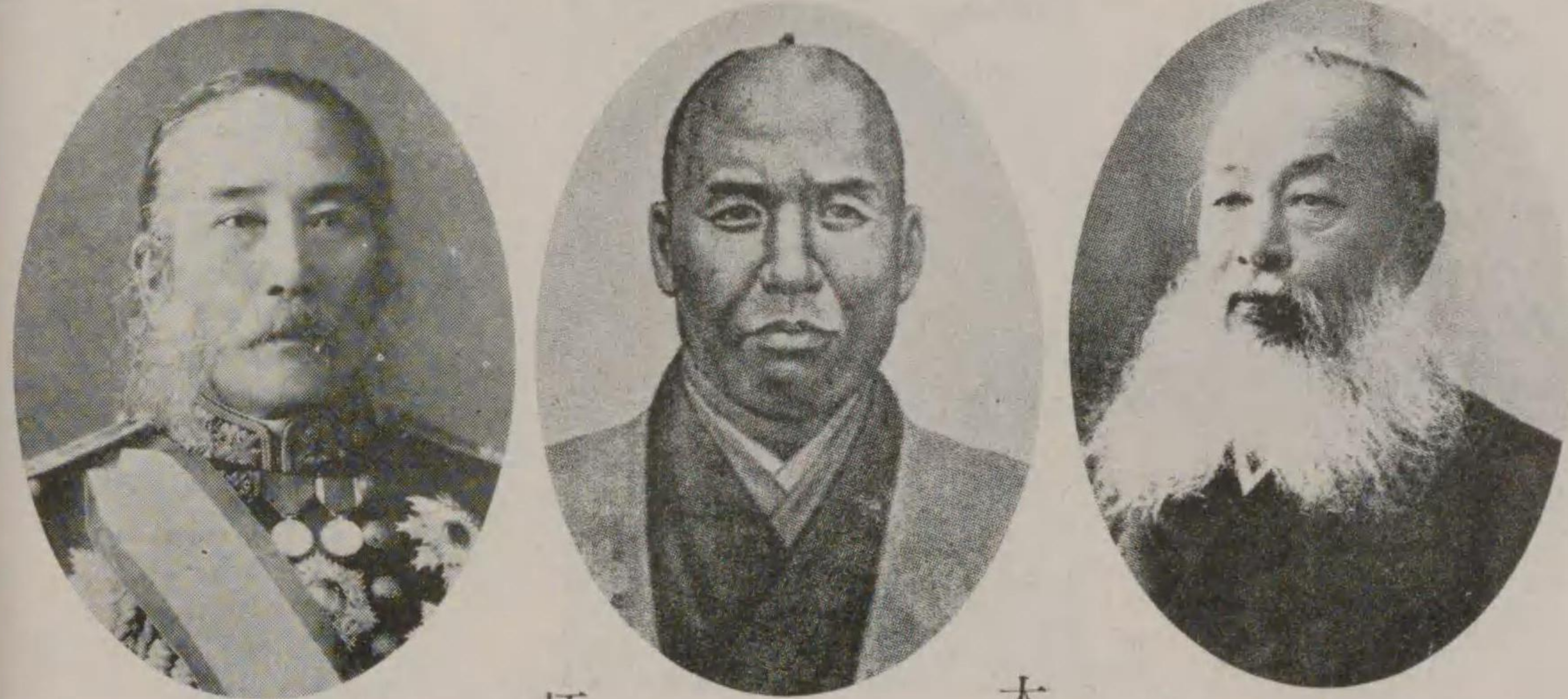
左 中央 岩倉具視公

右 坂本龍馬と久坂武通氏



(會津白虎隊の最期)

近代文化のリーダー



榎本武揚子と清川八郎氏

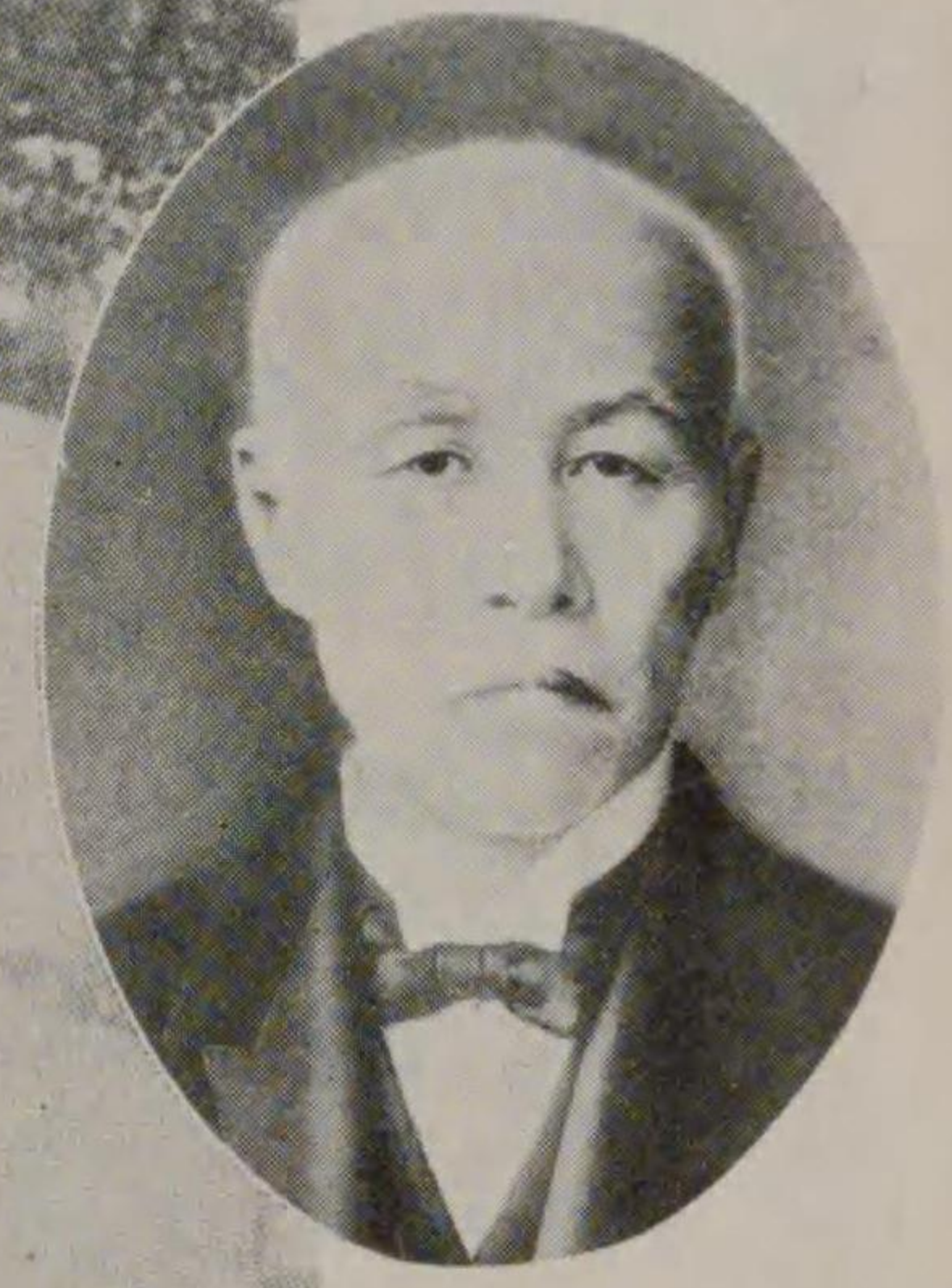
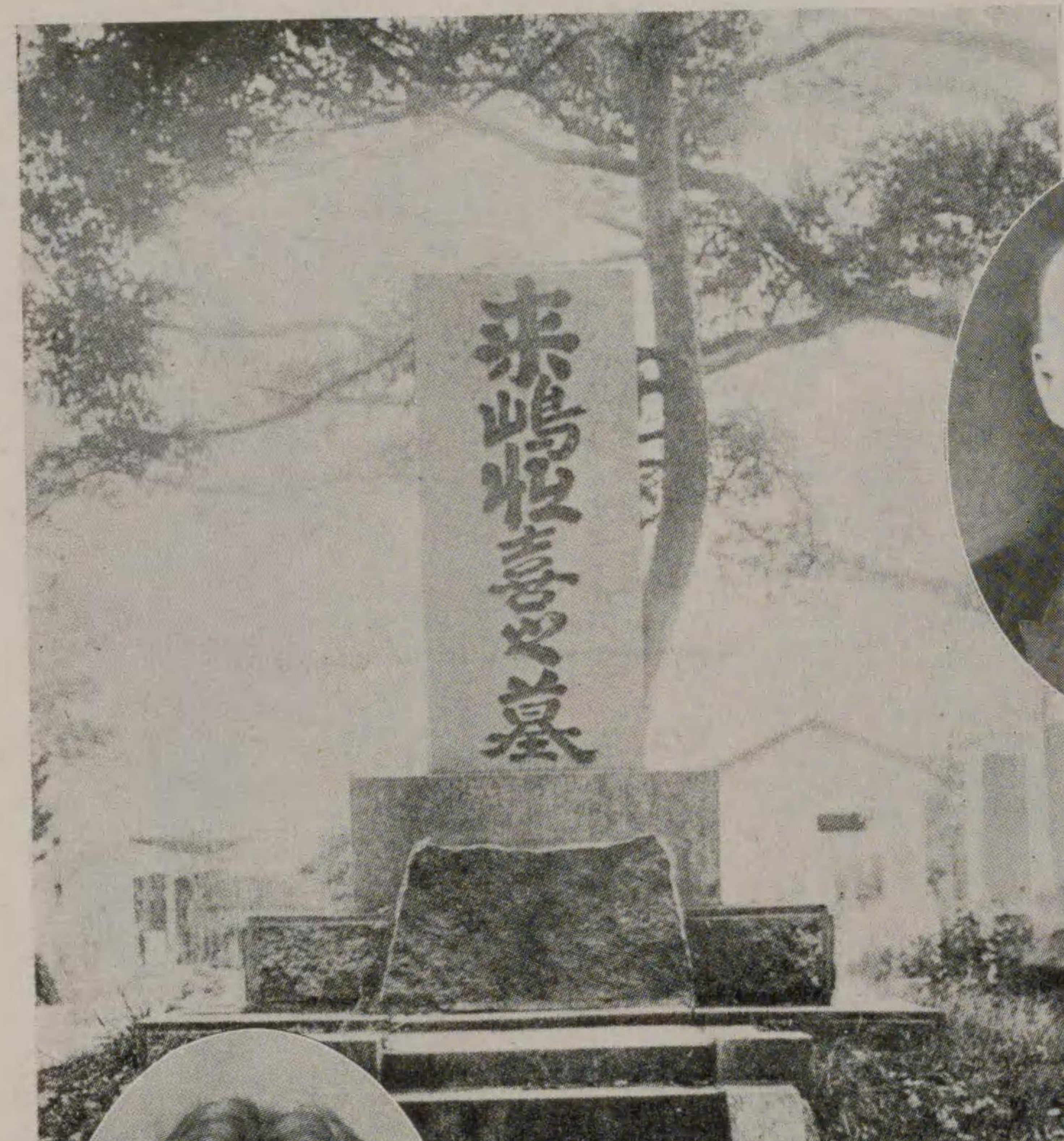
左 中央 天野八郎氏

右 大島圭介氏と大村益次郎氏

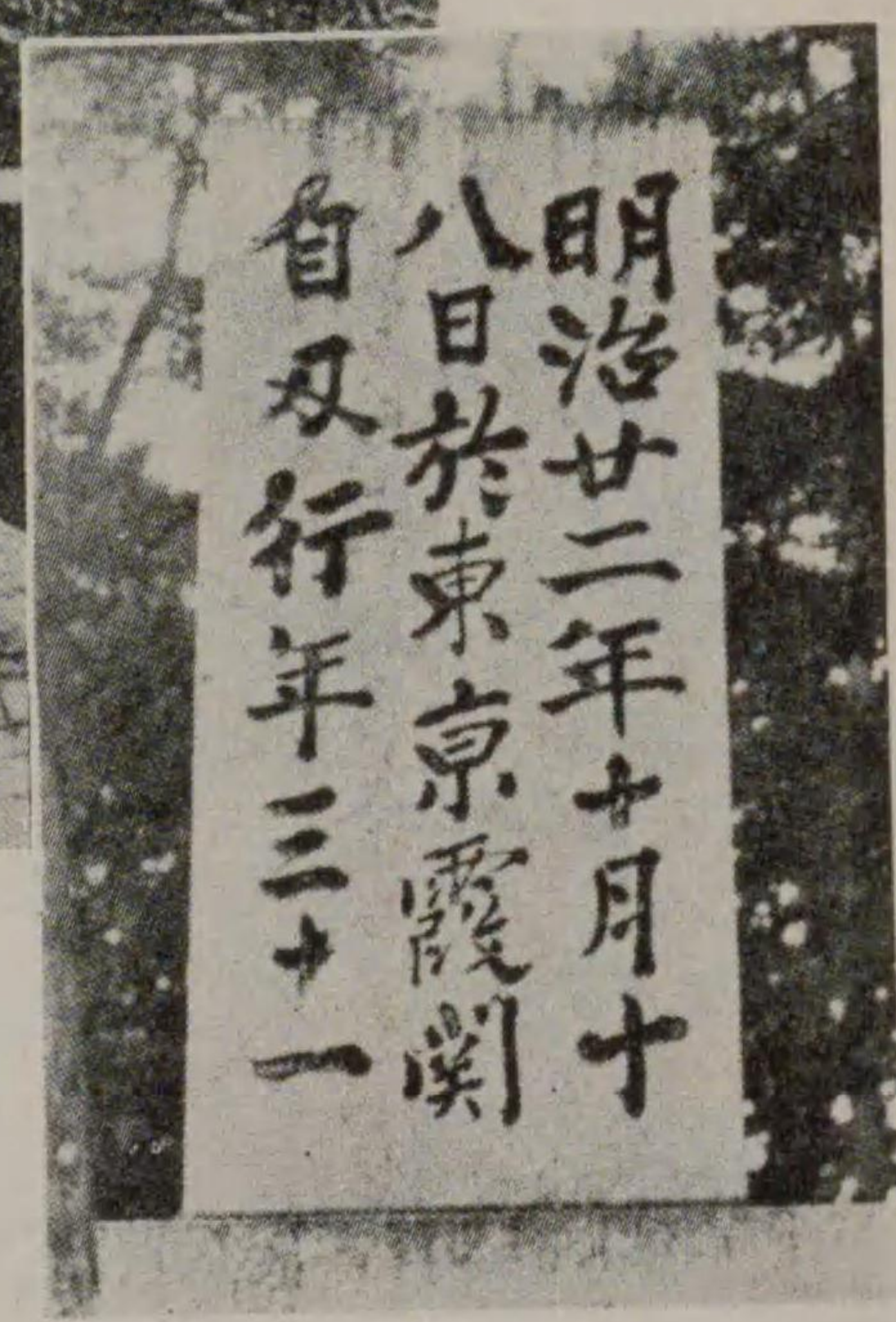


(上野黒門外彰義隊苦戦)

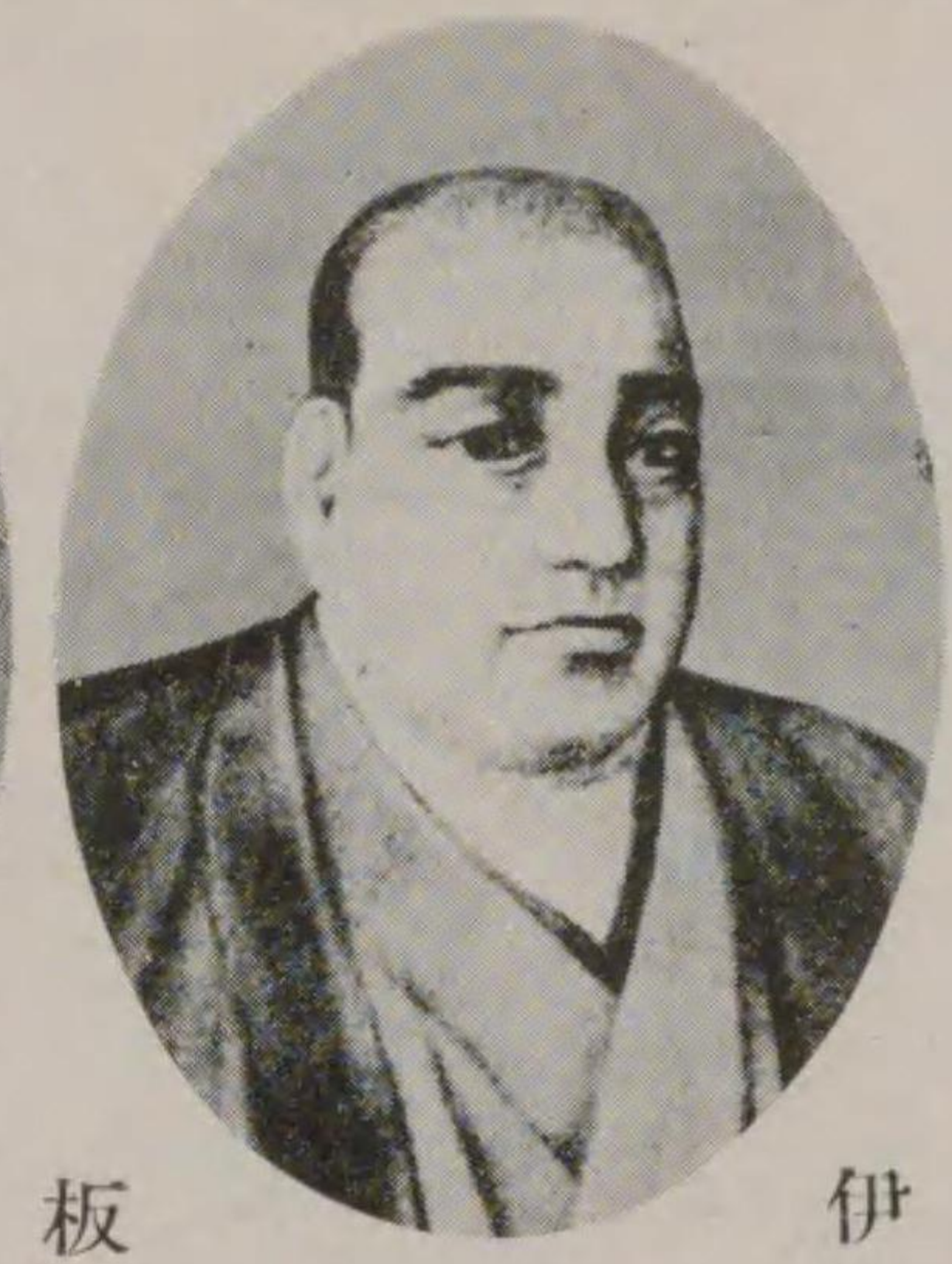
近代文化の影



来嶋が投げた爆弾の破片のために遂に一脚を失なれたる大隈重信侯



明治二十年十月條約改正問題で國論が沸騰したとき、當の外務大臣大隈重信侯に爆弾を投じ、自己も又その場で自刃したる来嶋恒喜は福岡縣人。上の墓地は福岡市外崇福寺にあり。又東京は谷中に墓地もある。



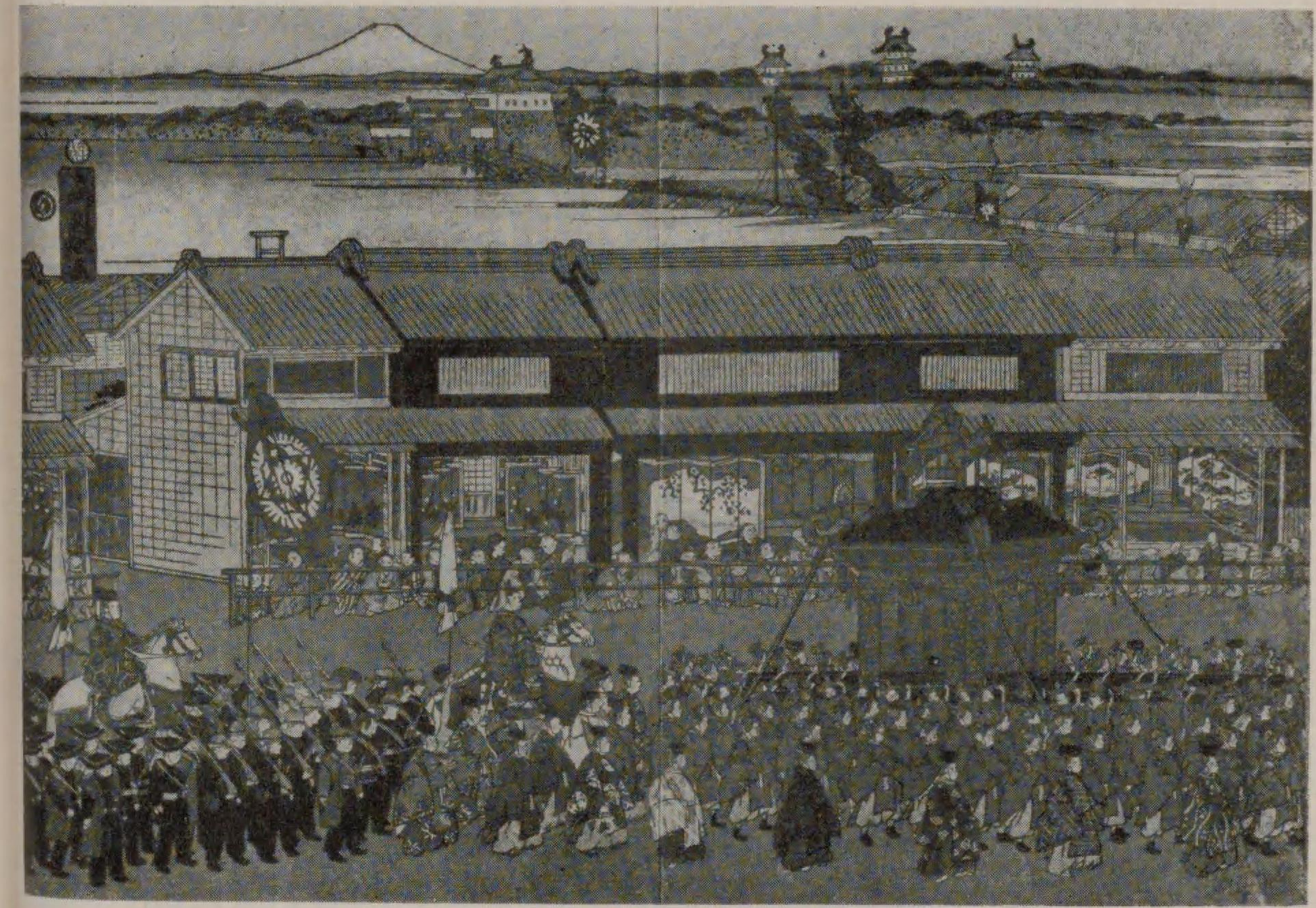
板垣退助伯と中井兆民氏

左

中央 西郷隆盛公

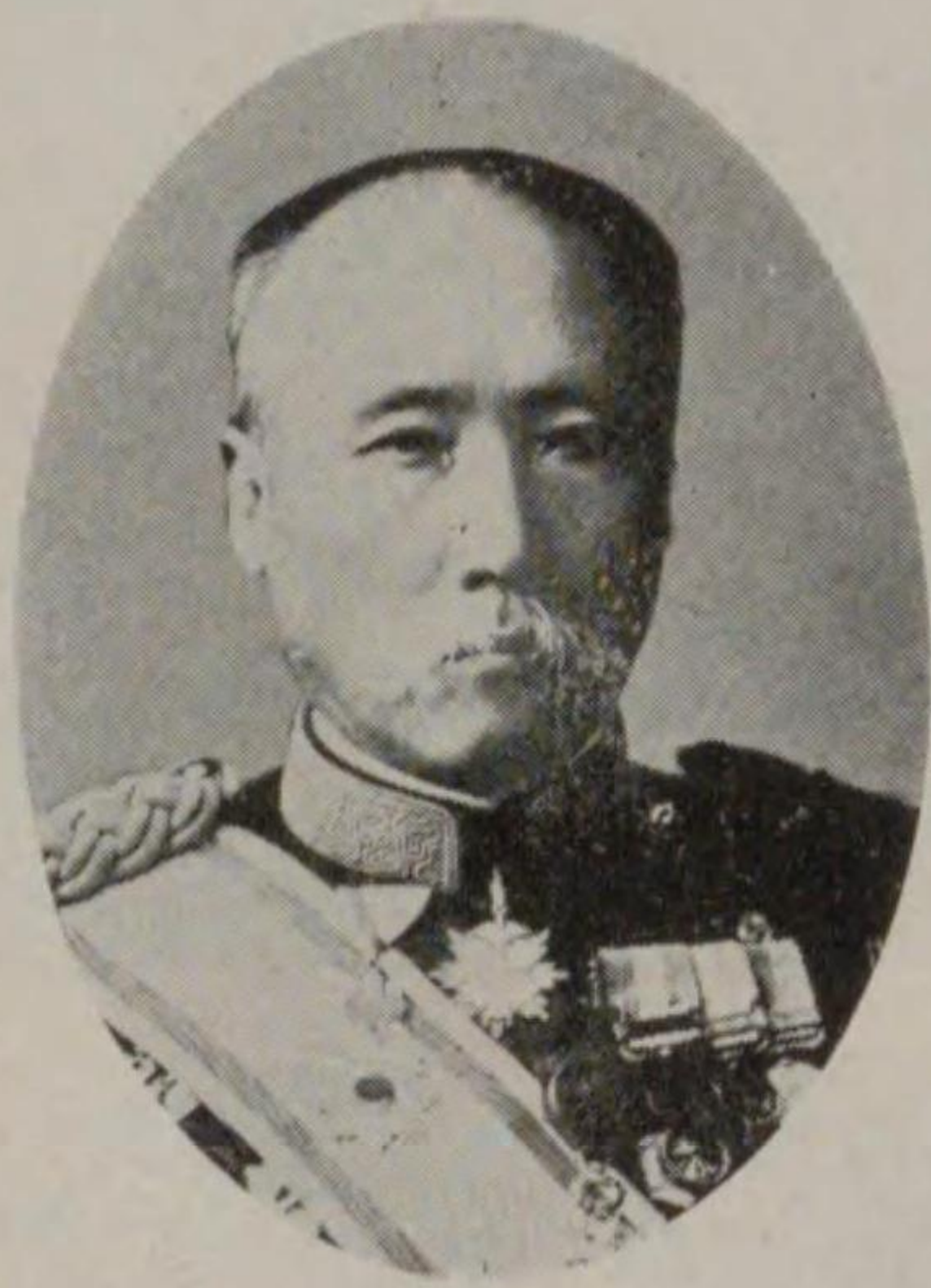
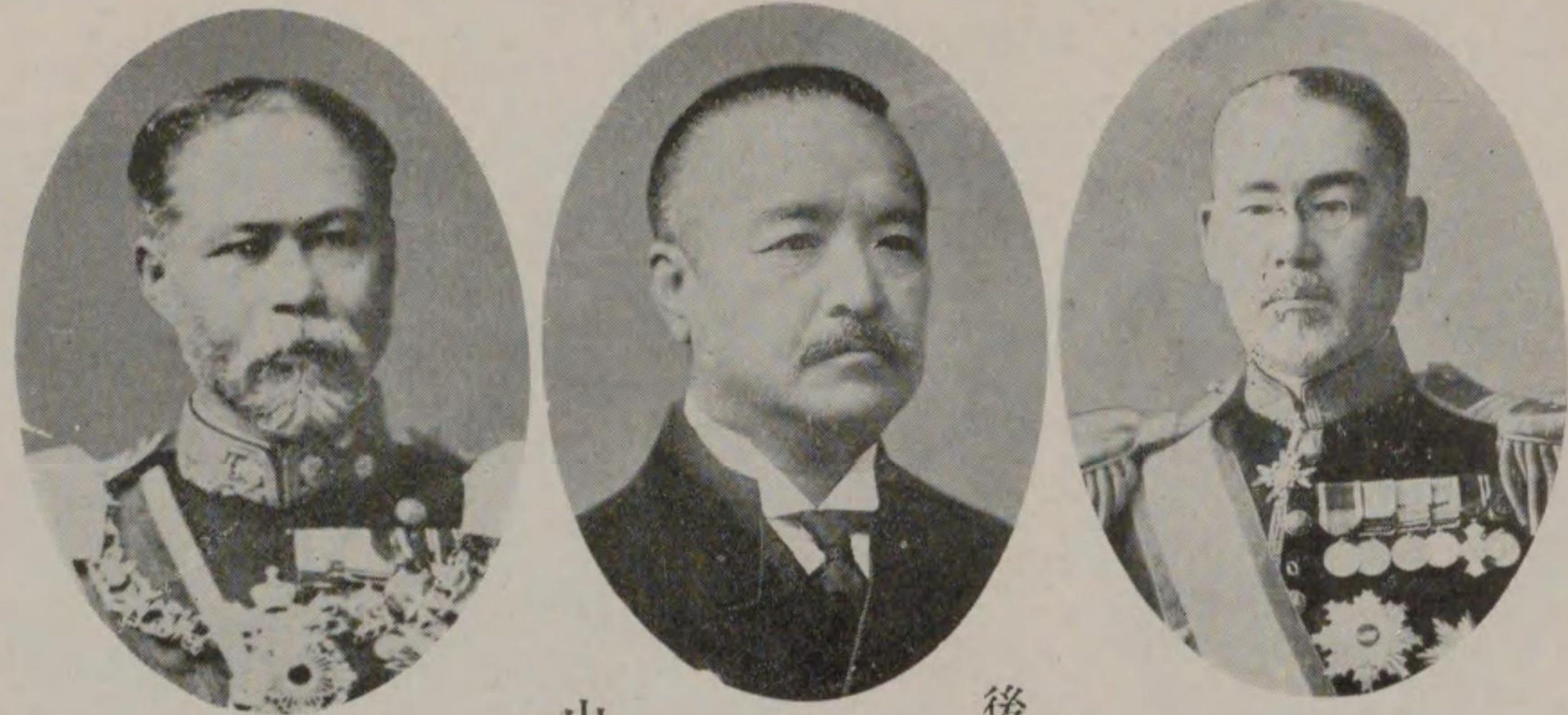
右

伊藤博文侯と森有禮子



(通橋本日を奉え迎を輦鳳)

近代文化のリーダー



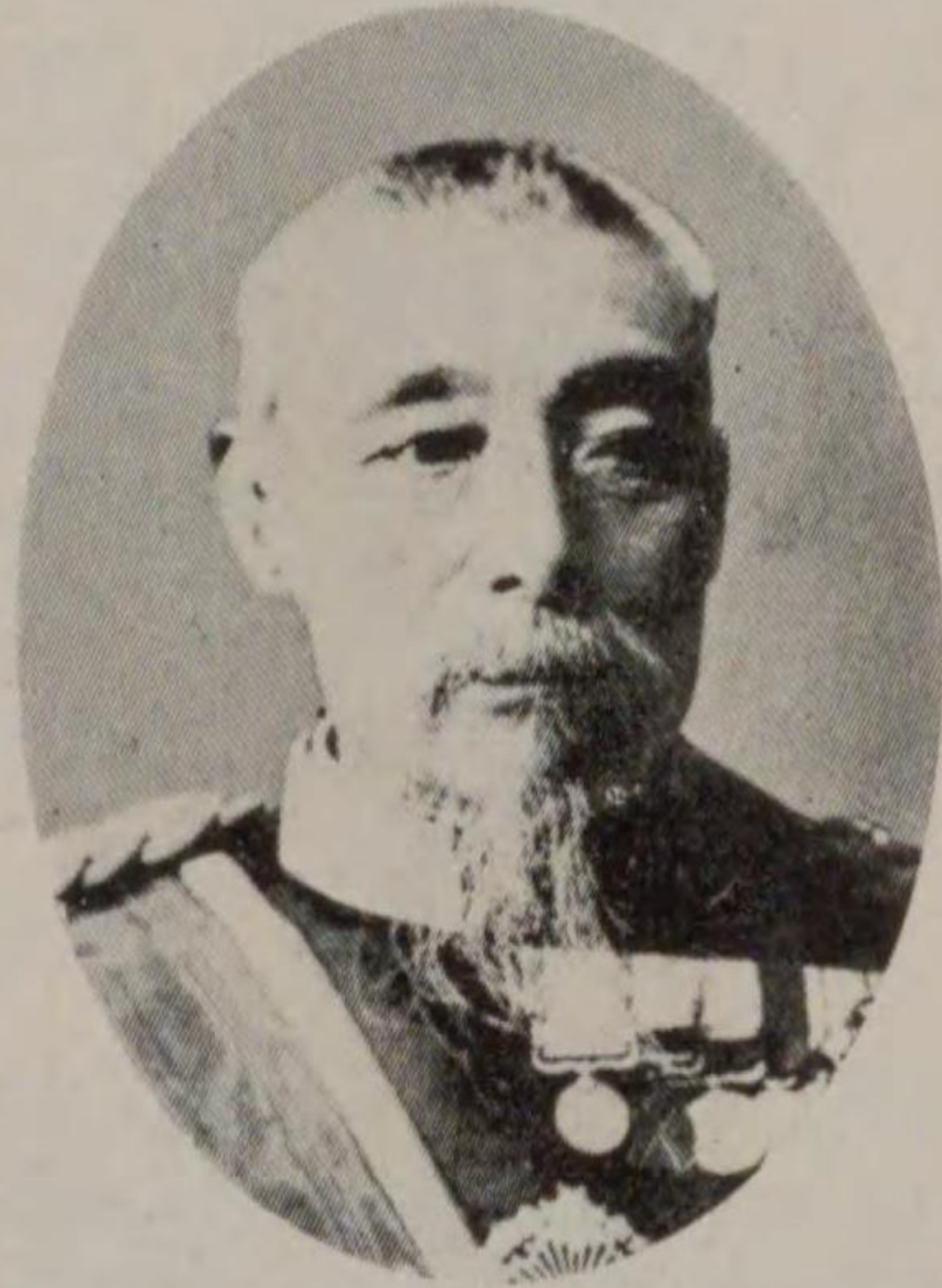
山本権兵衛伯と福島安正大將

左

中央 桂 太郎公

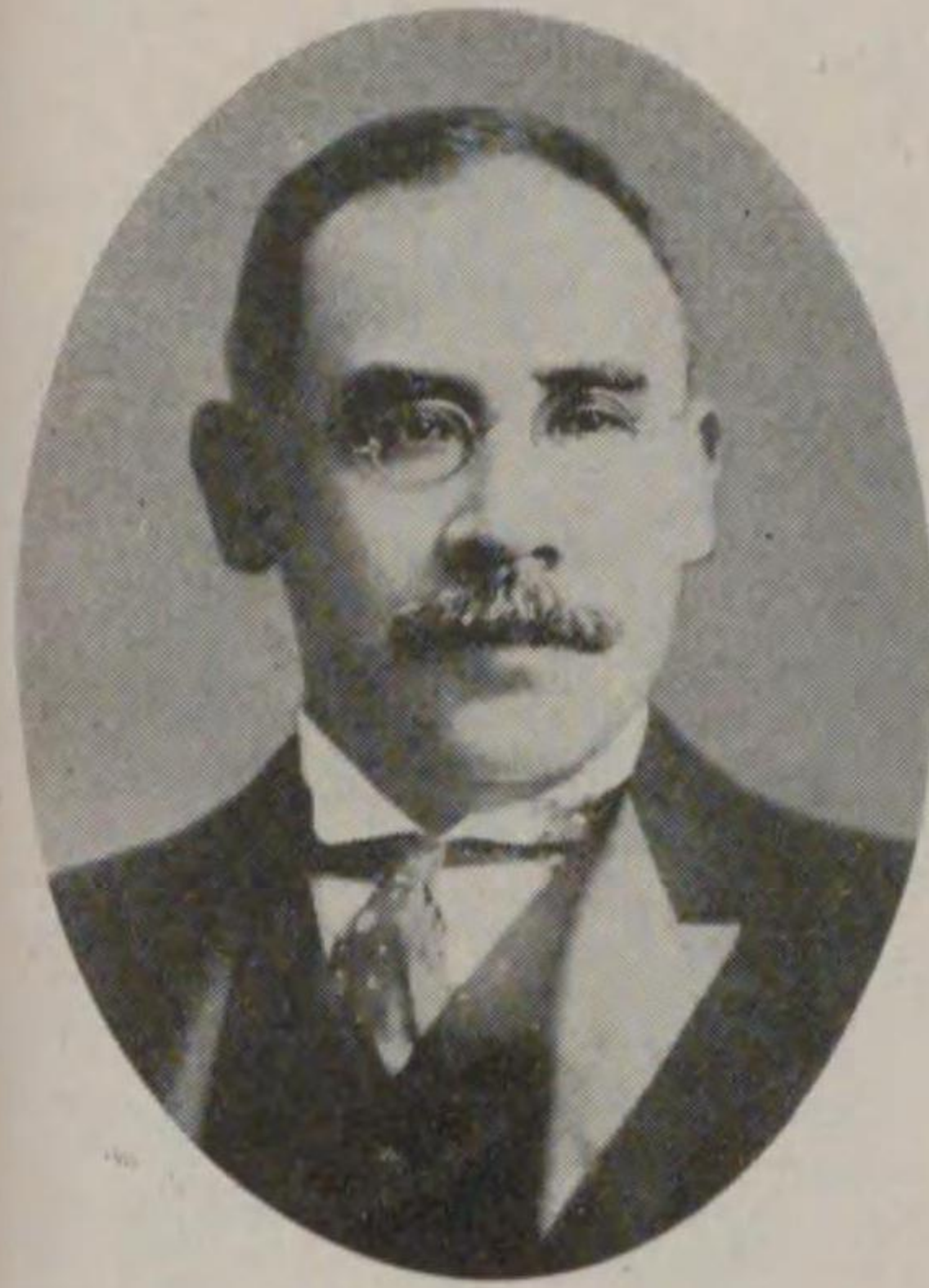
右

後藤新平伯と奥 保鞏元帥



(世界大戦の際に遠くに出る赤十字看護婦隊)

近代文化のリーダー



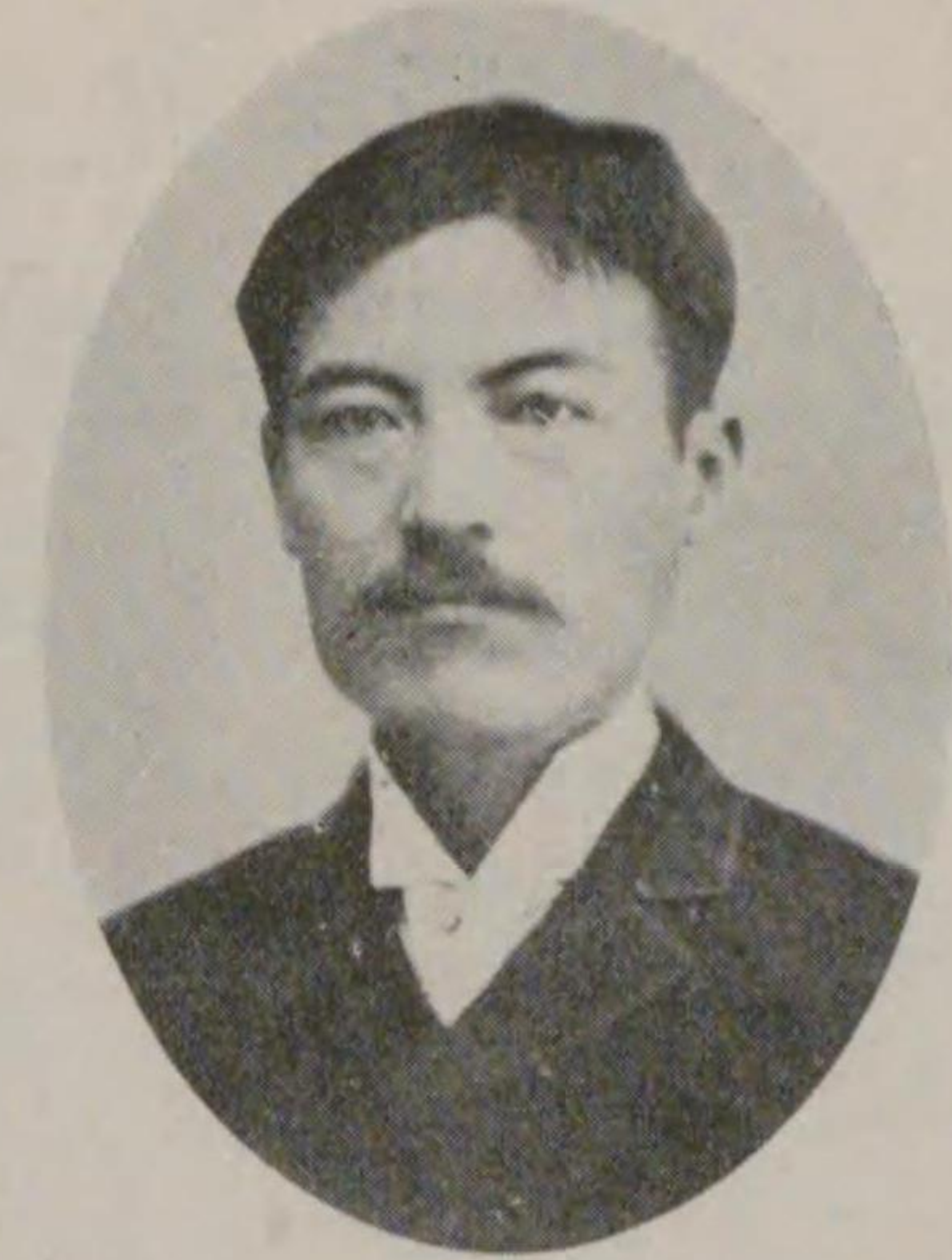
加藤高明伯と大倉喜八郎男

左

中央 河野 廣 中氏

右

島田三郎氏と黒岩涙香先生



(白瀬大尉の南極探検)

影 片 の 化 文 代 近

防寒服を着たるは日露の役に旅順に閉塞の任務について命を捧げられたる神人廣瀬武夫中佐



日露の役當時モ
スコウにありて
特別任務に服し
たる明石中將



撃攻陽遼りよ面方堡山首役戰露日と佐中瀬廣、軍將石明

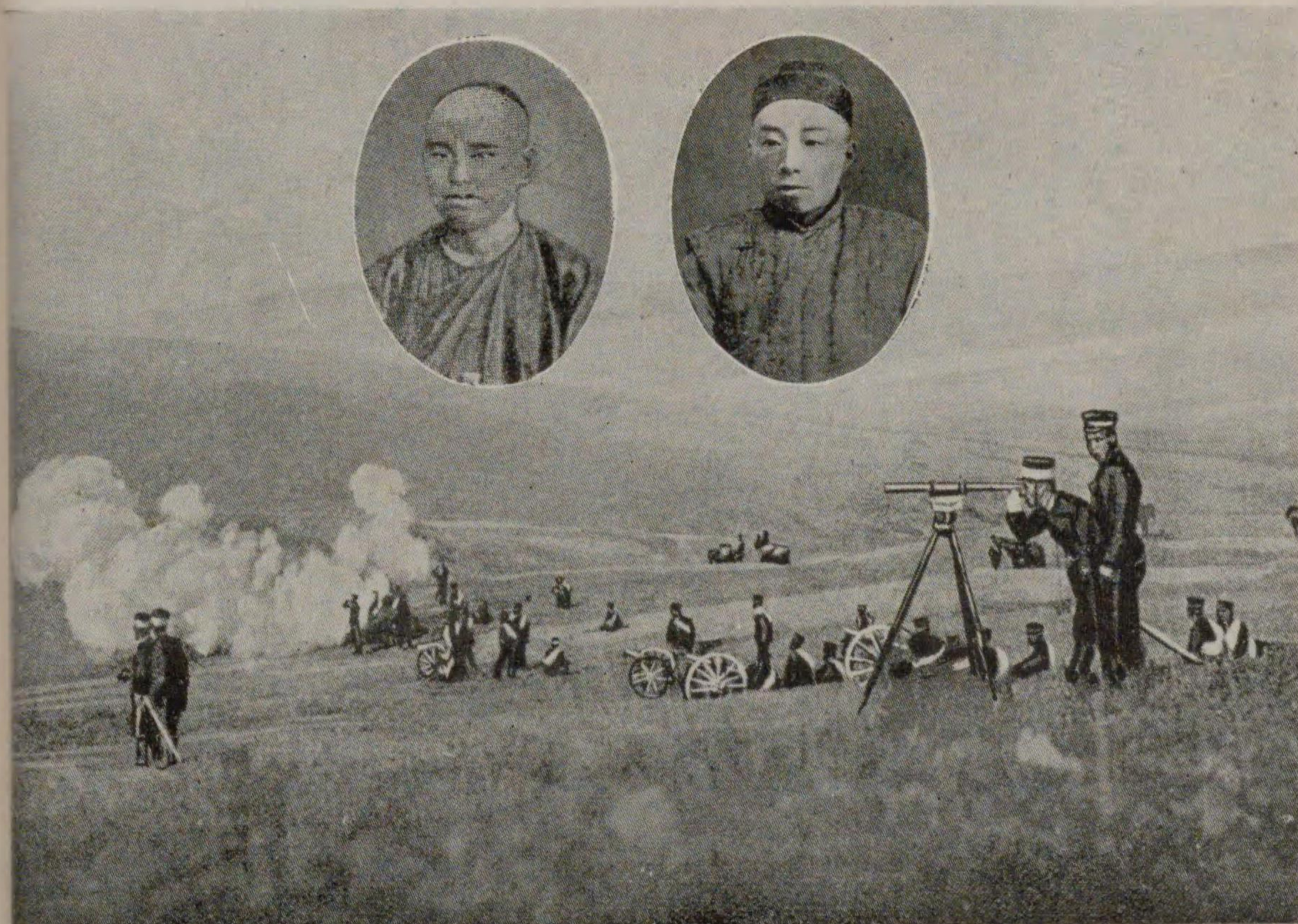
影 片 の 化 文 代 近



馬 賊 の 歌

僕には父も母も無く
生れ故郷も家もなく
幾年馴れし山あれど
別れを惜む者もなし

長白山の朝風に
剣をかざして俯し見れば
北満洲の大平野
僕の住家には未だ狭い



(撃砲部背順旅役の清日下。々人るず服に務任別特上)
(氏原福と氏崎鐘偵探軍は照小下)

近代文化の影片



其大震火災の惨無にためたの養
 養のたに建てられたる記念堂。
 養のたに建てられたる記念堂。

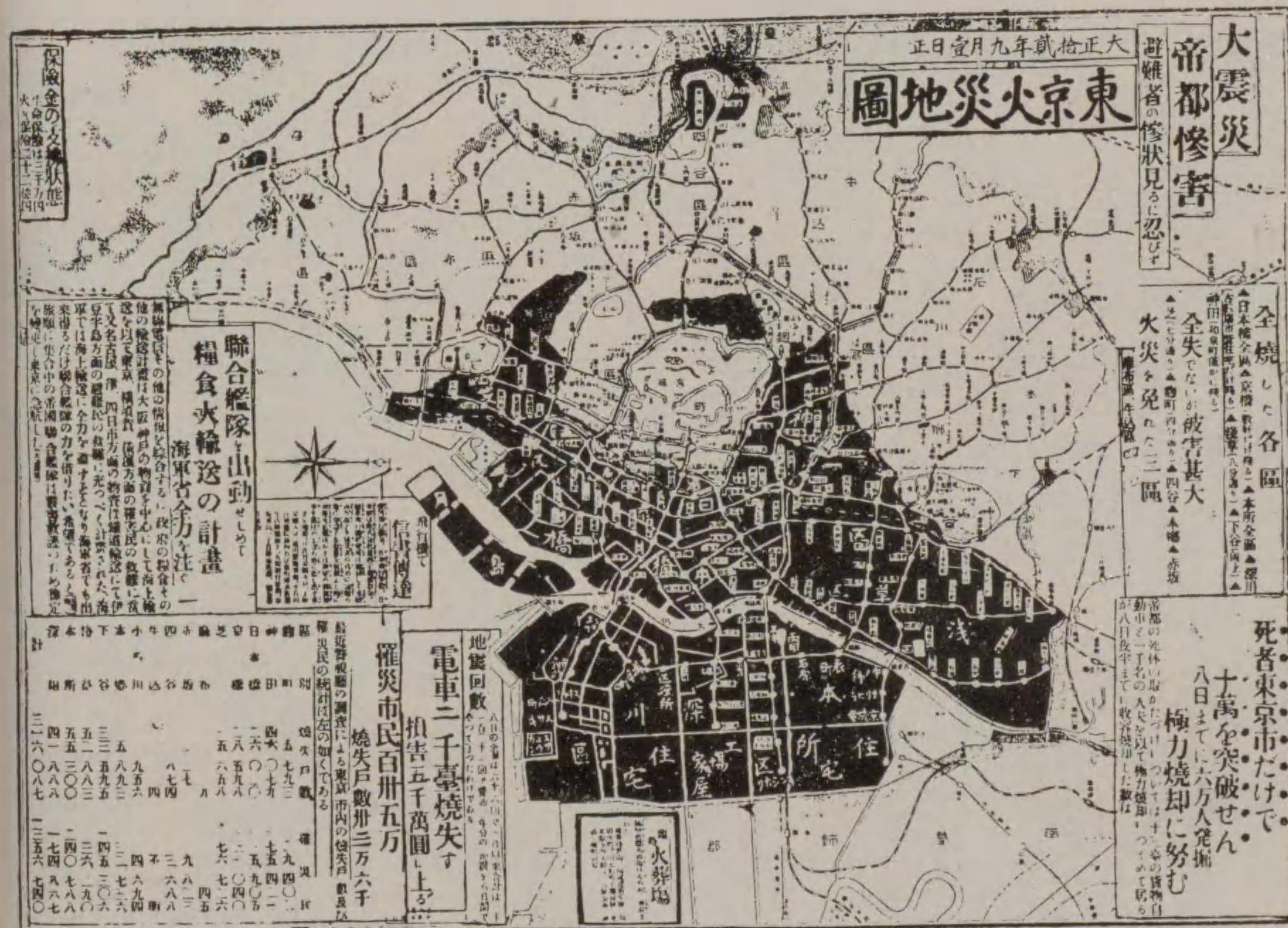


避難したる人たは被服跡つて悲惨なる焼死を遂げたる
 三萬三千餘人の白骨の山。

近代文化の影片

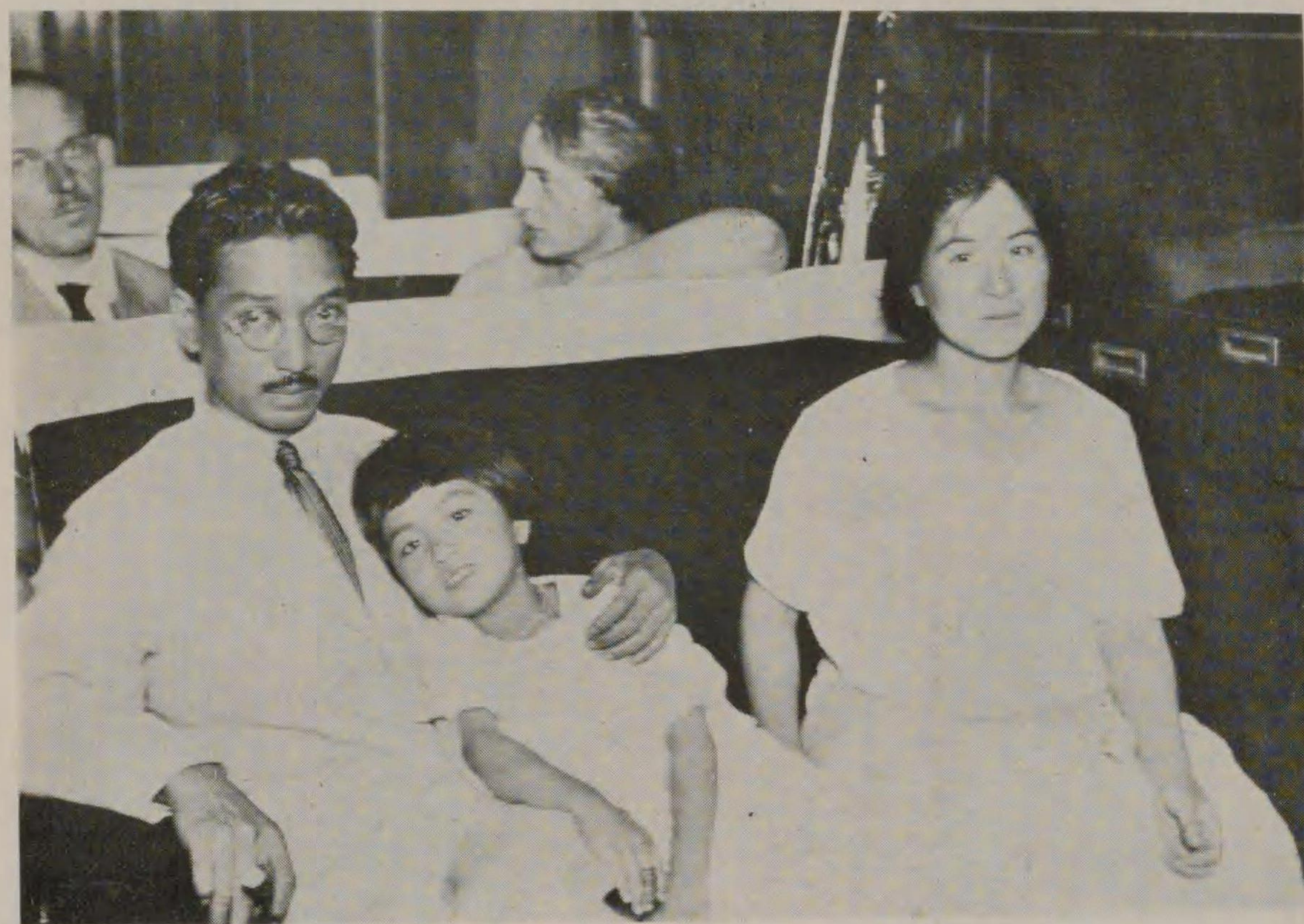


大震火災直後——上野公園に於て湯浅警視總監を召さる
 親しく被害の状況を聞きおこさる。

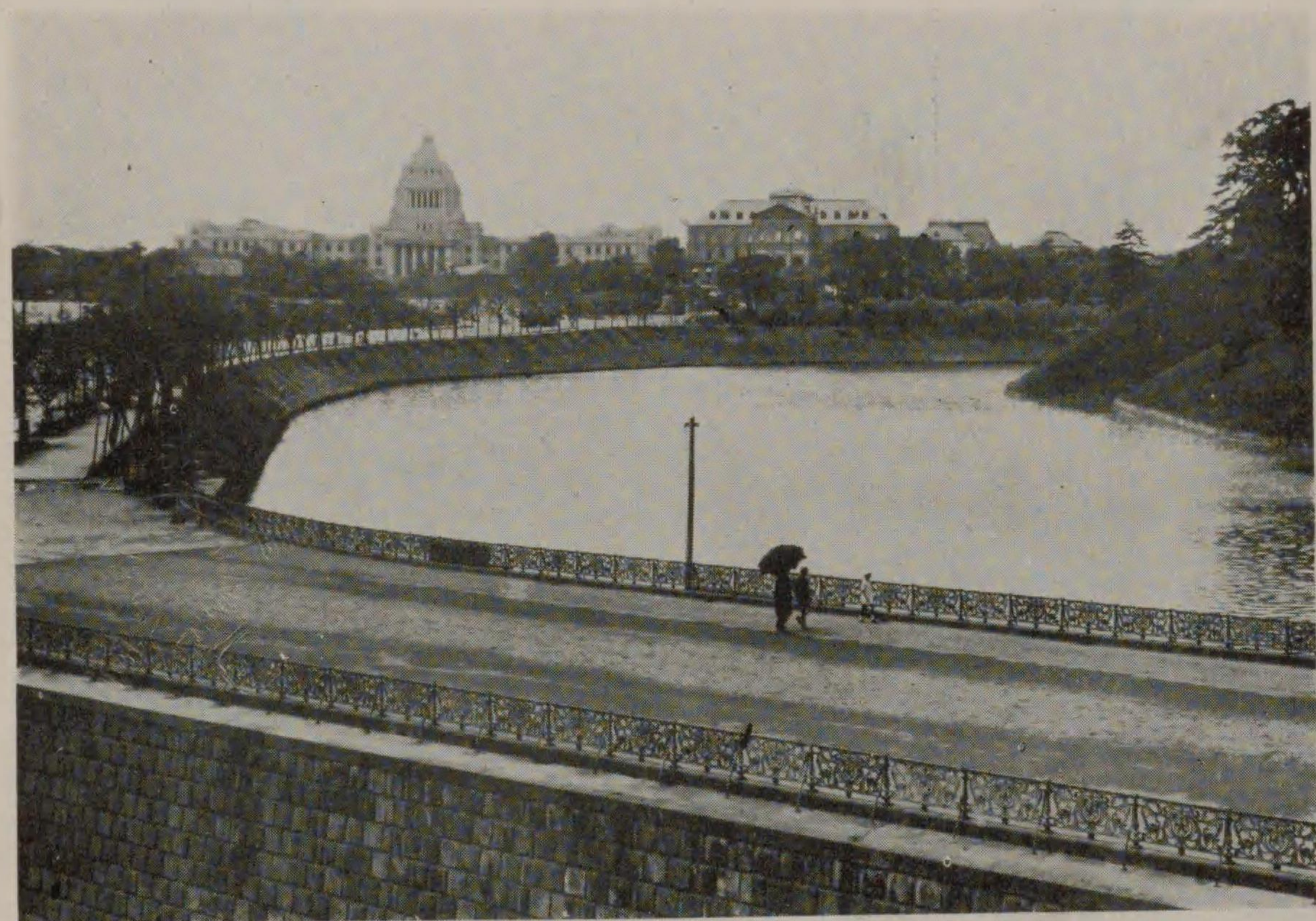


大震火災五日目の報速
 大正二十年九月一日午前十一時五十分起る

影 片 の 化 文 代 近



長と枝野妻愛るたえ迎に中車列なる歸りよ國佛が彼
。榮杉大たい抱な子魔女



堂事議會國るたれさ築新に臺高の町田永
(るたげ上見りよ外門田櫻)

影 片 の 化 文 代 近

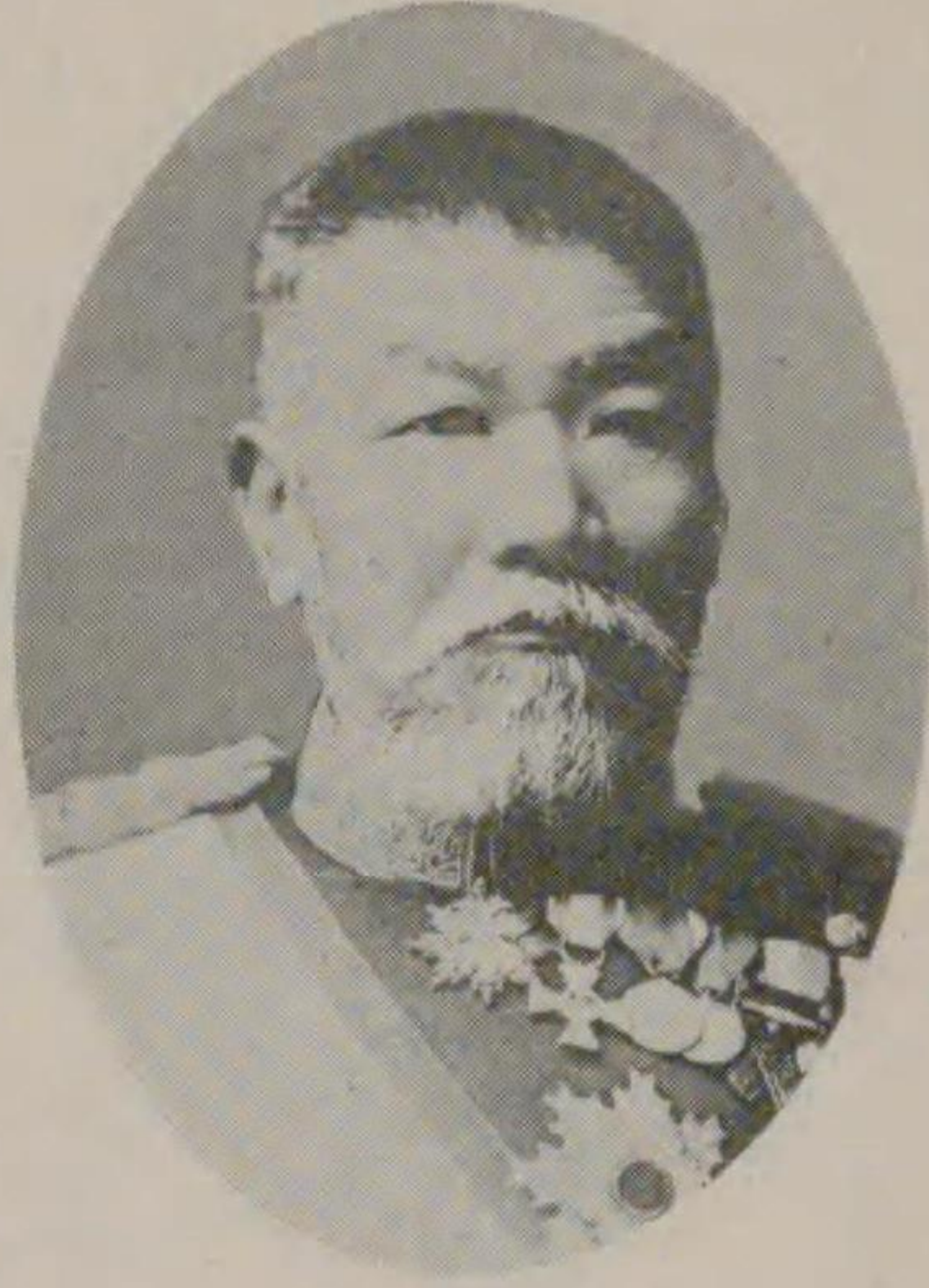
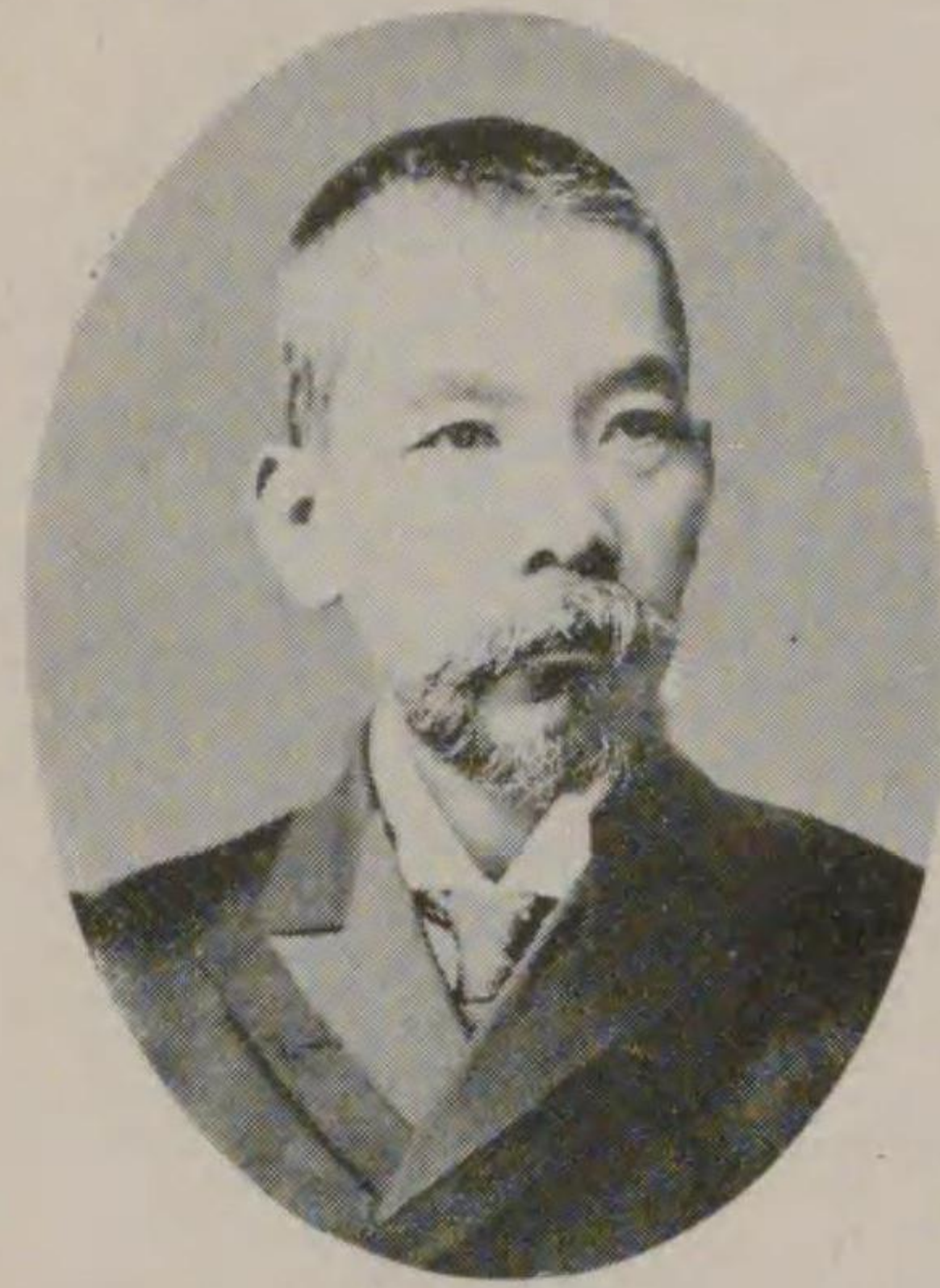


尉大粕甘つ立に庭のき審



る成てつ以を圓萬千一費工、坪萬二坪延、階一下地、階八上地
く驚又はと萬十約人るす入に、こ中日。ゲンシルピ内の丸

近代文化のリーダー



左
犬養毅總裁と荒木寛畝畫伯

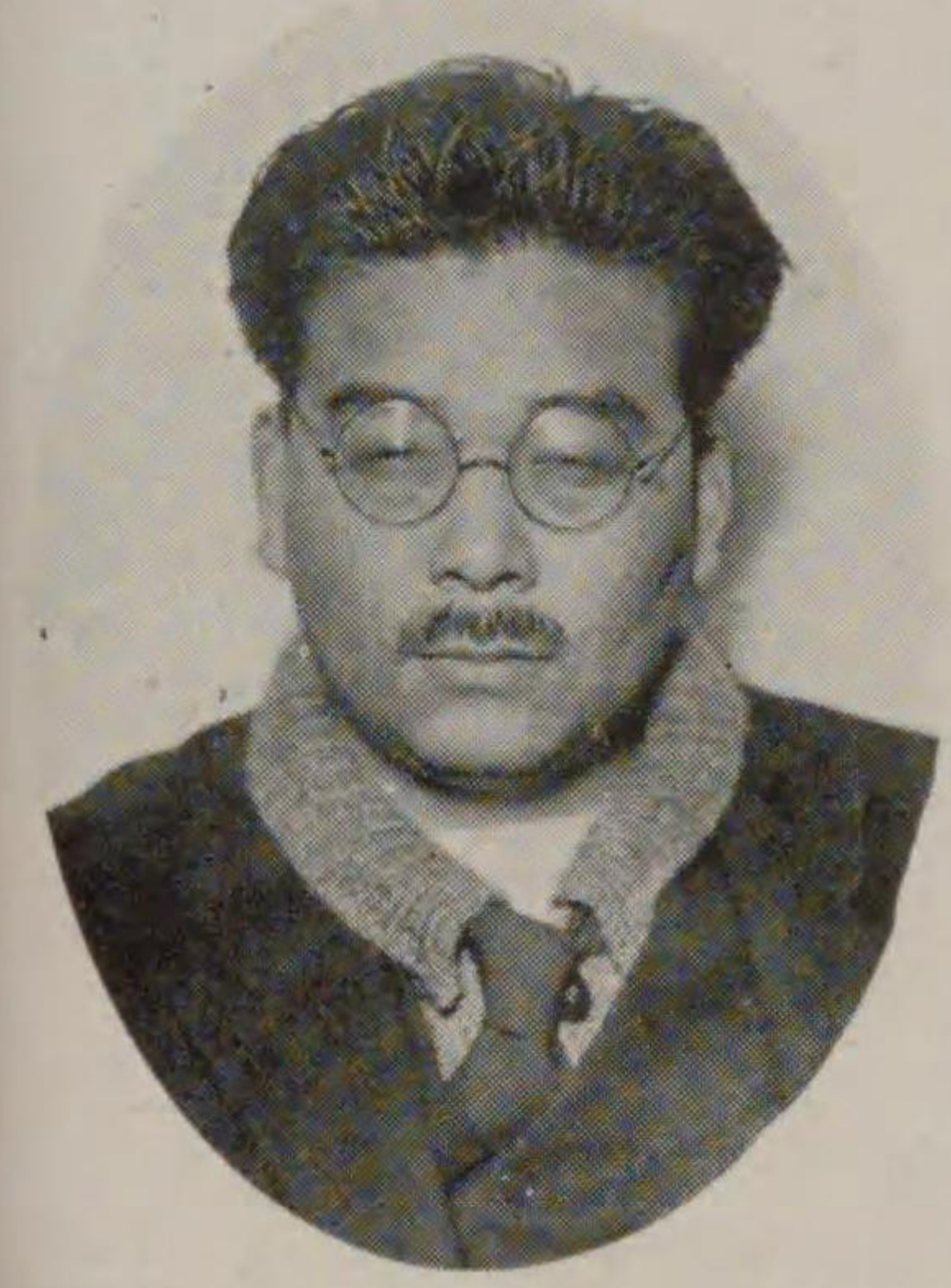
中央
寺内正毅元帥

右
大迫尙敏大將と金玉均氏



(近附座銀—京東大るたれさ興復)

近代文化のリーダー



山脇房子女史と麻生久氏

左

中央
下田歌子女史

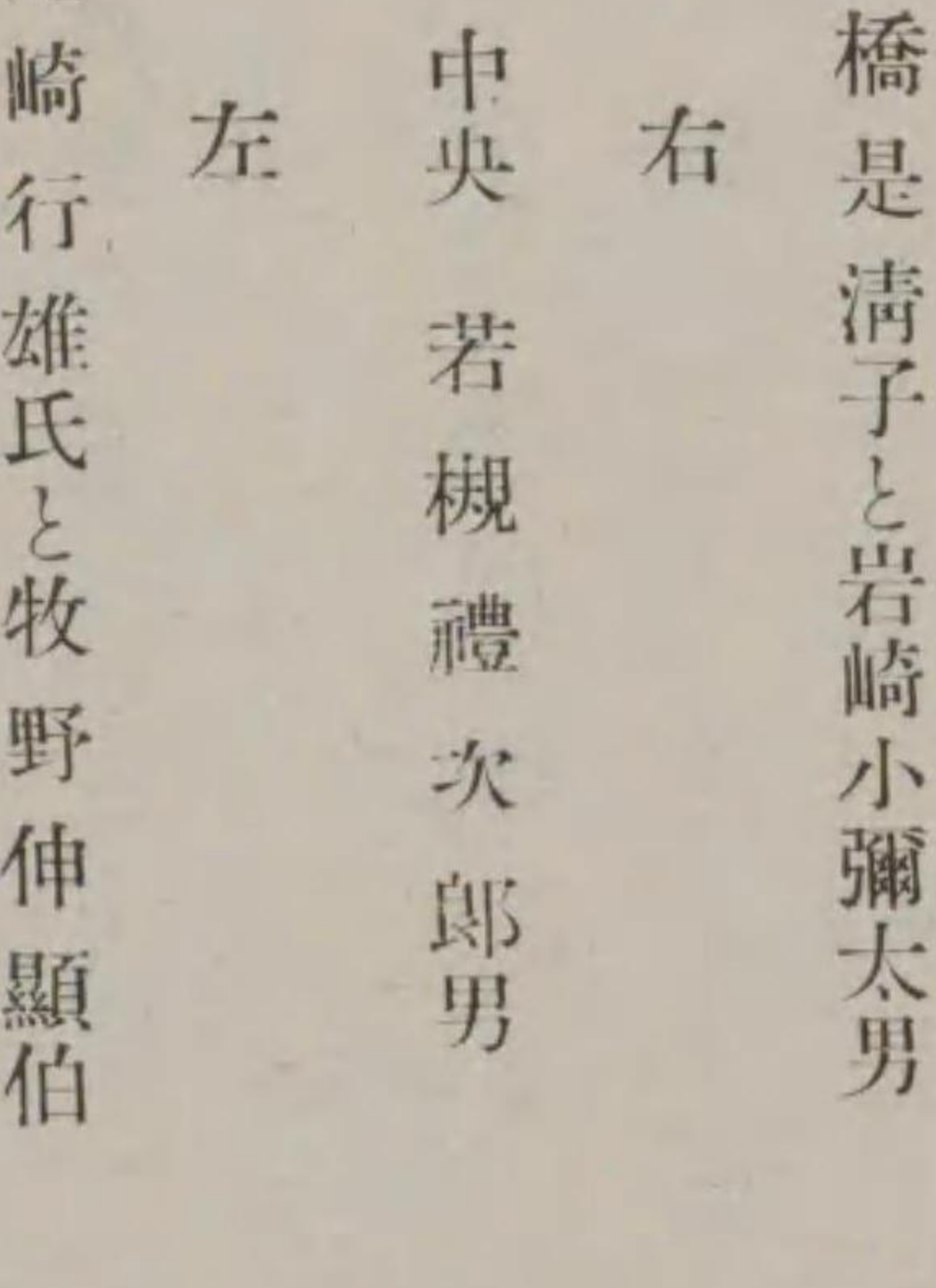
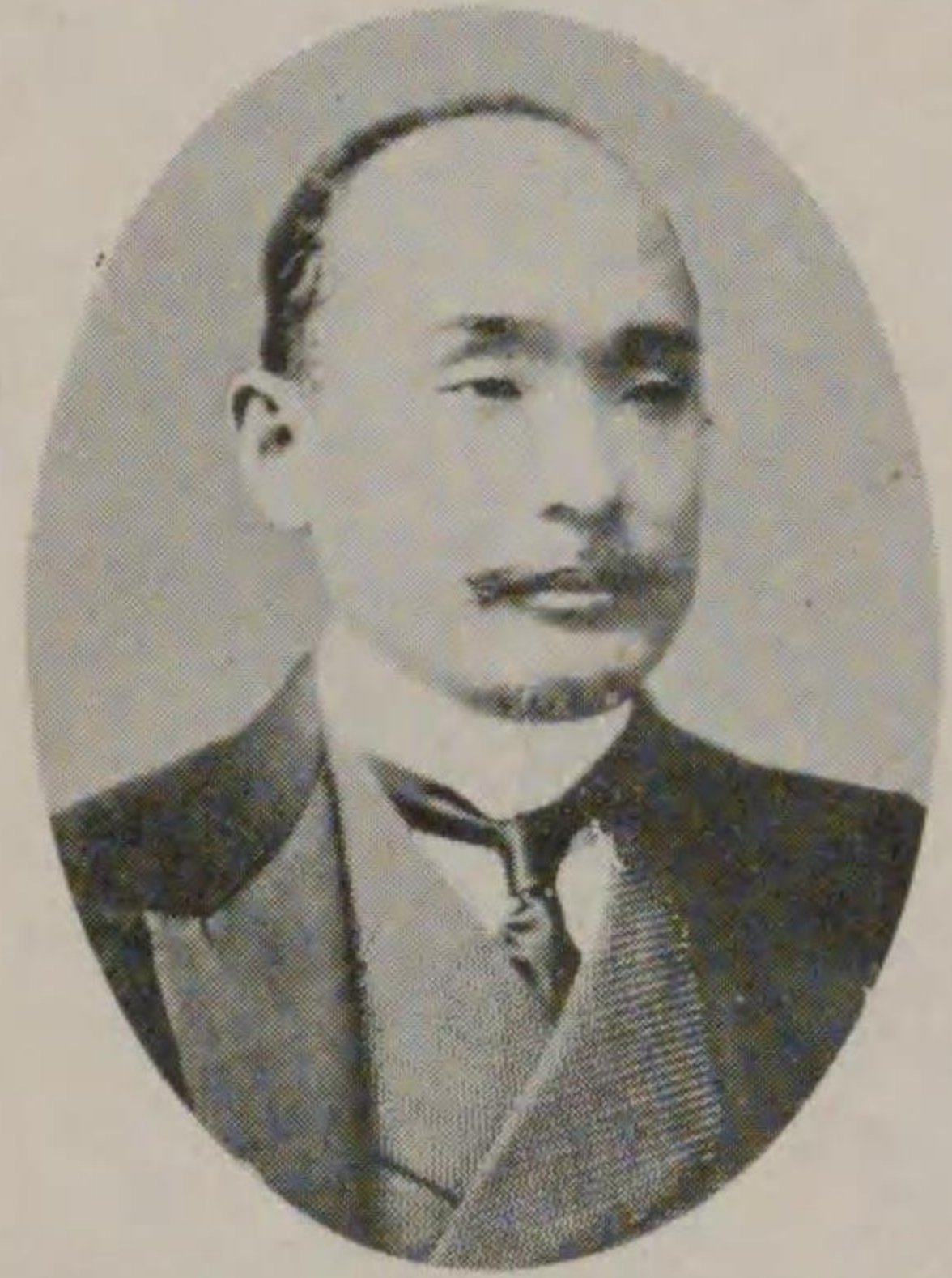
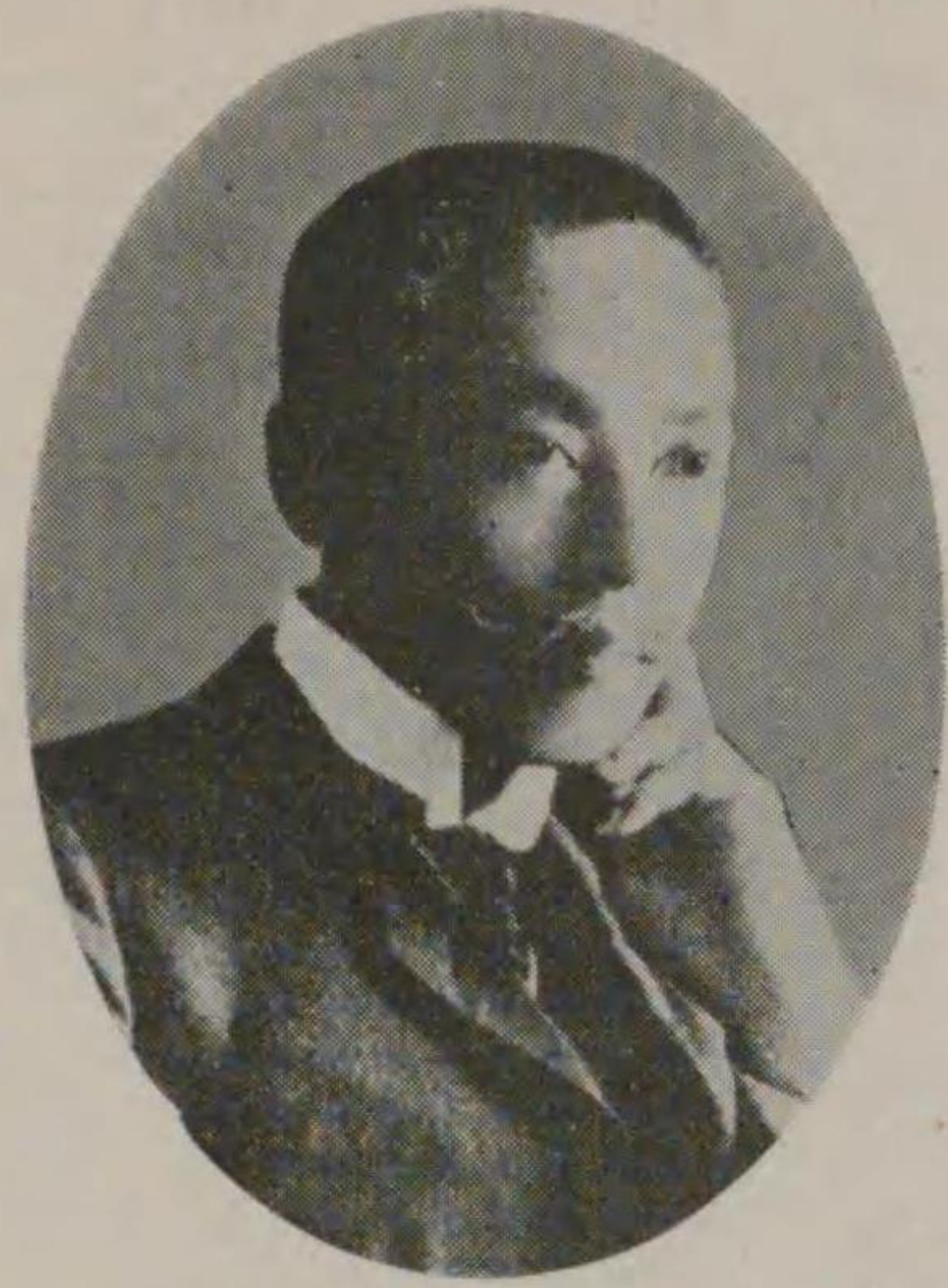
右

跡見花蹊女史と大山郁夫氏



(近附橋本日—京東大るたれさ興復)

近代文化のリーダー

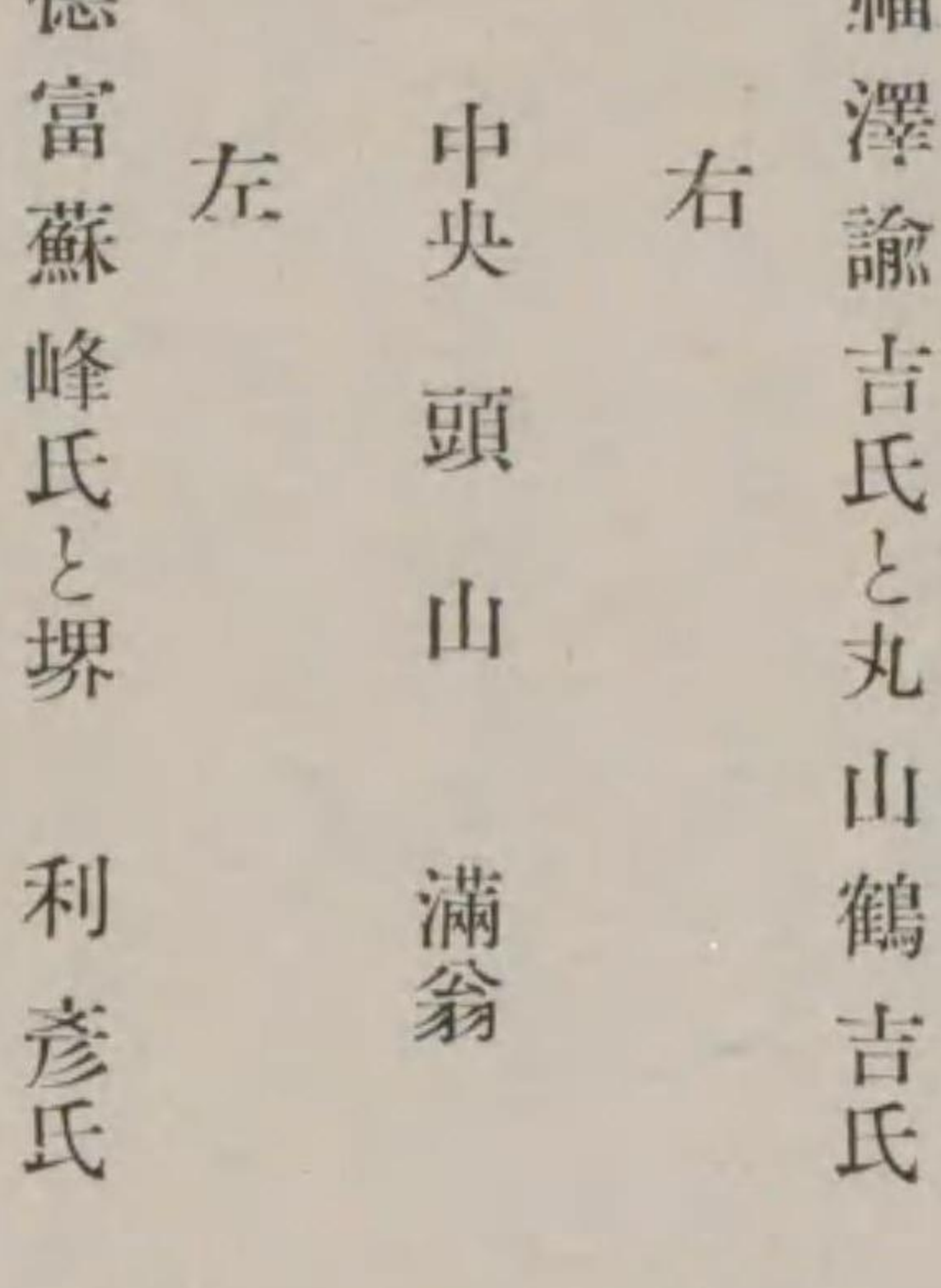
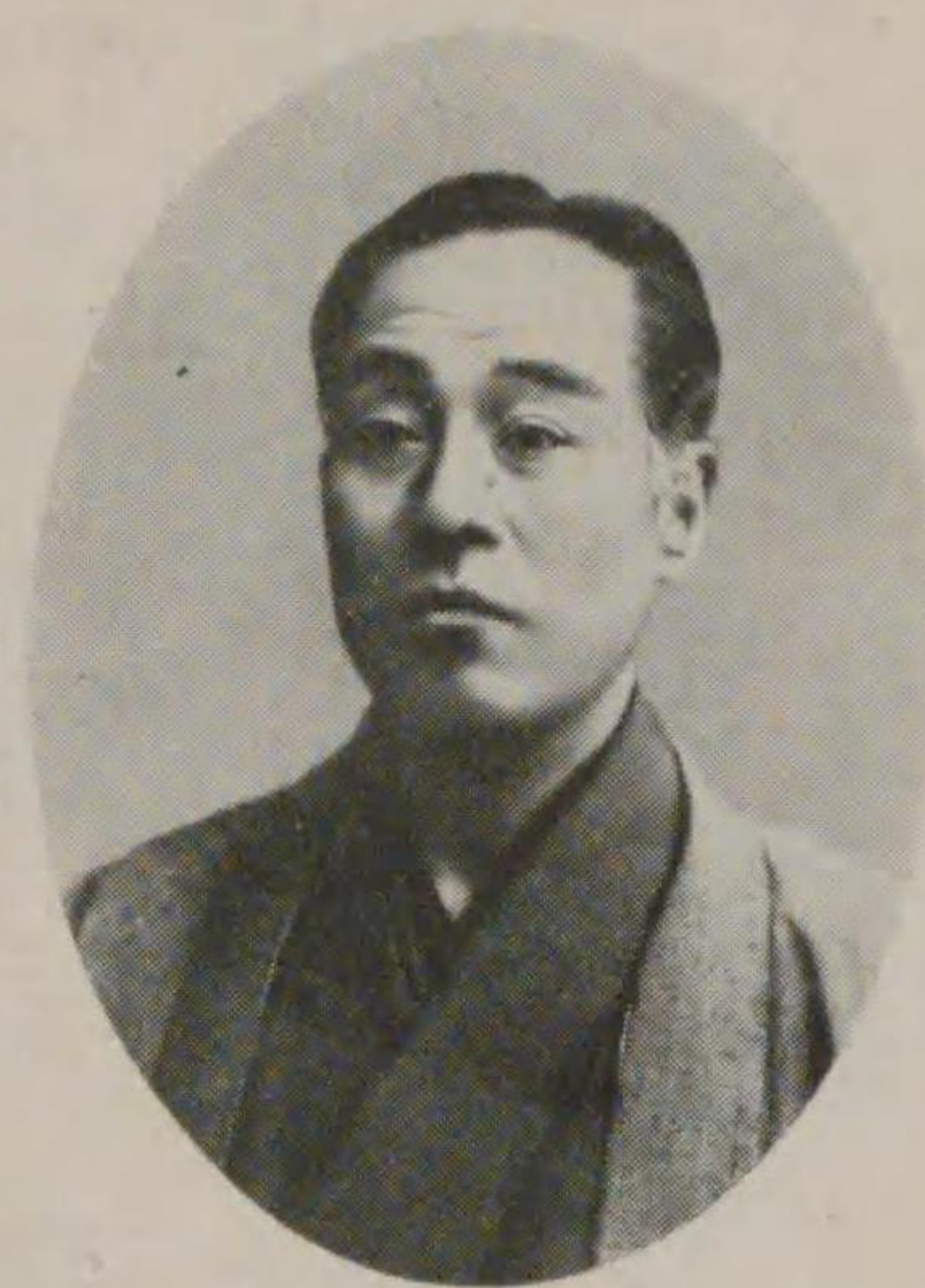
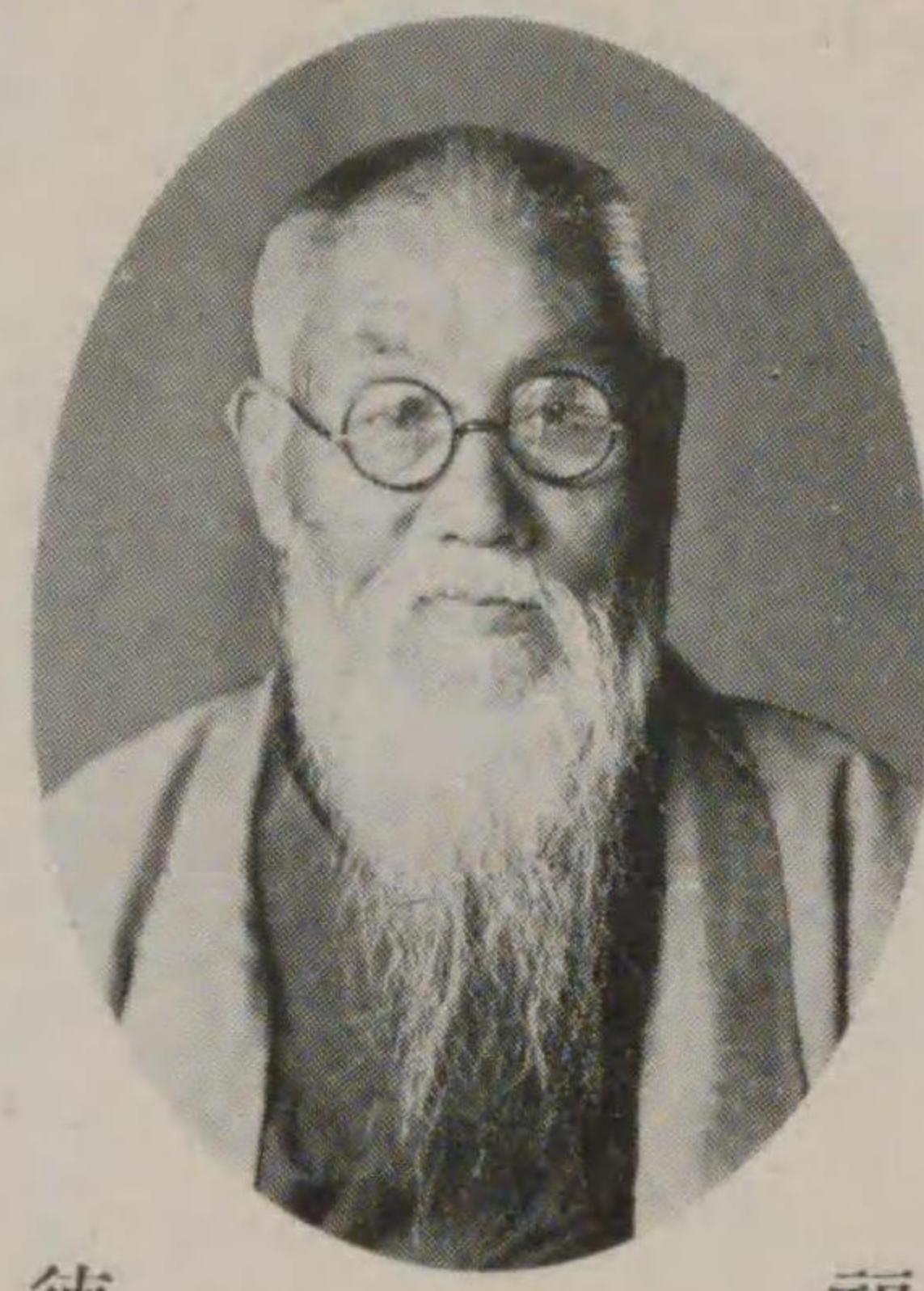


高橋是清子と岩崎小彌太男
右
中央 若槻禮次郎男
左
尾崎行雄氏と牧野伸顯伯

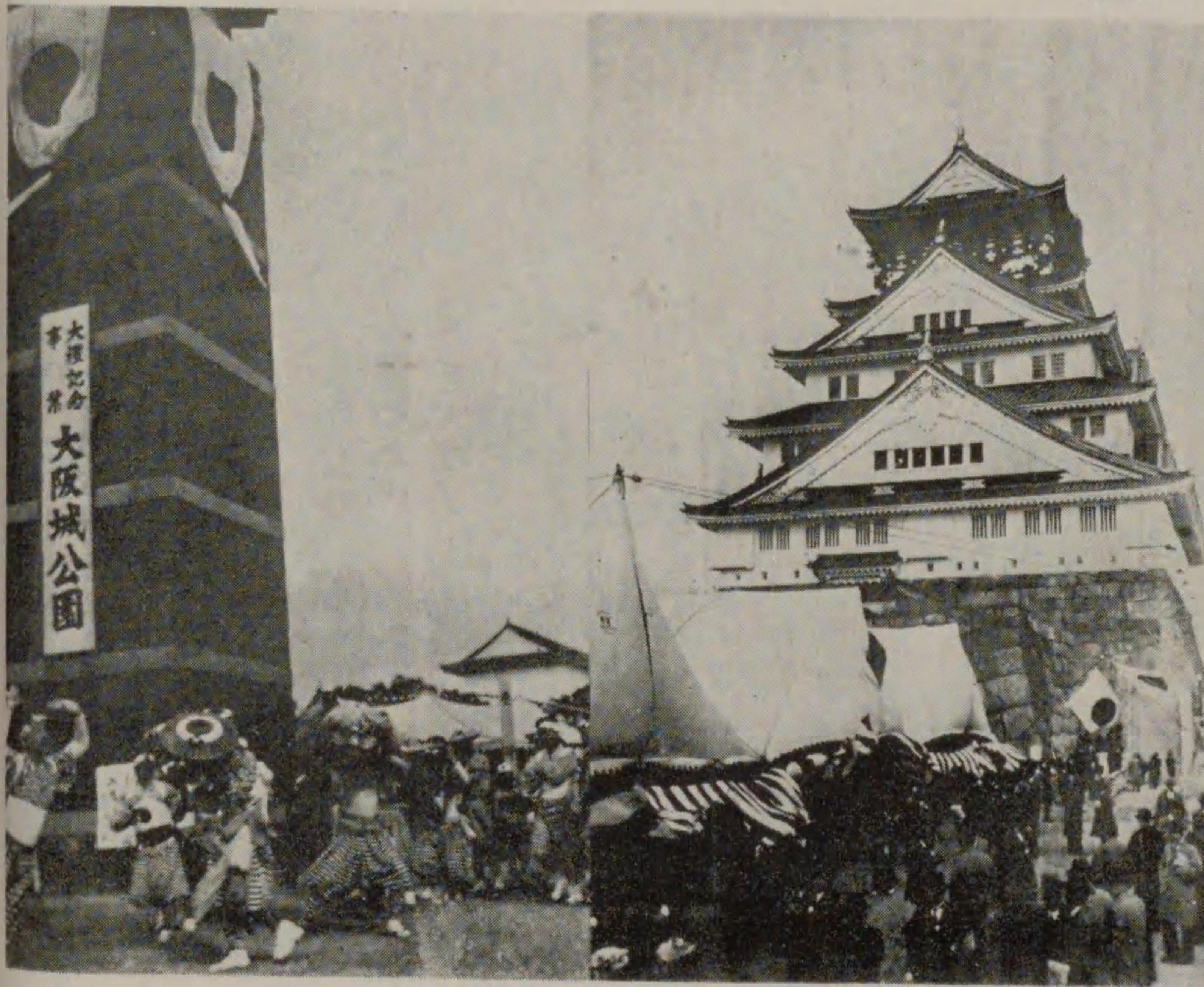


(景風の蒙滿)

近代文化のリーダー



福澤諭吉氏と丸山鶴吉氏
右
中央 頭山 満翁
左
徳富蘇峰氏と堺 利彦氏



城阪大新るたし興復

豊太閣の榮華を偲ぶ
大阪城 天主閣竣工式



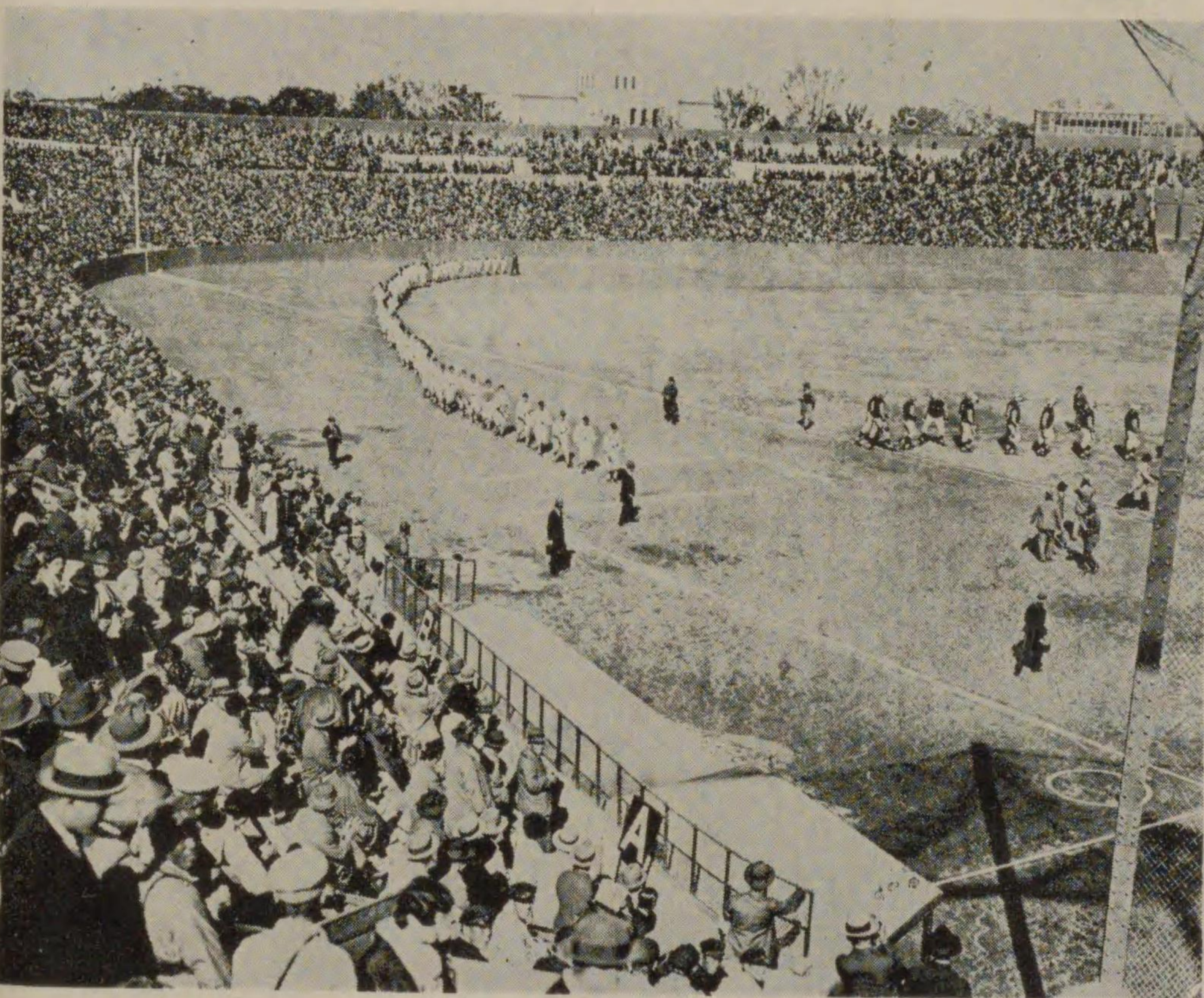
濱口雄幸氏と大谷嘉兵衛氏

右

中央 澁澤榮一子

左

敬氏と安田善次郎氏



旺んなる若人の勇躍を讚へよ

(明治神宮外苑野球戦)



通俗文化、文政、天保、弘化、嘉永、安政、萬延、文久、元治、慶應、明治、大正、現代

近世文化年代記

惠峰石田傳吉著

第一編 總論

第一章 年代記の以つ可き新しい意義

歐米文化の影響
王政維新
國家の經綸
藤原氏一族
讒言怨訴

年代記と言ふと如何にも古臭いものやうであるが、内容は決してそんな古臭いものではない。或は、
なく、最も新しい意義をもつ處の、近世日本の文化史であつて、又國力大膨脹史でもある。或は、
又通俗的な國民史でもあることを斷つておく、即ち我が日本が近世一百年間に於て歐米文化の影響を
受けて、長い間の桃源の夢から覺て、あらゆる點から然も急速に革新に次ぐ又革新と、實にすばらし
い大發展を遂げて來たる経路を詳細に調べあげたるものが、本書の以つ内容であるのである。
先づ吾等は、畏くも明治大帝の御代に至つて、王政維新の行はるゝまでの概念を握み、併せて燦
爛たる現代の文化に到達する迄の過程を調べて、近世年代記のもつ新しい意義に到着したいと思ふ。
そのむかし、その當時に於て、常に君側を奉仕して國家の経綸の大務に當る可き責任の位置にある人
人が國家の休戚にかゝる大任務の双肩にかゝるあるを忘れて、然も長い間に渉りて皇室の厚き恩
寵に狎れたる、藤原氏の一族その他の氏族が只管文弱に流れて、果ては醜い朋黨私黨を結んで、幾多
の輩出する人材の登用を阻止したのみか、其離しきに至つては其氏族中に擇まれたる人材さへも時
には、讒言怨訴するを恥ぢないまでに彼等の人格は墮落してゐたのである。茲に最も顯著な一例を舉

第一編 總論

不逆不逞の謀主 誠忠無二の忠臣 鎌倉幕府 室町元祿の文化

ぐれば、三善清行や藤原時平の一族が、當時に於てその識見高邁にして群を抜く、大經綸を持する巨匠、遂には誠忠無二の賢臣をして、あたふたに紫の鬼と化せしめたるがごときがそれである。彼等が長く君側に奉仕して、天皇の聰明を蔽ひ奉りて、彼等一族一統の專横をほしひまうにしてゐるとき、一日の苟安を貪つてゐたのである。斯くある中に保元、平治の亂となつたが、王朝の權力は極度に衰してゐて、彼の平の清盛が專横を極むるをさへ壓へる力を失つてゐた。かゝるとき遂に源頼朝は伊豆に驅逐して一撃よく平家を亡して、鎌倉に幕府を拓くに及んだのである。かくて兵馬の權は宮中を離れて武門の手に移つて了つたのである。爾來六百餘年間、建封武士の霸權は確立されて、遂に武士の專横は藤原氏に替つて了つたのである。上に蔽ひ、下を虐げて大和民族の文化は彼等武門のため、に殆んど中絶せんばかりに陥つたのである。假令その間わづかに室町、元祿の文化はあつたにしてもそれは四民のものでなくて、僅かに上と四民との中間に介在する、武門武士の文化に過ぎなかつたのである。

第二章 山雨將さに到らんとして風樓に充つ

建武中興 順逆の大勢

斯る秋、英邁に涉せらるゝ、後醍醐天皇のあらせられて、武士の横暴なるを壓へて、王政の昔にかへさんと努め建武中興の御劃策はありしも、既に源氏と言はず平氏と云はず夫等の一族が深く諸國に扶植したる武門の勢力は、六十餘州の隅々までも根強よく蟠據してゐて、遂に抜く可きよしもなかつたのである。

その時、後醍醐天皇の聖旨に應へて、諸國より走せ參じたる尊王の武士——新四氏、楠氏、菊地氏、北畠氏、兒島氏、土岐氏に續いて諸國勤王の大義に共鳴して集つたる誠忠無二の武士もないではなかつたが、國を擧げて足利尊氏に組みする順逆の大勢力には拒するすべもなく、あたら勤王の士はほどこすすすすもなく武運拙なく敗盡するに至らしめたのである。然し彼等尊王の武士は、假令戦ひ破れて一族郎黨は亡びたにしても、彼等が恢々として燃て止まない尊王の至誠は、百世に生き残つたのである。

日本外史 海國兵談夢 宇宙混同秘策 革新の氣運 尊王開國の大義 外國船艦來 大帝御降誕 頑迷なる幕吏 ペルリ來航

て後世多くの志士を驅起させずにはおかなかつた。即ちこの精神が働くと水戸侯の大日本史の編纂となつて現はれ、頼山陽の日本外史の著作ともなつた。又山縣大貳の柳子新論を生んだのである。或は又寛政の三奇人を生み、海國兵談の著作もあれば、山陵志の著作ともなれば又彼の三條橋上尊王の詩となつて現はれてゐる。或時は又高野長英や渡邊華山、藤田東湖や佐久間象山の如き識見高邁の士が續出して、正氣の歌や夢物語りに托して時事を諷し或は又慎機論を書いて、攘夷の愚擧などを論じて、却つて開國の急務を説くにいたらしめた。その間又佐藤信淵は起つて宇宙混同秘策を著はして、領土擴張海外進出の大經綸を高調するが如き卓見も現はれてゐるのである。又、本居宣長、平田篤胤や加茂真淵、荷田春滿等始めとして多くの國學者は續出して敬神尊王の大義を宣揚するなど、尊王の處に革新の氣運の醸成されたのもその一つであるのである。斯も武門の狂暴の犠牲となつた。雲の王の大義を唱へたる幾千百人の流したる尊き碧血は、遂に仁孝天皇、孝明天皇の朝にあつて、雲の如くに諸國諸藩の中に尊王の志士を憤起せしめて止まなかつたのである。

然もこれより先き人皇百九代明天皇の朝、三代將軍家光によつて寶永十六年七月以來、鎖國主義を執りて、外國貿易を禁壓して僅かに蘭人と支那人のみに、限定的通商を許したのみであつたが、然もこの秋にあつて、尊王開國の大義の聲に應じて起る、全國的大運動と會ひ反響するが如くに、偶然にもその頃より、外國船艦の我が海港を冒して薪炭を求め、或は又貿易を開かんことを強要するものが盛んとなつて來た、幕府はこの内外の壓力にあつせられて、山雨將さに到らんとして風樓に滿つるの光景は直ちに以つて文化より嘉永安政へかけての徳川を襲來したる實狀であつたのである。

第三章 明治大帝御降誕——大革新成る

聖文武の英主、明治大帝の御降誕あらせ給へるは、嘉永五年九月二十二日であつて、彼の米國のペルリ提督が軍艦四隻を引いて浦賀に來り、禮砲一發、頑迷なる幕府の膽を寒からしめたのは、その翌年の六月であつたのである。越えて嘉永七年正月には再びペルリの來航するあり、その三月には遂に米國に強要されて甚片務的なる條約が締結されてゐる。その又七月には英艦が來航して、八月には英國との條約は締結され、十二月には又露國その他各國と引續いて條約が締結されたのである。この

吉田松陰

間内國には、吉田松陰や佐久間象山等を始めとして幾多勤王開國を唱ふる人々が幕府に捕らへられ

大狂瀾時代

五年の間に、對内的には尊王より討幕の問題が勃興し、對外的には攘夷開國の問題があつて、この二

維新の鴻業

慶應三年正月九日、御寶算十六歳にして人皇百廿二代の皇位に即かせられ、其十二月には維新の鴻業

文教の基礎

ある。大陰曆は太陽曆に更らたまつて、五節句はあらたまつて、新に祝祭日は選らばれた。古來から

立憲君主國

て、府縣制、市町村制は布かれ、彼我貿易は年々盛を極め、公議輿論に據るの政治は漸をもつて行はれ

布市町村制發

條約改正成

範示されて、國民教育の基礎は確立された。又備さに辛酸を嘗め多大なる犠牲を拂つたる、各國との條約改正も成功して、諸外國と對等の交際

二大戦争

り、今は列強の間に重きを爲すまでの大進歩を遂げたのである。この大進歩は、殆んど仁孝、孝明の

驚異的革新

吾等國民の生活の上に實際化されたる、一大變革の事實がいかなる形式で行はれたるものであるかと

國家の政治

事よりして、國家の政治向一切のことから、又市井の一鎖事にいたるまでも、こと苟くも當時の人の

市井の鎖事

を收めたのである。更らに又第四編の四章には、孝明天皇の朝、即ち、慶應三年より始まつて、明治

世想を知る
絶好資料

想を知る絶好の資料として、その頃發行されたる太政官日誌、又はその他の新聞雜誌に載せられたる

ものを、そのまゝ採録しておいた。

德兆安撫國威宣布ノ庶翰 (慶應四年三月十四日) (明治元年)

一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ

一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ

一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ナシテ倦マザラシメン事ヲ要ス

一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

我國未嘗有ノ變革ヲ爲ントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンジ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

朕幼弱ヲ以テ舜ニ大統ヲ紹キ爾來何ヲ以テ萬國ニ對立シ列祖ニ事ヘ奉ランヤト朝夕恐懼ニ堪サルナリ竊ニ考フルニ中葉朝政衰テヨリ武家權ヲ專ラニシ表ハ朝廷ヲ推尊シテ實ニ敬シテ是ヲ避ケ億兆ノ父母トシテ絶テ赤子ノ情ヲ知ル事能ハサル様計リナシ遂ニ億兆ノ若タルモ唯名ノミニ成リ果テ其力爲ニ今日朝廷ノ尊重ハ古ヘニ倍セシカ如クニテ朝威ハ倍衰ヘ上下相離ルル事嘗壞ノ如シカカル形勢ニテ何ヲ以テ天下ニ君臨センヤ今般朝政一新ノ時ニ際リ天下億兆一人モ其處ヲ得ザル時ハ皆朕ガ罪ナレバ今日ノ事朕自身骨ヲ劈シ心志ヲ苦メ艱難ノ先ニ立古列祖ノ盡サセ給ヒシ跡ヲ履ミ治績ヲ勤メテコソ始テ天職ヲ奉シテ億兆ノ君タル所ニ背カサルヘシ往昔列祖萬機ヲ親ラシ不臣ノモノアレバ自ラ將トシテ之ヲ征シ玉ヒ朝廷ノ政總テ簡易ニシテ如此尊重ナラサルユヘ君臣相親シミテ上下相愛シ德澤天下ニ洽ク國威海外ニ耀キシナリ然ルニ近來宇内大ニ開ケ各國四方ニ相雄飛スルノ時ニ當リ獨我邦ノミ世界ノ形勢ニ疎ク舊習ヲ固守シ一新ノ效ヲ計ラス朕徒ラニ九重中ニ安居シ一日ノ安キヲ偷ミ百年ノ憂ヲ忘ルルトキハ遂ニ各國ノ凌侮ヲ受ケ上ハ列聖ヲ辱シメ奉リ下ハ億兆ヲ苦シメン事ヲ恐ル故ニ朕茲ニ百官諸侯ト廣ク相誓ヒ列祖ノ御偉業ヲ繼述シ一身ノ艱難辛苦ヲ問ス親ラ四方ヲ經營シ汝億兆ヲ安撫シ遂ニハ萬里ノ波濤ヲ拓開シ國威ヲ四方ニ宣布シ天下ヲ富強ノ安キニ置ン事ヲ欲ス汝億兆舊來ノ陋習ニ慣レ尊重ノミヲ朝廷ノ事トナシ神州ノ危急ヲ知ラス朕一度ヒ足ヲ舉レハ非常ニ驚キ種々ノ疑惑ヲ生シ萬口紛紜トシテ朕力志ヲナササルハ時ハ是朕ヲシテ君タル道ヲ失ハシムルノミナラス從テ列祖ノ天下ヲ失ハシムルナリ汝億兆々朕力志ヲ體認シ相率テ私見ヲ去リ公議ヲ採リ朕力業ヲ助テ神州ヲ保全シ列聖ノ神靈ヲ慰ン奉ラシメハ生前ノ幸甚ナラン

文化十四年

第二編 仁孝天皇 御代三十年記 第一章 文化十四年より弘化三年迄

○二月十五日、鴻儒中井履軒其卓見に成る『華胥國物語其他多くの名著を遺し八十七歳の高齡で逝く』

○仁孝天皇御踐祚百十九代光格天皇御讓位、第三皇子惠仁親王御寶算十八歳にして御位に即かせ給ふ。本日踐祚の御大禮を擧げさせらる。

○四月十七日、蘭醫杉田玄白年八十四歳で逝く。玄白は若狹小濱藩の醫家甫仙の子、名は翼、字子鳳、齋と云ふ。後幸翁と改めた。壯年にして江戸に上り幕府の醫官西玄哲に學び、又經史を宮瀬龍門に受けた。同藩の醫小松玄適の古方を唱ふるを見聞して大いに憤憤し、外科専門の術を研究する。又蘭語を修める。藩主より和蘭入來の内景圖説を與へられて研鑽最もつとめる。遂に刑死者の死體を小塚原に得て解剖し對照して大いに啓發する處があつた。その著書には解剖新書を始めその他四書集釋、讀道鑑評、近思錄集說、精里文集等の數著がある。卓然として一家をなす人。

○福山藩主阿部伊勢守正精老中となる。○八月松平信明卒す。

○仁孝天皇御即位 九月二十一日人皇百二十代御即位の大典を擧げさせらる。

○九月英船貿易を求めて相州浦賀に來る。許されず歸る。

○十月最上流算數家會田安明此年七十七歳で逝く。又同日河東七世、十寸見沙洲五十九歳で歿した。

文政元年

四月二十九日改元

○儒者村瀨栲亭歿す。年七八。京都の人、秋田藩に聘せられて其國に赴き後ち致仕して京に還る藝苑日抄、栲亭集の著ある。

- 華胥國物語 御踐祚
- 杉田玄白逝
- 阿部伊勢守 御即位式
- 英船來る
- 栲亭逝く

伊能忠敬逝

○四月十三日伊能忠敬年七十七歳逝く。忠敬は我が國が生んだ醫學の天才、忠敬は下總佐原の人、字は子齋東河と號し、三郎右衛門又は勘解由とも稱した。神保貞恒の子、伊能氏に養はる。天明三年及

英船又來る
司馬江漢逝

○四月二十二日、改元、文化十四年は文政元年と改まる。五月英船再び相州浦賀に來る。○十月二十一日、西洋畫家、司馬江漢、年七十二歳で歿す。江漢は西洋畫の先者、名は峻、字は君岳、春波樓と云ふ又桃言無言西洋道人の別號有り、初め鈴木春信に學び二世春信とも云ふ。又谷文晁に學ぶ、後ち長崎に遊び西洋畫を研究する。文化の初め周防の錦帯橋の油畫をものし淺草觀音堂に掲ぐ忽ち天下の評判となり觀覽者毎日堂に滿つ、然るに蕃畫をもつて清淨の佛堂を汚すとの非難が起り遂に撤掲さる。春波樓畫譜、西洋畫談、長崎見聞志等の數著がある。

二宮尊徳表彰さる

文政二年

○正月 水戸藩主徳川齋昭編修する、大日本史記傳四十五冊を献上する。○この年六月草字一步金を鑄る。○七月 幕府令を下して、物價下落を強制する。○この年尾張の豊助樂焼を始む、又犬山燒此の頃より始まる。○畫家北尾重政歿す、享年八十一歳。○畫家清水曲河逝く。○畫家勝川春英逝く、享年五十八歳。

大日本史成る
物價値下令
名家逝く

文政三年

名士名人逝
服部家を救濟する

○正月 儒者原念齋四十七歳で逝く。○六月 新銀錢を鑄造さる。○七月 儒者市河寬齋七十二歳で逝く。○七月 畫家勝川春亭五十一歳で歿す。○九月 一日初代杵屋正次郎歿す。○同日 畫家浦上王堂逝く。○小田原藩主大久保忠貞侯は、領内振興につき民間の獻策を徴した。その時、金次郎が貢米收枿の改正の議を献上したものを採用賞表さる。この外、小田原藩士のために、低利助貸法及五常講を起して家政整理の方法を奨む。又それより先き文化六年中小田原藩士服部十郎兵衛(祿千二百石)のため、家政整理を依頼さる。需めに應じて先生創案の報徳分度經濟法を應用したる五箇年間負債償却案を立てて、遂に服部家を救濟する。かくて忽ち金次郎の才能が認められて、後ち立身出世のもととなる。

滿州文字譯
浦賀防備

文政四年

名士名人逝
駱駝献上
二宮金次郎起用さる

○歌人石原正明、六十二歳で歿す。○七月、畫人森狙仙歿す、享年七十五歳。名は守象字は叔牙祖仙と號し、最も猿を畫くに拔技を得た人である。○七月、和蘭國より駱駝を献上し來る。○二宮金次郎起用さる。それより先き小田原藩主の支族に當る、旗本宇津家の領地が下野國櫻町(現時の栃木縣物部村)にあつて、四千石を食でゐたが、宇津家はその地を支配する丈の能力が缺けたので、遂に荒廢して、櫻町四千六百六十石餘、其貢租約四千俵あるべきにそれが九百六十二俵に減少するほどに陥つたのを復興すべく、領主大久保公より二宮金次郎は囑托された。再三同辭したか

盲偉人逝く

尙免るされないので、領主の知遇に感激したる百姓金次郎は實地について調査に従事すること數日、復興について確心を得たので皇國神代開闢の心をもつてすれば興復疑なき旨を復命した。此の復命を得たる忠眞公は大いに喜び、先づ金次郎を名主格に取り立て、櫻町四千石の復興の全權を任かせられたのである。斯くて金次郎は藩主の絶對信任に答ふべく、前後十五ヶ國拮据經營の辛苦も忍びて、遂に天保七年にいたりて復興の實を擧げたのは、多くの史實に明らかである。保己一は今の埼玉縣兒玉郡金屋村大字保木野の生れ、七錢の時に明を失ひ、十歳にして孤兒となる。家貧なるをもつて替とならんと欲し、兩宮檢校の門に入るも成らず、更らに鍼術を修む、又能はず。彼は更らに方向を更えて、學問に志ざし、あらゆる艱難と戰つて國學の蘊奥を極め、強記無双を以て世に稱せらる。彼は常に國典の散逸せんことを憂ひ遂に「群書類從」六百三十五卷三千三百七十六部を編輯する外に螢蠅抄、花咲松、武家名目抄、史料鶏林捨葉抄等がある。

文政五年

○正月六日、戲作家式亭三馬歿す(年四八)名は久徳通稱太輔、式亭又は遊戯堂と云ひ、別號を四季亭、本町庵、洒落齋、吟囉哩樓とも云ふ、八丈島爲朝神社祠官の子、江戸書肆萬屋太次右門の養子となる。後年十八歳離別して、化粧品を商ひながら戯作に従ふ名聲四方に聞ゆ。俠太平記、向鉢巻を著はして幕府の諱きに觸れ罪にとはる。○三月十一代將軍家齋左大臣從一位に叙せらる。○三月二宮金次郎尊徳は藩主大久保忠眞公に拔擢されて、其族下野櫻町宇津家四千石の興復を依命せられたときの、委任の要領は左の如くであつた。一、十年間、櫻町の租入を千五俵、金百二十七兩にて委任し、任意に仕法を行ふこと。二、名主格待遇、高五石二人扶持、柏山村自宅引拂料米五十俵。

松前奉行廢す

式亭三馬逝く

叙左大臣
二宮尊徳
櫻町仕法委
任條件

上杉鷹山逝く

英船又々來
相馬大作處
刑
虎疫流行
山陵志成る
小田原藩財
政窮乏

關白親任
尊徳櫻町に
下る
蜀山人逝く

菅茶山逝く

三、仕法用米二百俵及金五十兩。○上杉鷹山逝く、年七十二歳、米澤藩主、政治家として名君の稱あつた人。秋月種美の第二子にして上杉家の養子なる。紀平州、荏戸九郎兵衛等の賢臣を用ひ、亦籍田法を學びて自から泥中に入り鋤をとる等凡庸君主に出來ざる行ひをなし、大いに治績を擧げた人である。○四月、英船三度び浦賀に來る。○七月、老中土井利厚卒す。○八月、相馬大作關良助等津輕侯を狙撃して處刑せらる。○九月、松平乘寬老中となる。○この八月九月にかけて、コレラ病畿内、山陰、山陽道地方に流行、死者數千を數へたりと云ふ。○九月、蒲生君平の遺著山陵志出版さる。○この年小田原藩の財政亦困難にして京坂の富豪に債務を負ふこと多く、然も返す能はず延期を求めたりと云ふ。これは小田原藩のみでなく天下の諸公も民間に於ても大同小異何れも財政難に陥つてゐたらしいことは事實らしい。

文政六年

○三月、鷹司政通關白となる。○三月、二宮尊徳はいよゝ、櫻町の復興に着手すべく家材一切を六兩一分餘にて賣却し一家を擧げてこの月下野に下る。○四月六日、蜀山人太田南畝卒す、享年七十五。幕府の士、幼名を直二郎、云ひ後ち七左衛門と更む文章をよくし又狂歌に巧みなりしをもつて名あり、四方山人、杏花園、遠櫻山人、不楠齋等の號がある。○此月詩人葛西因是歿す。○八月、備後の儒者詩人菅茶山逝く、享年八十歳。彼は、農商兼業の家に生まれ少壯京師に遊學、那波魯堂に洛閩の學を受け、多くの儒者と交はり遂に郷に還つて村塾を興し諸生に道を授けた、骨格岸靈、方面方觀、老年は朱顔白髮となり、諄々として道を説く處頗る田舎翁の面影があつたが、資性溫和にして威あり、酒を嗜みて日に酔ふこと二次、能く人情に世故を洞察し、談諧横生、聽く者を

シールボルト
來る
皇朝史略創
刊
老中更迭

刑政總類
新金鑄造
英船助川來
婦女買賣禁
英船寶島來
露西亞學筌

畫家豐國逝

して悦んで耳を傾けしめた。
○八月、獨逸の外科醫にして、然も滯留數年、我が日本の文化に貢獻したるシールボルト長崎に來る。
○九月、皇朝史略著者青山延干歿す。享年六十八歳。水戸藩の儒官雲龍又は拙齋と號した。學を立原萬に受け、柳子厚の文を學びて、文才大に擧る。二十歳江戸に出て紀平州、山本北山と交る。大日本史中、神祇志六卷の外禮義輿服二史、水戸藩史、東藩文獻志を著はしてゐる。因に新思想家山川均氏の夫人として又女流思想家として、夫君と共に名聲高き菊枝夫人は實に延干氏の御曾孫さんにあたる、此篤學者の系統より新進思想家を生む又珍とすべき乎？
○老中阿部正精罷む。○十一月、松平輝延中老となる。○十二月、富士谷御杖五十六歳で歿す。

文政七年

○正月、片山市次郎刑政總類百五十卷を幕府に獻す。
○幕府南鑄二朱銀を鑄造する。○五月一朱金を鑄造さる。
○五月、又々英國船又々常陸助川に來る。
○五月、隱岐國婦女賣買の事を嚴禁する。
○五月、英國船薩摩の寶島に渡す。○八月、國學者清水濱臣歿す(年四九)國學者通稱玄長、泊々舎と號す。少年學に志し古學を村田春海に受け大成す。杉田日記、泊々筆記、中葉管根集、源氏物語、名寄國考、唐物語標註等の著書有る。
○九月、足立左内、露西亞學筌を獻上する。○この年尾張海東郡正治村の人、梶常吉を樂燒の法を發明し、和蘭陀の七寶燒を研究して一新窯を開く。

文政八年

○正月、浮世繪師初代歌川豐國年五十七歳で歿す。初め二代國政と稱し後國貞となり三代豐國の没後

松平輝延
外船打拂令
太田錦城逝

英船陸奥來
准大臣宣下

龜田鵬濟逝

露書和解上
藤田幽谷逝

氣海觀瀾
二名著成る
千春逝く

文政九年

四代目となる。明治十三年没した。
○二月、老中松平輝延卒す。
○二月、外國船打拂令を發して海岸の防備を嚴にする。
○四月、儒者太田錦城逝く。享年六十一。錦城は加賀藩の儒者幼にして神童の稱あり、初め江戸皆川洪園に學び、後山本北山に從ふ共にその意に適はず學友大島無害、山中恕之等と俱に師北山に書を課えて交を絶つ。専ら師を古人に需めて讀書研讀多年折衷學の唱道をなし其名天下に聞ゆ。周易評說、論語大疏、九經談、中庸原解、孟子精蘊、荀子考、乾財傳、海冠事略考、梧窓漫筆、同後編、群雄割據録等の著書がある。
○五月、英國船又もや、陸奥沖に來る。
○八月、將軍家齊の父一橋治濟に准大臣宣下さる。

○儒者龜田鵬濟年七十三歳で逝く。江戸の人、名は長興字は禪龍善身堂と號した。井上金峨に學び、門の士山本北山と共に歐蘇の文に倣つて作爲し護國の徒を排撃つとめた。江戸の文壇ために風靡して其名聲天下に鳴つた。著す處、論語撮解、大學私衝、中庸釋義、善身堂一家言、鵬翁鑄抄、老莊訓解、國字考、北游記事、善身堂文集等がある。
○十一月、高橋作左衛門露西亞書和解を上る。○十一月、松平康任老中となる。
○十二月、水戸藩の儒者藤田幽谷年五十三歳で歿す。名は一正字は子定通稱次郎左衛門幽谷と號した。志水元禎、立原萬等について學び、後藩の國史侍讀となる又史館編輯に擧げらる幽谷常に心を邊海のことに留め、天下の憂ひをもつて憂ひとする國士であつた。
○十二月、江戸の醫青池林宗、氣海觀瀾地學正宗を譯した。
○この年、岩垣松苗の國史成る。又頼山陽の日本外史も成る。
○十二月、畫家荒井千春九十四歳で逝く。

文政十年

叙大政大臣
醫支澤逝
日本外史上
日傘禁止
高田屋嘉兵衛歿

○三月十八日、家齋將軍大政大臣に任ぜらる。
○三月、醫大槻玄澤歿す年七十一、杉田玄伯の門人にして江戸の大醫、瘍醫新書を著はしてゐる。
○五月二十一日、頼山陽著作する、日本外史廿一卷を松平樂翁に上る。
○七月、醫員と歸女の外は日傘の使用を禁止された。
○九月、快傑高田屋嘉兵衛逝く年五十九、淡路の人寛政十一年幕府の命を受け無人の擇捉島に渡り萬難と拂して漁場十七ヶ所を招き享和三年功をもつて公廩を受け官船を領し盛んに漁業に従ふ。よく露語に通じた人で嘉兵衛は實に北海道漁業開發の先驅者にあつたのである。
○十一月十九日、平民詩人俳人小林一茶逝く時に年六十五。○此年伊藤圭介始めて物理學を唱ふ。
○義眼の始めは、既にこの頃から硝子玉でつくつたものが利用されてゐたと云ふ。をそらく和蘭あたりのよりの輸入であらう。

文政十一年

歌川豊春逝
陸奥銀山開
作左衛門捕
越後大地震

○正月、浮世畫の大家歌川豊春歿す(年八〇) 島山豊房の門に出で後西洋畫を研究して浮世錦畫を發行して好評する寛政年間町繪職人の頭取となる、その頃日光神廟修繕の時、廟内彩色の事を司る。
○五月、陸奥半田銀山を開く。○七月、畫人狩野榮信歿す(年六一) 木挽町狩野家六世の畫人、榮川の男。
○高橋作左衛門捕はる。字は子昌、號を蠶藏といふ。幕府の御建物を奉行兼天文方。大禁を犯して地圖を外人に賣りたりとの廉を以て投獄さる。十二年二月卒死する。彼作左衛門は伊能忠能の原圖を縮寫し重要地名を添つて和蘭院醫シイボルトの圖書と交換したのに因する。
○十一月九日、越後地方大地震あり被害激甚。

酒井抱一逝
春庭逝く

○十月、畫人酒井抱一歳六十八歳で逝く。酒井雅樂頭の弟。多病の故を以つて西本願寺文如上人の養子となる。畫は家兄に學び後狩野永徳に就き學ぶ。後京都に出て土佐光貞に修め又圓山應舉に學ぶ。圓山風の熟達するや尾形光琳を慕ひ研技多年名聲大いにある。父祖の業を承け國學を修む。○十月、國學者本居春庭歿す(年六六) 宜長の男健藏、號を健亭と云ふ。父祖の業を承け國學を修む。眼疾を患ひ終に明を失ふ。性恭敬温順又博識にして篤學良く子弟を導く。詞の通路、詞の八衢、道のさ夫草、門の落葉、鈴之屋集等の著書がある。

文政十二年

江戸の花
尊徳の斷食
樂翁公逝く

○三月廿一日、江戸大火災。
○三月十七日、二宮金次郎が成田山に斷食苦行をして、心を固めたのはこの年、この月であつた。
○五月、樂翁——松平定信年七十二歳で卒す。白川城主松平越中守と云へば誰れでも即ぐ諸事儉約の御殿様であることを知るほど有名な人。天明七年老中となり次いで侍従となる。柴野栗山を用ひて儒學を起し、又醫學館を江戸神田に設けるなど施設する處が多かつた。節約已を持し銳意治を圖る、幕政忽ち振肅天下靡然として之に風化する。後左近衛權少將となる。和歌をたしなみ清く「三草集」がある。

近藤重藏逝
貨幣改造

○六月十六日、北海探檢家近藤重藏五十九歳で歿す、それより先き露西亞は東方經綸の手を支那に伸ばして北部黒龍江一帯の地を奪ひ、進んで我が北邊までも手を延ばして來たので、幕府に第一次に勘定奉行松平伊豆守を第二次には石川監物と村上大學に蝦夷地の視察を命じた。その復命によつて北門警備の急なるを知ると共に松平奉行を置いて防備を嚴重にすることになつた。近藤重藏はその第二次の視察に隨行したものであるが、彼はその一行に別れて挺身國後島から擇捉島に渡り既に露人が我が領地内に住居するを確め、尙露人の建つる標柱を抜き捨て「大日本惠士呂府」の標柱を建てて歸つた豪傑である。
○南鏡一朱銀鑄造さる。○七月、二分判金鑄造する。

鶴屋南北逝
歌川豊廣逝

○十一月、戯曲者初代鶴屋南北歿す（年七五）。江戸の人通稱源之助南北はその號なり、もと染物商であつたが金井三笑の門へ入つて作者となる。名人の名最も高かし。
○十二月、歌川豊廣歿す（年六五）。江戸の浮世繪師、一柳齋と號す、共に豊春の門人、初代豊國と技を争ひしが豊國の筆力時好に投じたのに反し、豊廣凡の名ありといへども嗜好に協はずして及はず初めは俳優似顔畫、風俗美人畫、草双紙讀本の類に筆を執り南仙笑楚滿人作のものを多く書いたと云ふ。性豪放洒落頗る音楽を好み三味線に熟達した。

天保元年 十二月十日改元

石川雅望逝
十二月改元
西洋産科の始

○三月、畫人石雅望歿す。享年七十八であつた。
○十二月十日、文政十二年は、この日天保元年と改元さる。
○十二月、西洋産科の祖足立長六十一歳で歿す。江戸の人、旗本淺野家の臣井上正廣の子、名は世茂、無涯と號した。初め足立梅庵に就いて醫術を修め遂にその姓を冒す、後ち多紀安長に従ひて大いに研鑽する。又蘭學を修む、業大いに進み、産醫科をもつて世に重ぜらる。篠山藩主に迎えられ侍醫となる。著書には醫方研究書幾若干卷ある。

天保二年

天保山成る
十返舎一九

○二月、大阪天保山成る。この二月より大阪淀川口を浚渫に着手する。その浚えたる土砂が堆積されて、遂に天保山が出来たのである。○四月、老中牧野忠精隠居する。
○八月、戯作者十返舎一九、五十七歳で逝く。一九は静岡に生る。市尹の屬吏を嗣ぎしが、やがて家職を弟に譲りて大阪に逃れ、近松餘七と別名して淨瑠璃作者となる。寛政六年江戸に登り並木千柳若竹笛躬等と謀りて木下蔭間合戦を表はして評判となる。享和二年道中膝栗毛を著はし益々好評を博す、性放逸物不拘、書齋には書籍雜然として亂列、筆硯の側杯盤狼藉たるものがあつた。十返舎一九

日傘を禁止
全國總石高調

の由來は初め志野流の香を嗜み薫熟香の十返に録みてのものなりと、又別に醉齋とも號した。
○日傘嚴禁、この頃武家輩の日傘使用する多く幕府禁止令を布く。
○十二月、全國總石高調査なる。○松前奉行章廣一萬格となる。

天保三年

權大納言
鼠小僧梟さ

巨砲鑄造

頼山陽易簣

綱紀弛緩

○五月、水戸光圀に從二位權大納言追贈ある。
○八月十九日、快盜鼠小僧治郎吉を梟する。文政年間より武家屋敷の奥向を専らに荒し廻る怪盜が現れて江戸市中では却て其怪盜を崇拜せんかほりに世想が變態になつてゐた。かくの如き風潮も又御維新の改革を將來せんとする氣運の一つであつたともみれないことはない。
○水戸齊昭諸臣海防を講ぜしむ。文政十二年弘道館を建つ又藩の兵政を改革し大いに西洋式を用る盛に巨砲を鑄る。
○九月廿三日、頼山陽易簣年五十三。儒者の中で最も萬人に親しみのもてるのは日本外史の著者頼山陽である。安藝の人春水の子なり、父も又儒者である。年少柴野栗山の訓を奉じて通鑑綱目を精讀する。十八歳のとき尾藤二洲の塾に入り後又菅茶山の塾を監督した。壯年にいたり好んで諸國を遊歴して名勝史蹟を尋ねた。日本外史廿二卷、日本政記十五卷は、我が日本の國體を知らしむる讀本としてこの位力のある名著は外にない。吾等が山陽に親しむのもつのはそのためである。
綱紀の弛緩する現時より甚だしきはない秋にあたりて、吾等は山陽の言を味はつてみたい。
士の貴ぶ所は其の節義あるを以てなり、士に節義あるは獨り以つて其の一身を立つるのみにあらず一國を維持し天下の安危を定むるに足る可し。
彼又、死する數日前、大雅堂義寛の來りて彼の像を寫す彼其上に題して曰く。
身偃一室而心關百姓之得失、不恤己監蓋而憂人家國、嗟是何物迂拙男兒耶、雖レ然焉知無下念、此迂拙者之時上乎。

天保四年

林宗逝く
 二月十二日、醫青地林宗年五十九歳で歿す。林宗は江戸の醫家に生る。洋學と漢學の修養深く、文化の初年馬場佐十郎に天文學を學び、宇田川玄眞、杉田三卿に蘭方を受け、又究理學を研究し、萬國地理、輿地志略を著し、又氣海觀瀾を作る。
 一朱金の鑄造を止める。○九月、本居太平歿す、享年七十八。
 十月、宇田川榕庵植物啓原を著す。江戸の人江澤春樹の子、宇田川榛齋の養子となる。植物の研究を好み、洋書を繙き得る處多く、文政九年幕命を受けて洋書を司、天臺に譯し、銀二拾枚を給ふ。この年、多來の研究を完成して植物啓原を著す。天保十年には舍密開宗を著す、本邦に於ける化學書の先驅をなせるもの。弘化三年四十九歳で病みて逝く。
 ○此年諸國實らず大饑饉。餓死するもの道途に滿ち、甚だ慘狀を極む。

天保五年

江戸大火災
 二月七日より十日に渉る。江戸三回めの大火災。
 天保の改革
 三月、水野忠邦、松平樂翁に代つて老中となる。忠邦の老中となるや、庶政の改革に英意する。
 宇田川玄眞
 十二月四日、宇田川玄眞六十六歳歿す。津山藩の侍醫、初め宇田川玄隨に學び、又大槻玄澤の教を受く。後、杉田玄白の養子となつたが、素行修ぜず、離縁となる。以來、非常に苦窮に陥る。玄眞發奮して行狀を改め、研學に勤む。漸く信ぜられて、寛政九年玄隨の後を次ぐ。文化十年幕命を蒙りて、蘭書を翻譯す。尋で拜調を許さる、其著書には、和蘭藥鏡、遠西名物考、醫範隆綱等がある。

天保六年

名人逝く
 四月廿日、時繪師古満寛哉この月六十九歳で歿す。○五月、老中青山忠裕隱退する。
 狩野拔齋歿す(年六一) 儒者で又國學者、遺著に本邦度量權考がある。○八月、晝人田能村竹田歿す(年五九)
 天保錢生る
 十月、天保錢を鑄造さる。黃銅をもつて當百錢を鑄造した。明治の中葉まで通用した。昨今の老人に親しみの深かりし通貨である。
 大原幽學
 十月、大原幽學下總國香取郡長部村八石に性理學を説き多くの歸會者を得て教會を拓く。今尙その遺蹟の残るもの多し。學ぶべきもの又多し。
 仙石騷動
 十二月、舊劇と講談で評判の残る有名なる御家騷動である。

天保七年

町會所改革
 二月、江戸町會所改革行はる。
 助川に砲臺築く
 五月、水戸齊昭助川に砲臺を築く。外國船艦の我が海岸をおびやかすもの少なからず、齊昭令を下して、領内の銅佛を徵發して大砲を鑄て海岸を固める、助川に築く砲臺はその一つである。
 人參賣買許
 六月、官製人參の賣買を許可する。
 中山信名逝
 九月、老中松平宗發大御所付に轉じ、太田資始老中となる。
 十一月十日、國學者中山信名、年五十で逝く。常陸の人、十六歳のとき、塙保己一の門に入る、業成るや、幕臣中山家の養子となる。文政元年出役頭取となり、又神社の古文書點檢の職を執る。塙保己一の「群書類聚」の編纂を助け、これが校訂に力をつくす。遺著に常陸國法、水藩事蹟等がある。

天保八年

義人大鹽起つ
 二月十九日、義人大鹽平八郎大阪に起つ。天保二年、三年、四年と氣候變態で不作、又天保七年には全國をあげての大洪水で五穀不熟、米價暴騰、殊に東北地方に被害甚だしく、餓孚道に横はるの慘狀

大久保忠貞
公逝く

將軍退讓

柏崎の一揆

將軍宣下

英船又來

救助小屋

天保の改革

水戸公の封

事

天保九年

を呈するにいたつた。白米一俵の價が四兩、四升の價が一分となり然も金はあつても、現物の米が間に合は無い。幕府はそれを救恤することを怠つてゐた。果然、平八郎は四民の困窮を黙殺するに忍びず藏書萬卷を賣拂つて窮民を救ひ且つ上書して救済を求めたが遂に入れられなかつた。平八郎は自ら起つて窮民救済のために亂を起した。所謂足下から鳥の立つ驢ぎに、大阪の町奉行は狼狽の餘り落馬すると云ふ醜體まで暴らけ出した。平八郎は陽明學に深く近藤重藏と親交もあつた。窮民救済のため富豪を説いて用ゐられず、奉行に献策して容れられず、遂に奮起した、が敗れて捕はれんとし爆彈を投じて隠れ家に自刃した。

○三月、老中大久保忠貞卒す。大久保侯の死去によつて最も惜むべきは、小田原領内、全町村に實施されつゝあつた報徳仕法の中止であつた。

○四月、十一代將軍家齊職を家慶に讓る、家應十二代將軍職を襲ふ。○五月、松平信順老中となる。

○六月、越後柏崎に一揆起る。○脇坂安董、堀田正篤等老中となる。○七月、五兩判、一分判を鑄造する。

○八月、將軍宣下、家慶十二代將軍職となることを宣下する。

○八月、米國船貿易を求めて薩摩に來る。

○幕府、七月品川外三ヶ所に窮民のために所謂御救ひ小屋を急設する。

○六月、天保の改革始まる、幕府も民間も財政難に陥つた窮境を展開するために所謂天保の大改革が始つた。其の一として無益贅物に金銀を費すことを嚴禁した。窮餘の一策、六月になつて大判の改鑄に着手した。

○八月、水戸齊昭封事を上る。水戸侯の左右には藤田東湖、戸田忠敬などと云ふ英明の士が揃つてゐた。齊昭は幕府が動ともすると外國を恐るの餘り國辱の招く如き傾向あるを慨し、自から天下に率先して海防の急なるを論じ、併せて尊王の大義を明かにすると共に、對外策から延て西洋各國の狀況を論じて併せて幕府の弊政改革せざる可らざるを痛論した意見書を將軍家慶に上げたのである。

○目付島井耀藏に相模伊豆の沿海視察を命じた。徳川麾下の士、甲斐守と稱す。洋學の旺盛を忌み、華山、長英、江川太郎左衛門等を讒して罪に陥る。後罪惡曝發して讃岐に流さる。

○十二月、松本斗機藏英船モリスン號につきて上書する。

○この年緒方洪庵、蘭學塾を大阪に開く、天下の秀才その門にあつまる。福澤諭吉翁の如きも其一人であつた。

天保十年

○幕府諸國に令して、祭禮の華奢を禁した。

○心學者柴田鳩翁、五十七歳で逝く。○同廿三日醫小關三英時事を慨して自殺する。

○十月、湯島天神境内にて富籤興行を許した。○十二月、土井利信老中となる。

○十二月十八日、先覺者の志士渡邊華山、高野長英等投獄さる。二人とも開港論者の急先鋒で、時あたかも英將モリスンが我が漂流民七名を救助して浦賀へ來たとき、幕府は先年露船が我が漂流民を送つて來たとき、すげなく露人の要求を拒絶した例にならひ今度來たモリスンを驅逐しやうとしてゐる幕吏の無能を諷刺して大いに攘夷の非なるを夢物語りに托して非議したので、幕府の忌諱に觸れて捕へられた。後華山は田原の藩醫であつたので田原へ蟄居を命ぜられたが天保十二年時事を慨して自殺した。又長英は密かに脱獄し姿をかへて蘭書の翻譯につとめてゐたが其かくれ家を幕吏に襲はれて遂に自殺して了つた。志士の生涯は何時の世にも悲惨なものである。

○この年宇田川榕庵化學を首唱す。

天保十一年

大グーデダ
1始め

祭禮華奢禁
鳩翁逝く
富籤興行
華山、長英
等捕はる

豆相沿岸視
察
英船警戒

間部詮勝

立太子式

蘭學禁止

光格上皇崩御

西洋兵書刊行

將軍薨去

政事改革令
藤井高尙逝
華山自殺
谷文晁逝

○正月十三日、間部詮勝老中となる。越前鯖江の城主、開港黨の急先鋒ともいふべき人、後井伊大老に代つて入京九條尙忠に據つて幕府の主張を宮中へ納れるに努めた。又吏を四方に走らせて攘夷勤王の志士を捕へ大グデーダーを敢行する。

○三月十四日、統仁親王立太子式を行はる。仁孝天皇第四皇子統仁親王、三月十四日立太子式舉式の禮を擧げらる。

○五月廿七日、蘭字使用嚴禁。五月にいたり幕府蘭學の普及を恐れ甚だ滑稽にも商人が買藥その他の廣告に使用するを禁止した、尙蘭書翻譯を幕吏の許可したるもの、外取扱ふことを禁止した。

○十一月十九日、光格上皇崩御。十一月十五日先帝光格上皇崩御さる、御壽寶七十歳に渡らせられた。

○十二月、鈴木春山の西洋兵制出版さる、鈴木春山幕命を受けて西洋兵制を著作する。

天保十二年

○正月三十日、前將軍家齊薨す御年六九。家齊は一橋治濟の子、天明五年五月入りて家治の後を嗣ぎ、年三月征夷大將軍となる。老中松平定信、鳥居正倫の旨を納れて權臣田沼意次の封を削りその城廓を毀つ。

○五月十五日水野忠邦政事改革の令を下す。

○八月、國學者藤井高尙七十七歳で卒す。備中吉備津神社の祠官、松之舎と號す。本居宣長の門人。

○十月十一日、渡邊華山時事を慨して自殺する。

○十二月十四日、畫人谷文晁七十八歳で逝く。初各文朝通稱文五郎、號を寫山樓、無二號、畫學齋とも云ふ。少壯加藤文鹿に學び中年北山寒巖に就き修む。後宋の牧溪及び我が雪舟探幽を慕ひ畫筆益々振ふ。遺論「集古十種」は白河樂翁の後援の下に編するものである。

天保十三年

西洋砲術を許す
爲永春水獄
打拂緩和
海防嚴命
學問所再興

○五月十日、高島秋帆に西洋砲術教授を許可する。長崎の人、その父は貿易商であつた、その關係から蘭人に接する機會多く、秋帆深く砲術に興味をもちて獨學多年、後蘭人デビレニューへに就いて蘊奥を究む、業成るや、彼の清國と英國との間に阿片戰爭の起るを望見して今後の武器は西洋式によるざる可らざるを洞察し、長崎奉行を経由して兵器改良の議を幕府に上つる。天保十二年遂に採用され大砲小銃を携へて江戸へ登る。その術を武州西臺徳原に演ず。幕府その妙術を認め與力の列に入れ白銀二百枚を與へる。この時幕臣江川太郎左衛門、下曾根金三郎等秋帆の門に入りて砲術を學ぶ。これより秋帆の名聲を妬むのあまり目付役鳥居甲斐、與力福田九郎兵衛と共謀して秋帆に異圖あるが如く幕府に讒訴したのである。天保十四年春、迂濶にもそれを信じた幕府は秋帆を獄に下し、叛逆の名によりて將に死刑に處せられんとした。有司中に其無實なるを精査する者ありて其罪は免され、嘉永六年再び幕府に登用されて砲術を教授し、兵制を改め盛に開港論を主張した。

○七月十三日、戲作者爲永春水獄死する(年五〇)書肆青森堂主人、又は越前屋長次郎とも云ふ。式亭三馬に學びて戲作者を兼ね。別號を三鷺と云ひ又二世振鷺亭、或は楚滿人とも云ふ。文政十年姓訓亭春水と改め、蓮池菴金龍山人と號した。文政十三年筆禍を得て入牢する獄中病みて死ぬ。梅曆辰見園、英對暖語、梅見舟、伊呂波文庫等の著書がある。

○七月二十六日、攘夷の無謀なるを自覺したる幕府は、外國船打拂令を緩和して新外交策を執ること

○八月九日、諸藩に檄して海防を嚴にすべく命令を下した。

○十月十日、天保曆を頒布すると共に京都に學問所を設けた。

天保十四年

香川景樹逝

印旛沼開拓

老中更迭
平田篤胤逝

俳人了阿逝

名人名儒

○三月二十七日、歌人香川景樹年七十六歳で歿す。因幡に生る、幕末に於ける有名なる歌人、三歳にして之を讀み書を善くした。七歳で和歌を清水貞國に學び、儒を堀南湖に問ふ、十五歳のとき百人一首註釋を撰み名つて百人異見と云ふ。十八歳で京都に出で、緒紳家に仕え遂に香川景樹の養子となる。寛政八年從六位下に叙せられ長門介となる。桂園と號し又多くの門弟を養成する。著す處、新學異見、中空日記、桂園一枝、活言考、萬葉集指解、古今集正義、土佐日記創見、桂園集、桂園隨筆、たぬ青葉、六十四番歌枕、うす氷、桂の落葉等の著書がある。

○六月十日、幕府印旛沼を開墾を計畫する。幕府の計畫のため十三年十月普請役二宮金次郎を召し利根川分水路及印旛沼治水につき視察すべきことを命じた。十月廿一日普請役猪俣榮三郎、林又太郎と共に出發實地に着て調査すること數日十一月十五日歸府して見込書二卷を草して上る。

○九月十一日、國學者平田篤胤年六十八歳で逝く。秋田の人、儒醫を修め名を玄隊と云へり、二十歳江戸に登る苦學大いに勉む。或時は消防人夫となる又市川團十郎の門弟にもなる。板倉侯の家臣平田藤兵衛の養子となり山鹿流の軍學を學ぶ、又妻のすゝめによつて國典研究の志を起し伊勢に行き本居宣長と師弟の約を結ぶ。これより大いに神典を研鑽し古史微を著はす續いて古史成文、古史微開既記、神代御系圖、靈能眞桂、古史傳抄録を著し朝廷に奉る。斯くて名聲の現るや儒家林氏の妬を蒙りて屢々幕府より身分取調を受くる不快を忍ばなかつた。その著書はねばなら上記の外に古史傳、古史本辭、神學、同文傳、大道或門、古今妖魅考、皇典文彙、歌道大意、鬼神新論、印度藏志、悟道辨、伊吹の舎筆叢、伊吹の舎文集、出定笑話等がある。

○十二月十四日、俳人村田了阿歿す(年七十四)煙管を商ひ村田屋と呼ぶ。俳諧道に興味をもつ又和漢百家の書を讀む博文強記遂に俳人として名聲を残した。一枝堂全書、一枝堂抄録の著者がある。

弘化元年

十一月二日改元

○正月十三日書家菅井梅關六十二歳で逝く。○四月、儒者松崎懺堂七十四歳で逝く。

齊昭幽居
開鑿中止
忠邦再任
和蘭使節來
十二月改元
學習院

弘化一二年

山手大火
砲臺増築
米船房州來
忠邦罷免
江戸下町火
老中更迭
英船長崎來
忠邦等罰
醫玄卿逝く
自然堂逝く

○五月六日、攘夷堂の急先鋒水戸齋昭に謹慎を命で。水戸一派の極端なる實行的態度に恐を抱き齊昭を駒込の邸に幽居を命じ、藤田東湖も亦却けられた。

○五月、老中眞田幸貫引退する。○六月、印旛沼の開鑿財政困難のため中止する。

○六月、水野忠邦再び老中となる。水野は確かに幕末の偉人であつた。天保十四年九日姦人の讒言によつて一時引退したのである。

○七月二十八日、和蘭使節甲比丹江戸に上り、將軍家に歐洲の形勢を告ぐ。○十月、老中土井利信引退する。

○十二月二日、改元。天保十五年が弘化の改元さる。○十二月、青山忠色老中となる。

○十二月、學習院を學習院と勅命により改む。

○正月二十四日江戸山手大火災。

○正月、浦賀新砲臺を築造する。

○二月十七日米船房州館山に來り薪炭を求む。の幕政改革策は却つて反對派の乗する處となつて自から退却するの止むなきになつた。

○三月二十七日江戸下町の大火災。

○三月、戸田忠温老中となる。○四月、老中堀親實引退する。

○七月三日、英船長崎に來る。

○七月、蘭醫の泰斗杉田玄郷歿す、享年六十歳。

○九月二日、水野忠邦等罰せらる。

○十一月三日、醫松田玄卿逝く、享年六十二歳。

○十一月二十八日、俳人自然堂田川鳳朗逝く。歳八十。

珍らしき話

七十婆様の懷妊

○古來稀 攝州苑原郡葦合村の農屋吉右衛門は本年七十五歳、妻は七十歳にて數十年借老の契り淺からざりしも、曾て一子をも擧げざれば男女の子を貴ひ家督を譲り孫さへ數人あり、妻はこの三月頃より氣分勝れずとてありしが、漸次に腹部の膨脹やうに覺ゆれば、脹滿にもやと診察を乞ひしに妊娠に相違なしとの事に一は駭き一は喜び、全く神明の授けものとして身體を大切に分娩の期を待と云ふ、若し杜甫をして聽しめば妊娠七十古來稀の句にかゆべし。

(東京日日新聞三千五百二十八號明治十六年九月十二日所載)

珍らしき話

○八十二の婆さんが妊娠か？ 相手は廿二の青年 八十の坂を越した、婆さんが妊娠したといふ稀な珍らしい話——大牟田市大正町一丁目道山とら(八十二) 假名は、この程お腹が大きくなつたので「何か病氣だらう」と同市三井醫局に診斷して貰つたところ、妊娠五ヶ月といふ事にびつくりし、世間態をばじ病氣と稱して同醫局に入院中である。しかも相手は附近の徳光茂(假名)といふ廿二歳の青年で、婆さんけ數年前夫に死別れ淋しく暮すうち、青年とよい仲になつたので「まさか妊娠とは思ひませんでした」と語つてゐる。

(大阪毎日新聞大正十五年七月二十日所載)

第三編 孝明天皇——御代二十一年記

第一章 弘化三年より慶應二年迄

弘化三年

天皇崩御 御踐祚式 英船來る 佛船來る 米國船來る 丁抹船來る 海防勅命 外交奏上 伴友信逝く

○二月十三日、孝明天皇御踐祚。先考、仁孝天皇第四の皇子にまします皇太子、統仁親王御歳十八で御踐祚あらせらる。
○四月十五日、英船琉球に來る。
○五月十一日、佛國船琉球に來り交易を求む。許されず。
○五月廿七日、米艦浦賀に來る。
○六月十八日、打抹國船浦賀に來り交易を求む。
○八月二十九日、海防嚴戒の勅諭幕府に下る。
○十月、幕府外國の事情を奏上する。
○十月十五日、國學者伴友信卒す。歳七十四。若狹小濱の藩士山岸惟智の子、信富の養子となる。國典を研鑽篤學博洽の名最も高く、著す處數卷ある。

弘化四年

海岸防備 信州大地震 和蘭再警告 徳川慶喜公

○二月、幕府諸藩に對し相模、安房、上總沿海の守備を命ずる。
○三月廿四日、信州善光寺附近大地震ありて被害頗る多し。
○蘭人再び西洋各國の形勢を幕府へ齎らし幕府の熟考を求めぬ。
○九月、水戸慶喜公出で、一橋家を嗣ぐ。

御即位大禮
氣海廣義刊

○九月二十二日、即位式行はる。孝明天皇第百廿一代御即位式、京都にて學式さる。○この年、川本幸民なる人氣海觀瀾廣義を著作する。前に發表された青地林宗の「氣海觀瀾地學正宗」と共に斯道の研究が昌んになった。

嘉永元年 二月廿八日改元

二月改元
米船漂着
瀧澤馬琴逝

○二月廿八日、弘化五年はその二月廿八日に至つて嘉永元年と改元された。○五月七日、米國船蝦夷に漂着する。○十月、松平乗全、松平忠優等老中となる。○十一月六日、戯作者瀧澤馬琴歿す。行年八十二。幕府の士松平信成の家臣瀧澤倉藏の三子なり、十四歳「木枯」に思ひ立ち神の旅の句を殊して主家を飛び出した放浪兒である家兄興旨のために論とされ戸田家の徒士となつたが、此處も又蟲か好ぬと云つて飛び出し、醫官山本寶英の家に寄食して醫を學び、宗仙と號したが此處も又業成らず飛び出した。後遂に戯作者山東京傳の食客となり濟まし、黄表紙「壬生狂言」を著したのが彼の處女作であり又彼が文學的生活に入る第一歩であつた。次に北齋の畫で「花春風」の道行の著を出した。このとき忽ち馬琴の名は世に知らるゝに至つた。新吉原仲の町で引手茶屋を営んでゐる伯父に是非我家の女婿にと所望された時「妓家何ぞ盜家と譯ばん父母の遺體を以つて之を汚すに忍びんや」と一しゆうして、飯田町中坂の伊勢屋へ入婿となつた。手習師匠を營み、心を著作に専らにして、勸善懲惡勤王愛國の大義を作物の中に織り込んだ目的小説を書くに努めた殊に彼の代表作「八犬傳」一百五卷の如き廣い意味での國民教科書であるのである。

○十一月、坪井信道物故信道號を誠軒といふ。岐阜の城主織田信秀より出づ。最初儒に志し後年悟る處あり蘭醫の大家宇田川玄眞の門を叩いて西洋醫術を學び町醫者となりて民衆を救ひ洋方醫術の普及を計つた先驅者。後に毛利侯に三百石で抱へられ門下より人材輩出した。

○水野土佐守丹鶴叢書を上つる。

○十二月、佐久間象山洋式野砲を造る、象山は信濃松代の人。神童の名を得た偉人であつた。父一學

坪井信道逝

丹鶴叢書
洋式野砲始

品川砲臺築

嘉永二年

葛飾北齋逝
英船又浦賀
來

○二月廿五日、黒住派祖黒住宗忠、七十一歳で逝く。備前の人、代々御野郡上中野村天照太神宮の祠官をつとむ、宗忠にいたつて黒住の教を説神道一派をたてた。

○四月十三日、畫家葛飾北齋歿す。行年九十歳、日本の生んだ代表的美術家葛飾北齋は幕府鏡御用達中島伊勢の子である。幼名が時太郎、名を爲と云ふ。始彫刻師を志したが、後藤川春章に畫を學んだか、あきたらず狩野派、土佐派その他の畫風を學び、更らに雪舟を模するなどし更らに又洋畫を参考して、北齋一流の畫風を出したのである。今尙、歐米の激賞を受くるもの北齋と喜多川歌麿の畫みのであると云ふ。

○四月八日、英艦又浦賀に來たりて修交を求む。○五月、老中三奉行等に海防の議を上らしむ。

牛痘の渡來
堀切菖蒲

○此の年蘭人始めて牛痘を傳ふ。
○堀切村の花菖蒲、東京名所の一つなる、向島四つ木在堀切の花菖蒲はこの頃より初まつたものである。

嘉永三年

佐藤信淵逝

○正月六日、佐藤信淵逝く年八十二歳。信淵は秋田縣西馬音内村の醫家に生る父祖代々が醫者又儒者でもあつた、青年時に父を失つた彼は、家學を大成して先考を地下に慰めんと、笈を負つて江戸に上つたのは彼の十八歳のときである。當時名聲赫々たる宇田川玄隨の家塾に入門した。學資の豊かならざる彼は油を買ふ金にも事足りぬ線香を炷いて其光りて一字々々紙上の文字をたどり讀むまで辛難して勉強したと云ふ。こうして研鑽した彼は、農政、經濟から草木六部種法など云ふ尊ひ著書を遺してゐるが殊に彼が國家の大經綸を説いたる宇宙混同秘策の如き今日の經世家にも讀むべき經典である。その書物は、拙著『理想郷物語』の中へ抄譯してある。

蘭使再警告
高野長英自殺する

○六月十一日、蘭人又世界強國の形勢を幕府に「上書」して開國の急務なるを勸めて來た。
○十月三十日、高野長英幕吏に襲はれて自殺する。享年四十七歳。長英は岩手江津澤町の蘭醫後藤實仁の第三子で叔父高野氏の養子となる。夙に江戸に上り蘭醫吉田長叔に就き勸學五年、更らに長崎に下り蘭人シーボルトに學ぶ、かくて世界の大事に通じ、多くの志士と交り開國の急なるを遊説する幕府の忌む處となつて遂に捕はれて獄に入る。終身禁錮の刑を受ける在獄二年四月獄に火災ありて囚人を皆放つ、長英そのまゝ獄に還らず容貌姓名を變えて各地に潜伏して、専ら蘭書の翻譯又は諸侯の譯官となつて陰然開國の氣運を將來せんことに腐心してゐたが、遂に幕吏に襲はれて青山の住んで自殺した。

海防勸諭
國定忠次刑砲臺新設

○十一月二十一日、海防嚴節の勸諭再び幕府に下る。
○十二月二十二日、上州國定村忠次(四一)上州吾妻郡坂上村大戸の關所に於て砲臺に處刑せらる。
○前年來各地に砲臺を築く。肥前五島、蝦夷、松前、福山、伊豆、神島、佐渡、相川等なり。

寫眞の始め

○寫眞の和製之祖、薩藩の蘭學者川本幸民なる人長崎來住の和蘭人より傳授を受けたる處を、試用したのか抑もの始であるらしい。當時水戸烈公等も盛んにこれを愛用されたものらしい。但し廣く行はるゝやうになつたのは、明治初年からの事である。

嘉永四年

中濱萬次郎歸る

○正月三日、土佐漂流民萬次郎外三人米國より還る。仲間と共に漁に出たが大暴風雨に遭ひ太平洋に漂流して一命も危き處を、米國の捕鯨船に助けられて米國に渡り、在米二十年、文明の空氣に養はれアツバレ新智識を得て此年この月歸國した。萬次郎の歸國した當時には、殆んど英語を知つた者とは無つた位である。彼の携へ來つた一冊の英文法書は、當時の英學者の唯一の羅針盤となり、我文化促進の葉となつたものである。萬次郎は幕府に登庸よれて遂に旗本にまで取立てられた。
○二月、水野忠邦卒す。年五十九、遠州濱松の城主會つて再度も老中となつて大いに幕政を改革した人である。

護國大明神
成島良讓

○三月、和氣清麻呂に護國大明神の號を賜はる。
○六月、成島良讓、奥儒者となる。○七月、老中戸田忠溫卒す(年七五)

嘉永五年

大日本史獻
混砂嚴禁

○二月七日、水戸慶篤大日本史記傳を獻上する。父祖光國の遺志を繼いで水戸家が編輯に従事してゐる國史大成である。
○この頃既に甲州美濃より山砂を取りて、精米に用ひるものあり、嚴禁されてゐた。
○畫家土佐光孚没す(年六〇)四月土佐家の支族である。
○五月、武藏國荏原郡大森村の海岸に砲臺を築く。産根藩警固の任にあたる。
○八月、和蘭の使節甲比丹書記官シーボルト以下を連れて江戸へ參朝する。將軍に謁し高官の人々に

土佐光孚
大森砲臺
甲比丹江戶
に來る

明治大帝御
降誕

煉瓦の始め

ベルリ来る

面談の折り又々歐米各國の形勢を語る、序をもつて、明嘉永六年を期して亞米利加人軍艦數隻を廻送して、貴國に和親貿易を誘ふ由確聞する、事變の起らぬやう諸般の御留意あるか急務であると海外諸國の近況を述べて厚意ある忠告した。

○九月二十二日、明治天皇御降誕、此月廿二日、英聖文武におはします、明治天皇御降誕あらせらる。孝明天皇第二の皇子にあらせらる。○九月廿九日御式あり、御諱名を陸仁、祐宮と申上る。御生母は從一位大納言中山忠能の息女慶子の方であらせらる。

○煉瓦焼に成功の始は、葦山代官江川太郎左衛門である。彼は幕命を受けて大砲を鑄造すべく、葦山郊外中村に地をとり、反射爐を築く、その必要より、千七百度の火力に耐ゆる煉瓦の製造に苦心する幾度遂に煉瓦自給に成功したのである。

嘉永六年

○六月三日、ベルリ提督浦賀に来る、王政復古の第一鐘はこの日六月三日米國水師提督ベルリの來航をもつて鳴されたのである。軍艦四隻と云つても木製外車のついた縦二十七八間に過ぎないもの全部の乗組員も僅かに五百六拾餘人であつたと云ふが、それでも當時の我國の實状からしては、實に驚天動地の騒ぎであつた。浦賀奉行戸田氏榮は直ちに屬吏を派して之を詰らした。彼はこれに對して「我が亞米利加合衆國政府は特に使を貴國に派遣し隣交互市を求めんために來た、現に國書方物を齎らす願くば貴國最上大官に見えて之を奉呈したい」と云つて、浦賀奉行の如くは眼中に無きもの如くであつたからたまらない。氏榮は書を飛ばして之を幕府に報告した。將軍家慶は大に驚き、毛利、細川、蜂須賀等の大藩をして急に武相房總の沿岸を堅めさせた。浦賀奉行戸田氏榮、中戸弘道の二人として應接せしめた。ベルリは三百七十人の陸戰隊を率ひ、鼓行して上陸した。奉行に面談の上、方物國書を將軍に献上せんことを求めた。

將軍は國書を得て「事極めて重大なれば即時決定し難し、明年を待つて回答せん」と挨拶した。ベルリは遂に明年を約して去つた。

○六月二十二日、將軍家慶薨す(年六一)家齊の子、天保八年征夷大將軍を嗣ぎ、次いで左大臣となりし人。

○七月一日、幕府米國の國書を全國の諸侯に示して、諸侯の意見を徴した。その大勢は開港の止むなきを認むるものであつたと云ふ。

○七月十七日、露國軍艦四隻長崎に來る、大目付筒井政憲、勘定奉行川路聖謨命を受けて會見する。提督プチャーチンの來旨は、擇捉、樺太の境界を定め且つ通商貿易を開かんことであつた。彼の要求中々強硬であつたが百方慰諭して漸く、翌年二月長崎を退かしめた。

○八月、更らに品川沖に砲臺を築く。葦山代官江川太郎左衛門の設計になりしと云ふ。

○九月、大坂川口にも砲臺を築く。○九月、内藤信親老中となる。

○九月十五日、大船製造の禁を解く、内外の事情に鑑みこれ迄嚴禁してゐた大船の製造を自由にした。

○九月二十五日、諸士をして西洋砲術を練習せしむることにした。衆議を排して開港を斷行する。

○十一月、家定將軍宣下、家定第十三代征夷大將軍となる。

將軍薨去

諸侯開國觀
一致

露艦來る

品川砲臺築

大坂砲臺築

大船製造解
禁

砲術獎勵
將軍宣下

安政元年

ベルリ再來
日米和親約
成る
松陰捕はる
象山捕はる
國旗定まる
英艦來る

○大江戸の人口は、此頃の調べによると、凡五十七萬五千九百九十一人とある。

○正月十四日、米使ベルリ再び前年の約を跡んで浦賀に來る。

○三月三日、日米和親條約成る。通商規則十四款を定めて捺印する。

○三月二十八日、吉田松陰捕へらる。米艦に投じて先づ米國に渡り進んで海外諸國の視察を圖らんとしたが、米艦乗船を免さず、松陰直に幕吏に捕らへられる。

○四月六日、佐久間象山捕へらる。門人吉田松陰の海外脱出を幫助したるに連座して捕へらる。

○七月十一日、日章旗を以つて日本國物船印と定む。

○七月十五日、英艦長崎に來り條交を迫る。○八月、英國と和親條約成る。又露國と和約成る。

安政月改元
硝子の始め

洋算の始め
洋菓子の始め

江川代官逝

寺院の梵鐘

雛形献上

江戸大地震

東湖歴死

蕃書取調所

名人名士逝
總領事ハリス來る

○安政と改元さる、この月廿七日嘉永七年が安政元年と改元さる。
○此年既に鹿兒島藩に硝子製造工場あり、又福岡藩にも之が製造所があつた。

安政二年

○洋算の始め、長崎在住の和蘭人によつて傳はり、又本邦人によりて、その教科書も著作され普及する。○又ビスケットの始めは、長崎在留の和蘭人より水戸の藩士がその製造を傳授されたもので、この頃既に江戸で盛んに製造された始めらしい。
○二月、江川太郎左衛門、五十五歳で逝く。伊豆葦山の代官、諱は英龍、字は九淵、庵と號した。英龍年少より蘭學に志し、經世の見識なり、砲術を高島秋帆に學び、葦山に反射爐を設け大砲を鑄る。又洋式を調練して採用して兵を練るなど最も進歩主義の代官であつた。
○三月三日、勅令により、全國寺院の梵鐘を徵發して大砲を鑄造せしむ。○六月八日、通商關係ある和蘭人蒸氣船と鐵砲の雛形を献上し來る。○八月、老中松平乗全、松平忠優等引退する。
○十月四日より五日にかけて江戸大地震あり、死傷甚だ多し。世に安政の大地震と云ふ。
○十月、藤田東湖地震のために壓死する(年五〇)。維新の當時、水戸藩があつた活躍したのは、藩中に東湖のやうな傑物があつて陰に陽に援助したからである。然もその元動力とも云ふ可き東湖は、十月二日の大地震の厄に遭ふて壓死した。

安政三年

○二月十三日、幕府はほう漕して來る新思潮に處する對策として、急遽に蕃書取調所を新設する。
○六月、二分金鑄造。○七月、山崎美成歿す(六一)。
○三月、畫家佐々木晴洲。五月、醫深川元僞。六月、國學者喜多村節信。十一月、國學者足代弘訓逝く。
○七月廿一日、米國軍艦サンビニセント總領事ハリス(五十三歳)通譯ヘンリ、ヒウスケン(二十五

高官任命
二宮尊徳逝

軍艦教授所
蕃書取調所
阿部正弘卒

唐人お吉
老中更迭
ハリス謁
國情奏上
西洋藥の始

條約勅許奏請

○九月、雁支那人、亞深、亞秋、亞勝、亞樂の四人を乗せて下田港に入る。假の米國領事館彼等は柿崎村の玉泉寺へ落つく。
○九條尙忠關白となる。○十月、老中堀田正篤外國事務取扱專任となる。
○十月二十日、社會改良家として偉大なる事業と思想を残して二宮尊徳逝く。享年七十であつた。彼は天明七年七月二十三日生れた。東海道線松田驛の在方(現、神奈川縣足柄下郡櫻井村)柏山に其遺蹟がある古來多くの偉人は貧乏で鍛錬さる、彼も又その一人である。殊に金次郎は十二歳で父を失ひ、十六歳で又母を失ひ、兄弟三人は孤兒となつたのである。然も彼は艱難辛苦の中に人となつて、遂に、報徳教を開き、實踐篤行宗教上、倫理上、日常生活の習慣等にいたるまで、堅實なる新地盤を開拓した。翁の没後、今、七十三年、その遺徳は天下を賑はしてゐる。

安政四年

○正月十八日、愈々蕃書取調所を開く。○四月には又、軍艦教授所を設ける。
○六月十七日、阿部正弘三十九歳卒す。伊勢守と稱す。年少老中になつた。米國使節に強ひられて幕府其要求を容るゝや正弘大いに嘆じ水戸烈公に説き幕議に參せしむ。然も志を得ずして卒す。
○六月、伊豆下田港の藝妓お吉十七歳容姿頗る美、幕吏誘惑最もつとめてハリスの妾とする。
○七月、脇坂安宅老中となる。○九月、老中牧野忠雅引退し松平忠優老中となる。
○十月二十一日、米國總領事ハリス將軍家定に謁す。○十一月、米國との通商條約を議定する。
○十二月二十九日、幕府大學頭として外國應接事情を奏上する。
○この頃既に和蘭醫術を學習した人尠なからず輸入藥は應病投藥されてゐた。

安政五年

○正月、各國との條約勅許奏請、常に開國進取の主張を持する大老堀田備中守正篤自ら上京して、



伊井大老の一英斷

日米調印

吉田松陰殺

將軍薨去

島津齊彬

各國と修交

虎疫流行

戊午の難

將軍繼位定

月照と隆盛

具に海外の事情を奏上し。條約實施の勅令を請ふた。けれども遂に許されなかつた。大老堀田正篤は責を引いて退職するの止むなきにいたつた。

○四月廿三日、井伊直弼大老職に就く。六月に入ると米國及び露西亞の軍艦が又々下田へ遣つて来て、英佛と支那の間に起つてゐる所謂阿片戦争の詳報を齎して、支那が非常な苦境に陥つてゐるかを引例し、近く英國、佛國が必らず勝に乘じて來り迫るべきを告げ、幸ひ吾等の國と通商貿易條約を結ばず、必らず其調停の勞をとり貴國の煩はないと申込んで來た。井伊大老は非常なる決心の下に衆議を排し又勅令を待たずして更らに長崎、箱館、神奈川の三港を開き、安政四年の條約九ヶ條を改めて十四ヶ條とした。英國、佛國、蘭國も亦これに倣つて其條約を改訂して了た。こゝに於てか幕府の專斷を憤る聲は四方から起つて來た。

○六月二十日、日米通商條約に調印成る、幕府の英斷に反對する世論のゴウノたるに驚いた、老中堀田正陸、松平忠優は引退する、更らに太田資始、間部詮勝、松平乘全等老中となる。

○六月二十七日、革命兒吉田松陰、幕吏の手で江戸小塚原で殺さる。松下村塾を拓き、天下の英才を教育したる勤王の烈士である。辭世二首。

△身はたとひ武藏の野邊に朽ちるとも、とゞめ置かまし大和魂。

△かくすれば、かくなるものと知りながら、止むに止まれぬ大和魂。

○七月六日、將軍家定三十五歳で薨去したが、政略上その喪は漸く八月八日になつて發表された。

○七月十五日、薩藩主島津齊彬薨す、五十歳であつた。○同十八日、畫家市川末庵歿す。

○七月、蘭國、露國、英國との修交條約調印する。○八月、佛國と和約なる。

○八月、この月前後に於てコレラ病流行して死者三萬人を數へるほどの慘狀を呈した。

○九月、梅田源次郎その他多くの勤王の志士續々捕縛さるこの大グウデダーを戊午の難と云ふ。

○十月、家茂十四代將軍を嗣ぐ、開國派の人々は將軍家定の崩弱に乗じて紀州慶福を迎へて將軍とすることを成功したのである。

○十一月十六日、西郷隆盛が僧月照と相抱いて薩摩灣に投じたのもこの時である。隆盛は救はれて蘇生したが、月照は遂に逝いた。

安政六年

江戸大火災
愈々四港開
鎖國派蟄居
命

詮勝上京

安政の大疑獄

老中任命
最初の使節

○二月二十一日、江戸大火。三月十二日、國學者齋藤彦齋逝く。

○六月二日、神奈川(横濱)神戸、長崎、函館を開きて貿易を許した。

○八月二十八日、一橋慶喜、水戸齊昭、紀州慶篤に謹慎蟄居を命ずる。八月のことである。この理由は開國に反對する前記の諸侯は秘かに家臣安藤帶刀、鶴岡幸吉の兩人を京都へ遣はし、時の傳奏近衛、三條、大原の諸公卿の取次をもつて、外夷打拂ひの勅命の降下を仰がんとした、然るに大老掃部頭は其腹心なる長野主膳とその妻秋江の兩人の内偵によつてその事實を知ると共に電光石火的に臺命を以つて副將軍たる水戸齊昭その他に蟄居を命じたのである。

○九月四日、間部詮勝急遽上京する、井伊大老の内命をうけたる詮勝は、天皇に奏上して最も簡單に、開港の止むを得ざる事を陳疏し奉ると併せて鎖國派を鎮壓するためであつた。

○十月六日、詮勝が急遽上京すると同時に大グイデダーは開始された、討幕攘夷に加たんとする諸侯は蟄居謹慎を命ぜられ、多くの志士は一網打盡的に逮捕されるにいたつた。

攘夷派に屬する人々宮廷方面に於ける人々即ち日下部伊三、安藤帶刀、青蓮院、三條公、中山公、梅田源次郎、梁川星巖、大樂源太郎、橋本左内、頼三樹三郎、その他八十三名、何れも死罪又は極刑に處せらる。

萬延元年

三月十八日改元

○正月十五日、安藤信正老中となる。

○正月十九日、幕府始めて使節を米國に特派す。この月十九日、幕府使節新見正興の一行は勝麟太郎の艦長たる軍艦觀光丸に乗込みて太平洋を横斷すべく出發する。後ちに慶應義塾を開いた、福澤諭吉翁も又その隨員の一人であつたのである。

横濱港の由
殺井伊大老暗
萬延の改元
齊昭薨去
慶喜と春嶽

○二月二十日、横濱村を開港する。夫より先き横濱村の地勢が貿易上最も優位なるを幕府に献策したのは、彼の佐久間象山であつた。偉人の活眼は、漂々たる漁村をして遂に世界で有数なる貿易場たらしめた。
○櫻田門外井伊大老暗殺、この月三日朝まだきからの大雪を冒かして登城せんとする井伊大老を櫻田門外に要撃したのは、それより先き、時事に憤激して水戸藩を脱走したる佐野竹之助、黒澤忠三郎、大關和七郎、蓮田市五郎、齋藤監物、杉山彌一郎、森五六郎、森山繁之助、稲田重藏、廣岡學三郎、山口辰之助、鯉淵要人、廣木松之助、岡部三十郎、關鐵之助、増子金八郎、海保峯之助、薩摩の有村治左衛門を加えたる十八名であつた。志士佐野竹之助の残した辭世は、「敷島の錦の御旗捧げもち皇御陣の魁やせむ。」
○三月十八日、萬延と改元さる。安政七年は今日、萬延元年と改元さる。○久世廣周老中となる。
○八月、水戸齊昭薨去享年六十歳。攘夷派の統領であつた人。
○八月、さきに幽閉謹慎を申付けられた。慶喜春嶽、山内その他の謹慎を解く。

文久元年

二月十九日改元

文久と改元
歌川國芳逝
開港延期求
東禪寺亂入

○二月十九日、萬延二年は今日、文久元年と改元さる。
○三月三日、畫人歌川國芳六十五歳で歿す。武者繪の大家であつた、彼も又立志傳の一人、始め紺やの職人であつたが豊國に知られてその門に入る。曾つて水滸傳の人物を畫くに百貌の同形に陥らんことを恐れ、日々本所の五百羅漢寺に到りその像を寫して來ては下圖をつけたと云ふ、かゝる苦心の作であつたから同畫の世に出るや名聲噴々人その妙技に嘆賞止まなんだ。
○四月、此時開港開市の延期を外國に告ぐ、國論沸とうして攘夷派の勢力日を追ふて激甚なりしたため一時幕府も延期の止むなき關係諸國に通知した。
○五月、浪士數人芝高輪東禪寺境内英國公使館に打入る、五月攘夷派に屬する浪人英國公使館に打入り館員二名を傷く。この起りは英國が我が小笠原島を日本の有に非ず英國の領土であると主張して

水戸烈公薨去

來たが原因で、その理不盡な英國の申出を聞いて憤慨したる松原丹波守家臣伊東軍兵衛などが英人の館に忍び入り英人二名を殺害し自分も割腹した。
○水戸烈公薨去、行年六十一。最も極端なる攘夷派の急先鋒でもありしかの如くに誤解されてゐる烈公が、そんな無識の人でなかつたことは、曾つて烈公が開國の廟議を大勢上已を得ざる權宜の處置なりとして『御廟算伺書』なるものを認め具體的に通商上の心得書を要路へ差出してゐられることを知らねばならぬ。假令その臣下より櫻田門外に井伊大老を刺す士を出したにしても、いかに公が至純忠誠の人であつたことを知らねばならぬ。

和宮御降嫁

○十二月十一日、和宮御降嫁、井伊大老が無慘にも開國の犠牲となつてのち、幕府の重臣等は公武合体策をとり、海内一致して外交問題を解決せんとした。それと前後して幕府の要人は和宮内親王御降嫁の議を關白九條尙忠、岩倉具視を通して上聞に達した。遂に御聽許となつて、關東に下向されたのである。

爆彈の始

○此頃、幕府は御雇ひの米國人鑛山調査のためダイナマイトの製造及使用を教えたのが、その始めである。

文久二年

坂下門の變
最初の紡績工場

○正月十五日、坂下門の變起る。尊王攘夷派の人々は和宮内親王の御降嫁を幕府の強要によるものとし又幕府が朝廷を擁して其威を張り非違を遂げんとする者であると解し、慷慨淋漓騷擾甚だしく、遂に正月十五日に至つて爆發し、下野の人田中顯三外數人は老中安藤對馬守の登城を要撃した。負傷した對馬守は僅に身をもつて門内へ遁込み、田中以下直ぐ捕縛された。
○我國初めの紡績工場は、薩摩藩主島津齊彬が英國製綿絲の極めて精良なるを見て、然も幼稚なる原始的なる我が綿織機の早晩とうたさる可きを知り、直ちに紡績機數を英國ブラフト商會に注文し、工場の敷地を鹿兒島市外磯村に定めて工を起し外人技師によつて文久三年三月落成開業した。今我が世界に覇をなすまでに發達したる紡績業の嚆矢である。

久光上公京
寺田屋騷動
關東に勅使
下る
幕府大改革
山内豊範上
京
西洋洗濯始
生麥事變起

○三月、島津久光時局收攬の急なるをみて三月兵を率いて入京した。公武合體の穩見を抱く久光に不滿する薩藩の士有馬新七、柴山愛次郎、橋口壯助など八十餘人は久留米の眞木和泉、筑前の平野國臣等を先鋒とする諸國の浪士と共に關白九條尚忠及び所司代酒井若狹守の邸に亂入に及んだ。久光は大いに怒り直ちに手兵を派してその騷ぎ鎮定した。
○四月二十三日、薩摩藩士等伏見の寺田屋で格闘する。
○五月廿七日、勅使關東に下る。不安なる時局にしん念を惱し給ふ天皇陛下には勅使大原重徳を關東に下向せしめ、將軍家茂に勅諭を下された。
○六月二日、大樹シテ、上洛シテ、國家ヲ治メ、夷戎ヲ攘フテ議シ、上祖神ノ震怒ヲ慰メ、其一ニ曰ク、大樹シテ、大小名ヲ率ヒ上洛シテ、天下ヲ泰シ、安キニ比セシメント欲ス。
○六月二日、大樹シテ、上洛シテ、國家ヲ治メ、夷戎ヲ攘フテ議シ、上祖神ノ震怒ヲ慰メ、其二ニ曰ク、豐太閣ノ故典ニヨリ、沿海ノ大藩五國ヲシテ、五大老ヲ稱シ、國政ヲ咨決シ、夷戎ヲ禦クノ處置ヲ爲サシメヨ、則チ環海ノ武備堅固確然、必ズ夷戎ヲ掃攘スルノ功アラシ。
○六月三日、一ツ橋刑部卿シテ大樹ヲ援ケ、越前中將ヲ大老職ニ任シ、幕府内外ノ政ヲ補佐セシメヨ、當ニ左衽ノ辱ヲ受ケサル可シ。
○七月、勅諭を受けたる幕府は評議を重ねたのち、下の様にして勅諭にこたえた。
○七月、勅諭を受けたる幕府の大改革、慶喜を將軍家茂の後見とし、松平慶永を總裁とし、松平容保を京都の守護職に、松平定教を所司代に任じた。
○八月、山内豊範の名の下に諸侯の参觀を緩めたのである。
○八月、山内豊範の浪人をもつて埋められて居ると云ありさまであつた。このとき山内豊範は薩長二藩殆んど反幕府派の浪人をもつて埋められて居ると云ありさまであつた。このとき山内豊範は薩長二藩と共に關下の守護に任すべく兵を率ひて上京した。斯て江戸と京都との對局は益々危険に赴いた。
○八月廿一日、外國人の多く在留する、長崎、横濱、神戸、函館などには既に珍らしくなかつたらしい。
○八月廿一日、生麥村の事變起る、勅使大原重徳卿を護衛して京都に歸る途中、東海道生麥村に着しかると島津久光の鹵簿先きを横ぎつた英人四人をこじうの薩摩武士が殺傷したのが生麥事件である

羽倉簡堂逝
最初の留學
再勅使下
禁裡守護職
慶永上洛
將軍上洛
男山行幸

英公使は直ちに幕府に迫つて償金四十五萬弗を幕府に外に死傷者の撫恤金十萬弗を薩藩から出せと強要した。がこの交渉が中々進行しないので英國は軍艦を品川灣に廻して最後の決答を促した。今にも開戦なるやうな噂さで上下大騒ぎをした。幕府は遂に折れてその要求を入れたので幕府對の問題は解決したが薩藩の方は、英國が直接要求すべく軍艦七隻を鹿兒島へ派遣した。
○七月、羽倉簡堂七十三歳で逝く。羽倉も又幕末の名士である、閑老水野忠邦が天保の改革を斷行するに際し俄かに代官より拔擢されて一躍御納戸頭に擧げられた人である。業を古賀精里に受けて、性清く歴史に興味を持ち温史を通関すること前後數十回なりしと云ふ。
○九月、幕府始めて軍艦を和蘭に注文する。その時練習生を選んで留學せしむる。この時選ばれた人々の中には澤太郎左衛門、榎本釜次郎、内田清次郎、林研海、伊東方成等が居た。
○十一月、勅使再び關東に下る。攘夷決行の日を期すべく將軍に再度の勅諭が下つた、中納言三條實美、少將姉小路公知はその勅使として關東に下る、薩、長、土の三藩の兵數百人が其護衛を命ぜられた。
○十一月十二日、京都に守護職を置き、薩藩主島津久光を之に任じた。久光辭し更らに會津藩松平容保これに當る。○十二月、薩藩の浪士品川御殿山の英國公使館を燒く。

文久三年

○正月、徳川慶喜、松平慶永等、將軍上洛の前驅として上京する。この頃諸侯の京都にあつて禁裏守護の任にあるもの既に八十餘大名の多きに及び、市の内外には公武合體に反對する浪人、討幕を唱ふる浪人、攘夷決行を主張する浪人等で瀾漫して、足利尊氏の木像の首を刎ねて暗に將軍を誅るの寓意する志士の出たのもこの頃であつた。
○三月四日、將軍家茂上洛する。再度の勅諭に従ひ家茂の上洛は實現した。家茂は五千貫の金を京都の市民に賑はした。が最うその位のことでは時勢は將軍の人氣を呼せなかつた。
○四月十一日、男山八幡祠前に於て天皇と將軍との間に於て攘夷の節刀授受式が舉行さる可く、天皇

外國船砲撃

英艦鹿兒島砲撃

十津川と生野の義舉

七卿落ち

幕府自ら招いたが、當日に及んで幕府方は、約に背いて出頭せず攘夷の節刀が中に迷ふと云ふ大醜態を

この大失態を責め幕府の怯懦を罵る聲に驚いた將軍家茂は入朝して攘夷の勅を奉戴した。然しその

幕府の指揮をまたずして決行せんとするものが少なくかつた。長藩の下の關に於ける外國船砲撃は

關に要撃した。各國公使は非常に憤激して本國に軍艦の派遣を請求するにいたつた。

八月十七日、生野と十津川の變。攘夷の決行に行違ひを生じたのを、幕府の怯懦とさる急進派の人

八月十九日、七卿の長州落ち。下の關に外國船を砲撃した長州藩は又朝廷内に於ける急進派と連絡

關白親任

將軍奏上
參與衆を置

元治と改元
清川八郎暗
殺さる

象山刺る

蛤御門の變

元治元年

二月二十日改元

こととみてとつた人は攘夷派にも尊王派にと勘なくかつた。然し飽くまで決行を主張する長州藩と、

朝廷派では三條實美を始め西三條、東久世、四條、壬生、錦小路、澤の七卿は長州の毛利之純と共に

身を脱して長州に走つた、これが七卿落ちである。

○二月廿日に元治元年と改元さる。

○四月、清川八郎刺さる。出羽庄内の人、天保元年十月十日清川村に生る、夙に勤王攘夷を唱へ平野

泥酔して芝赤羽根に來たる處を暗殺さる。

○七月、佐久間象山京都に刺さる(五四)幼にして神童の名あり、長じて泰西の學術を修め、銃砲、

兵制、築城、造船の諸技に達し、海防八策、荷蘭語彙、砲術書の著あり。開國論を主張し京都に於て

山階宮邸へ至る途次、刺客に刺さる。

第三編 孝明天皇 御代二十一年記

國臣殺さる
長州征伐令
下る

聯合艦隊馬
關に迫る

高杉舉兵
牛乳の始

武田耕雲齋
殺さる

慶應と改元

ある。幕府と諸藩とを合せて戦つたのであるから僅かの間に總崩れとなつた。長州の勇士として知られた來島正久、久坂通武はこの役で戦死し、眞木和泉も天王山に引揚げて自殺した。
○七月十五日、平野國臣は勤王の大義を四方に遊説し遂に生野に兵を擧てならず捕へられ刑せらる。
○八月三日、長州征伐の布令下る。幕府は朝旨を奉じて、尾張侯徳川慶勝を總督に、越前侯松平茂晴を副總督として、薩摩、肥後、筑前を先登に廿一藩の兵を率いて廣島に迫つた。この年の十一月である。この時薩州の西郷吉之助は、吉井友實と共に周防に入つて長州の家老吉川監物を説き藩侯父子にすゝめて降を乞はしめたので流血の慘状を呈するにいたらずして平和に局は結んだ。
○八月、英米佛蘭の聯合艦隊馬關に迫る、ことの起りは前年、長州が加へたる砲撃を責めて、聯合艦隊十八隻は八月四日一勢に馬關へ迫り、五日には前田及壇の浦を砲撃し、六七の兩日には各所の砲臺を破壊して直ちに兵を上陸せしめた。かくて長州も又薩藩と同様にその敵す可らざるを知つて和を請ひ、三百萬兩の償金を提供して終末をつけた。

慶應元年

四月七日改元

○正月十四日、長州藩士高杉晋作兵を擧げる。
○その頃既に幕府直營の牧場が雉子橋内に設けられ、その世話役には大名が仰仕つてゐて、將軍家飲料の外は市中へ販賣したものである。
○二月八日、武田耕雲齋等を斬る、水戸の藩士、如雲と號す。景山公に仕へて老臣となり録千五百石を食む。公と共に讓夷論を唱へ義徒數百人を養ひ主義の斷行を志す。干黨の領袖市川三右衛門の王黨派を壓するに及び、王黨の士筑波山に擧兵する耕雲齋之と相謀り、幕兵と戦ふ月餘、幕兵に下る者出づるに及び、千二百三人の兵を具して奥州路より下毛に入り更に上野に入る。信濃に入り松本城兵を敗つて西京都に入らんとした。一橋慶喜詔を奉じて來り攻む。耕雲齋前途の望み難きを見て兵伏を束ねて恭順する。幕府は彼を忌み二百五十餘名を教賀で刑殺した。
○四月七日、この日元治元年は慶應と改元さる。

長州再征
英公使來る
長藩主紀問

佛國博覽會
賛加
砲術の祖逝
長藩主の蟄居
金庫の元祖

將軍薨去
征長軍停止
將軍宣下
短銃の始
天皇崩御
シャツの始

慶應二年

○四月十三日、幕府長州再征の師を起す。
○七月十八日、英國公使パークス來任する。○十月十五日、諸外國との條約勅許さる。
○十一月七日、長藩主毛利敬親父子の罪狀紀問さる。

○正月、我が慶應二年三月より開催する佛國博覽會は加盟すべく、徳川民部大輔を彼地に派遣するこれが我國博覽會に参加したる濫觴である。
○正月十四日、砲術の祖高島秋帆六十九歳で歿す。
○五月十日、毛利敬親父子に蟄居削封を命ぜらる。○六月十七日、幕府長州に迫りて連戦不利。
○金庫の和製は割合に古く、此の年横濱の竹田彌兵衛なる人が國産品として優良なるものを發明してゐる。
○八月、將軍家茂御年廿一歳で薨去。これより先き、伊太利及白耳義と和親條約締結した。
○九月十六日、征長軍停止、將軍家茂の薨去のために戦争を中止して征長軍を撤退する。
○十二月十日、徳川慶喜將軍宣下、十二月五日、徳川慶喜一橋家より出でて十五代將軍を嗣ぐ。
○ピストルの使用始め、この頃既に武士の間に舶來のピストルを携帯してゐるものが珍らしくなかつた。
○十二月廿五日、孝明天皇崩御さる。御寶壽三十六歳。十二月十五日以來御不豫に渡らせられ遂に廿九日辰刻に崩御なされた。
○この頃既にシャツの輸入品を模造して着用する人尠ならず。又タウルも既に用ひられてゐた。

法在自妊懷女男

救苦庵主

過日來、貴紙上に登載ありし濟貧堂主人の人口制限論を讀て人口を制限するは、天下泰平國家富饒の基礎たる事を始て悟り敬服斜めならず、然れども既に男女の慾源を防塞する能はざるものとすれば、懷孕産婦は亦た人間の止むべからざるものとなるべし、(當座の避妊法あるにもせよ)因て想ふ我邦の如き女子の教育不完全にして、成長の後も自ら其口を糊する能はず、夫家に嫁すれば唯良人の供給を仰ぎて其財産を糜するのみ務とする國に於ては、成可女兒の成育をすくなくして、男子の産口を多からしむる事、(貧乏人に於ては特に然り)國家の經濟に於て最も利益ある事ならん、爰に予が家に傳ふる一奇法あり名けて男女懷妊自在法と云ふ、今世の爲め國の爲に其秘法を披き以て多瓦寡璋の苦厄を救はんとす、貴社幸に一日の餘白を假せ、其法に曰く、夫婦の年と孕月とを配せる三個の黒白を畫き、左の所記に合せて胎兒の男女を選べし、而して其上圈を夫年とし中圈を孕月とし、下圈を婦年とす其白圈は奇數にして黒白は偶數なり(舊曆を用ふ)

奇奇奇	偶偶偶	奇偶偶	偶偶偶	奇奇奇	偶偶偶	奇奇奇	偶偶偶
夫孕婦	夫孕婦	夫孕婦	夫孕婦	夫孕婦	夫孕婦	夫孕婦	夫孕婦
年月年	年月年	年月年	年月年	年月年	年月年	年月年	年月年

以上胎兒は男子なり

以上胎兒は女子なり

(附記) 懷妊の時日は四十週間即ち二百八十日となす、之を算するに月經の通じ終りたる其翌日より起算し、二百八十日目に當る日を産日と定むるなり(例へば一月一日より七日迄月經通じ其後懷妊したりと云へば一月八日より起算して二百八十日に至るなり即ち陽曆一月一日の懷妊は十月八日の出産二月一日(平年)の懷妊は十一月八日の分娩とするが如し以下之に準へ。(東京日日新聞第四千六百拾號明治二十年三月廿六日所載)

第四編 明治天皇 御代四十六年記

第一章 慶應三年度より明治十一年迄

慶應三年

御踐祚
 特赦ある
 御大葬
 毛利父子解
 開陽丸回航
 高杉晋作逝
 名家名儒逝
 蝙蝠傘流行
 皇后冊立
 薩長握手成
 討幕密勅下
 大政奉還を
 勸む

○明治天皇御踐祚 正月九日皇太子陸仁親王、小御所に於て御踐祚、御父孝明天皇の御後を繼せられ人皇百廿二代の御位に即かせ給ふ。時に御寶算十六歳、孝明天皇第二の皇子にてまします。此日藤原氏を准後と尊稱し、關白をして政を攝せしめらる。

○正月 先帝の御大喪にあつて、有栖川熾仁親王及七卿が長州の事に關して罪を得たるを解かる。

○此月二十七日、先帝の御大葬あり、京都市後月輪東山陵に祀らる。二月十六日諡を上り孝明天皇と申上奉る。

○二月、先帝の御大喪につき毛利父子の罪を赦し、特に征長の師を解かる。

○廿六日、先年幕府の和蘭國に製造を托した開陽丸竣工し、軍艦教授方榎本釜次郎等回航して横濱に着く。

○四月十四日、洋式陸軍の建立者志士高杉晋作二十九歳で天命を終る。

○四月二十二日、畫家中林竹溪五十二歳で逝く。又八月廿八日儒者鹽谷宕陰五十九歳で歿す。

○この頃既に蝙蝠傘の流行始まる。

○五月二十八日、明治天皇皇后御冊立。五月廿八日一條忠香公女美子姫女御に冊立さる。

○十月 諸公卿と薩長の握手 討幕運動起る廿一日その實行を中止せしめ給ふ。

○十月十四日、討幕の密勅下る。

○十月 土佐藩主山内豊信大政奉還を勸告。それよりさき諸公卿及薩長の間に握手なりて討幕の密勅あるを洩れ聞いたる山内豊信は大いに驚き、急に後藤象次郎、福岡孝梯の兩人を上京せしめて、將軍慶喜を説いて遂に十月十四日大政を奉還せしむるにいたつた。

將軍職奉還
ミシンの始

○十月十四日、徳川慶喜大政を奉還し奉る。
○裁縫用ミシンの始まりは、明治以前のこと、その當時はその使用が六つかしいと云ふので、開成所が奨励のために、廣く廣告して傳習させたのである。中外新聞の一號には次のやうなる廣告が載つてゐる。

西洋新式縫物器械傳習所に仕立物の事

右器械は、シウインマシンと名くる精巧簡便の品にて、近年舶來ありと雖も、用法いまだ世に弘らざる。依て去年官命を蒙り、横濱に於て外國人より教授を受け、尙又海内利益の爲に、傳習相始め候間、望の御方は開成所へ御尋なさるべく候、付ては傳習の序、何にても注文次第廉價にて仕立物致すべく候、依て此段布告に及ぶものなり。

外人競馬始

○洋風競馬會、横濱在留外人の娛樂場として郊外根岸に廣大なる競馬場を設立されて、時には、至尊の行幸を仰いだこともある。

坂本龍馬刺さる

○十一月十五日、坂本龍馬、中岡慎太郎は京都の客舎に於て彼の近藤勇を中心とする新選組の壯士のために暗殺された。龍馬は土佐の人、夙に勤王の大義を唱へて、薩長の志士と交はり倒幕の謀計をめぐらし、卒先して薩長士の聯絡を企てた人である。不幸刺客のために倒る。

野村望東尼

○十二月の二十日、勤王の烈女、野村望東尼逝く、享年六十二歳であつた。福岡の人、廿四歳にして野村新三郎に嫁す。五十四歳夫を喪ふ。髪を薙りて望東尼と改む。常に國事を憂ひ、勤王の志士を輔く。慶應元年ために囚へられて姫島に流さる。それより先き幕吏の捕ふる處となるや、

王政復古

○十二月九日、王政復古の大詔令下る。攝關の職を廢して、總裁、議定、參與の三職を置く。浮雲のかゝるもよしや武夫の日本心の數に入りなば」と、詠じて縛についたと云ふ。

大阪兵庫港慶喜大阪下

○十二月七日、兵庫港及び大阪五市場を開く。大阪表外國人貿易並に居留規則相定る。

石版印刷の始

○十二月十二日、慶喜急に大阪に下る。十二月十二日京都二條城にある慶喜は、松平慶永と徳川慶勝の勸告を入れて幕府方と朝廷方の衝突を避けて急遽大阪へ下つた。

ものもなく、アタラ塵りだらけになつてゐたのを、此年、佛國大博覽會に參會したる清水卯三郎なる人が、その使用法を學得して歸朝始めてこの機械を用ひたのが、我が石版術發達の嚆矢である。

明治元年

慶應四年九月八日 明治と改元さる。

鳥羽伏見戰

○正月三日、鳥羽伏見の戰ひ。大阪に下向したる前將軍慶喜は、遂に討薩表を朝廷に上り幕府大目付瀧川見知之齋らし、會津桑名の藩兵を先鋒として京師に向つた。征討大將軍嘉彰親王は錦の御旗を奉じ薩長その兵を率いて鳥羽伏見に迎へ撃ちて遂に二藩の兵を潰走せしめられた。

徳川征討令

○十日、徳川慶喜の命下る。有栖川宮職仁親王殿下東征大總督に任ぜらる。

明治元年の歳出入

○明治元年の歳出入、經常部と臨時部を合して僅に三千三百餘萬であつた。

徳川慶喜遁

○正月六日、徳川慶喜軍艦回陽丸で遁る。鳥羽伏見に於ける四日間の戰鬪は幕府軍の大敗に歸した。この敗戦に驚いた慶喜は松平容保、松平定敬、板倉勝靜、小笠原長行等を連正月六日大阪天保山沖より軍艦回陽丸に乗つて海路江戸に遁れた。

徳川氏處罰

○正月十日、徳川慶喜、松平容保、松平定敬、大河内正賢、永井尙志等外二十七人の官位を剝奪さる。

天皇御元服

○正月十四日、天皇御元服。正月十四日御元服の式を挙げられ。大赦を行はる。

太政官制

○正月十七日、太政官に七科を置かる。十七日職制を定め、神祇、内國、外國、海陸軍、會計、刑

義脚使用の魁

○義脚使用の始めは、俳優澤村四之助である。彼は脱疽を患ひ、外醫へボンの手術を受け、遂に一脚を切斷したので、米國製の義脚をつけて舞臺へ立つたのが義脚使用の始めである。

東征軍出發

○二月一日、東征大總督出發。一月十日天皇詔して慶喜以下二十七人の官位を削ると共に、總裁有栖川宮職仁親王を征討總督に移し、西郷隆盛を總督府參謀に任じ、薩長藝の諸藩に命じ、大兵を發して江戸を征せしめ給ふことになつた。征討は下の四道に分けて進軍することになつた。

△東海鎮撫使 橋本實渠 參謀 海江田武次 木梨精一郎 東山鎮撫使 岩倉具定 參謀 板垣退助

四九

第四編 明治天皇 御代四十六年記

外臣朝見始
中湖新聞創
五箇條の誓
宮中肉饌始
四谷大火
慶喜恭順
妙國寺事件
兩雄會見
天保山行幸
官軍江戸城
大政官日誌
もしほ草創

川彌二郎、海軍總督、聖護院嘉仁親王、參謀、島田左馬吉、征討軍が進軍に用いた軍歌をして今尚人口にかくしやくたるは、官軍の參謀品川彌二郎さんの作だと云ふ。その實否は保證出來ない。歌詞、
○宮さん、御馬の前にチラ、するのは何んぢやいな。
○アールは官軍、錦の御旗を知らないか
トコトヤレトコトヤレナ。

○二月各國公使始めて朝見式を賜ひ、親しく謁見を賜はる。
○二月二十四日、柳川春三等中外新聞を發刊する。○三月、福地源一郎江湖新聞を發刊する。
○三月十四日、五箇條の御誓文を賜ふ。この日天皇自から、紫宸殿に出御ありて、編く公卿諸侯を召されて、親から天地神祇を敬祭し、五箇條の御誓文を賜ひ、且つ大詔を下して民衆に示めさせ賜ふた。
○一月廿四日、大膳職はこの日始めて肉饌の御用命を蒙る。
○二月九日、四谷區十一丁目より出火附近五ヶ町を焼失する。
○二月十二日、却多大阪より遁げ戻りたる慶喜はこの日江戸城を出て東叡山大慈院に廉居する。
○二月十五日、泉州堺港を護る土佐藩兵佛國人數名を殺した。佛國公使の立會で凶徒二十人を塚、妙國寺境内で自刃せしめることにしたその十一人目に及ぶや佛國公使はその慘況を見るに忍びず、死を宥されんことを請ふ。九人は死を免がれ流刑に處せらる。又佛人被害者には慰弔金十五圓を贈りて解決となる。
○三月十三日、舊幕府を代表する勝安房と官軍の西郷隆盛と高輪の薩蕃邸に於て會見し徳川氏の處分につき協議した。斯くて平和裡に官軍は江戸城を收む。
○三月十六日、大阪天保山行幸。三月二十六日天保山に行幸、大阪灣に行はる、海軍の操練を御覽あらせらる、これは我國最初の觀艦式である。
○四月一日、東征軍江戸城を收む。○三月榎本武揚等舊幕府の軍艦八隻を率ひて房州館山へ逃る。
○四月五日、太政官日誌刊行さる。今の官報の先代である。
○四月十一日、岸田吟香等横濱新聞もしほ草を發刊する。又遠近新聞、日々新聞、公私雜報發刊さる。

近藤勇を板橋に斬る

○四月廿五日、近藤勇、玉師に抗するの罪により下總流山にて官軍のために捕へられ、四月廿五日板橋に於て死刑に處せられ、其首級は京都に送られた。太政官日誌第十一號に下の如き記録が載つてゐる。

一、東山道先鋒總督軍門へ賊徒近藤勇、擄と相成、候事(慶應四年四月太政官日誌第十一號)
近藤勇死刑に被處之事
右は元來浮浪の者にて初め在京新選組の頭を勤め後江戸に住居いたし、大久保大和と變名し甲州並下總流山に於て官軍へ手向致し、或ひは徳川の内命を受け、候、扨と偽り唱へ不三容易一企及候段、上は朝敵下は徳川の名を偽り、候、次第其の罪數るに違あらず、仍て死刑に行ひ梟首せしむるものなり。

○又、官軍の手によつて、關東板橋に於て處刑されたる近藤勇の首級が京都に着くや、その罪狀を下の如く掲げて三日間、三條河原に梟されたものである。
此もの凶惡之罪迹あまた有レ之上、甲州勝沼、武州流山兩所に於て、官軍に敵對せし段、大逆たるに依て如レ此令ニ梟首一者也

三條河原に首級を梟
彰義隊
諸國關門廢止
江戸改東京
河井自刃す
酒造税の始
徳川封給ふ

○閏四月七日(慶應四年四月太政官日誌第十六號に據る)
○五月十五日、彰義隊二千人上野山内に據る。東征軍之を攻む。忽ち潰走する。
○五月十七日、諸國關門を廢止さる。五月十七日太政官布告にて「諸國道筋に於て、私に關門或は番所等取建置候儀被停候事」とある。
○七月十七日、江戸を東京と改稱。勅して江戸を東京と改稱さる。
○八月、鎮將府を江戸城に置かる。
○八月十六日、北越の偉傑、官軍に拒したる長岡藩士河井繼之助自刃する。
○酒造税の初めは、五月廿九日の太政官布達にて、造酒税百石に付金二十兩宛の納税と定められたのが始である。
○八月、前將軍の繼嗣を定めに封を駿河國へ賜ふ。龜之助封を駿河に受けて今の静岡へ移る。

御即位大禮
明治と改元
東京行幸
會津城降伏
陸羽の分國
天長節の始
京都還幸

○八月十日、明治天皇御即位の大禮を擧げらる。八月二十七日、天皇紫宸殿に擧げさせ給ふ、その儀式典例を悉く古に復して舉行された。
○九月八日、明治と改元する。又一世一元の制定。
○九月二十日、天皇東京行幸。九月二十日、京都を御發れんになった天皇陛下は、十月十三日東京に御着、直ちに江戸城に入らせらる。江戸城を東京城と改む。
○十月二十二日、會津軍敗れ松平容保降る。彼の壯烈なる由虎隊の悲劇は、この役に於て行はれた。
○十二月七日、陸奥國を陸奥、陸中、磐城、岩代に分ち、又出羽國を羽前、羽後に分たる。
○十二月七日、陸奥國を陸奥、陸中、磐城、岩代に分ち、又出羽國を羽前、羽後に分たる。
○天長節の始めは八月二十六日、太政官布告によつて、明治天皇御即位の第一より舉行さる。
○十二月八日、天皇京都に還幸仰出さる。十二月八日東京御發れん、其日京都御着れん。
○勅使を伊勢大廟に遣はし、東北平定を告げさせ賜ふ。
○又、勅旨を賜ふ。戊午以來國事に殉する者を祠り、その妻子を賑恤せしむ。

明治二年

東京灣燈臺
無樂の天覺
政治始式
小楠暗殺
藩籍奉還
公議所設置
新聞刊行許
待詔局設置
徒刑場設置

○正月、相模觀音崎の燈臺成る。續いて、安房野島岬の燈臺成る。
○正月朔日、令して元日、白馬、踏歌の三節會及び無樂の天覺の日、諸侯に陪觀を許さる。
○正月四日、政治始式を行はる。東北平定せるをもつて、詔して前途の方針を諭し百官を獎勵さる。
○正月五日、横井小楠京都に於て立田立夫外四名のために暗殺さる。
○正月、薩長土肥の四藩率先して藩籍奉還奏請する。續いて各藩も藩籍奉還を奏請し奉る。
○二月、公議所及議事所置かる。二月廿五日勅して公議所を開き制度律令を議せしめ、又議事所を置き、會議を開くべく、議事取調局に命じてその規則を草案させらる。
○二月八日、新聞紙の刊行許可さる。
○三月、東京城に待詔局を置き下民をして意見を上陳するを得せしむ。
○三月、各府縣に徒刑場を設けしむ。後懲役場と改まり又獄監署と改まり、更に現今の刑務所となる。

遷都被仰

○三月七日、京都御發れん、途中伊勢太廟に謁し直路三月二十八日東京に御還幸あらせらる。
○三月二十三日、小學校創始さる、新政府の成るや、府縣に小學校を開設せしめた。

小學校創始
幕府殘黨降
伏

○五月十八日、五稜廓陥り榎本武揚等降伏。三月、奥羽鎮撫使の軍は、陸兵六千五百人、それに政軍艦八隻をして北海道に入り、先づ江刺を復し、進んで松前を取り更らに進んで函館に迫つた。榎本等死を決して攻撃し、拒防海戰最もつとめたけれども、遂に力つきて降伏するに至つた。いよくこれ幕府の殘黨も皆滅した。

戰功褒賞
招魂社成
族藉名稱定

○六月二日、朝廷前年來勤王諸藩兵の戰功を褒賞せらる。
○六月二十五日、公卿諸侯を華族と改稱し又、華族以下を士族と平民に分ち、穢多の階級も廢止された。
○六月二十八日、招魂社を建つ。九月二十九日九段坂上に祀る。嘉永六年以來、王事に盡して犠牲となりし人々の靈を合祀する。今の靖國神社がそれである。

諸藩奉還
蝦夷改稱
大村益次郎
刺さる

○六月十七日、諸藩版籍返上。六月十七日諸藩版籍奉還允許され、藩主に代つて知事を置き、新政の衝に當らしむ。後ち更らに藩を廢して府縣を置くこと今日の如し。
○八月十五日、蝦夷を改めて十一ヶ國に分ち北海道と改稱さる。
○九月四日、大村益次郎刺さる。九月四日京都市三條木屋町の旅館に於て、刺客平野等の爲めに刺さる、その原因は、大村が廢刀令の主唱者でありしこと、武士の魂たる刀を廢されては一身が立たぬと云ふ一味の愚擧からである。その利那に於ける大村氏の詠んだ辭世。

山縣公渡歐
電信開通始

○九月、九段坂上、靖國神社の境内に聳ゆる銅像は、明治二十五年十月初めて我國に建てられたる銅像にして我が國洋式陸軍の建設者の一人である。兵部大輔大村益次郎の功績を不朽に垂るゝものである。
○十月、山縣有朋等軍事取調の爲渡歐仰付らる。
○十二月二十五日、始めて電信開通する。東京横濱間公衆用開始され、一字につき料金銀一分宛と定められた。又明治四年十一月には長崎まで擴張され、五年四月二十二日には京都大阪間にも開通し、九月に入ると全線に涉つて通信を許可することになった。尙、此頃、長崎で丁、抹電信會社の海底線

反逆者の死
ゆるさる
松節矯正
昌平校改稱
時計の元祖

新船舶法成
樺太開拓使
人力車の發
品川の燈臺
國産靴の始
種痘普及
外債の始め
平民に姓を
免す
滑稽な姓名
遣外使臣始

と連絡が出来たので海外との通信も開かれるに至つた。
○十二月朝廷に反逆した藩主の死一等を減ぜらる。會津、米澤、桑名以下二十三藩主の死一等を免され、後遂に一般藩主と同様に華族の禮遇を與へられた。
○十二月、正月の松節矯正。此十二月より、例年諸官廳が正月の松節を競ふの風を生じたので手輕にいたすべきやう旨達された。
○十二月七日昌平校を改めて大學校と稱し、開成所を大學南校、醫學校を東校と稱す。
○和製時計の元祖は、此頃、和歌山縣有田郡北湊村山葉寅楠なる人によつて舶來ものと比較しても負けないほどのものが發明されたと云ふ。

明治三年

○正月二十七日、我邦新船舶法公布さる。「郵船商船規則」これなり、民部外務兩省の開板に係る。
○二月十三日樺太開拓使設置さる。
○人力營業開始。和泉要助なる人、人力車を發明して、營業を願ひ出て許可され、自動車の實現するまでは交通機構として全盛を極めた。
○三月五日、品川燈臺成る、續いて十日には第四砲臺に燈明臺設置さる。
○國産靴の始め、三月十五日斯界に有名なる櫻組の創立者西村勝三氏によつて成功さる。
○四月種痘法普及さる。○四月ためし切りを禁す。
○四月倫敦東洋銀行に托して九分利付外國公債四百八十萬圓を募集す。之が外債募集の嚆矢である。
○九月三日、平民に姓を呼ぶを許さる、社會の多數であつて、然も農、商、工者は、封建政治の下にあつては、單に屋號とその名を稱ふるのみであつたが、新政府成ると共に、平民にも姓を呼ぶを許された。因に愛媛縣の日切島に基た滑稽にも弱魚、鯖、平目、鯛、海老、鮪、赤貝等の姓がある。
○十月、英、佛、獨、米に少務辨使を置く。

最初の中學
懲兵規則
勅使二藩下
新律綱領成
志士雲井龍
鐘詰の始り
メリヤスの
始
自轉車の始

大阪造幣成
參議暗殺
郵便創設

明治四年

○十月四日、初めて東京に中學校を設く。太政官日誌三十七號に下の記事が載つてゐる。
今般東京府下中學校被開候に付華族始め士族庶民に至迄入學被差許候事
○十一月十三日、今の徵兵令の前身である處の、徵兵規則が大政官より發表された。その達しによると、府藩縣は二萬石につき五人の割をもつて兵卒の任に堪ゆるものを徵募すべしとある。
○十一月廿五日、勅使鹿兒島山口藩に下る。岩倉具視を二藩に遣はし、勅して二藩主を召さる。
○十一月、瑞典、諸威と和親通商條約成る。
○十二月二十日、新律綱領發布。新刑法とも云ふべき法律が制定された。大寶の古律と明治の刑律とを參照して、其の精粹を集大成したものと云つて宜い。全部百九十二條から成立つて、正閏の兩刑を定められたものである。○志士雲井龍死刑する、享年二十九。
○この年大學の雇教師の外人が自から製造して知人に頒けたのが、和製かん詰の濫觴らしい。
○メリヤス、和製の元祖、洋式兵制を採用するやうになつて、靴を履くに必要缺く可らざるものは、靴を買入れて西村勝三なる人が製造し始めたのが、斯業發達の始りである。
○この夏以來鐵輪の三輪車が輸入され、續いて二輪車も行はるやうになつた。自轉車税を徵收するやうになつたのは明治五年頃からのことだと云ふ。

○二月十五日、大阪造幣寮落成する。
○正月九日、刺客其邸に侵入して、參議廣澤眞臣を殺す。
○東京、京都、大阪間郵便創設。正月より實施さる郵便切手四種を發行する。これが郵便切手の初まりである。當時示された送達時間表によると、東京より京都迄三十六時間、大阪迄は三十九時間とある。又料金は一里百文。一里以上は二百文宛。又一時五里の早さで達すべき書状は一里六百文宛とある。此年十二月には長崎まで延長され、九十五時間で送達さるゝこととなつた。これが今の郵便

消防ポンプ
御親兵始
鎮臺創置
平民乘馬免
布哇國親交
京濱郵便創
司法省設
文部省生る
廢藩置縣
斷髮脫刀令
穢多の稱禁
帽子流行
隆正大國
華族と平民
新島原廢止
高松騷擾
紀州ネルの
元祖

の始りである。
○二月四日、消防組で器械ポンプの威力を知つたのは、此夜淺草田島町より出火田原町近くまで焼いた大火事のときである。
○二月十三日、親兵（近衛前身）を置かる。二月十三日薩長土三藩の兵を徴して親兵の組織なる。これは近衛兵の始めである。
○四月、東山、西海の二ヶ所に鎮臺創置さる。
○平民に乘馬許可。四月十八日大政官布告によりて、自今平民も乘馬差支なき旨布達された。
○七月、布哇國と和親條約成る。其布哇國は我が移住民最も早く行はれ、又最も多數の移住民もあつたが後遂に明治二十五年に至り、獨立を失ひ、遂に米國に併合された。
○七月三日、東京横濱間に郵便事務を創む。翌五年に至り廣く全國一般に開始するに至る。我國の郵便制度に於ては、時の驛遞總監前島密の盡力に負ふ所尠くない。
○七月九日、司法省を設置さる。七月清國と修交條約を締結する。
○七月十四日、大學を廢し文部省を置き、大木喬任文部卿となる。
○七月十四日、廢藩置縣斷行。七月十四日藩を廢し三府七十二縣を置く。この日天皇薩長肥以下諸藩主を召し、親しく詔書を賜ふ。
○八月十日、斷髮脫刀許下さる。○八月穢多平民の稱を廢し平民と同等たらしむ。
○帽子の流行始め。八月斷髮令が下ると、急に頭が淋しくなつたので自然と帽子の需要が起つて來た。
○八月十七日、國營者大國隆正逝く。享年八十歳。
○八月、華族と平民との結婚許さる。
○七月十七日、京橋區内にあつた新島原遊廓を七月限に廢しを命じ、今の新富町が出来た。
○九月二十日、高松縣の農民藩知事公の東京移住を惜み在任されんことを數願したが用ひられないので遂に失望の極亂に及んだ。
○此の年在來の紋羽織に改良を加へて織り出したものが、外國輸入の高價なる舶來ネルに代つて綿ネル即ち紀州ネルが發明され、今では輸出する迄に盛んになつたのである。

梟刑死者處分
アイヌ習俗
國產石油始
平民服裝
官吏月給始
學校運動場
邏卒を置く
岩倉公渡歐
アンパンの
始
國産セメン
琉球王優遇
課税公平
共同便所始
ソップ配達
明治五年の
東京人口

○十月十日、梟刑死者の遺屍處分につき、司法省布告下る。遺屍は親族より申出あれば下げ渡され又當日願出無き者は、直ちに大學東校解剖場へ廻して研究材料として扱はれることになつた。
○十月、北海道土人の耳環、頬墨等の舊俗を除革せしむ。
○此年、東京人岸田吟香、新潟縣人平野某、石坂某等米國より油井鑿井機械を購入して、採掘を始めたものがその始めである。
○九月より平民にも袴羽織の着用を許さる。○九月より官員の歳祿を月給制に改めらる。
○學校運動場設備の魁は東京芝三田の慶應義塾にして既にこの頃その設備があつた。
○十月、東京に邏卒を置く。十月より府下取締りのため邏卒三千人を置くことになつた。
○十月八日、岩倉具視全權大使渡歐。十月岩倉具視を全權大使とし、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文、山口尚芳等を副使として歐米諸國巡視の途に上らしむ。
○この頃既に東京市中でパン店の續出したことは當時の新聞や雜誌に載せられてゐる。
○建築局長としてセメントの輸入量の年々増加するを慨き、國産製出の急務なるを痛感してゐた平岡通義民部省技師宇都宮三郎等共に研究苦心すること多數、遂に其製造に成功したのは明治四年である。
○十一月三日、津田梅子、鳩山春子外三人の少女を選び米國へ留學せしむ女子の留學生は開闢以來のことである。
○十二月、琉球國王尙泰華族となる。琉球國王を華族に列し金銀貨幣三萬兩を賜ふ。
○十二月、武家にも地租徵收、此年十二月より、從來無税であつた武家地にも一般地券を發行し、又地租上納すべき旨、太政官日誌百十六號により布告された。
○共同便所の始めは横濱市で、既に此年の十一月には幾多の共同便所が設置されてゐた。
○西洋料理店で客へ出すものは別として、朝夕ソップを配達する營業は、此頃既に行はれてゐた。

明治五年

○此頃の調査では東京の人口は八拾五萬九千三百四十五人とある。

觀兵式嚙矢
ランブ流行
女人解禁
東京日々生
京濱鐵道始

○一月八日、陸軍始めにあたり、聖上日比野操練場に行幸ありて行軍式を觀らせらる。
○行燈を廢し、石油ランプを使用すること大いに流行し來た。然もその使用法の未熟より、出火の原因となることの多きをおそれ、その注意書が配布されたものだ。
○女人禁制の解禁、此年二月以來大政官布告で「神社佛閣ノ地ニテ女人結界コレ有シ處、自今廢止セラレ登山參詣勝手タルベキノ旨御布告」されてゐる。
○東京日々新聞、明治五年二月二十一日創刊さる。
○二月、東京横濱間の鐵道を起工する。二月二十八日その起工式を擧ぐ。
○九月十二日運轉を開始する。
○尚その運轉回数は午前七時に始まり、往復三十二回午後五時四十分が終列車となつてゐる。又乗車賃は新橋品川間は不明だが、四ヶ所の分は下の通りである。

品川	川崎	神奈川	横濱間
上等	三十七錢五	七十五錢	九十三錢七五
中等	二十五錢	五十錢	六十二錢五
下等	十二錢	二十五錢	三十錢二五

○動物園開設の歴史を尋ねるに、太政官の管轄の下に、明治五年二月、今の丸の内の日比野に博物館が設けられたときからで、明治十九年三月宮内省の管轄に移り、遂に世界の代表的動物を飼養して觀覽させるやうになつた。
○二月十五日、大政官布告を以つて「地所永代賣買の儀、從來禁制の處、自今四民とも賣買所持候儀差許され候事」と布告された。
○三月、親兵を廢し近衛兵を置かる。
○此年三月二十八日、東京府達第二十七號によつて猥褻物、張形、文身の類禁止。布告になつた。
○皇太后京都市行啓。四月十二日京都御發華東京へ行啓あらせらる。
○浦賀行幸。四月二十八日、天皇陛下、龍驤艦に御便乗浦賀に行幸さる。
○四月、小原鐵心卒す（年五六）美濃大垣の人、勤王の志士。

庄屋名主廢
僧侶の肉食
妻帯の解禁
女子斷髮禁
止令
學制公布
新吉原内容
身代限規則
報知新聞生
銃刑の始め
青山墓地始
新銀座成る
小倉服の始

○四月九日、庄屋、名主、年寄等の稱を廢して戸長を置く。
○此年四月二十五日、下の如き布告が出た「自今僧侶肉食妻帯蓄髮可レ爲ニ勝手一但法用の外は人民一般の服を着用、不苦の旨御布告が出た。
○此年には女子斷髮の禁止令が出た。男子の斷髮を模ぼうして、女子までが新らしがつて散髮すること、昨今のモダン・ガールよりも甚しかつたやうであることは、下の記事を見てもよく分る。

女子斷髮禁止

散髮ノ儀ハ勝手次第タルベキ旨先般御布告ニ相成右ハ専ラ男子ニ限り候處近來婦女女子ノ中ニモザンギリ相成候者往々相見畢竟御趣意ヲ取違ヒ候儀ニ可有之抑婦人女子ノ衣髮ニ素ヨリ男子トハ區別ノ御制度ニ候條婦女女子ノ儀ハ從前ノ通相心得御趣意ヲ取違不申様可致ノ旨府下札場へ揭示サレタリ。（日要新聞第十八號 明治壬申四月）

○五月、學制頒布全國を八大學區となし、その下に中、小學區を置く、小學區には小學校を置き、兒女六歳に達すれば必ず學に就かしむることとした。又師範學校を設立して盛んに小學教員の養成に力めた。

○五月二十二日發行、東京日々新聞五十七號に新吉原廓内の戸數人員が載てゐる。

△妓樓	百八十八軒	引手茶屋	三百四十三軒
△娼妓	二千八百九十九人	絃妓	三百七十人
		幫間	二十三人

○六月、貸金銀滞りに付身代限規則布告された。
○六月一日、郵便報知新聞生る。今の報知新聞の前身である。
○六月、兵部省薦人足某、某の兩人軍用の毛布その他を盗みしたため越中島に於て銃殺さる。軍事に關する罪で銃殺さるゝものゝ始めである。
○七月、太政官の布告によつて、青山百人町附近の地を墓地とすることを許されたに始まる。
○七月、歐米式の銀座街起工。雇英國人技師ウオレスの設計によつて、煉瓦を主として建築の歐米式新市街成る。
○この頃舊小倉藩士の授産事業として、同地特産の袴地を時代の影響に應じて、それを洋服地に仕上

俱樂部始

ビールの始

瓦斯の始

石炭の始

南京米の始

齒磨粉始

山梨日々

遊女解放令

暴動各地起

太陽曆採用

げ塊國博覽會へ出品したのが、今の盛況を呈する始まりである。

俱樂部の始め、これも又歐米模倣のものにして、東京の人西村勝三、伊東幸三氏等が東京府の許可を得てナショナルクラブなる社交團を組織したのに始まる。

國産ビールの始め。此夏頃からボツ／＼大阪、名古屋、横濱邊で醸造したる國産品が市場へ出始めた。

〇六月以來、肥前高島及筑前三浦郡及三池郡内に於て採掘を始めたのが斯業の嚆矢である。

〇この年外商によつて、外國米がボツ／＼輸入されたのが始まりである。

〇齒磨粉の使用始。十月十八日發行の新聞に廣告の載つてゐる處をみて、既に使用されてゐたら

し。

〇山梨日々新聞、明治五年七月創刊の峽中新聞の改題である。

〇昭治五年十月二日、太政官布告をもつて遊女その他雇人解放につき、下の如き布達があつた。要するに此頃盛んに行はるゝ藝妓等の自由廢業も、この布達の下に行はるゝものである。

一、人身ヲ賣買致シ終身又ハ八年期ノ限リ其主人ノ任意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ有マジキコトニ付古來禁制ノ處從來年期奉公ナド種々名目ヲ以テ奉公住爲致其ノ實賣買同様ノ所業ニ至リ此ノ事ニ付自今可爲嚴禁事

一、農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公致候儀ハ勝手ニ候得共年限滿七ケ年ニ過グベカラザルコト但双方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルベキ事

一、平常ノ奉公人ハ一ケ年宛ナルベシ尤奉公取續候者ハ證文相改事

一、娼妓、藝妓等年期奉公人一切解決致右ニ付テノ貸借訴訟總テ不取上候事

右之通被定候條屹度可相守事

壬申十月二日

〇十月、新政に馴れざるため新潟縣、大分縣、山梨縣暴動起る。

〇十一月九日、曆制改定、太陽曆を採用す。神武天皇即位年を紀元とす。

國立銀條例

養育院始

キルクの始

六鎮臺設置
公園名稱始

仇討禁止

明治六年

〇十一月十五日、國立銀行條例頒布さる。太政官第三百四十五號を以つて國立銀行設立條例を布告し國立銀行條例二十例百六十一節を定められた。これより前、八月十五日三井組の請を許して國立銀行を東京に創立せしめ、第一銀行と稱し、翌年八月一日を以て開業した。

〇迷子その他行路病者を収めて養育する東京養育院は明治五年に設立されたものである。これが濫觴となり幾多の斯業が行はれてゐる。

〇國産キルクの始めは明治元年以來、その製造發明に苦心したる廣島縣の渡邊佐兵衛なる人は遂にこの年製造に成功立派に國産品が出来るやうになつた。

〇一月九日、全國に六鎮臺を設置さる。翌十日には徴兵令布告さる。

〇明治五年この方、歐米の風にならつて各地に公園を設置するのが流行し初めた。然し、舊は公園と云ふ名稱は無かつたが、御庭とか坪の内なる名稱の下に、我が日本特有のものが行はれてゐること忘れてはならない。有名なる三公園―水戸の階樂園―岡山の後樂園―高松の栗林公園を始めとし、最少し古い處では石州益田の石州寺を始めとして、外國の追従を許さないものゝ數なくなきことである。然るに近頃は何の趣味も又必要もないのに、地方の農村までがハイカラがつて耕地や山林を潰して何々公園を濫設する虚榮の風の盛んなることを慨嘆するものである。

〇二月七日、封建時代の美風としたる仇討禁止令は太政官より下のやうに布達さる。

仇討禁止令(明治六年二月七日)

人ヲ殺スハ國家ノ大禁ニシテ人ヲ殺ス者ヲ罰スルハ政府ノ公權ニ候處古來ヨリ父兄ノ爲ニ讐ヲ復スルヲ以テ子弟ノ義務トナスノ風習アリ右ハ至情不得止ニ出ルト雖モ畢竟私憤ヲ以テ大禁ヲ破リ私儀ヲ以テ公權ヲ犯ス者ニシテ固ヨリ擅殺ノ罪ヲ免レズ加之甚シキニ至リテハ其事ノ故誤ヲ問ハズ其理ノ當否ヲ顧ミズ復讐ノ名義ヲ狹ミ濫リニ相構害スルノ弊往々有之甚以不相濟事ニ候之依復讐嚴禁被仰出候條今後不幸至親ヲ害セラルル者於有之ハ事實ヲ詳ニシ速ニ其筋へ可訴出候

各地の暴徒
兩陛下斷髮
廢黨淫齒結
内外許婚許
野球の始め
臺灣事件
習志野行幸
宮城大火
藝者のスト
ライキ
ラムネ流行
地方官拜謁
火葬を解く
地租改正

若無其儀舊習ニ泥シ撞殺スルニ於テハ相當ノ罪科ニ可處 候條心得違無之様可致事
明治六年二月七日
○三月、新政になれざる教賀縣民亂を作す。又北條、福岡、島根の縣民も亂を作す。直ちに定る。
○三月二十日、陛下御斷髮あらせられ。又、皇太后、皇后兩陛下に於かせられては黨を廢し淫齒を罷めさせらる。
○三月十四日、外國人との結婚規則を許るし、その規則公布さる。
○この頃米國より歸朝したる鐵道局技師平岡某が、その技を覺え又、器具一式を携へ來たのが初め。
○二月二十日、副島外務卿清國に使す。臺灣生蕃人が琉球人を殺害したる事件には交渉のため外務卿副島種臣を清國に派遣さる。清國の態度要領を得ず後遂に臺灣征討となる。
○四月廿九日、明治天皇陛下には近衛兵引率千葉縣習志野原練兵場に行幸あり、演習を御統監あらせられてのち、長くこの夜は、御用意の御幕營に御假泊あらせられた。又「習志野の原」とは、陛下の御名命に依つて定まる。
○五月五日深夜、宮城火を失し全部炎上す。天皇赤坂離宮に御立退になる同宮を假皇居と定め給ふ。
○十八日廷臣に勅語を賜りて、皇居造營工事は、當時國費多端の際なるをもつて敢へて急ぐ可らずと憂握なる御沙汰下る。
○五月二十三日、府下高輪町南町伊勢屋なる者高利の金を貸し、一の活業とせるが、品川驛の商人政木屋なるものと奸利を食收せんがために、貸座敷業者五名と共謀し高利の金を貸て、同驛藝妓の玉代より多分の費用を出さしめんとしたこゝに於て歩行新宿の藝妓一人残らず休業七日間に及んだ。(報知新聞第七十二號)ラムネの飲用はこの六月頃より流行する。
○五月十三日、地方長官に始めて拜謁を賜ふ、五月二十日地方長官を假皇居に召されて拜謁を賜ひ、併せて地方政務に付き、親しく御懇諭あらせらる。
○七月十五日、布告して火葬を禁止した。が習々八年五月二十三日解禁。
○七月廿八日、地租改正令發布。明治五年六月陸奥宗光租税頭となるや、田畑反別の制を定めて公平なる地租を定められんことを奏上する。

オルガン始
征韓論爆發
五節句を廢
休日定る
内務省設置
葉書と封書
海軍練習所
横須賀行幸
鉛筆の元祖

七月、太政官布達によりて地價百分の三を地租とする旨改定さる。
○外國人の經營する學校やヤソ教會堂にて使用されたのがオルガン使用の始まりで、その後小學校から家庭までも使用されるやうになつた。遂に本邦人の發明するオルガンも出來て、今日では海外へ盛んに輸出してゐる。
○九月十三日、征韓論のいきさつ。朝鮮大官の誤解と尊大とが征韓すべしとの議が太政官の大問題となつた。その由因は、明治元年十一月、王政復古さるゝ同時に新政府は宗對馬守を朝鮮に派して、政體の變更と明治天皇の御即位ありしことを告げた。それを彼等は亂臣賦子が新に起つて天皇を僭したる位に解して我使節を拒絶したのみか、果は、千百年自大の國をもつて一朝を人に受け、其形を變じ其俗を易つて恥ぢざるかと罵々までに及んだのである。かゝる朝鮮の非禮を責めんする協議が各參議の間に於て二つに分れ、飽くまでも彼の非禮を責めんとする西郷一派の説が破れたので、西郷、桐野、篠原、副島、後藤、板垣、江藤の參議や軍人達が辭職して郷へ歸るまでにしたつたのである。
○十月十四日、太政官布告をもつて、一月一日元始祭。一月五日新年宴會。一月廿一日孝明天皇祭。二月十一日紀元節。四月三日神武天皇祭。十月十七日神嘗祭。十一月三日天長節。十一月廿三日新嘗祭。
その後春季皇靈祭が加はり、又大正昭和の御代になりて、天長節は四月二十九日と改まり。十一月三日は明治節が祭日となつた。
○十一月、内務省設置さる。
○はがきと封書との始は十二月一日からのことである。
○十一月、築地海軍練習所へ行幸あり、又十二月九日には佃島へ行幸。クラブ砲試射御天覽あらせられた。
○十二月十七日、皇后陛下と御同列横須賀造船所に行幸せられた。
○此年東京の人小池卯八郎たる人、先輩井口直樹、藤山種廣等數人の指導の下に外國品に恥ない鉛筆を完製して、第一回内國勲業博覽會へ出品したのが國産鉛筆の始りである。

明治七年

- 岩倉公刺さる
- 青島御所成最初の軍旗式
- 民選議院開設請願
- 警視廳始
- 年齡計算法
- 佐賀の亂起

○東京市内街路樹の始り、本年以來のこと、全國的に道路には必らず街路樹の有るものとなつた。
 ○一月十八日、榎本武揚(釜次郎)海軍中將に任ぜられ、又特命全權公使として露西亞に赴任する。
 ○一月十日、青島御所成り、皇太后陛下、徒御御移り遊ばさる。
 ○軍旗授與式の始り。一月二十三日、天皇行幸、日比谷操練場(今の丸の内一體の地)に於て、始めて陸軍軍旗授與式を舉行さる。
 ○一月十七日、近衛歩兵第一聯隊編制成るを告ぐ、仍て今軍旗一旗を授く云々とある。
 ○一月十七日、岩倉右大臣赤坂喰違に要撃さる。一月十七日の夜である。征韓の議が既に決してゐたのを岩倉公が歐米より急い歸朝して内政振興の急務を説いて外征に反對し、遂に征韓の前議をくつがへした、公のそれを含んで、征韓派に左擔するもの對ながら、即ちその一派に尾する刺客高知縣士族武市兄弟、山崎、島崎、下村、岩田、中西、中山、澤田等が馬車での歸途を喰違ひに要撃した、幸ひ公の傷は輕微であつた。果さずして捕へられ、後に斬に處せらる。
 ○一月十八日、副島種臣等民選議院設立を建白する。一月十八日、副島種臣、江藤新平、板垣退助、田利公正、大井憲太郎、小室信夫、古澤滋、小松原英太郎、岡本健三郎の諸氏連署して民選議院設立の建白書を太院に呈する。これより國會開設せよと叫ぶ聲盛に起る。
 ○一月十五日、警視廳を置く。一月警視廳を置く、明治十年十一月之を廢止したが、再び明治十四年一月に警視廳が置かれた。
 ○二月五日、年齡計算法定まる。二月五日付、太政官布達によつて、今二月よりは何年何月と計算年齡を用ゆべしとなる。
 ○二月五日、江藤新平佐賀に亂を起す。さきに征韓論に破れて參議の職を辭し佐賀に歸省した江藤新平は同志を叫合して二千五百餘人を率る二月一日佐賀縣廳に迫つて之を占領した。急を聞いた政府は直ちに大久保利通に鎮撫を命じた。續いて喜親親王が征討總督に任ぜられ、近衛兵の出征となつたが

- 街道整理始
- 西洋紙の元祖
- 臺灣征討
- 屯田兵制度
- 信濃毎日
- 屬節儉獎勵
- 讀賣新聞
- 石鹼を獎勵
- 坂神鐵道開
- クリスマス始
- 爲替の始め
- 卷煙草の始

未だ總督の到着前に大久保利通の指揮の下に凶徒は一掃されて、首謀の江藤新平は土佐に遁れ甲の浦にて捕へられ、後ち梟首となる。
 ○本三月、東京府の布達で大通りに實行すべく人道と車道との區別を強制されたものがそも、の始り。
 ○明治五年春以來、淺野公爵家にて研究が始まり、續いて工場を設ける議が熱し、日本橋區蠣殼町に敷地を下し英國製の機械を備付て、七年三月より製造を始めたものである。
 ○四月四日、臺灣征討の軍隊出發。西郷從道を總督とする征臺軍は陸軍少將谷干城、海軍少將赤松則良と共に兵三千六百五十餘人を率る、日進、孟春、大有の三艦の外運送船數隻、郵船相擁して五月臺灣に上陸、各藩を膺懲し、十二月東市に凱施した。この役で我軍戦死者は僅に十二人であつたが、風土病に斃れたものは六十餘人であつた。この軍費七百八十萬。彼清國政府より賠償するものは僅かに五十兩に過ぎなかつた。けれども我國の民心を鼓舞したものは大きいものであつた。
 ○六月二十三日、屯田兵の制を布き、北海道を開拓し北門警備の任にあたらしむ。開拓使次官黒田清隆最初の長官であつた。
 ○信濃毎日新聞、明治七年七月創刊の長野毎週新聞の改題である。
 ○八月十二日、國家多事の際なるを以つて各廳に令して大いに節儉を行ひ不急の土木を止めしむ。
 ○讀賣新聞、明治七年十一月二日創刊さる。
 ○七月、京都府布令で石鹼は身の外を清潔にするものなりとして、その使用が獎勵されてゐる。
 ○十一月十七日より大阪神戸間鐵道開通。營業を開始する。
 ○十二月廿五日、キリスト教信者はこの頃既に教會堂に集つて盛んにクリスマスの祭をしてゐた。

明治八年

○此年一月一日より郵便爲替法實施され、送金收受に最も便利となる。廿九年よりは電信爲替や小爲替法を實施され益々便利となつた。
 ○明治六年、勸業寮の役人が塊國博覽會に出張した際、その機械を求めて歸つたので、この年にい

高女師開校
 新聞小説魁
 ○十一月二十九日、東京女子高等師範學開校。十一月二十九日、本郷區湯島五丁目、御茶水橋畔に開校する。
 ○その頃、發行されてゐた東京繪入新聞の主筆前田健次郎氏が、或る社會種を馬琴風の小説に變作して三日間紙上に連載したのが、非常に讀者に歡迎されたのが、今日殆んど新聞のつきものとなつてゐる新聞小説の始まりである。

明治九年

東京の人口
 煙草に課税
 甲府日々
 帶刀嚴禁
 男子成年始
 官吏懲戒令
 奥羽御巡幸
 直訴の元祖

○東京の人口。此頃の調べでは百二萬七千五百七十七人とある。
 ○此年一月一日より、太政官布告第二十八號にて「煙草の儀、來る明治九年一月一日より課税可致候。條此旨布告候事」と發表された。爾後、販賣煙草には政府發行の收入印紙が帖用される。
 ○甲府日々新聞、明治九年二月四日創刊される。
 ○三月二十七日、士民の帶刀を禁止する。三月二十七日此の禁止令が出たためにいろ／＼の滑稽事が續發した。祖先以來武士の魂として差し慣れたる連中は、其愛着を斷ち切れず袋に入れたり、又は「此刀賣物」などと札をつけて出入りに持廻る滑稽も演じられたと云ふ。
 ○三月廿八日、太政官令によつて男子廿歳に滿るを以て成年と認めらる。
 ○四月、官吏懲戒令が定められた。
 ○六月二日、御發聲、東北地方御巡幸あり、七月二十一日還御ある。その折り、秋田縣平鹿郡では植田村素封家今伊左衛門氏は御駐泊の光榮に浴された一人である。
 ○此年七月二十二日、聖上御還幸の折り永田町にて竹の先に願書を挿み御馬車の中へ差し入れんとし取り押へられたる者ありし事は兼て記し置ましたがこの者は伊豫の國新庄郡萩生村の鶴岡千代松と申すものにて學文修業のため出京したれども自費では逆も學文をして居る譯にも行かずモウ此上は恐れ多くも一天萬乗の君に學資を仰ぐより外なしと決心して御還幸と聞より一通の願書を認ためた竹の先に挿んで持ち出したりしなり右の科にて千代松は昨七日東京裁判所にて懲役三十日の贖罪金二圓二十五錢申し付けられました。
 ○七月二十七日、京都大阪間鐵道開通。京都より神戸までは汽車で行けることになつた。
 ○八月一日、米商會所條例及會所成規を頒布さる。
 ○八月五日、華族四百八十四人土族四十萬八千八百餘人に分たる。
 ○九月六日、憲法取調を命ぜらる。九月六日、親しく太政官に臨幸ありて憲法取調を命ぜられらる。
 ○十月二十四日の夜、熊本神風連と稱する、不平士族の一團二百餘人が鋒起して熊本鎮臺を襲撃し、高島中佐以下六十餘人を殺し、更に司令長官種田少將、安岡縣令、小關參事の私邸に闖入して政明を殺す、安岡、小關を傷けて死にいたらしめた。翌日鎮臺兵の出勤に遭ふて脆くも潰亂した。これに應じて舊秋月藩の宮崎車之助、今村百八郎等四百餘人も神風連に應じて二十七日崛起した、福岡縣令渡邊清の請求で出動したる小倉分營の兵に攻め滅された。
 ○十月二十八日、前の兵部大輔たりし前原一誠も亦、神風連の擧兵に應じて二百風人を語らひ、二十日八日縣廳を襲撃せんとした。これ又鎮臺兵に逆襲されて潰走してつた。尙、前原一誠に組する舊斗南藩士長岡久茂、井口慎三郎等は東京にあつて山口の暴動に應じ、水路千葉に赴き、縣廳を襲撃せんとしたが、事成らずして縛についた。
 ○十一月十四日、東京女子師範學校に新設開園さる。三歳より七歳までの幼兒を收容する本邦に於ける嚆矢である。
 ○此年九月、東京府が府立病院内に産婆教授所を設け、十一月にいたりて三十名の志望者を募り養成を始めたのが産婆教育の嚆矢である。

京阪鐵道成
 米會所始
 金祿公債
 憲法取調始
 神風連の變
 起る
 山口の亂
 幼稚園の始
 産婆教育の始
 西南役起

明治十年

○一月三十日、鹿兒島私學校生徒西郷隆盛を擁して兵を擧ぐ。

明治十年

越中の一揆
西郷出發
結婚紹介所
の魁

小僧散髮首
となる

海南新聞
熊本城包圍
さる

郵便聯合
モスリンの
始
赤十字社始

○二月、東京生れの毒婦鳥追お松は情夫の俳優に貢ぐ金に窮して主人を毒殺した犯で斬罪となる。

○二月十日、越中新聞の農民一揆。二月十日宮崎忠次郎を主盟とする農民の一揆が新川郡に起つた。

○二月十九日、桐野利秋、篠原國幹等兵一萬五千を率ゐる鹿兒島を發し熊本に向ふ。

○此年二月、東京淺草區東三筋町徳山宗兵衛なる人が、男女婚姻媒助法營業願として、府廳の勸業課へ願書を出したが此の出願は、未だ其時代に立ち到らぬと云ふ理由で不許可に終つた。その後大阪平野町堀筋の山口吉兵衛と云ふ人が正式の認可を経て日本最初の結婚紹介所を開業したのである。

○二月二十八日、小僧散髮して首となる一嘘の様なる事實、時は本年二月二十八日。花の都の真中に此様な頑固な家があるか、邊鄙の人は開けないの尤も、夫はどういふわけでもござりませぬ、さればもお聞なさい。日本橋通りの一丁目指折りといふ家で見世の者が二人番頭へ断りなしに散髮に成つたといふのが始まりで主人が怒り出し、宿元を呼ばれ即刻いとまを出せ、直に引取を書け散髮は不淨だから此家には置けない。唐人の眞似をする奴は追出すといふので本町邊の本店からも番頭が出張り晝夜をかけて二日も三日も大さわざ、一體此家は新聞の賣子が軒下を通ると鹽花をまき外國人が買物に來ると、跡で荒神ばらひを頼んで家を淨め頑固な舊式の衣をかけて因循油で揚げた様な主人の氣質だといふが、何と此せつから愚々しい。(明治十年二月廿八日發行 讀賣新聞六百三十號)

○海南新聞、明治十年五月創刊愛媛新聞の改題するもの。○三月會計検査院を置かる。

○三月、賊軍熊本城を包圍すること五旬に及ぶ、城内殆んど食糧を缺乏する、歩兵谷村計助、長官の命を受けて脱出、嚴重なる賊陣を抜けて急を官軍に告ぐ。

○四月、京都市白川にモスリン加工工場が出来たのが、國産モスリン製造のそも、の始りである。

○五月五日、博愛社生る。赤十字社の前身も、赤十字社の起源は人も知る慈愛の天使たるナイチンゲール嬢に依つて創められた。嬢は英國の紳士ウイリアム・ヨシア・ナイチンゲールの末女で伊太利フロレンスに生れた。二十歳にして巴里の看護婦學校に入り、クリミア戰爭の際、招かれて傷病兵の看病に従事し、至誠を傾けて看病の任に當つたので、傷病兵をして天使の來降として、感泣せしめた。是迄は傷病の爲に死する者、百分の四十二に達して居たが、嬢の來任して以來、僅かに百分の二に減じた。英國は嬢の功績に報いんが爲、七萬二千磅を與へたが、嬢は之を以て全部病院の設

木戸公薨去

清涼水の流

梅のシロツ

博覽會の始

利子法制定

電話の渡來

舞踏會濫傷

バーザの始

立に殺じた。之が即ち今日赤十字社の濫傷である。

○四月八日、官軍田原坂に賊軍を破る。福岡方面から卅里の遠きを晝夜強行して來た乃木隊は、兼て待まうけるたる敵の伏兵と衝突し、無慮にも聯隊旗を奪取されて了つた。

○五月二十六日、木戸孝允薨去。彼は長州の出身、薩の西郷南洲や大久保、佐賀が江藤新平、土佐の坂本龍馬等と往來し、各藩の連絡を執るにつとめ、倒幕の計を廻らした。その京都に潜伏するや、或時は身を妓夫に糞して、俠妓幾松と共に幕史の酒宴に侍して、幕史の動勢を探知し、又は天下の形勢を揣摩するなど經營慘憺たるものがあつた。遂に王政維新の鴻業を助け、新政府に立ちては、廢藩置縣に力を盡し、後憲法の制定を以つて任としたが、天、命をかさず、西南亂未だ治らざるに逝いた。

○此年六月に入りて、歐米式の清涼水が流行的に飲用するやうになつた。今のラムネやサイダの魁ともみるべきか。本年代記の著者は、かゝる模倣的にして、非衛生的でもあり、又非經濟的なる清涼水を用ゆるよりも、自家で梅その他の果物を原料とするシロツプを自製して用ゆるの急なることを主張してゐるものである。○六月十九日、萬國郵便物聯盟に加盟する。

○八月十二日、内國勸業博覽會を東京上野公園竹の臺に開催する。我國に於ける博覽會の嚆矢である。○此春以來、寫眞大いに流行する。然も四五年前までは、迷心にとらはれ、一回寫せば元氣を損じ二回寫せば命脈を縮むるなど無智の痴言をさらけ出してゐたものが今では無くてならぬ流行となつた。

○九月十一日、利子法頒布する。契約利子は百圓以下毎に年百分の二十、千圓以下百分ノ十五、千圓以上は百分の十二。又法律上の利子は原金の多少に拘らず、三分の六と定められた。

○九月廿四日、熊本に破れ、可愛ケ嶽に破れたる西郷は本國に退却し城山に立籠つたが遂に此日西郷以下は伏し全平定した。此役に出征した官軍六萬人中死者六千餘人傷者一萬餘人を出した、又賊方は出兵四萬人中死傷二萬餘人を出した。

○十一月、京濱間に試設されたのは明治十年の十一月であつた。これが一般のために交換局の開始されたのは明治二十三年以來のことである。此年全国的にコレラ病流行死するもの算なかりしと。

○十一月三日、天長節の夜會に歐米式の舞踏會が行はれたのが流行の魁である。

○此年十二月、東京築地にある外人經營の女學校で外人の手でやつたのが、その濫傷である。

明治初年東海道富士川龍川の渡船賃

御布告書
(明治四年七月發行太政官日誌第四十二號)
東海道、駿州富士川、遠州天龍川、渡船賃錢當分
別紙之通相定候條此旨相心得事。

富士、天龍、兩川渡船賃錢當分左之通相定候條、
定價錢の外酒代等乞請候儀無之様諸事地方は於て取
締可致事。
一、船賃の儀は當七月十五日より賃錢表の通り相定
候事。
一、並々の出船は曉六ツ時より夕六ツ時迄に可限事
但急用者の刻限に不拘出船可致尤夕六ツ時より、
曉六ツ時迄は都て定賃錢へ五割増の事。
一、増水の節止明の儀は從前の通り候事。
右之通相定候事。
辛未六月 民部省
富士川船賃
一、錢百五拾六文 一人一人
一、錢四百七十貳文 乘馬一匹に附共

一、錢六百三十貳文 長森駕籠一挺
一、錢四百七十貳文 引戸駕籠一挺
一、錢三百五十四文 垂山駕籠一挺
一、錢二百三十六文 兩掛分持共一荷
一、錢七百八十八文 大長持一棹
一、錢五百五十貳文 長持二棹
天龍川船賃
一、錢百七十貳文 一人一人
一、錢七百文 乘馬一疋口附共
一、錢八百七十貳文 長棒駕籠一挺
一、錢七百文 引戸駕籠一挺
一、錢四百七十八文 垂山駕籠一挺
一、錢百七十貳文 兩掛分持共一荷
一、錢七百文 大長持一棹
一、錢四百三十六文 長持一棹
右之通相定候事
辛未六月 驛遞司

明治十一年

第五編 明治天皇 御代四十六年記 第二章 明治十一年より二十年迄

伊勢新聞 山形新聞 農大之祖生 神田の大火 高崎の大火 内國公債 華族學校成 取引所始 大久保暗殺 陸奥宗光 竹橋騷動 御巡幸 函館大火 印刷局創始 參謀本部創立

○明治十一年一月、伊勢新聞創刊。○山形新聞、明治十一年一月創刊。○一月二十四日、駒野農學校を設けられ此日より授業開始。○三月十七日、神田區黒門町より出火三十六ヶ町、戸數四千五百六十一戸焼失。○三月廿八日、高崎市住吉町より出火七百戸を焼く。○四月、内國公債發行、四月全國に涉りて大いに公益事業を助け産業上の開發を圖るため其資金として内國債千二百五十萬圓を起す。
○六月、華族學校創立。六月一日開校となる。今の學習院の前身校である。○五月十五日、資本金二十萬圓の東京株式取引所創立。續いて七月十九日同様大阪に起る。○五月十四日、大久保利通殺さる。五月石川縣人島田一郎他六名、麴町紀尾井坂に大久保利通を刺す。○八月、陸奥宗光、林有造罪せらる。鹿兒島の亂に乗じて兵を京阪の間に擧げんとして發覺する。○八月二十三日、竹橋騷動起る。近衛兵二百餘人、西南役の恩賞について薩長の偏頗なる處置が不平の因をなして暴動起る。
○八月二十七日、明治天皇御發筆北陸東海地方普く御巡幸。十一月御還幸あらせられた。
○十一月十六日、函館市内門町より出火千二百戸を焼失する。
○十二月十日、大藏省に印刷局を置き官報、紙幣、その他官應用のものを印刷する。現在の職員、職工を合せて一萬數千人。
○十二月、陸軍參謀局を廢して新たに參謀本部を置く、時の陸軍中將大山巖參謀次長に任せられ超えて二十四日、中將山縣有朋總長となる。

水交社成

○十二月七日、芝公園内に海軍水交社成立し盛大なる式を擧げる。

明治十二年

朝日新聞創
學士會院始
梟刑廢止
山陽新報
勤儉の詔勅
府縣會の始
區町村會始
沖繩縣の始
育兒院の始
グラドスト
來朝
養老の典
皇室御慶事
競馬會の始
函館大火災
箱屋町大火
懷中日記始

○一月、大阪朝日新聞の前身朝日新聞生る。
○一月、東京學士會院を文部省内に置く。
○一月、梟刑を廢止する。一月四日太政官令にて梟示の刑を廢し、斬罪と定まる。
○一月、山陽新報、明治十二年一月創刊する。
○三月、勤儉の詔勅を下百官を戒飾する。○二月、初めて府縣會開會する。
○三月三日、高岡市御馬出町よりの出火二十八町二千餘軒を焼失した。
○區會町村會の始め。六月始めて區會町村會を開く法規が出来た。同じ名稱でも今日のそれは市町村制の發布によつて、自治の機能を與へられたものと比較にならぬほど貧弱たるものであつた。
○四月四日、琉球藩を廢し沖繩縣を置かる。藩主尙泰及尙典を入京せしめ位階を賜ふ。今の尙侯爵家の先代である。
○六月九日、府下佛教團體によつて福田會育兒院を設けたのが孤兒院の濫觴である。
○七月四日、前の米國大統領ゼネラル、グラドストーン氏夫妻で來朝する。その時氏の植えた記念樹が上野公園竹の臺の交番附近に繁茂してゐる。
○八月廿八日、明治天皇上野公園に行幸、養老の典を行せ給ふ。弓馬鎗劍の術を天覽となる。來朝中のグラドスト氏も陪席を賜はつた。
○大正天皇御降誕。八月三十一日、皇子嘉仁親王御降誕あらせらる。○九月教育令制定。
○この秋勸業寮からの馬匹改良の奨励の意味で、獎勵されたのが競馬のそも、始めてあつた。
○十二月、三備有志國會開設請願。○此月、函館大火焼失二千三百餘戸に及ぶ。
○十二月廿六日、日本橋區箱屋町より出火一萬五千八百餘戸を焼失する。
○十二月、官製「懷中日記」の始め、此月初めて、來十三年度用の懷中日記を印刷局が發行する。

明治十三年

中外醫事
安田銀行生
空氣枕の始
地方官會議
西南戰爭費
紙幣疑獄
正金銀行開
國會請願
集會條例
消費組合の
元祖
儲蓄法制定
御巡幸
刑法制定
新潟大火災
大暴風雨

○中外醫事新報。明治十三年一日創刊する。○一月、資本廿萬圓の安田銀行生る大安田の元祖。
○この春横濱某氏が和製の空氣枕を發明したので非常に流行して來た。
○二月五日、地方官會議に臨御天皇大政官分局に親臨し地方官會議開會の典を擧げ併せて地方官に陪食仰付けらる。二月二十七日地方官に親しく産業教育に就て詔を下さる。
○二月十三日太政官の調で西南戰爭に要したる征討費四百五十六萬七千○廿六圓餘と報告された。
○二月、流通紙幣につき一大改革取調べが行はれる。これより先き大阪商人藤田傳三郎兄弟及元山口縣令たりし中野悟一等にかゝる二圓紙幣質造の嫌疑起り、警視廳は泉州堺市の南禪寺まで出張して取調べを行ふ、三人とも無罪となる。
○三月一日、横濱正金銀行創立する。官民合資の特殊銀行である。
○三月一日、國會既成會大運動起る。全國二十二縣八萬二千人の總代百十四名、大阪市大融寺に集り國會期成同盟會を組織する。越えて四月十七日片岡健吉、河野廣中、委員となりて太政官に出頭して國會開設の請願書を捧呈する。○集會條例制定。四月一日集會條例發布する。
○五月、東京本所區横網町共立社なるものが出来。八百名の社員のために、米、薪炭、醬油その他日用必需品の共同購買を始めたのが、我が國に於けるこの種の事業の元祖である。
○六月、備荒儲蓄に關する法律が出来た。
○山梨、三重、京都行幸。明治天皇、六月十日御發轡、山梨、静岡、三重、京都に行幸、伊勢大廟、泉涌寺、畔なる先帝孝明天皇御陵に御拜あらせらる。七月、東京、京還幸。
○七月、刑法省雇佛國法律博士ボアアフナードを顧問として編纂された法律現行刑法の前身である。
○八月七日、新潟の大火災、焼失家屋五千五百餘戸に及ぶ。
○十月三日、關東地方大暴風雨あり、關東地方の被害甚だしく、倒壊家屋約三千五百餘戸、即死及負傷者三十五人を算へた。



和製ヴァイオリン
最後の仇討
大阪大火災

○ヴァイオリン製造の元祖、八月中、東京深川の琴三味線製造業松本定次郎氏によつて、外國品にとらぬ良品が發明製造された。
○十二月十七日、東京、橋區三十間堀住居華族黒田長徳邸内に於て父の仇と狙ふて判事一ノ瀬直久を刺殺し、直ちに自首したる福岡縣人舊秋月藩白井六郎なるものがあつた。ことの由來を聞くに、明治六年五月二十三日夜、父白井某を反對黨なる干城隊の者が、父母の寢所へ忍入り父の亙理及母をも殺害し、嬰兒の(妹に)まで傷を負せて逃げ去つた。一ノ瀬直久はその加害者の一人であつたと云ふ。
○十二月廿四日、大阪大火災、焼失家屋三千戸に及んだ。

明治十四年

記念祭記念章の始
明大生る
神田大火災
四谷大火災
憲兵の始
東洋自由新聞生る
博覽會開催
大日本農會の歴史

○一月、記念祭、記念章、記念碑等と記念の名詞を濫用せんまでに行はるゝやうになつた。
○一月十七日、西園寺公望岸本辰雄等に依て今の明治大學の前身たる明治法律學校有樂町に開校する。
○一月廿五日、東京、神田區、松枝町廿二番地より出火、西北風の烈風強よく忽ち八方へ延焼し、火先は隅田川を越えて本所深川にまで及び、焼失戸數實に一萬五千二百餘戸に及んだ。
○二月十一日、午後六時十分、神田區柳町から出火、これ又西北の烈風のため見る／＼火は四方に焼廣がり、神田日本橋内に於て焼失七千三百餘に及んだ。
○三月、西園寺公望、松澤求作、松田正久等東洋自由新聞を發行し自由主義を主張す。中江篤介も亦佛國流自由主義を唱へルソオの民約論を譯述する。
○三月一日より第二回内國勸業博覽會開催、東京上野公園内に於て開催する。
○三月、我國の農會發達は十二年四月下總牧場内、東洋農會、十三年三月、三田育種場内、東京談農會の組織が嚆矢である。十四年三月、東京農談會を淺草に開かれ、府縣勸業課員を以て勸業諮問會を開き此の機會に二農會が内務少輔勸農局長、品川彌二郎氏によつて合併せられ、茲に大日本農會設立する。總裁(會頭)故北白川宮能久殿下、幹事長品川彌二郎、次で十五年一月、大日本山林會、二月、大日本水産會創立する。明治十六年、宮内省は三會に恩賜金を下附され築地厚生館を貸與する。二十三年

西洋釘輸入の始
農省務省設
工大の之祖
職工學校生
横須賀行幸
生命保險始
東北御巡幸
開拓使官有物拂下事件
國會詔勅下
鹿兒島新聞
土陽新聞
大隈伯下野

赤坂田町御料地五千坪を無料貸與され、三十七年三食堂を設立したが大震災で焼失し、昭和二年四月新に六階建總延坪一、二八八坪の會館竣工す、農會は明治十六年七月は品評會規則を定め、八月に第一回農産品評會を東京に開催す。之が品評會の初りである。十七年獨逸グレイベン養魚場の依頼により金魚、鮮鯉を輸送し、二十一年三月、宮内省よりジエム・トウビット献上の瓜哇薯種子を下附される等、日本農業との發達のため早くより外國との交渉を保つた。昭和六年六月六日創立五十週年に當り現總裁梨本宮守正殿下より令旨を賜る。
○西洋釘の需要は、今春市内二ヶ所の大火災のために、内地製の釘では間に合ひ兼ねる處に目をつけ、た外、商が輸入したので忽ちその需用が廣くなつた。
○四月、農商務省設置する。○五月、小學校教則綱領を定む。
○東京職工學校創立。今の工業大學の祖父に當るもの、明治二十三年に東京工業學校となり更らに昇進して大學となる。
○五月十八日、御發聲横須賀へ行幸、觀音崎砲臺及び造船所天覽になる。
○會社の元祖は資本金十萬圓をもつて明治生命保險會社の生れたのが、我國に於ける生命保險會社の始まりである。
○七月二十九日、御發聲、東北より北海道を御巡幸遊され十月十一日御還御になる。
○六月、北海道開拓使を於かれてから投下された國費二千二百餘萬圓の多きに上つてゐる。此度廢廳に際し、開拓使の官有物一切を舉げて僅が三十萬圓、然も無利息三十ヶ年賦と云ふ破格の條件で五代友厚中野梧一等の設立する關西貿易會社に拂下げんとした處にこの事件が起つた。沸々たる輿論の攻撃にくつして遂に政府は拂下を取消するの止むなきに至つた。
○十月十二日夜、詔勅を下して、明治御維新の改革ありしより以來、國民が仰望止まざりし國會を、明治二十三年を期して帝國議會を開會することを國民へ宣示し賜ふ。
○鹿兒島新聞、明治十四年十二月創刊。
○土陽新聞、明治十四年十二月十四日創刊する。
○十月、不法なる北海道開拓使官有物拂下取消と、國會開設の急進論たる參謀大隈伯論旨免官となる

自由黨生る
日鐵生る
延岡の大火
厚司の始

○十月二十九日、今の政友會の祖父に當る自由黨、板垣退助を中心にこの日組織さる。
○十一月五日、日本鐵道會社創立許可さる。
○十二月廿八日、日向延岡中町より出火六百餘戸を焼失した。
○厚司織の始は北海道アイヌ人の織物で頗る丈夫である處から、その模造品を製造して賣り出したのが奈良縣の麻布商で上田新八郎と云ふ人である。

明治十五年

軍人に勅諭
士族に投産
五圓紙幣生
水産會生る
開拓使廢
遊就館成
時事新報
四谷の大火
伊侯渡歐
改進黨生る
帝政黨成

○一月四日、陸軍海人に勅諭下る。
○一月、舊藩士族救済のため投産の道を構じ、生活上の安定を授くべく八ヶ年間に涉り毎年八十萬圓宛賜ふことになつた。
○一月、日本水産業の改良發達を圖る目的として大日本水産會生る。今の法人がそれである。
○二月一日、五圓の新紙幣生れる。
○二月、開拓使を廢して函館、札幌、根室に三縣を置く、後三縣を廢し今の北海道廳が置かる。
○二月十五日、九段坂上靖國神社境内に遊就館成り開館式を擧ぐ。軍隊軍事に關する新なる参考館とも云ふ可きものである。
○時事新報、明治十五年三月一日創刊さる。
○二月十日、四谷區箕輪町より出火忽ちにして二千五百八十戸を焼き、火勢頗る猛烈であつたが、畏れ多くも皇居が風下にあたるを以つて軍隊まで出動して消防尤もつとめ幸くも喰止めることが出来た。
○伊藤博文歐洲各國憲法及議院制度取調べのため派遣さる。
○三月、大隈重信を中心とする同志によつて進歩主義を標榜する立憲改進黨組織さる。今の民政黨の前身祖父である。
○三月十八日、保守主義を標榜する政黨にして福地源一郎、水野寅次郎、丸山作樂の同志によりて組織さる、遂に發達も見ずして自滅した。

動物園成
板垣伯刺る

○三月廿日、帝國博物館の附屬として上野公園に動物園が設置され、一般參觀を許さる。
○七月六日、自由黨總理板垣退助氏黨勢擴張、民心喚起のため岐阜市に入り同志に迎へられて中敬院(佛寺)の演説會に臨み宴終つて歸らんとすとき、面會を求めて來たる相原尙文(小學教員)なるもの、突然短刀をぬいて板垣を刺した。その時板垣伯は從容として「板垣死すとも、自由は死せず」と大聲した。傍にありし内藤魯一は直ちに凶漢尙文を捕り押へ警官に引渡した。不幸中にも幸ひ此の疵は輕微であつた。相原は愛知縣下の小學校教師で保守主義を標榜する帝政黨の主義に共鳴し、板垣伯等の自由黨の主張を國賊視し、板垣伯を逆徒の如く思惟した誤解からにあつたことが後で分つた。彼は無期徒刑に處せられた。

鳥取の大火
縣會解散魁
鐵道馬車始
社會黨魁
高岡市大火
日本銀行始

○五月、御手許金三百圓を賜つた。○五月三日、鳥取市矢津町より出火四百五十戸を焼く。此時長くも明治天皇は、板垣伯の負傷を聞かせられ直ちに西四辻侍從を遣はして傷狀を御下問あり、石川縣令不信任を意味した決議をなさんとして解散さる。府縣會解散の元祖である。
○六月二十五日、東京新橋日本橋間に初めて鐵道馬車開通さる。
○七月、長崎に於て奈良縣人樽井藤吉首唱の元に東洋社會黨組織を企てしも結黨までには至らなんだこれが日本に於ける社會主義の主張されし始である。○七月九日、高岡市大火五百五十戸を焼く。
○九月十日、日本銀行生る、官民合同の特種銀行として此の日開業する。明治初年の金融界は舊幕時代に於ける貸付法とさしたる違ひなく、一二富豪の組織する爲替社なるものありしも、其後實業の發達するに伴ひ銀行を設け、明治十五年には今日の日本銀行を開業するに至れり、日本銀行成りて從來多數の國立銀行は廢せられ、茲に民業に移るに至れり。
○十月二十日、進歩主義の大隈重信は我意見の廟議に用ひられずして野に下ると共に立憲改進黨を組織し、一方には人材養成のために早稲田專門學校を創立して本日その開校式を擧行した。今の早稲田大學の先代である。○此年ランブ亡國を首唱した佐田介石逝く。享年六十五。
○速記術の創始、十月二十八日岩手縣人田鎖綱記なる人、その創案する速記文字を發表して以來、氏について、その術を學ぶもの續出した。
○十二月、上野公園内に東京帝室博物館成る。開館式に天皇臨幸ある。

ランブ亡國
速記術創始
博物館成

明治十六年

- 改造道路始
- 福島事件
- 官報創刊
- 若松の大火
- 水産博覽會
- 富山市大火
- 政黨有害論
- 出版會議所
- 生る工會議所
- 岡山監獄燒
- 天氣豫報の
- 發表
- 岩倉公薨去

○補修道路たゞき道の始本年、東京丸の内馬場前門外に、工施されたのが、補修道路の始りて、今
 のコンクリ道路や、マスファルト又は木造煉瓦、石造道路等の行はるゝ始めである。
 ○二月十二日、高等法院開かる、福島事件の審判が始まつた。事件の内容は自由黨河野廣中、愛澤寧堅
 平島松尾、澤田清之助、花香恭次郎、田母野秀顯等が薩長政府の顛覆を企圖し、岩代耶摩、六郡の人
 民を彈正ケ原に嘯集し、喜多方警察署を襲撃して縛に就いた。これが所謂福島事件である。河野以下
 五十餘人は國事犯の被告として皆獄に投ぜられた。
 ○七月一日より太政官日誌に代りて此日より官報發行さる。現時題目せる官報の二字は、時の太政大
 臣三條實美の書であるといふ。○五月一日若松市下市之町より出火千五百戸を燒失する。
 ○三月一日より五日にかけて上野公園竹の臺に於て我が國初めこの水産物大博覽會を開く、三月廿七
 日には天皇陛下の御臨幸もあり頗る好成績を収めた。
 ○四月廿六日、富山市柳町より出火百五十戸を燒く。
 ○四月、元老院藏版として米國に於ける政黨のために黨勢を悪用して害毒を流してゐる實狀を書いた
 書物を合川法學士の譯で發行して廣く頒布した。
 ○五月、商工業の發達を促し商業工業者の利益を圖る互助機關として東京商工會議所生れる。
 ○四月、岡山監獄より出火囚人二百人逃走する非常な騒であつた。
 ○六月一日より天氣豫報を市内の巡查交番所へ揭示することになつた。
 ○七月二十日、維新の功臣岩倉具視薨す（享年五九歳）公卿の中心人物にして、三條公と共に徳望高
 く、識見又高く、霸氣縱横大久保と提携して新政府の中心となる。三條は其の公正杉に似て岩倉は其
 材松に似たり、一は清烈水に似て一は鹹味鹽に似たり、共に國家棟領の器たるは疑ふ可くもあらず、
 公は京都岩倉村に幽居して、一時勢を觀望して經綸茲に成り、其著『草裡鳴蟲』を薩藩の同志に示
 して以來、忽焉として維新の風雲を捲き起したる維新政府の偉器であつた。

- 帝政黨解散
- 庄内新聞生
- 掛塚の大火
- 支那料理火
- 陶々亭生る
- 人造氷の元
- 高田事件天
- 誅黨盟約書
- 巡查帶劍
- 全國大旱魃
- 相撲之天覺
- 高野講習所
- 商電講習所
- 海野新聞生
- 下野新聞生
- 大野新聞生
- 神戶新聞生
- 鉸原の大火
- 兌換銀行券
- 東京朝日新聞

○九月、板垣伯を刺さんするまでに、相原尙文の如き暴漢を出すほどの頑迷なる保守主義者の集團で
 あつた帝政黨は誕生一年にして遂に解散する。○九月八日、遠州掛塚大火六百戸を燒失した。
 ○庄内新聞、明治十六年十月創刊さる。○九月八日、遠州掛塚大火六百戸を燒失した。既に廢業。
 ○十月、高等支那料理店借樂園資本三萬圓の株式會社となつて日本橋龜島町に開業した。既に廢業。
 ○大震後日比谷交又點近くに一個人の事業として借樂園の上をゆく、すばらしい百萬圓の大資本を投
 じたる陶々亭が生れた。又安直なる支那料理は今や全國の山村にまで普及した。
 ○十月、東京築地に東京製氷會社が出来て、翌年から盛んに販賣を始めた。
 ○十二月十一日、新制度を布かれてから河野廣中等の福島事件に次ぐ第二回目の高等裁判が開かれ、
 河野廣中等の福島事件に次ぐ國事犯の審判が行はれた。斯も高田事件とは、明治十五年十一月新潟縣
 高田市の赤井景昭外數人が天誅黨盟約書と稱するものを草して同志を集めて、時の大官を暗殺せんと
 した事件を云ふのである。赤井等は殺人罪として死刑に處せられた。
 ○十二月より、これまで上級の巡查のみ帶劍して多くは三尺の檜の棒を持つてゐたものが、この頃か
 ら一般巡查にも帶劍させることになつた。
 ○此の年全国的大旱魃で殆んど不作の地方もあり農民の苦痛おびたゞしかつた。

明治十七年

○三月十日、濱離宮廷遊館に於て東京相撲の天覽あり、宮内省より莫大な御下賜金があつた。
 ○三月、今の商業講習所商科大学の先々代の學校、明治八年に創始されたものである。
 ○三月、對馬海峡の海底に沈設する海底電信工事竣工し、朝鮮内地間の連絡成る。
 ○下野新聞、明治十七年三月創刊の栃木新聞の改題するもの。○五月、大阪商船會社開業する。
 ○神戶又新日報、明治十七年四月十七日創刊なる。○五月卅一日、鉸原宿大火百五十戸燒く。
 ○五月、兌換銀行券條例を公布さる。十八年五月より實施さる。
 ○東京朝日新聞生る、明治十七年五月創刊の自由燈の改題されたものである。

商標條例
上野熊谷間
華族令制定
防長新聞生
ダンス教授
の始め
岐阜新聞生
加波山事件
起る
天保錢通用
止め
魚形水雷天
覽
自由黨解散
人造肥料の
始めの笑話
朝鮮に暴徒
起る

○六月七日、商標條例を公布する。翌十八年專賣特許條例公布となる。
○六月十五日、上野熊谷間六十一哩鐵道開通する。
○七月七日、華族令を定め公侯伯子男の五爵を制定し、維新の功勞者を華族に列し優遇する又舊藩主たりし華族にも爵位を授かる。その新舊數五百五十人であつた。
○防長新聞、明治十七年七月創刊する。
○五月、参議伊藤、井上、西郷等當時の大官卒先して歐米習俗の舞踏を練習して内外人の交際を盛んにすべく舞踏會を起し、英人ヤンソンを教師として毎週日曜日毎に練習を始めたものである。然し、それは歐米文化に心酔するの餘りであつたが、昨今のそれは國民精神の弛緩による享樂を追ふて止まない頹廢的氣分からであることを知らねばならぬ。
○岐阜日新新聞、明治十七年七月創刊、岐阜新聞の改題である。
○九月二十三日、茨城縣人自由黨員富永安、琴田岩松等を先鋒とする數百人常陸國加波山に籠り、藩閥政府の顛覆を謀り、ダイナマイトの類をたくはへ大になす所あらんとしたが、日ならずして官憲に捕へられ、その多くは死刑に處せられた。
○十月、天保錢は天保十年十月に鑄造され中々幅を利かせた通貨で、最も庶民階級になじみの深い當百匁の天保錢も、いよいよ十九年十二月限りで通用禁止の運命に陥つた。
○十月七日、外國に注文したる魚形水雷が到着したので、二重橋外の廣場に於て天覽に供した。
○此年十二月、米國に開催された萬國博覽會へ本邦事務官として出張したる高峰讓吉博士は、人造肥料の出品物あるをみて我が農界に必らず利益ある可きを信じ、數萬圓の肥料を購入して歸朝、政府直轄の農事實習場にて試用した處非常に成績がよかつたので、民間に奨励したが、當時の民心頗る幼稚にして、幾ら肥料になるからとて、獸物の骨粉を入れて田畑を汚すことは出来ぬ云ふて使用するものは、皆無であつたと云ふほどの笑話が残つてゐる。
○十二月四日、又々朝鮮に暴徒起り大臣閔泳翊を殺害する、國王我公使館に援けを乞ふ、代理公使竹添進一郎兵を率いて王宮を警戒した。處が清國兵は暴徒を助けて王宮を攻め、併せて我公使館を襲ひ磯

天津條約成
鎮守府始
秩父暴動
勞働組合の
始

村大尉以下三十九人を殺し火を放ち公使館を焼くの暴狀で竹添公使も遂に身をもつて運れた。後朝鮮よりは償金を取り凶徒を嚴罰せしめて事は終はつた。要するにこの事件の背後には清國が動いてゐることを發見したので、伊藤博文を特派全權大使として清國に派遣し、當局と會見せしめ遂に朝鮮を獨立國と認めしめ、兩國ともに朝鮮に守備兵を置かないこととし若し必要の場合のみ双方豫め通知せんことを約して歸朝した。これを天津條約と云ふて、日清戰爭の由因をなすものである。
○十二月十五日、横須賀に鎮守府を設置され、第一海軍區となる、この地、元治以來幕府の造船所を置いた處である。
○十月卅一日、埼玉縣秩父郡風布村に暴徒起る富豪を燒勢甚猖獗極む。
○勞働組合の始めは、此頃秀英舎長佐久間貞一なる人、活版工組合設立に力を盡したのが始まりで、追々職業別の組合が出来るやうになつた。(註、現今では七百八十の組合がある又盛なりと云ふ可きか)

明治十八年

往復葉書始
濱松市大火
茨城新聞生
日出新聞火
甲州谷村火
節酒會生る
三菱の創始
專賣條例成
日本橋大火
女醫者の魁
新大橋成る
女師遠足嗜

○一月一日より初めて往復はかきを發賣する。○一月廿七日、濱松市肴町より出火百七十戸を燒失。
○茨城毎日報、明治十八年創刊する。今の茨城日報の前身である。
○日出新聞、明治十八年四月創刊する。○一月廿七日、甲州谷村町上町より出火數百戸を燒失した。
○二月二十二日、宮崎蘇庵外敷氏によつて大日本節酒會生る。
○二月三日、参議大隈重信その他の顯官と結託してそのラツ腕を振ひ金權三菱を創業すると共に我國實業上殊に航海業に貢献したる快傑岩崎彌太郎逝く。
○專賣特許條例制定、四月一日公布する。○三月十二日、日本橋區坂本町より出火千三百廿戸を燒く。
○三月、東京下谷區西門町の荻野ぎんと云ふ女性が先鞭をつけてゐる。
○四月、初代新大橋の木橋成る、長さ百九間五合、幅四間此工費八萬二千九百七十八圓。後年鐵橋となる。大地震でも驚官ひつ死の盡力で此橋のみは燒失を免れた。
○五月二日、富山縣女子師範學校生徒、中新川郡東岩瀬村海岸まで遠足會やる。女子師範の遠足はこ

- 富山市大火
- 災大阪大洪水
- 鐵管水道始
- 海水浴始
- 女學生洋服
- 婦人束髮會
- 郵船生る
- 華族女學校
- 責任内閣制
- 束髮流行
- 遞信省設置
- 萬年筆始
- 除蟲菊の始

の擧をもつて全國の初めとする。

○五月三十一日、富山市鉾指町より出火五十ヶ町六千餘戸を焼失する。

○六月、淀川はんらんし大阪市内外大洪水に見舞はる、人畜の死傷潰家流れ家最も多く、又流失したる橋梁二十八、又全國的にも水害甚ならず八十年来に稀なる大水害であつたと云ふ。

○洋式水道の始、七月横濱市浄水道成る。工費百廿萬圓本邦於ける鐵管使用の嚆矢である。

○海水浴の始、此年八月、軍醫松本順の奨めで、東海道大磯町に開始されたのが其嚆矢である。

○此年十月から、東京女子師範學校生徒の正服を洋服と定める。

○婦人束髮の始、七月經濟雜誌社の石川英作ドクトル渡邊鼎の兩氏の主唱で婦人束髮會が宣傳されたのが始まりである。

○十月に入つて、郵便汽船三菱會社と共同運輸會社の合併成りて日本郵船會社生る。

○華族女學校創立さる、十一月一日赤坂見附内に開校さる今の學習院女子部の前身校である。

○太政大臣、左右大臣、參議を廢し、責任内閣の制定なり、第一次責任内閣成る。總理大臣伊藤博文以下各大臣任命さる。

○此夏以來束髮大流行する。婦人束髮の流行を見込み「淺草の簪屋は束髮用洋花の花簪を製する由、又女髮結の中には既に束髮を習ひ込みしもありて、一度の間賃は五錢より十五錢と略々定まりたり、然るに此の束髮も月に五六度束ねずば見ぐるしかるべく、安値五錢とするも費用はこれまでと同様に掛るなれば儉約になるは簪簪のたぐひに過すとか云ふ。」東京日日新聞第四百四十九號、明治十八年九月二十四日に載つてゐる。

○十一月、工部省が廢され、遞信省が置かる。

○萬年筆の始、この年丸善書店が輸入品を販賣したのが嚆矢である。その流行は大正年代にあり又國産品もその頃から多く出来るやうになつた。

○除蟲菊の栽培は、明治十八年頃我が國に駐した埃國領事ギョルク氏の推奨にもとづき農商務省がその種子を輸入して、各所に配布したのが、今日の盛況をみる始めである。

明治十九年

- 二重橋正装
- 成る
- 北海道廳設
- 看護婦の始
- 公證人の始
- 名古屋新聞
- 公金拐帶
- 高崎大火大
- 改進黨會
- メートル
- 共立女子生
- 顧問官薨
- 長崎縣大火
- 豊州新報生
- 鎮守府設置
- 秋田の大火
- 地方官制度
- 名院長自殺
- 蓄音器の始

○宮城二重橋の改造、宮城正門の二重橋は本年設計建造されたもので、工學士で土木家久米民之助氏と工學士で美術家河合浩造氏の協同設計と云つてよい。但しその一つなる鐵橋の方は獨逸人技師の設計である。

○一月、札幌函館根室の他の縣を廢し北海道廳を置き道長官をして北海道一圓を管轄せしむ。

○此年二月、今の慈惠病院の前身とも云ふべき共立病院内に看護婦教育所を置きこの頃より看護婦の講習を開始したりと云ふ。

○二月で法律第二號で公證人規則が發布された。民事に關する公正證書を作る職をとるものである。

○名古屋新聞、明治十九年一月一日創刊の「中京新報」の改題されたもの。

○元老院書記の公金拐帶事件。此年三月十六日夜に、元老院書記江崎五郎なるもの會計課の金庫を開けて公金二萬七千圓を盗み、上州鼻高村へ高飛びした處を捕へられ、遂に輕懲役六年に處せられる。

○三月一日、高崎市住吉町より出火吉坂町相生町へ延焼三百餘戸を焼く。

○四月、立憲改進黨大會を開き大隈伯邸内で一大遊宴會を催す。

○四月、萬國メートル條約に加盟する。

○四月、服部一三、永井久一郎、手島精一、宮川保全、外數氏首唱の下に今の共立女子職業學校成り鳩山春子校長となる。

○四月五日、長崎縣喜津村黒木佐平方より出火百餘戸を焼失した。

○四月五日、豊州新報、明治十九年五月創刊さる。

○五月、全國の海岸を四海軍區に分ち各區に鎮守府及び軍港を設く横須賀、吳、佐世保、舞鶴。

○五月廿日、秋田市電信分局より出火三千七百四十戸を焼く。

○八月、大審院長玉乃世履自殺する原因不明。○地方官制度の改正行はれ、縣令は知事と改まる。

○この年、米國駐在の公使であつた陸奥宗光氏が、持ち戻つたのが始まりで、今は國産の優れたるも

大阪事件
地震研究創
産婆の留學
英船ノルマ
ントン事件
嬌風會始
萬代橋竣工

東京電燈始
天理教祖逝
海防整備
所得税法
前橋の大石
軍用鳩始

東京紡績
條約改正の

の出来て輸出するまでに達した。
○九月二十四日、自由黨員大井憲太郎、小林樟雄、新井章吾、影山英子女史その他の人々が、朝鮮に於て事を擧げんとしたる國事犯事件此日判決。大阪事件と云ふ。
○此年東京帝國大學に地震學講座が設けられ、爾來、研究と調査が進み、今は世界に於ける地震學の權威者を續出するまでに達した。○十月一月、産婆尾池よね二五産婆學研究のため渡米する。
○十月廿四日、英國汽船ノルマントン號は紀州大島沖にて沈没したとき三隻のボートに助かりたるは二十六人の歐洲人と一名の支那ボーイのみにて、邦人二十五名の乗客と印度人火夫十二名は一人も助からず、海底の鬼となつた、この非人道的行爲を憎まぬものなく、輿論は沸騰した我が五大新聞は遺族のために同情慰安の義捐金を募集した。
○十一月九日、キリスト教會に屬する多くの婦人が發起人となつて、婦人嬌風會が成立し、十二月六日日本橋教會で盛大なる發會式を擧げた。○十一月四日、新潟市萬代橋竣工、延長四百卅間ある。

明治二十年

○一月二十一日、東京電燈會社、始めて市中廣く點燈を開始する。
○二月十八日、天理教祖中山美枝子、享年九十歳で逝く。
○三月十四日、海防整備に就て海防費獻金の勅語下る。民間に海防費を献納して位階を賜る者多し。
○三月十九日、所得税法を公布さる。○三月廿八日、前橋小柳町より出火七百六十戸を焼く。
○三月廿三日、憲昭皇后陛下金剛石の御歌を華族女學校に下賜せらる。
○三月二十三日、最初、陸軍では、淺草觀音その他捕へしものを、伊豆の日金山その他三ヶ所にて放ち、元の棲地に歸着するか否かを試験したのであつたが、相當の成績を収むることが出来たので、いよ／＼軍用鳩を飼養することになつたのである。
○四月、歐米より歸朝した松方正氏等の發起の下に東京紡績會社創立さる。
○五月以來、來井上外務大臣は、各國公使と條約改正についての會議を開きつゝあつたがノルマントン號

蹉跌
歐洲彫刻
花井お梅
鐘紡生る
板垣授爵
日蝕皆既
盜ビストル強
名優の死
伏木水道火
横濱水道成
名人土道逝
美術學校
上毛新聞生
出雲大火結
大同團結成
北海道毎日
ゴム印始め

の非人道的行爲のため國論沸騰して排外思想激烈を極め無期延期の止むなき旨を各國公使に通牒した
○五月佛國に留學中であつた彫刻家合田清氏歸朝する。此人を先驅として歐洲式の彫刻盛んとなる。
○花井お梅の峰吉殺し、此年六月中世間の大評判となつた殺人事件、廿四歳で一本立の藝者となり、續いて待合を開業せるまでにスゴイ腕をもつた秀吉のお梅に、その雇人であつた箱屋の峰吉が主人秀吉に懸想したのが原因で遂に惚れた女に殺された譯である。無期徒刑に處せられたお梅は明治三十年六月、板垣退助華族に列し伯爵を授くるの恩命を拜辭してゐたが、聖恩厚く許されず遂に御請した。舞臺に起つて地方を興行した。○五月六日、鐘紡會社向島に開業する。
○八月十九日、午後三時日蝕皆既ある。此時刻東京に於ては九分四厘でありしたため、市中漸く暗くなりて、恰も朧月夜のやうで空飛ぶ鳥も時を急ぐほどの始末であつた。
○ピストル強盜、清水定吉此月十二日死刑に處せらる。日本橋區馬喰町興文社へ押入り短刀を以つて脅迫したる處主人鹿島長次郎が、金箱を抱へて出さないとピストルを一發放ち、長次郎に負傷せしめ、橋町四丁目の角まで逃げ出した處を巡回中の小川巡査に推呼されたので、直ちにピストルを發砲して續いて短刀を以つて同巡査に負傷せしめ、巡査のひるむ間に逃出し横山町二丁目又同巡査に追かけられ、丁度來合せたる他の巡査と共力して捕縛した。
○九月十三日、名優市川團十郎死す(年五〇)。○十月一日、伏木湊町より出火四百廿九戸を焼く。
○九月廿一日、横濱市水道竣工式を水源地に於て舉行する。
○四月、國學者矢野玄道、○六月、國學者權田直助、○七月、畫家松岡冠翠逝く。
○文部省直轄の美術學校を東京上野公園内に設置する。
○上毛新聞、明治二十年十月創刊さる。○十月五日、出雲崎大火六百六十戸焼失する。
○十月十日、後藤象次郎主唱で自由改進黨の兩黨に勸むるに小異を捨て大同をとり聯合して專制政府を倒壊すべしの説最も兩黨員の共鳴する處となつて忽ちの中に大同俱樂部が成立した。
○北海道毎日新聞、明治二十年十月創刊、北海新聞改題されたもの。
○この頃ゴム印發明された餘り高價なので廣く用ひられななだが、日清戦争後に廣く用ひ始めた。

島津久光逝
初代吾妻橋
成
保安條例速
行

○十二月六日、舊薩摩藩主島津久光、享年七十歳で薨去した。此月十八日國葬を以て葬らる。
○十二月、初代吾妻橋鐵橋成る、長八十一間五分幅七間五合工費十三萬六千八百四十二圓。大震後改架されて今のは二代目の鐵橋である。
○十二月二十五日、苟くも時の政府にたて衝く輩は帝都三里外に放逐すべしと云ふ即日施行の酷法だ時の警視總督三島通庸の辛辣な手腕をもつて、天下民生を憂ふる志士は一人も漏れなく、尾崎行雄、犬養毅、河野廣中、星亨以下三十六名を帝都から一掃し、天下を震撼させた悪法である。

その頃の世相を物語る珍らしき、然も悲惨なる出来事の數多の中より、當時の新聞に載つたものを一つ紹介する。

散髮師より泥的が増し

(東京日日新聞第二千七百九十三號所載 明治十三年十二月二十一日)

芝新堀町三十番地に住む髮結職伊藤金次郎(二十七年)は、おひく、職業が疎になるにつけ、是といふも畢竟は散髮の流行出したからだ、散髮は己らが讐敵だとへ泥棒をしても、散髮師にならぬとチョン雷の外は手もつけぬと云ふ一派を立て通す氣込は、儼然たる髮結社會の守衛家なりけるが、チョン雷の數は次第に減少するにより客の數は日を追て盡き、今はその日その日の暮しにも困るところより、豫ての望み空しからずでもあるまいて、何分貧に迫りて盗をする料見が出たものと見え、二三日前夜にまぎれて三田松坂町の加藤愛敬方に忍び入り、衣類數品をぬすみ取り風呂敷に包みて背負出したるが、早くも巡査に見咎められ跡をつけられしを、己れも其と心付き、早足に三田の功雲寺の裏の林の中へ逃込たれば、いよくあやしきものに相違なしと一も二もかく拘引となり、第三課へ送られたり、本はと云へば時世を知らぬからの事なるべし。

第六編 明治天皇 御代四十六年記

第三章 明治二十一年より三十年迄

明治二十一年

大阪毎日生
松本市大火
地方電話始
音樂學校始
政教社生

自治制公布

○大阪毎日新聞、明治二十一年創刊の大阪日報の改題である。
○一月一日、東京熱海(二十一里)間電話開通する。○一月四日、松本市大火千五百五十餘戸焼失。
○明治十二年に設置された音樂取調所は此月文部省直轄の音樂學校として更生した。
○四月三日、歐化主義の反動として國粹保存の叫び高く、政教社生その同人として有名なのは三宅雄二郎、志賀重昂、杉浦重剛、井上圓了、辰巳小次郎外數氏であつた。雑誌「日本人」は此日創刊號を出した。
○四月十七日、市制及町村制を公布する。翌明治二十二年四月一月より施行となる。法律第一號を以つて市制及町村制を發布するに際し當日長くも賜はりし
聖旨
朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ欲シ、隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益々之ヲ擴張シ、更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認め、茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム
明治二十一年四月十七日

内閣總理大臣 伊藤博文
内務大臣 山縣有朋

樞密院設置
天理教普及

○四月二十八日、陛下最高の諮問機關として樞密院を設置され。五月八日開院式を行ふ。
○四月廿日、天理教始めて布教を始めた、の教祖は奈良縣山邊郡三味田村前川みきと云ふ婦人である。

國民新聞生
新法二公布
水力電氣始
關西行幸
内國博覽會
アプト式始
芝三田大火
禁酒會生る
青森市大火
商法公布
民法公布
執達吏職務
火災保險始
府縣制定
沼間守一逝
農事修學所

○國民新聞、明治二十三年二月一日創刊さる。
○二月一日、裁判所構成法公布さる。金鶏勳章條例を公布さる。
○三月、琵琶湖疏水工事を兼ねてその水力を利用して發電装置を爲したものである。
○三月二十八日、明治天皇東京御發轅、美濃、尾張伊勢灣に行はれたる陸海軍演習に統御あらせられ、それより軍艦高千穂に召されて吳、江田島、佐世保へ行幸あらせられた。
○三月一日より五月十日まで上野公園内に於て第三回内國勸業博覽會を開く。
○三月、竣工するもの、十三のトンネルを有し、急勾配を上下するにアプト式なるものを用ひてゐる。アプト式とは鋼鐵製鋼軌條及び鋼鐵枕を使用する、又その上を走る機關車もアプト式の車輪を有するもので普通機關車とは異なつてゐる。
○三月五日、芝區三田大火あり九百餘戸を焼失する。
○三月、日本禁酒會生る、元大酒家であり又領事をつとめた、安藤太郎氏が歸朝して、日本禁酒會を旗擧げた。
○三月廿二日、青森市濱町出火あり二百五十餘戸を焼失した。
○四月一日、現今の商法の母である商法は明治十四年以來商法編纂委員を置き獨逸法律家を顧問として草案を作製し審議を重ねて制定したるもの本日發布さる。
○四月一日、現今の民法の母である民法は、明治八年以來民法編纂委員を置き佛國法律家を顧問として草案し審議を重ねて制定されたる法律本日發布さる。
○四月一日、民事訴訟法公布。と共に、その法規の下に執務するを執達吏と云ふ。
○五月一日、日本の如き木材を主とする建築家屋には最も保險は必要であると長い間の懸案であつた、火災保險會社はこの五月末成立した。最初の資本金は二十五萬圓であつたが今日では積立金のみでも五百萬圓を有し、資本實に五千萬圓の大會社である。これが又火災保險會社の元祖である。
○五月一日、府縣制及郡制公布さる。
○五月十七日、沼間守一逝く、舊幕臣言論に文章に大いに政治思想の喚起に努めた人。享年四十八。
○六月一日、農科大學と昇格した駒場の農林學校の前身は遠く明治七年に内務省勸業寮内藤新宿出

生る
貴院選舉始
衆議院選舉
版畫の名人
村田瀧子逝
運河竣工
政友會の先
元老院廢止
社會問題研
究會始
大阪大火災
教育勅語下

張所(今の新宿御苑)に置かれた農事修學場であるのである。
○六月十日、第一回貴族院議員の選舉が行はれた。
○七月一日、いよ、第一回衆議院議員の總選舉が行はれ、極めて平穩裡に修了した。
○七月十三日、版畫名家柴田是眞歿す(年五〇)。
○七月、吉田松陰を生んだ村田瀧子は長州萩の藩士杉百合之助の配である。貧困の裡に在つて子女を教育し傑物吉田松陰を大成させたのであつた。○六月十八日利根川江戸川を連絡する運河落成竣工式を擧ぐ。
○八月一日、愛國黨及び自由黨を解散して立憲自由黨を組織する。その後幾多の變遷はあつたが、その系統を引くものが政友會であることは云ふまでもない。
○十月一日、元老院廢止さる。その議員の多くは選ばれて貴族院議員となる。
○十月一日、三宅雄二郎、片山潜その他によつて社會問題研究會を起し學理と實際の兩面から研究を進めんとするものなり。○九月五日、大阪大火西區新町より大火死傷二百名家屋二千を焼く。
○十月三十日、教育に關する勅語下賜さる。
朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ齊セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ヲ弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
中外ニ施シテ停ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ
明治二十三年十月三十日
十一月廿五日、第一回帝國議會召集さる。貴族院は伊藤博文を議長に選ぶ。衆議院は中島信行を議

横須賀大火
土艦沈没
陸奥日報始
京濱電話始

明治二十四年

議事堂焼失
三條公薨去
松代大火災
ニコライ教
堂成
府縣制改正
松方内閣成
大津事件突
發

長に選ぶ。
○十一月三十日、横須賀市出火あり、全焼八百三十九戸死傷十二名を出した。
○九月十六日、土耳其軍艦紀州沖にて難風に遭ひ沈没する、不幸中の幸にも乗組員は救助されたので、我が軍艦をもつて乗組員を本國に送還した。
○陸奥日報、明治二十三年十一月創刊される。○十二月廿六日、東京横濱電話交換局開設される。

○一月二十日、帝國議事堂火を失して全焼する。
○二月十八日、維新の元勳三條實美公薨去(年五六)七卿の都落ちは維新史の花だ、三條大納言實美はその主動者であつた。議定官、右大臣を経て太政大臣の極官に上り多難な廟堂を統一した。維新史に缺くべからざる人物であつた。○四月廿四日、信州松代大火七百餘戸を焼く原因放火なりと。
○三月八日、神田駿河臺に工事中であつたニコライ教會堂竣工開堂式を擧ぐ。ニコライとは基督教の主教を主催する神父(牧師)の名をとつたものである。この宗派は革命前の露國の國教であつて天主教の一派に屬するものである。皇居を俯瞰するほど高層にして形勝の地を占め、然も建築も宏壯美觀を極めてゐるので東京名物の一となつた。大震に一部は破壊したが今は修繕なつた。
○四月一日、府縣制郡制實施される。變則ながらも地方自治がゆるされた譯である。その後大正十二年にいたつて郡制は廢止された。本書の著者は郡自治の發達のために本制度の廢止を惜んだものである。著者獨りではない識者はこれを惜まないものはなかつたが、黨略上より政友内閣が廢止を決定しそれに反對した民政内閣が廢止を扱ふなど理路に合はない廢止であつた。
○五月二十五日、海軍擴張問題で行惱み引責したる山縣内閣のアトを繼いで松方内閣が成立する。
○五月十一日、露國皇太子日本皇室訪問のため來朝の途中、滋賀縣大津市に於て、巡査津田三藏のたぬに傷つけられる。朝野の警咳一方ならず。天皇陛下はその悲報が達すると共に急遽京都に行啓し御慰問の上、神戸に旋泊する皇太子殿下の御召艦まで御同伴遊された。邦人又各種團體或個人より御慰問

外務大臣引
責
中村敬宇逝
清國艦隊日
本威嚇
中央新聞生
經木眞田始
松本市暴民
内親王誕生
青森線全通
御茶水橋成
濃尾大地震
福翁銅像成
鹿兒島毎日
第二回國會

舞申上電報は一萬通以上に及んだと云ふ。
○五月二十五日、内務大臣西郷從道、外務大臣青木周藏の兩氏は、露國皇太子遭難事件突發の責を負うて辭した。直ちに内務大臣に品川彌二郎、外務大臣には榎本武揚氏が任ぜられた。
○六月七日、明治興學の巨人敬宇中村先生逝く。江戸幕臣の家に生れ、十七歳聖堂入つて漢學を學び業成つて學問所教授となる。攘夷の説漸盛なるに及んで佐久間象山について海外の事情を知るに及び、攘夷論の根據の薄弱なるを疑ひ、先づ彼國に渡つて實状を研究する急務なるをさと、遂に儒冠を抛つて慶應二年英國ロンドンに遊學した。研究三年に歸朝、新日本の建設に必要な人材養成に着眼して小石川に同人社を興した。福澤諭吉翁の慶應塾と共に國家へ貢したる學績は大きい。吾等の青年時代立志の糧となつた西國立志編は實に先生の譯著である。
○七月十一日、清國水師提督丁汝昌は甲鐵艦遠征以下數隻を率ひて威風堂々横濱に來泊し朝野の名士を招饗した。
○中央新聞、明治二十四年八月創刊の東京中新聞の改題せしもの。
○八月、東京府下大森町川田某父子の苦心によつて經木眞田發明され、今は全國に普及して海外輸出品となつてゐる。○五月廿二日、松本市暴民蜂起して警察署及郡役所を襲撃した。
○八月七日、内親王允子女王御誕生遊さる。
○九月一日、日本鐵道會社青森本線七三六杆四全通する。
○十月十六日、工學士原龍太氏の設計に據るお茶水鐵橋竣工し今日開通式を擧ぐ、大震後橋幅を擴けて大修繕が加へられたのが今の鐵橋である。
○十月二十八日、午前七時震天動地の大地震は著者の生國濃國根尾谷に震源を發して、濃尾の山野を震蕩した。古來稀れなる大震災で、人畜の死傷その幾萬を算へ、家屋の倒れ焼けるも又幾萬、其慘狀、關東の地震に勝る被害であつた。家屋潰焼廿五萬戸、死傷二萬五千餘人。
○十月二十九日、芝區三田慶應義塾創始者福澤諭吉翁の銅像成る。
○鹿兒島毎日新聞、明治二十四年十一月三日創刊される。
○十二月二十六日、第二回帝國議會海軍擴張問題で政府當局と衝突遂に本日解散を命ぜらる。

明治二十五年

- 下野日々生
- 興信所の始
- 静岡大火
- 豫戒令公布
- 總選舉行大
- 干渉行はる
- コートの流
- 御影の大火
- 岩手日報
- 神田大火災
- 足利の大火
- 群馬縣大火
- 第三回國會

○下野日々新聞、明治二十五年創刊の關東新聞の改題するもの。
 ○本國興信所の元祖、本年大阪市に開業されたるものがその嚆矢にして、二十九年には東京に東京興信所が設立された。○一月八日、静岡市大火七間軒町が火元で七百五十戸を焼く。
 ○一月豫戒令制定さる、解散による總選舉を前にして、閣族政府の非常手段と見らる可きもの、果して二月の選舉には殺傷夥だしきまでに干渉が行はれた。
 ○二月十五日、いよいよ總選舉となつた。豫期した以上の大選舉干渉が行はれた。各府縣に於ける選舉運動には史黨と野黨の衝突に至る處白刃が振りかざされ死傷するもの夥だしかつた。これは時の内務大臣品川彌二郎氏の史黨の吏黨のために無理な應援をしたからだと非難された。昨今の競争は黄金第一戦であるが、その頃の競争は腕力第一であつたから堪らない。斯くまでして矢張吏黨は大敗した。政府黨は少数であつた。
 ○吾妻コートの流行始、一時全盛を極めたるシヨールが廢れて猫も杓子もと云ふ状態で吾妻コートが流行し出した。○一月十二日、兵庫縣御影町大火、小網與八郎方より出火五百餘戸を焼く。
 ○岩手日報、明治二十五年三月創刊さる。
 ○四月十日、東京神田區猿樂町より出火、折柄の大風忽ち四方に廣がり遂に鎌倉河岸まで延焼する災害戸數一萬五千戸、死傷もあつた。○二月廿八日、足利市大火辻豊吉方より出火三百戸を焼く。
 ○四月九日、群馬縣南甘樂郡神川村御荷山より出火、山下の村落へ延焼數百戸を焼き死傷五十三名、生死不明七名を出した。
 ○五月二日、第三回帝國議會召集さる。絶對多數を占めたる野黨は自説をとつて譲らず海軍擴張問題で又々衝突する。彼の稚氣満々たる豪傑大將海軍大臣樺山資紀が當局大臣として、議員の質問に答ふるに、おぞくも「天下は薩長の天下なり、海軍は薩の海軍なり」と高言したからたまらない、自由黨の雄新井章吾から小ビドク突込まれ樺山大臣の失言から議場は大混亂に陥入つて了つた。又政界の元老であるなどと自惚れて高く止つて御座る、元田某の如きも當時にあつては、薩長の走狗となつて毎時も民論をよくあつする吏黨であつたことを聞いたら今の若い人達は開いた口が閉がるまい。
 ○中國新聞、明治二十五年五月創刊さる。○五月四日、札幌市大火一千戸を焼く。
 ○六月、陶器製標札、東京淺草某が考案したものを專賣特許を得たのが使用され始め。
 ○福島民報、明治二十五年六月創刊さる。
 ○六月十六日、初めて小包郵便法施行さる、但し當時にあつては全國での樞要地の二百餘局で取扱ひを開始した。料金の如きも今日の鐵道便のやうに、その距離によつて甲乙があつた。
 ○六月、國民協會とは吏黨は集團でこれが中心は今の貴族院議員に多いし當時は中央新聞經營者大岡育造、佐々友房、元田肇(今の政友會顧問)等であつた。
 ○六月九日、浮世繪の大家大蘇芳年歿す。
 ○中國民報、明治二十五年七月創刊さる。
 ○八月二十九日、悪辣なる選舉干渉をやつたる責を引いて松方内閣倒壊さる。即日第二次伊藤内閣が成立する。○七月廿五日、徳島地方慘害暴風雨と海嘯で被害激甚であつた。
 ○十月二十一日、栃木縣に舉行さる陸軍大演習御統監のため行幸仰せ出さる。當日陛下には大元帥の軍服を召させ給ひ正帽大勳位を大綬にて御佩用になり、例の如く徳大寺侍從長御陪乘にて上野發宮廷用列車に召されて、宇都宮大本營に安着あらせらる。
 ○二十二日大元帥陛下より南北兩軍司令長官に御下附になりし大演習の一般方略は下の如くであつた。

- 中國新聞生
- 陶標札發明
- 福島民報
- 小包法開始
- 國民協會生
- 大蘇芳年
- 中國民報生
- 松方内閣倒
- 徳島の慘害
- 關東大演習
- 静岡民友
- 同大火

△北軍、仙臺及その附近にあつた北軍は數十隊となりて東京に向ひ前進す。南軍、東京附近に集合す。南軍は進みて北軍を迎撃せんとす。二十四日北軍は氏家より益々進軍し宇都宮を侵略せんとする形勢あり。南軍は昨夜來之を迎へ撃んだため平井出の原に防禦の準備をなし午後一時より戦端を開き非常の激戦あり。統監陛下には午前八時大本營より平井出の原に御出馬あらせられ兩軍の戦術を天覽あり。休戦後直ちに兩軍司令官を召させられ今日の演習の講評あり畢つて御歸營遊さる。
 ○十二月十日、人宿町より出火四百戸を焼失した。
 ○静岡民友新聞、明治二十五年十月創刊さる。○十二月十日、人宿町より出火四百戸を焼失した。

山田顯義薨

精工舎始

千島艦沈没

伊達宗城逝
靜岡新報生
第四回議會

默阿彌逝

川上の渡歐
直訴を企つ

○十一月一日、維新の功臣山田顯義逝く。維新の際、東北軍征討軍に功あり功あつて陸軍中將となる。後司法大臣となつて、法政上に功績少からず、華族に列せられ伯爵を授けらる。伯は時の趨勢に鑑み國粹保存を以つて國家百年の大計と主唱し、先づ司法官の服装を純國風に改め、亦國學院及日本法律學校今の日本大學を起して人材を養成した。二十五年十一月歸省し、山口より歸京の途次、維新前平野國臣が義旗を擧げたる生野銀山を探ねて山中に卒倒し遂に起たず。四十九歳であつた。

○十一月、今、柳島に全盛を極める精工舎は初本所區石原町に産聲を揚げた當時は、微々たる製産高であつたが、經營者の努力むなしからず遂に今日の大をなして輸出するまでにいたつた。

○それより先き英國に注文したる軍艦千島號は、其艤裝了り、日本士官の手に依つて回航し、その十一月三十日瀬戸内海、愛媛縣堀江沖へ差かゝつたとき、英國彼阿會社の汽船ラベンナ號と衝突して、空しく海底に消えて了つた。爰に於て、我が政府は彼阿會社を相手取つて八十五萬圓の損害賠償を迫つたが、無慘にも敗訴となつて了つた。翌二十六年冬第五議會の開かるゝや直ちにこれが政治問題となつて、改進黨は政府に突喚した遂には十二月九日の議場で上奏案が提出されんとするまでに至つて議會は停會に次ぐ停會され、果ては解散となつて了つた。

○十二月伊達宗城逝く、舊宇和島藩主、明治二年九月民部兼大藏卿となつた。四年四月には欽差大臣として清國に赴き隣好を修め修好條約を訂してかへる。維新の偉才である。年七十六歳で逝く。

○靜岡新報、明治二十五年十二月、創刊さる。○十二月廿九日、第四回帝國議會召集さる。

明治二十六年

○一月二十二日、戯曲家古河默阿彌逝く（行年七〇）嘉永安政から明治廿五年迄で長短八百の新作を出した江戸劇作者、前名は河野新七。通稱吉村新七。日本橋式部小路の質屋の子と生れた。五代目鶴屋南北の弟子にして明治時代の立作者であつた。○一月新派の巨頭川上晋二郎海外興業に渡歐する。○一月飽くまで民力涵養を標榜してゐる野黨は遂に又海軍擴張費用問題で衝突して停會を命ぜらる。○二月七日、長崎縣嚴原町吉田八助は地價修正願の趣き一封に認めて二重橋外で直訴を企て直ぐ押へられた。

製艦費詔勅
松坂の大火
郡司大尉の
壯舉

初代鹿橋成
吾妻山噴火
福島中佐の
遠征

相馬事件起

北國新聞
二六新聞
星長除名
辯護士法公
議會解散

總選舉死傷

○二月十日、容易に議會の協賛する處にならぬ、海軍擴張の急務なるを憂慮なされ、文官月俸十分の一を製艦費填充のため献金する勅語下る。○三月廿五日、伊勢松坂魚町より出火千五百戸を焼く。○三月二十日、海軍大尉郡司成忠氏報效義會を組織して極北の警備と拓殖開發を目的として、同志百餘人を募り、占守島に移住すべく、隅田川より數隻のボートに分乗して彼の地に航行すべく一大冒險を企てた。この行程一千九百廿七海里市民は盛んなる送別の宴を隅田川畔に張つて見送つた。

○四月、鹿橋架橋長八六間四分幅七間の鐵橋、工費七萬九千〇三八圓をもつて竣工した。これは大震災で焼失して了ひ、今の鐵橋は二代目である。○五月十九日、福島縣吾妻山噴火した。

○六月二十四日、伯林の日本公使館付武官であつた福島中佐は任滿ち歸朝する際、單騎西比利亞橫斷を思ひ立ち、二十五年二月十一日紀元節の佳辰伯林を出發歐亞無人の行程三千八百里を十有七月、即ち四百八十餘日を経で浦鹽に出でそれより便船して東京へ着いたのは六月二十四日であつた。古今未嘗有の大遠征者を迎へた東京市民は實に狂せんばかりに盛大のものであつた。

○六月、子爵家の人々が舊相馬藩主誠胤を狂人として一室に監禁し刺つさへ毒殺したりと舊臣錦織剛清なる人の告訴によつて一大疑獄は突發した。事件の關係者の中には名士や高官も加つてゐるので、天下の耳目を聳てしめた。遂には青山の墓地を發掘して死體を解剖に付して毒素の有無を取調るまでに進行して遂に免訴となり却て錦織の他は誣告罪に問はれて終局を告げた。

○北國新聞、明治二十六年八月創刊さる。○二六新聞、明治二十六年十月二十六日創刊さる。

○十一月廿九日、衆議院は議長星亨を收賄の嫌疑で不信任を議決し、更らに十二月十三日除名した。

○十二月二日、舊法による代官人規則を廢し法律第七號をもつて辯護法公布さる。

○十二月、第五議會は軍艦千島號の問題で再停會を命ぜられ、遂に十二月三十日解散に了つた。

明治廿七年

○三月一日、臨時總選舉行はる栃木縣の星亨と横堀三子の競争最も激烈壯士の死傷するもの百十七。

銀婚式舉行
 記念切手始
 金玉均暗殺
 國會解散
 東學黨蜂起
 山形市大火
 朝鮮風雲急
 條約改正始
 京濱の地震
 國王拜謁
 信州飯田燒
 清國出兵
 大島公使に
 發砲する
 豊島沖海戰

○三月九日、聖上御成婚後滿二十五年に相當するをもつて、今日銀婚式の祝典を擧げらる。全國々民を擧げて此大典を祝せざるは無く、殊に東京市の如きは町内各數々の飾り物に趣好をこらし或は山車を引出し、折柄の大雪であつたにも係らず九日より三日間に涉りて祝儀は殷賑を極めた。○此日遞信省は此大典を祝せざるは無く、記念切手を發行した。これが記念切手發行の濫觴である。○三月廿八日、朝鮮の志士にして又日韓合併の急先鋒たりし金玉均氏は洪鐘宇に上海で暗殺さる。○五月二十日、第六回帝國議會召集さる。三十一日解散となる。○五月三日、朝鮮全羅道に東學黨起りこの勢力強大にして猖獗を極めしかば、天津條約を無視して清國は祕かに出兵した。我國は朝鮮の形勢甚不穩であるので清國に通知して在留民保護のため兵若干を仁川に上陸せしめた。○五月廿六日、山形市蠟燭町より出火千三百戸を燒失する。○六月一日、歸朝中であつた大島公使朝鮮の風雲急なるをもつて急に歸任する。○六月三日、長らく行惱んでゐた條約改正は漸く氣運が到來先づ英國との交渉が成立して改訂された。○七月十二日、京濱地方地震あり近衛歩兵第二聯隊では、炊事場の烟突が折れて兵士の死傷するものがあつた。東京横濱市中にも多少の被害があつたが大したことはなくて済んだ。○七月三日、我が大島公使は國王に拜謁して、五箇條の改革案を實行なされんことを求む、國王喜んで嘉納さる。○七月十五日、我が大島公使は清國が天津條約を無視して無斷に牙山に出兵したることを責め、又韓國王に謁して清韓條約の廢棄を迫る。○七月二十三日、我が大島公使は大院君を擁護して王城に入らんとした時、憫氏隨兵突然公使に向ひ發砲したので公使の隨兵は彼に應戦して忽ちの内に之を退け、王城に入りて國王に謁見した。王は大に我が好意を喜ばれた、大島公使清韓の密約を再び廢棄せんことを王に求めしに王も意よく之を嘉納されたので袁世凱にこの旨を通知し京城を退去せしむることになつた。○七月二十五日、豊島沖にさしかつた吉野、浪速、秋津洲の我軍艦は牙山に上陸せんとする陸兵一千名を乗せた高升號は三隻の軍艦に護衛されて豊島沖にさしかつたの認められた折柄ら、突然彼より發砲したので我艦は直に應戦して、高升號を沈没せしめた。それに驚いた敵艦は浪を蹴立てて遁れ去つたが操江號のみは逃げ後れたので忽ち我艦隊に捕獲された。○七月二十九日、牙山に駐屯する清兵を一掃すべく出動した松崎大尉の一隊は安城渡を進軍する折柄大尉は武運拙なく、敵弾にやられた。續いて白神喇叭手も胸部を打たれた。然れども我軍は奮戦して遂に成歡の敵壘を抜き、牙山に追撃した、それより先き敵は數多の軍器彈藥を遺棄して潰走した。○七月一日、東京商品取引所設立認可さる。○八月一日、清國に對し宣戰の詔勅下る。○リボン製の元祖、年々需要が増してその輸入の多くなる舶來のリボンを防壓すべく國産リボンの製織を始めたのは、東京の岩橋謹次郎と云ふ人で、遂に株式會社まで生れるほど盛んになつてきた。○九月一日、臨時總選舉行はる。本年二度目の選舉騒ぎである。○九月十三日、大元帥陛下には、東京御發筆、十五日には廣島大本營に入らせらる。○九月十六日、我が第一軍は平壤略すべく進軍する。此時玄武門に向ひし一隊勇敢に攻むれども敵兵門を閉して頑強に防ぐ。此時原田一等卒は身を躍らして城兵を攀ち登り群がる衛兵の中に躍り込み當るを幸ひ難き仕し、手早く門に手を掛けて抜いたので味方のものどうと一時に侵入した。又牡丹臺に向ひし比志島支隊本隊と力を協せ攻立てれば忽ち、平壤は陥落し敵將左寶貴はこの戰で戦死した。かくて第一軍は鴨綠江を渡り九連城を抜き滿洲へ進軍する。○九月二十二日、伊藤中將の率ゆる艦隊はこの日海洋島沖で敵艦數隻と遭遇し一大海戰は開かれた。敵の北洋艦隊は東洋無比の大艦隊である。其主戰艦には定遠、鎮遠の甲鐵艦各七千噸がある。我々は僅々四千噸級の三景艦而も木骨の海防艦である。若利器の雄をもつてするならば戰はずして勝敗は明らかである。我が憂慮はこゝにあつたが、吹々たる一片の日本魂は更にかゝる弱點を顧慮しなかつた。十二隻の大艦、六隻の速力迫しめた。黄海變いよ、砲戰は彼より翻へして我を壓し向つてゐる。我艦隊は赤城、西京の劣艦を戦列外に避けしめた。西京丸も敵の重圍中に陥つた。樺山軍令部長の生死を利那、一弾ノ敵艦に肉迫した。西京丸も敵の重圍中に陥つた。樺山軍令部長の生死を元艦長先づ倒れ一番分隊長、航海長も又倒れた、西京丸も敵の重圍中に陥つた。樺山軍令部長の生死を

牙山の戦ひ
 東商品許可
 宣戰布告
 リボンの始
 再度總選舉
 廣島行幸
 平壤の戰爭
 海洋島の人
 海戰

第六編 明治天皇 御代四十六年記

ビルの元祖
兩羽大地震
戒嚴令施行
軍國議會
第二軍上陸
鳳凰城占領
旅順口占領
紅瓦寒大勝
假名垣魯文
第八議會

外に超越したる行動は却て敵を恐怖させ、味方に勇氣を與へ勵まして、敵の揚威、超勇を撃沈し、主艦隊をして威海衛に退き、自から起つ能はざるにいたらしめ、然も我艦は皆無事に根據地へ勝利した。

○三月、工學博士曾根立藏氏の設計で、丸の内に三菱が建築したる、今の東九號がビルの元祖である。

○十月二十二日、秋田縣山形郡地方大地震ありて人畜の被害甚ならず殊に庄内地方が甚しかつた。

○十月六日、廣島市及宇品港一帯を臨戰地境として戒嚴令を施行さる。

○十月十五日、第七期臨時議會を廣島に召集。軍事費一億五千萬圓は十分間に滿場一致即決さる。

○十月二十四日、大山大將の率ゆる第二軍は華園河口に上陸する。著者も亦そのとき二十歳で軍屬として從軍この地へ上陸した一人であるのである。當時の張切ればかりにきんちようしてゐた勃々たる國情を想起するとき、昨今の如き隋氣の滿ちた國情を眼前するとき慷慨禁ぜざるものがある。

○十月三十一日、第一軍鳳凰城を占領する。○十一月六日、第二軍金州城を占領する。○十一月十八日、第一軍岫巖城を占領する。○十一月二十二日、吾等の從軍した第二軍は旅順口を占領した。○十二月五日、第二軍復州を占領する。

○十二月十二日、第一軍は析木城を占領する。○十二月十三日、第一軍又海城を占領する。○十二月十九日、第一軍紅瓦寒に大勝利を收む。

○十二月八日、文藝の先輩假名垣魯文翁逝く、享年六十五。

○十二月二十二日、小説家にして猫々道人又は金花猫翁と號す。明治初年の文壇に鳴る。奇行百出の人物で新聞記者の先輩。輕妙の筆を以て花柳社會を描き、又新劇を立案した人。

○十二月二十二日、第八期帝國議會を東京に召集さる。

明治二十八年

蓋平城占領
有栖川宮
偽使節拒否

○一月十日、第二軍益北進して蓋平城を占領する。○一月二十日、第三軍榮城灣に上陸する。

○一月二十四日、有栖川宮殿仁親王薨去、軍國多事の秋此訃報に接する朝野哀悼限りなかつた。

○一月三十日、清國又々講和の使節として張蔭桓を派遣し下の關に来るも其正使に非らざるをもつて拒絶する。

榮城灣上陸
日島占領
丁汝昌降る
大平山戦ひ
田庄臺占領
休戰條約成
小松宮殿下
井上毅薨す
李鴻章來朝
澎湖島占領
李鴻章狙撃
さる

○一月三十日、榮城灣に上陸したる第三軍威海衛を占領する。澎湖灣の咽喉旅順口威海衛の砲臺は確實に我軍に歸した。但しこの戦ひで大寺少將を失つたことは遺憾であつた。

○二月七日、威海衛にある日島砲臺占領する。

○二月十六日、我が征清艦隊司令長官伊東中將は、旅順口を遁がれ威海衛の本居を失ひ、劉公島の一隅に逃避する北洋艦隊提督丁汝昌にいさぎよく降伏せんことを通告した。それに對し敵の提督丁汝昌は艦隊全部を我軍に提供するによつて士卒の生命のみを救助せんことを懇願し降を乞ひ、彼は自から毒を仰いで自盡したのである。

○二月二十四日、第二軍は更らに北進して太平山に戦ひ大に勝つ。大平山に戦ひ大勝したる第二軍はこの日乾線堡に戦ひ大いに勝つ。○三月四日、第二軍牛莊を占領する。○三月六日、第二軍營口を占領する。

○三月九日、第二軍田庄臺を占領する、それより先き朝鮮方面より北進して既に海城を占領してゐる第一軍との連絡確實につく。

○清國の希望を入れ、遼東方面の戰場に限り三月十日より本日まで休戰を入れた。

○三月十六日、有栖川宮の後を次いで小松宮依仁親王參謀總長に就かる。

○三月十七日、井上毅逝く、號を梧陰といひ肥後熊本士の漢學に深く法律に長ず、法制局長官樞密院書記官長、樞密顧問官、文部大臣たり。華族に列し子爵を授けられたのは憲法制定當時の功によるところ多かりしによる。

○三月十九日、清國特派講和全權大使として李鴻章馬關に來着する。我が政府は内閣總理大臣伊藤博文、外務大臣陸奥宗光を講和委員に任命し其二十一日より彼の交渉に應じ折衝することになつた。

○三月二十三日、北滿洲方面へ向つた軍隊とは別に更らに南方へ向つた我軍隊は南澎湖列島を占領し臺灣占領の前提を築いた。

○三月二十四日、講和會開催第四日、李鴻章は我講和委員と會すべく馬關の春帆樓に赴かんとする途上、六連發のピストルを手にした凶漢小山六之助のために要撃されて右頬を打傷さる。李鴻章は直ぐ

償金二億兩

博覽會開催

講和詔勅下

高崎市大火

紐足袋影没

京都に還幸

七尾の大火

似島検査所

福島民友

三國干渉來

遼東還付

新發田大火

大元帥陛下

に旅宿に引揚げた幸ひにも丸は浅く生命にかゝるほどでもなかつた。此凶報が大本營に電奏さるや、陛下は長くも陸軍軍醫總監佐藤進博士を馬關に急行せしめその治療にあたらしめらる。更らに無條件にて三週間の休戦を許さるゝことになつた。

○四月十七日、遼東半島、臺灣、澎湖列島の割讓金、償二億兩の提出であつた。

○四月二十一日、第四回内閣勸業博覽會を京都市に開催さる。

○四月二十七日、高崎市通町より出火六百五十戸を焼失した。

○四月二十九日、大元帥陛下に於かせられては、この日廣島御發聲京都御所に行幸あらせらる。

○四月二十九日、七尾三島町より出火九百餘戸を焼失した。

○四月二十九日、似島検査所開設さる。本書の著者も此所で一週間の健康試験を受けて宇品港に上陸、鐵道本隊と共に東京に凱旋し、その足で即ち壯丁検査に出た。

○五月四日、豫期せざりし三國干渉の暴舉來る。露西亞、佛蘭西の三國聯合して、東洋の平和を害するものとして遼東半島を清國に還付せよとの注告を我政府へ申込んで來た。彼等のこの暴舉に我が朝野を擧げて憤慨せぬはなかつたが、當時の我國状態は涙を呑んで之を忍容せざる可らざるにあつたので遂に五月十四日の詔勅によつて清國に還付したのであつた。

○五月十四日、遼東還付の詔勅下る。國民はこの詔勅を拜して臥薪嘗膽國力の培養を無言の内に誓はざるはなかつた。

○五月十四日、新發田町立賣町より出火九百餘戸を焼失した。

○五月三十日、昨年九月十三日廣島に大本營をおかれ御親征あらせられしより本日まで八ヶ月出征軍

凱旋

臺灣受領す

活動寫眞始

救世軍傳道

の始

北白川宮薨

去

根室の大火

自由黨政府

と提携

土匪蜂起

拓殖務省設

石巻の大火

進歩黨生る

江尻の大火

日銀改築成

隊と共に淋雨樞風の艱苦を共にあらせられたる大元帥陛下には滞旅二百有餘日にして、今日國民歡呼の萬歳場裡に東京に凱旋あらせられた。

○六月二日、臺灣總督に親任された樺山伯はこの日清國委員より臺灣に關する一切の引渡を受ける

○八月十日、大阪市南地演舞場にて初めて活動寫眞を興行さる。映寫僅か二分間位にて入場料は十錢

○九月二十二日、今より五十年前、英國東ロンドンの貧民窟で、大將ブウス夫妻の手によりて宣傳

を開始したるキリスト教の一派救世軍はこの日戦捷日本の傳道に着眼して日本に入つて來た。最初、

神田三崎町の棟割長屋の一角に彼徒のシンボル血と火の旗の揚げられ、遂に今日の發達をみるにいた

つた。敢へて我等は宗教によつて、地上に理想の黄金郷が來ると、迷信はしないものながら、新興日

本が彼等の運動によつて何んな刺戟を受けつゝあるかと云ふこと又は見逃せないと云ふ。

○北白川宮能久親王殿下臺灣に薨去。十一月五日、近衛師團長として征討の任につかれ、蠻煙瘴雨の

間に戦ひて、遂に篤き疾に罹らせ給ひ、御寶算四十九歳で薨じ給ふ。今は臺北の地に臺灣神社といつ

き祀られ英靈永しへに邊疆を鎮め給ふ。○十月三日、花咲町より出火千三百戸を焼失した。

○十一月二十二日、政府と自由黨との提携なり板垣伯内務大臣となる。

○十二月廿一日、第九期帝國議會東京に召集さる。

明治二十九年

○一月、臺灣土民蜂起し猛威を揮ふ我が掃蕩軍は頗る苦戦したが遂に之を平定する。

○四月一日、戦後大いに海外發展の要を認たる國狀は遂に拓殖務省を新設し高島綱之助を大臣に就任さる。但し翌三十年には廢止となつた。

○三月、進歩黨結成さる。この月一日、改進黨、革進黨、中國進歩の三黨及び大平俱樂部、財政革新會等各派合同して芝愛宕館樓上に結黨式をあぐ。

○三月、日本銀行石造建築落成する。設備のエレベーターは其頃としては觀者を驚かしたものであつた

- 増税の始め
- 内親王御誕生
- 露帝戴冠式
- 日露協約成
- 洋釘國産す
- 小樽市大火
- 鐵管事件
- 三陸大海嘯
- 女子判任官
- 全國水害
- X光線流行
- 松隈内閣成
- 西洋畫科始
- 新宮の大火
- 濠洲航路始
- 上州新報

○三月十五日、清國に勝つて即ち三國干渉で屈辱を忍んだ日本は、何うしても軍備擴張が急務となつて来た。これからいよいよ増税して、國民が苦しむことになる。

○五月十一日、皇女昌子内親王御誕生あらせらる。

○五月、露帝ニコラス陛下戴冠式あり、我が貞愛親王殿下を遣さる。山縣有朋公等隨行する。

○五月、朝鮮及滿洲問題に付日露協約成る。

○廿八年以來安田銀行が國産製造に着し幾多の失敗を重ねた末、遂に外國品を驅逐するまでに成功したの四十一年来のことである。○四月廿七日、小樽市住の江町より出火八百五十戸を焼失した。

○六月一日、既に昨年以來審理中であつた日本鑛鐵會社社長雨宮徹次郎同技師工學博士野呂某外數人にかゝる市水道鐵管不正納入疑獄公判開かる。

○六月十五日、岩手、青森、宮城三縣の東海岸に大海嘯が襲來した。折柄舊五月節の夜で地方の人は祝ひの歡樂に酔つてゐたので災害を被るもの、殊の外多かつた、と云ふ。死者二萬千九百九人負傷者三萬三千九十八人流失家屋一萬八千六百二十六戸潰家二千七百五十餘戸であつたと云ふ。著者は最近その地方を巡講したが古老の話によるとその海嘯の高さは二階屋の棟を越すほどの大波が襲來したものだ、と云ふことであつた。

○七月、逓信省郵便局、爲替貯金管理局には女子判任官登庸制定さる。

○七月、富山、岐阜、滋賀、長野、埼玉の諸縣水害大洪水で人畜の被害多く、田畑橋梁流失するすの夥しかつた。

○X光線應用寫眞の始、六月この方X光線の應用盛になる。

○九月三十日、第二次伊藤内閣増税問題で倒れ、松方大隈聯合の所謂松隈内閣成り大隈は内務大臣、松方が總理で成立する。

○九月、東京美術學校に始めて洋畫科を置く、和田英作、岡田三郎助、淺井忠留學生として佛國へ派遣さる。○八月二十六日、

○十月、郵便會社始めて濠洲航路を開く。

○上州新報、明治二十九年十一月創刊さる。○和歌山縣新宮町出火全燒九百八十戸に及ぶ。

- 熊野新報
- 京都新聞
- 製鋼所創立
- 短艇天覽

- 中央公論
- 英照皇太后崩御
- 大赦と保護
- 栗本鋤雲薨
- 金貨本位
- 水産講習所
- 鑛毒事件起る

明治三十年

○熊野新報、明治二十九年十二月創刊さる。

○京都新聞、明治二十九年十一月創刊さる。

○十二月、鋼鐵自給政策上福岡縣若松港に製鋼所を創設さる。

○十二月十八日、隅田川に於ける短艇競争天覽のため行幸遊ばさる。

○十二月二十五日、第十期帝國議會を東京に召集さる。

○中央公論、明治三十年一月創刊の反省雜誌の改題せしもの。

○一月十一日、英照皇太后崩御遊ばさるために鳴物停止仰せ出さる二月七日京都涌泉寺に御葬ある。

○一月、英照皇太后崩御に付大赦の恩命に浴くする人々を出獄後保護誘導して彼等を平安なる新生涯に導く可く、宗教家に長く監獄教誨師として罪人の生活生狀に理解と同情をもつ原胤昭氏は朝野の同情を受けて神田區内に免囚保護場を創立した。

○三月六日、維新の功儒栗本鋤雲翁逝く、吾等その頃廿三歳寄食する師重野博士の名代としての葬儀に參列してその靈を慰めた。

○三月二十九日、金貨本位制を採用し新たに五圓、十圓、二十圓の金貨を鑄造さる。

○三月二十二日、水産講習所官設となり、藤田四郎所長となる。

○三月二十二日、關東渡良瀬川沿岸の民人、その上流にある古河市兵衛の經營する足尾鑛山の工場より流出する鑛毒のため、農作物は愚か人名までも損傷するを恐れ、その害毒の流出を豫防すべき取締方を數年來政府に嘆願を繰返してゐたが一向要領を得ないので、栃木、群馬、埼玉、茨城四縣下の被害民一萬有餘は中央政府に請願し決死の覚悟をもつて願意を貫かんとして大舉上京を企てた、之を阻止せんとする巡查隊、憲兵隊と衝突し物情騒然たるものがあつた。遂にその中四百餘人農民は上京して政府へ迫つた。その中心人物は悉く凶徒嘯集罪人と云ふ罪名のもとに一時は入獄の犠牲を拂はざるを得なんだ。この騒が大なる刺戟となつてやゝ行届いか防害施設も出來たが、又一面には谷中村

八王子大火
帝國圖書館
京都行幸
佐渡の大火
瓜生岩子逝
御茶水慘殺
無電發明
京都帝大成
勸銀銀行始
米布合併
板谷大慘事
神前結婚魁
後藤新平
石狩大火
村井兄弟商會

の滅亡と云ふ大問題も附隨して起つた。(後述に、谷中村は日本地圖の上から削られてしまつた。)
 ○四月廿二日、東京府下八王子市大横町より出火全焼五千二百死傷四十餘人を出した。
 ○四月十七日、明治の初年以來書籍館として文部省の創設するもの此月勅令にもとづき帝國圖書館と改稱。
 ○四月十七日、兩陛下東京御發幸、京都御著、英皇皇太后御陵起工報告あり、八月二十三日御還幸あらせらる。○四月二十一日、佐渡相川町石控町より出火百三十六棟を焼失した。
 ○四月十九日、慈善家瓜生岩子六十九歳で逝く。淺草觀音本堂の直ぐ西脇、講堂の前の廣場の端にニコヤカな顔した石像が建つてゐる。それは實在の觀音様とも云ふ可き瓜生岩子刀自の尊き生涯を物語る記念物である。○四月廿七日、御茶水に婦人慘殺死體遺棄あり評判となる。犯人忽ち捕へらる。
 ○五月、我が淺野應助博士無線電信を發明する。○五月、瑞諾との新條約公布さる。
 ○五月、京都帝國大學新設さる。○四月二十日、資本金一千萬圓をもつて勸業銀行開業する。
 ○四月二十日、資本二十萬圓をもつて各府縣に農工銀行設立認可する。
 ○六月十九日、米國は布哇國を併合した夫より先き吾が政府は米布合併に再抗議をしたが功をなさぬ事を行進する多大なる犠牲も拂はれることを想像しないものは無からうと思ふ。果してその第十三號隧道工事の將に終らんとする時、工夫二女二十一名が、落ち壞れる土砂に生埋めとなるの悲惨のあつたことが記録されてゐることを。
 ○七月二十一日、東京日比谷大神宮拜殿に於て下記二組の結婚式が擧げられた。保科保二氏と棟方百世女、渡邊嘉吉氏と觀世ふゆ女。
 ○八月四日、維新の功臣後藤象二郎薨去享年六十歳。芝公園の隅に彼の銅像がある。民選議員の建白、征韓論、政權返上の建議等々王政復古に功績多大である。土州山内家の世臣、三十六歳で家老になつた。之より先き江戸に遊び英學を大島圭介に受け國老として大いに容堂を輔く。黒田内閣の時遞信大臣となる。○八月廿三日、江別村根本方より出火百五戸を焼失した。
 ○八月三日、その頃流行始めた巻煙草製造元京都村井兄弟商會の東京室町支店にバアジンと云ふ紙巻煙草を、福引景品付き大々的景氣をつけて賣出したが、其間に不正があるとして群集のために店をメ

川開の慘事
佐渡新聞生
智利硝石
汽車大慘事
長岡市大火
御歌所官制
永代鐵橋成
新潟騒擾起
日本ロビン
ン物語

チャノに破壊されると云ふ騒ががあつた。
 ○八月十日、例年の行事たる、兩國の川開きで、其夜煙火を觀るため兩國橋に群集した男女が橋の欄干に寄りかゝつたために忽ち數間破壊した爲につらくして數多の死傷者を出した。
 ○佐渡新聞、明治三十年九月創刊さる。
 ○九月一日、南米智利國との新條約成る。智利硝石の輸入は火藥の原料及肥料として年々盛んなり。
 ○十月三日、東海道線小山山北間に於て建築用列車脱線して谷底に墜落し廿七名の死傷者を出した。
 ○十月三十日、長岡市渡里町より出火一二三村處坂上町へ延焼三百五十戸を焼く。
 ○十月三十一日、宮中御歌所官制制定され。所長一人録事六人、寄人參候十數人を置かる。
 ○十一月一日、永代橋初代の鐵橋、長さ一〇八間幅七間八合の鐵橋工費十四萬〇四百四九圓。大震災でこれも大修繕を加はれた。
 ○十一月三日、新潟縣北越鐵道停車場位置問題にからんで大紛擾あり、遂に爆裂彈を龍ヶ崎停車場に投じて破壊する騒擾事件が起つた。
 ○十一月十二日、土佐國宇佐浦漁家に生れた萬二郎は、天保十二年正月五日十四歳友輩五人と鮫漁に出たが、突然の西北暴風に襲はれて四人は七晝夜を海上に漂泊した。尙高まる風浪に船は暗礁に乗りあげて破碎して了つたので、五人は遊いで附近の小島にはひ上つた處が、それが無人島で何うすることも出来ない。彼等五人は、毎日信夫翁を捕へて肉を喰ひ島中水が無いら僅かに雨水を貯へてそれをのみ、襦袢一枚で約半歳をロビンソン漂流記そのまゝの生活を續けてゐた。天の助けか六月四日大船が島の近く通過すのをみつけ一枚しか無い襦袢を脱いで棒先につけて五人のものが命のあらんかきりの大聲を揚げて助けを呼んだ處、幸ひにもその大船に救助され、四人は布哇國に上陸した。萬次郎少年は非常に伶俐で船長に愛されて十年を米國に同行して小學校に入れてもらふまでの幸運が授かつた。水夫となり或は桶職人なつて十年を米國に生活したが父母の國を一日も忘るゝことが出来なかつた。布哇に渡り十年前に別れた友人を訪ね、歸國相談をしたがその頃は未だ日本との交通がないので、布哇に渡り十年前に別れた友人を訪ね、歸國相談をしたがその頃は未だ日本との交通がない衛門はその前途の困難たるを察して既に死だ行助と共に屍を此土に埋ん決心したので傳藏、五右衛門

能代港大火
議會又解散
店頭新陳列
根室大火災
墨の貞操帶

と三人は清國通ひの米船に便乗して琉球沖まで回航したとき彼が用意にして来たボートに乗つて本船に厚意を叙して首尾よく漕着けたのが麻文仁間切港であつた。が困つたことには十年の外國生活でスツカリ日本語を忘れて應答の出来ないことであつた。けれども幸ひなことには鹿兒島より出張してゐる役人中に英語の話せる同胞があつたので、この次第がよく分り直ぐ土佐に歸ることが出来たと云ふ。然も萬次郎さんは廿四歳の若盛りその頃の新智識と云ふので幕府に召出されて御譜役格二十依二人扶持の侍となつて新日本の建設をつとむる一人となりて明治三十一年十一月十二日、七十二歳で光榮ある一生を了つた。○十二月十一日、能代港町より出火三百五十戸を焼く。
○十二月二十五日第一期帝國議會は増師問題で政府と意見を異にして衝突遂に解散された。
○吳服店陳列場の元祖、此年、三越吳服店が舊式の商賣法を更めて、顧客の自由に見るに便し、新營業法を發表したのに始まる。○十一月二十日、北海道根室に大火あり、全焼六百二十三戸を出す。

墨の貞操帶

(東京日日新聞第二千三百八十三號所載。)
(明治十二年十一月十七日所載)

深川區森下町の人力車夫萩原林藏(三十)は、至つて愷氣深き男にて毎日職業に出る前には女房のおかつ(廿五)の何處へか墨にて印をし晝飯に歸る時篤と檢ため、夫れから又た印をして出掛ける故、女房も馬鹿々々敷はありうるさくも思へど、是は又た名代の朴直なる女なれば、亭主の爲す如くに任せけるが、此ごろ林藏の弟の龜吉と云へるが、同時に引越して時々此處へ遊びに来るを兄は大不承知にて、夫れより後は晝の一度では濟さず日に三四度も歸り來りて、龜吉が來て居れば大腹立にて當り散し、左なくとも臭ひが變だ色が怪しいと、下手な衛生家が土用の牛肉を買ふ如く置しく小言を云ふにぞおかつも立ち切すして四五日跡に、本港町の親類某かたへ逃げ行き委細を咄して、とても私には辛抱が出来ませんと云ふ折から、林藏は例の檢査に戻り來りおかつが居らぬに狂氣の如く諸方を尋れて、遂に此家へ來り女房の顔を見るより怒鳴り込で、手を取て連れ歸らんとするを、某は止めて是迄の心得違ひをいゝと説諭しければ、林藏は一言も誤り入りて歸りたるが夫れより一層右の檢査が厳しくなり、其後仕事にも出ずして、朝から彼是れと口喧ましく罵りければ、流石のおかつも愛想がつきて、一昨日其筋へ訴へ出しとぞ是は女房の苦情が尤もらしい。

第四章 明治三十一年より四十五年迄

明治三十一年

元帥府設置
内閣更迭
日鐵罷業勝
每夕新聞
神戸新聞
露國進出
奠都祭
臺灣日々
議會解散
萬國郵便加
保安條例廢
政黨内閣始
美術院創立

○一月十九日、新に元帥府を設置、監軍部を廢し教育總監部設置さる。
○一月廿一日、松隈内閣に代り第三次伊藤内閣成立。
○二月二十四日、日本鐵道會社機關手矯正會給料値上の爲罷業斷行、上野・青森間列車二日間休止、翌日罷業團側の勝利解決、尙舊正會は毎月一日分の給料を積立て既に基金二萬圓を擁せり。之我國最初のストライキで且つ勝利及罷業基金積立の魁である。
○每夕新聞、明治三十一年二月一日創刊さる。
○神戸新聞、明治三十一年二月十七日創刊さる。
○三月二十七日、露國は清國より旅順口を租借した。
○四月十日、奠都三十年祭盛大に舉行さる。地方労働組合期成會は、労働大運動會を四月三日開備、四月十日奠都三十年祭に托し、八百人上野迄示威行進す。労働者示威運動の嚆矢である。
○臺灣日々新聞、明治三十一年五月創刊さる。
○六月十日、第十二回帝國議會、伊藤内閣の提出せる増稅案を否決し、遂に解散さる。
○六月十五日、萬國郵便條約、並爲替事務約定調印さる。
○六月二十五日、明治二十五年以來幾多の民權論者を苦しめたる保安條例廢止さる。
○六月二十二日、自由進歩派合同し憲政黨組織され大隈板垣を總理とす。伊藤首相亦之を可とし遂に辭職し、卅一日始めて政黨内閣組織さる。大隈伯總理大臣外務大臣を兼ね板垣伯内務大臣となる。
○第一回日本勸業銀行割増付債券を發行する。
○七月一日、三十年十月に岡倉覺三、橋本雅邦、下村觀山、寺崎廣業、横山大觀等日本美術院を創立

民法制定
赤帽の始
長英等贈位
収入印紙法
關門連絡始
關門天折す
江差日々
議會再度開
市開廳式
農婦甘藷
「紅赤」を發見

勝安房薨去
高等實業中
學校令
長距離開通
巖手毎日

し、此日開院式を舉行さる。
○明治十二年來ボアソナード等によつて起草されたものを更に修正せる民法公布さる。
○七月一日、日本鐵道の各驛の荷物運搬夫赤色帽を被ることになる。これから「赤帽」の名生る。
○七月五日、高野長英外百七十二名へ贈位さる。
○七月五日、山陽鐵道馬關驛と九州鐵道門司驛との接絡汽船を開始す。交通の便宜大に開く。
○九月一日より先憲政黨内閣の板垣、林、松田改進黨系の閣相と意見衝突十月二十九日辭職す。
○十月三十日、之より先憲政黨内閣の板垣、林、松田改進黨系の閣相と意見衝突十月二十九日辭職す。
○憲政黨分裂し、井日僅か四ヶ月にして政黨内閣互壞す。進歩派は憲政本黨と稱し自由派は漸く憲政本黨と稱し相抗争す。政黨内閣崩壊を共に官僚後繼し、第三次山縣内閣成立す。
○江差日々新聞、明治三十年十一月創刊さる。
○十月十一日、第三十回帝國議會召集さる。又其前、五月十四日特別議會が召集された。
○十一月十三日、東京市廳開廳式を上野公園に擧ぐ、市長として肥塚龍氏就職する。
○埼玉縣足立郡木崎村農山田いち（文久三年生れ）は耕作する八つ房種の中から七株の變異種を發見した。更らに淘汰固定されたものが今日甘藷の優良として歡迎されてゐる紅赤種である。

明治三十一年

富田見山は島田見山の誤記である

○一月三十一日、幕末人傑の一人樞密顧問官、勝安房薨去、文政六年江戸幕臣の家に生る、始め劍を富田見山に學び、後長崎に赴き洋學を學び海軍操練所教官頭取となる。安政六年十一月、軍艦奉行と共に米國に航し、又藩所調印の頭取となる。彼は無謀なる鎖國主義を排し、或時薩摩の西郷隆盛に面して互に國事を語つた事もあり、後江戶明渡しを斷行し兵火から救ふ。維新後は參議海軍卿等と歴任さる。
○二月、高等學校令、實業學校令公布さる。同時に中等學校令改正さる。
○巖手毎日新聞、明治三十二年二月創刊さる。○二月一日、東京大阪間長距離電話開通する。

登記法公布
著作權法成
拓銀條例成
平和會議
關稅法商法
川上操六薨
自由廢業魁
内地雜居
軍機保護法
富山大火災
大木喬任逝
箒川大慘事
田子浦大海嘯
教育費補助
ベスト發生
獨逸進出
圖書館令成
ブローカーの始
十四回の議會

○二月十三日、不動産登記法公布さる。
○三月四日、著作權法公布さる。○二十二日北海道拓殖銀行條例公布され三十年四月一日より實施さる。
○三月十一日、露帝ニコラスの提唱で和蘭國ヘーグに萬國平等會議開催さる我國よりも參列員派遣さる。
○四月一日より新關稅法及商法實施さる。安政以來の片務的關稅は今日より一掃されることになる。
○五月十二日、川上操六薨去す。西南戰爭、日清戰爭に參謀として勳功を立て、後參謀總長となる。
○六月、娼妓自由廢業の始め名古屋在留の宣教師モルフ氏の盡力で娼妓東雲なる遊女が法廷で争ひ遂に前借金そのまゝで自由の身となつたのが自由廢業の先例を開いたのである、東雲の自廢が成功したので、忽ち俗語東雲のストライキ節が流行した。
○七月十一日、茲に安政開國以來の屈辱的條約改正さる内外人對等となり、内地雜居となる。
○七月十五日軍機保護法、要塞地帯法公布さる。
○八月十二日、富山市に大火災あり五千餘戸焼失、○又横濱市に火災起り三千二百八戸焼失する。
○九月二十六日、明治維新の功臣大木喬任逝く。
○十月十七日、大暴風全土を襲ひ、青森本線箒川鐵橋に差掛つた際、暴風のため河中へ墜落、死傷者數十人を出す。○又同日東海道田子の浦を中心に大海嘯襲來し、富士郡丈けでも行方不明百餘名、死傷又三百を算し、人家の流失倒潰數百に達す。
○十月二十日、小學校經費の一部を國庫より補助する法律公布さる。
○十月五日、廣島市にベスト患者發生、神戸に蔓延し、續いて和歌山大阪地方に猖獗を極む。當局大いに防疫に努む。
○十月二十六日、獨逸は清國より膠州灣を租借する。
○十一月十日圖書館令公布され究學の途大に開く此月東京に銀行俱樂部開設され金融の圓滑を計る。
○ビルブローカーの元祖東京市で諸井時三郎なる人が斯業を開始した元祖で、三十五年五月には大阪の藤本氏が開始したものが今日斯業の盛大なる始めてである。
○十一月二十日、第十四回帝國議會召集さる。

明治三十三年

ベスト豫防
大正天皇
名婦名人逝
税所篤子
最初自動車
品川子爵薨
公有地稅免
産業組合法
治警法發布
小學生保健
未青年禁煙
感化法其他
義和團事件

○一月、廣島、神戸、大阪、東京等大都市に於てベスト豫防のため始めてネズミ買上を勵行し初む。
○二月十一日、皇太子嘉仁親王(大正天皇)九條節子姫と御成婚あらせらる。國を擧げて奉祝申上ぐ。
○二月十四日、歌人税所敦子逝く享年七十六。又廿六日、品川彌二郎子逝く。享年五十八。
○此度の御慶事に際し、米國在住の日本人一同が申合せて自動車を献上して御召料に願ふて来たが、その試運転に未だ技術足らず事故が生じ危険なので、献納者の誠意は、そのまゝ宮内省の倉庫へ納つたまふであつた。
○二月二十六日、明治功臣中の一人品川彌二郎逝く。
○二月二十六日、公共團體所有地の公用供給中の地租及公課免除令公布さる。
○三月七日、法律第三十四號産業組合法。未成年者喫煙禁止法、重要物産同業組合法公布さる。
○三月十日、治安警察法三月十日公布され以來、民衆の政治的進歩阻害さる。
○興業銀行法制定公布さる、但し施行は卅五年四月。
○三月二十六日、學生生徒の保健の爲め身體検査規定公布さる。又此月小學生児童のため郵便切手貯金の方法開始さる。
○四月一日、日清戰爭前後より巻煙草の流行甚だしく、果ては尋常一二年にして煙をくゆらす者續出し、國民の健康上由々しき問題となり、議會は政府當局と協賛し未成年者喫煙禁止法を制定公布。
○四月八日、感化法、精神病者監護法公布さる。
○五月三十日、清國北京に義和團蜂起し、排外を目的して暴動を起す。各國居留地を襲撃し、勢ひ猖獗を極め遂には日本公使館を焼かんとするに至り、老幼婦女を公使館に收容し、義勇隊を組織し、防禦北京の急を救はんとす。それを迎へたる我が杉山公使館書記官は途中にて惨殺され、獨逸公使も亦凶徒の手に惨殺さる。又、義和團の策に應ずる官兵は太活の砲臺より聯合軍陸戰隊に發砲し聯合軍

黒田清隆薨
政友會生る
寢臺車の始
政友内閣成
常總新聞
女子大學成
私製葉書始
名家名人逝
十五回議會

明治三十四年

伊藤圭介逝
福澤諭吉翁

○一月二十七日、植物學界の泰斗伊藤圭介逝く。享年九十九。名古屋の醫家に生る。シーボルトに就て植物學を學ぶ。大學教授。
○二月二日、新興教育界の巨人福澤諭吉翁逝く。享年六十八。豊前中津藩に生れ母の手に育てらる廿一歳長崎に遊び廿二歳大阪に出で緒方洪庵の塾に入り蘭學を攻究す。廿五歳江戸に出で塾を開き藩の子弟を教育す。廿七歳幕命を受けて米國に渡り、歸朝後は翻譯係となる。翌年又幕府の使節に隨行し歐米を巡回、歸朝後芝に慶應義塾を起し大いに日新の學風を鼓吹す。彼は勤儉、力行、清廉の士にし

愛國婦人會
北海タイム
社會民主黨
今上御誕生
動物虐待防
止會
五師團凱旋
星亨刺さる
ベルリ上陸
記念碑
新要塞
伊勢大廟
田中翁直訴
自動車輸入
食堂車の始
十六議會

て幾多の範を持し、彼の門下から輩出せる人材は今猶朝野に多い。
○二月五日、北清事件の経験により、茲に愛國婦人會創立さる。
○四月「社會民主黨」片山潜、幸徳傳二郎、木下尚江、川上清、堺利彦、安部磯雄、石川三四郎、吉川守國、西川光二郎等に依つて創立され、五月二十日、綱領を發表したが即日結社禁止を命ぜらる。
○四月二十九日、今上天皇陛下御誕生あらせらる。御名を迪の宮裕仁親王と御命名。
○動物虐待防止會、五月、廣井辰太郎主唱の下に大内青巖、島地大等、前田慧雪、梅原融、高楠順次郎、櫻井義肇、巖本善治、佐藤實然等によつて動物虐待防止會創立さる。序でながら、本年代記の編者は、動物虐待以上の意義を以つ重大なる人間虐待防止會の必要を首唱する君子人の無きを怪しむものである。
○六月、昨夏義和團事件の暴動ために出征したる、我が第五師團は、國民歡呼と列強賞讃の中に今日凱旋る。
○六月二十一日、政界の巨星にして政友會主領星亨は劍客伊庭想太郎の爲めに刺殺さる。
○七月十日、日米協會に依つて、嘉永六年ベルリ提督の上陸した相模久里濱にベルリ上陸記念碑を建立され、この日其除幕式を擧ぐ。
○七月三日、臺灣澎湖列島馬公海軍要港と指定さる。海軍査問規則制定さる。
○九月六日、伊勢大廟遷宮式舉行さる。○九月七日、義和團事件謝罪使來朝。
○十二月十日、帝國議會開院式が終り、齒舞貴族院の角を霞ヶ關の方へ曲らんとする一刹那、田中直翁拜觀者の中より「御願ひ、／＼／＼」と呼ばり「上」と書いたる封書を高く掲げ、鳳輦近く跪き直訴す。義人正藏翁は足尾銅山より流出す鑛毒問題について、爲政者の處置を憤慨するの餘り遂に直訴を企てたるものである。
○此年始めて自動車横濱のブルール商會の手によつて輸入され翌三十五年三越吳服店に輸入さる。
○食堂車の始、十二月廿九日、國府津、沼津間、大津大谷間神戸京都間に開始されたのが始まりである。
○十二月七日、第六回帝國議會召集さる。

自動車の始
日英條約
神職懲戒令
雪中犠牲
菅公一千年
選舉名簿
小松宮渡歐
カルタ課税
繪はがき始
淳宮御誕生
西郷侯薨去
鳥島爆發
早稻田大學
俳人子規逝
議會解散

明治三十五年

○自動車運轉の魁、この春以來、米國公使館、露國公使館等が乗用し始めたので、市民も、その刺戟を受けて、チヨコと利用するやうになつて來た。個人で購入した魁は、三井高保氏であつた。
○一月三十日、亞細亞保善を内容とする日英攻守同盟條約成立する。以後五ヶ年有効とす。
○二月十日、官、國幣社職制、神職任用令、懲戒令公布さる。
○一月、八甲田山雪中行軍を強行せんとしたる青森第五聯隊、途中非常な風雪に際會し二百餘人の凍死者を出す。
○朝野の名士菅公一千年祭を行ふ。全國之に習つて各地で舉行され何れも頗る盛大を極む。
○三月十日、衆議院議員選舉人名簿調製に關する件公布さる。
○四月一日、英國皇帝戴冠式舉行さるゝにあたり御名代小松宮依仁親王御差遣さる。軍艦淺間、高砂殿下御召艦として抜錨す。
○四月、カルタ税法新に制定され、從來無税なりしカルタ殆んど禁止税に等しい税を課せらる。
○繪はがきの始は、六月廿日我が國が萬國郵便聯合加盟廿五年祝典記念に發行したが繪はがきの流行の始めである。
○六月二十五日、淳宮雅仁親王殿下、御誕生あらせらる。
○七月十八日、大西郷の弟、西郷從道侯薨去す。幼名慎吾、薩摩藩の代表的人物。
○八月十日、南洋の我が一孤島、鳥島噴火す、信夫翁の繁殖による島、玉置半右衛門の起業として當時有爲な島。
○九月二日、私立東京早稻田專門學校早稻田大學と改稱。
○九月十九日、伊豫松山の生んだ俳界の巨人正岡子規逝く。
○十二月九日、第十七回帝國議會召集さる。改正選舉法による大選區區單記無記名投票を以て選出され

教科書事件
東北大凶作

明治三十六年

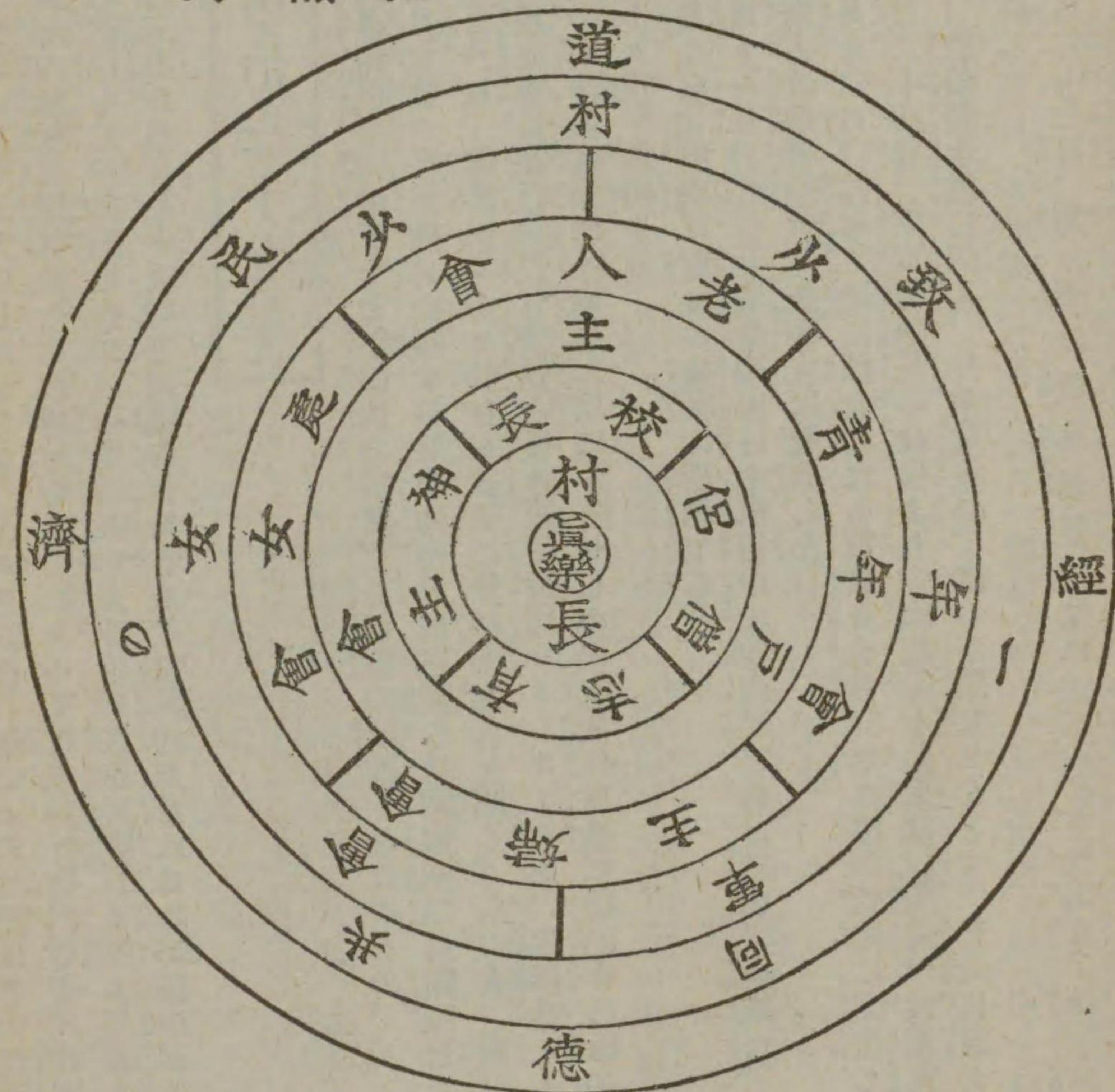
ベスト流行
北白川宮銅
像除幕式
三つ巴式地
方振興策
博覽會開催
畜犬規則
露陸相來朝
歌劇の始め
伊藤公逆轉
日比谷公園
開設
非戰論出づ
ポイント式
活字の始

たる新議會である。然も二十八日豫算案について政府と衝突遂に解散となる。
○十二月十一日、最も謹厳なるべき教育界に最も恥づべき收賄疑獄起る。之を教科書事件といふ。
○十二月、此年東北地方大凶作、殆んど收穫皆無の土地あり。

○一月九日、京濱市内ベスト病流行する。本所病院院長横田學士眞症ベストに罹つて死んだ。
○一月二十八日、故北白川宮銅像除幕式舉行さる。臺灣の島地へ遠征遊されたる北白川宮能久新王殿下には廿八年、出征地の野戦病院に於て薨去遊さる。
○三月、當時鑛毒問題で奔走されてきた代議士田中正造翁の紹介で、栃木縣下谷中村役場主催の自治振興講演會に著者が發表したる三つ巴式地方振興策は次の一二一頁に挿入する圖表の如きものである。
○四月一日より、大阪市に於て第五回内國勸業博覽會を開催さる。
○四月廿八日、畜犬取締規則發布され、又畜犬税を賦課さる。
○六月、露國陸相クロバトキン將軍戰爭準備のため日本の國情視察に來る。
○七月、歌劇研究會がグリツク作の「オルフオイスの」曲を帝國劇場で公演したのが始まりである。
○七月、伊藤博文侯遂に政友會を見捨て再び樞密院議長となる。
○七月一日、この一體の地は舊幕時代大名屋敷町、明治になつて所謂日比谷練兵場と化し、お艶殺しの行はるゝほど夜は男でも一寸通行出来ぬ原端であつた。明治二十五年十二月東京市の公園敷地となり、又附近にも漸次諸官署建てられ、電車も通るやうになり、續いて公園が開設され、又帝國劇場、東京驛等建設され、今日では東京の中心と化す。公園の廣さは五萬四千八百三十六坪。
○十月十四日、社會主義協會主催にて「非戰演說會」を神田青年會館に開催す、次で十一日萬朝報は開戰論に豹變し、爲に幸徳、堺、内村は萬朝報を脱す。十一月十五日幸徳、堺等週刊「平民新聞」を創刊大に非戰論を力説、次で石川三四郎、西川光二郎、吉川守國、岡千代彦等之に参加する。
○ポイント式活字とは、東京築地活版所の社長野村宗十郎なる人の新製にかゝる活字をポイントと云

現時の如き
資本主義旺
盛の時代に
力ら強よく
生る農村自
治經營策中
の一を圖解
もるものは
これ。

石田傳吉創案三つ巴式的地方振興策
力強き村の組織其一



昨今の重大問題は農村の不振にある其疲弊の最大原因は、農村人の勤勞所得の不足と云ふよりも或多量の酒等を飲むと云ふよりも或は又、課税が高いと云ふよりも其禍根は、彼等の居村の自治經營に缺陷があるからであることを知らねばならぬ。町村制第二條の正文と自治制自治制を制定されたる御聖旨（八十八頁を参照せよ）に即し又現時の資本主義時代に農村人が團體的に力ら強よく生る組織を教えるものが本圖の要示である。本文一四一頁と一七五頁に載つてあるものとを對照して見るがよい。又、拙著『理想の村』はその運用を詳細に説明してある。是れ併讀されたい。

電氣時計の發明
議會再度開

明治三十七年

ふ。ポインント式とは、一時を七十二分したるを。一ポインントとし。その活字の大小が定まるのである。假令ば、その九倍したものが、九ボと云ひ、現に本年代記はその活字を使用してゐる。○此年山形縣人阿部彦七なる時計やさんによつて電氣時計發明される。尙同氏は電氣時計に關して廿數種の發明をし、發明協會から再度の表彰も受け、又総授褒章も賜つてゐる。
○十二月五日、第十九回帝國議會召集さる。又其前五月八日臨時議會召集された。

貿易新報

國交斷絶す
旅順口砲撃

宣戰布告
浦鹽艦隊襲

來
日進春日艦

安着
旅順口閉塞

廣瀨中佐の
戰死

○貿易新報、明治三十七年創刊の横濱貿易新聞の改題されたもの。
○二月六日、滿洲衛兵に關する外交問題遂に破裂し日露國交茲に斷絶した。
○二月八日、露艦コレツ號日本艦隊に最初の砲火を開く。八、九、兩日東郷平九郎の率ゆる聯合艦隊四隻旅順に急行、翌日激戦の後敵艦戦闘艦レトウキーザン、巡洋艦アスマールドを捕獲す。又瓜生中將の率ゆる艦隊は陸軍を仁川に上陸せしめ、折柄仁川港に碇泊中の敵の巡洋艦コレツを撃破、ワリヤーク號を拿捕する。
○二月十日、露國に對する宣戰の詔勅下る。
○二月十一日、此日北海道福山沖を航行中の我商船、奈古浦丸、全勝丸、ウラジオ艦隊のため砲撃され、奈古浦丸は避難した。
○二月十六日、前年英國に註文したる軍艦日進春日無事横須賀港に回艦し東京市民歡迎會を開く。
○二月二十四日、東郷艦隊長の命により、決死隊十餘人は仁川丸、武揚丸、報告丸に石材を積み、旅順港水道に突入、自ら沈没以て港口を閉塞せんとす。又此日敵ウヌシーテリヌイ號を鳩灣にて撃破した。
○三月二十七日、第六回旅順港強襲行はれ、同時に千代田丸、福井丸、米山丸、彌彦丸は敵艦を冒して港口閉塞を行ふ。其の際、福井丸の指揮官廣瀨武夫中佐は目的を果し端艇にて引揚んとする時、杉野兵曹を迎へに再び沈没船に還り兵曹を探し端艇に乘らんとした利那、二人共敵艦に倒る。二勇士

信用保險始
定州占領

旅順口強襲
最初の入獄

外債成る
第二軍上陸

戰捷祝賀會
第三軍上陸

南山の激戰
得利寺大戦

長崎浮船渠
常陸丸撃沈

滿洲軍首腦
敵將負傷

煙草專賣始

の壯烈なる戦死は永久に記念さる。
○三月、横濱火災保險會社は日本始めての信用保險部を開始する。五月一日九連城占領。
○三月二十八日、二月に仁川に上陸したる第一軍は北上し定州を占領す。
○四月十三日、東郷艦隊は第七回目の襲撃を開始、我が艦隊に誘引され敵の旗艦ベトロバウス號我が水雷に觸れ沈没敵將マカロフ戰死した。
○三月二十七日、平民新聞二十號に「嗚呼増税」の社説掲載され、戦争の重税に反對し責任者塚利彦處刑さる。これ社會主義者の最初の入獄である。
○五月十日、英國及米國にて我軍事公債發行成立する。
○五月五日、我第二軍遼東ヒスコに敵前上陸す。七日直ちに進軍を開始し普蘭店を占領し旅順港と本國の脈路切斷され、旅順は袋中の鼠となる。
○五月八日、開戦以來海陸ともに連戦連捷し、全國民は此日各地に戦捷祝賀會を開く、殊に東京市の提灯行列は市中至る處雑沓を極め、遂に死傷者を出した。
○五月十九日我が第三軍大孤山に上陸する。
○五月二十六七日の兩日我第二軍は南進して金州を陥れ南山に大激戦し遂に柳樹屯を占領す。更に第二軍の一隊は六月十五日得利寺に於て敵の二個師半の南進し來るを迎え撃ちて遂に全滅せしむ。
○六月十八日、豫て工事中なりし、三菱の浮船渠竣成する。
○六月二十日、上村艦隊のスキを伺つて津輕海峡を横斷通過した敵の艦隊は惠山沖に我が汽船高島丸を撃沈す。又陸兵及鐵道材料を積んで玄海灘を航行中なる佐渡丸、常陸丸は同浦鹽艦隊のために撃沈されるこの重々の悲報に接した市民は上村大將の無能を罵り大舉して留守宅へ石礮を投ずる等狂憤す。
○六月二十二日、參謀總長大山元帥は滿洲軍總司令長官となり又兒玉源太郎大將は參謀長となる。
○六月二十三日北進中の第三軍は敵の約五個師團と二日間互る大激戦を交へ、敵は一萬近く死傷者を殘し北方に退却す。敵の總司令官のクロバトキンはこの戦ひで負傷す。我が軍更に進み營港を完全占領した。
○七月一日、この日いよ／＼煙草專賣法實施さる。

海城占領
上村艦隊
旅順包圍軍
遼陽激戰
宮崎新報
議會再度開
太平洋艦隊
全滅
デバートの
始め
カーキ色軍
服の始め
旅順の降伏
光宮御誕生

○八月三日、第二軍は敵を遼陽方面に壓迫して海城及牛莊を占領する。
○八月十四日、上村艦隊浦鹽艦隊三隻を發見、將士勇躍し砲火を交へ激戰五時間遂に敵のリユーリツク號を撃沈す、他の二艦も大損傷を受け遁走した。
○八月十六日、乃木大將の率ゆる旅順包圍軍は、山岡參謀を軍使として陛下の聖旨及勸降書を齎らし、旅順の敵將ステッセルに交附せしむ。然し敵はクロバトキン大將及バルチック艦隊の來救をたのんで容易に降伏せず。
○九月四日、八月二十四日以来第一軍第二軍第三軍より成る聯合軍は遼陽を中心にして大激戰を開始す。流石頑強な敵も十數日に涉つての我軍の強襲に堪えかね、沙河方面に潰走す。十月九日聯合軍沙河に肉迫し激戰數日にして占領す。敵は全滅に近き損傷を受け奉天に退却した。
○宮崎新報、明治三十七年十一月創刊さる。
○十一月廿八日、第廿一回帝國議會召集さる。又其前三月十八日第廿四回臨時議會召集された。
○十二月九日、乃木大將の率ゆる旅順包圍軍最後の肉弾戰を開始、敵の要塞を次から次と攻落し遂に龍山を陥れ三十一日松樹山二百三高地を占領す。我軍は二百三高地より前面に横はる山脈を越して旅順間接攻撃を行ひ、遂に敵の太平洋艦隊を全滅した。
○デバートメントストアの元祖は十二月十四日、三越呉服店始めて米國式のデバートとなる。次で白木屋、松屋、松坂屋デバートと化した。
○カーキ色軍服の創始、此年實施さる。日露戰爭開始さるゝ、軍の活動上その色彩の最も主要なるを經驗したので急に實行さるゝことになつた。

明治三十八年

○一月一日、旅順のステッセル一月一日降伏を申出で、四日開城一切を我軍に引渡す。ステッセルは國際公法に依り本國に放還、佐官以下兵卒は平和克服まで内地に拘束する。
○一月三日、第三皇孫光宮宣仁親王殿下御誕生。

潜航艇隊成
大阪時事
奉天占領
ガード式
エスペラン
ト研究
腎肉事件
メーデーの
始
京釜線全通
日本海大海
戰
米國講和提
議

○一月十三日、戰前外國に注文したる潜航艇五隻回航され、潜航艇隊始めて編成さる。
○大阪時事新報、明治三十八年三月創刊さる。
○三月十二日、二月十九日以来我陸軍は奉天總攻撃を開始す、數日間に互り激戰又激戰、三月十二日午前三時敵を全く全滅せしめ奉天を占領す、敵の死傷四萬二千二百二十人、捕虜一萬三千五百人、敗殘兵は鐵嶺方面に遁走した。
○四月以來、郵便貯金管理所が四百萬の口座を此式に改めたが動機となつて、廣く一般にも利用さる。
○四月、早稲田野球團渡米遠征す。我野球團外征の嚆矢とする。
○此頃、大學教授や一流新聞社の人々によつて露のザメンホフ博士の主唱による世界共通語としての研究が始つた。
○五月十二日、男三郎愛人會枝子の兄詩人寧齋の悪疾を憂ひ其業病の薬に人肉の有効なるを迷心の極少年亮助の腎肉を切り取り死に至らしめ後又義兄を殺した。痴漢遂に死刑となる。此事件が因で「嗚呼夢の世」の俗謡盛んに流行する。
○五月一日、メーデー茶話會を平民社に開催す、日本で最初のメーデーの催しである。
○五月二十五日、朝鮮釜山より京城に至る京釜鐵道全線開通する。
○五月二十七日、露のバルチック艦隊二十七隻、船隻相合み五月二十二日未明對島水道南に現はれ浦鹽指して北上す。我斥候船信濃丸之を發見、東郷聯合艦隊長直ちに「皇國の興廢此の一戰にあり、各員一層努力せよ」との信號を旗艦三笠の檣頭に懸す。各艦戰闘準備を整へ二十七日午後一時四十分敵艦に近づき一齊に砲火を交ゆ。風浪高き中に接戰僅か二時間にして敵の旗艦スワセフ及ラスラビヤボロデーを撃沈、多くの艦又損傷を受け日没頃に陣を亂し逃竄せんとす。我水雷艇及砲艦追撃朝鮮海岸に脱出せんとするアリヨール以下捕獲、敵艦總司令ロヂエストエンスキは負傷捕虜となり、司令官ネボガーフ中將艦と共に降伏す。茲に日本海々戰は完全に我軍の勝利に歸す。敵の損害は撃沈さるもの二十二隻、捕獲七隻、拘留四隻、自爆三隻、死者三千五百餘名、捕虜六千四百四名、我軍の損害は撃沈水雷艇三隻、我死者百十三、負傷者四百餘名。
○六月九日、米國大統領ルーズベルト世界平和及人類のために日露兩國講和を提議す。七月三日、日

直通列車
樺太軍の上
陸和條約成
立
奥羽線全通
國民大會燒
打騒ぎ
谷村の騷擾
英國艦隊の
來航
凱旋艦隊伊
勢大廟參拜
凱旋艦隊觀
艦式

○八月十二日、奥羽線福島秋田間全通する。○又九月十四日秋田青森間全通する。
○九月五日、河野廣中、高橋秀臣、恒屋盛服、松村恒一郎、大谷誠夫等の講和問題聯合會日比谷公園にボーツマス條約反對の國民大會を開催、政府は之を禁止し會場を閉鎖したが國民公園附近に雲集し午後六時内務大臣官舎を始め國民新聞社、各警察署、交番、電車等を焼打す。騷擾數日に及び翌日戒嚴令布かる。續いて九月十三日横濱羽衣座に國民大會開催され辯士奥座、江間の不出場から端を發し激昂しつゝある民衆は遂に同座を破壊し巡査拔劍したる爲各交番派出所焼打ちさる。
○九月二十六日、山梨縣谷村の甲斐絹業者八九百名納税に關し稅吏と衝突署内に亂入器物を破壊する
○十月十二日、英國支那艦隊十二隻我が戰艦に敬意を表するため横濱に入港す。司令官ノーエル大將始將士上陸歡迎會に臨む、十三日東京市は日比谷に大歡迎會開かる。又、同艦は答禮のため日本國民の縦覽を許した。
○十月十三日、東郷艦隊は津市數崎に投錨、伊勢大廟に參拜、二十二日東京灣に入り凱旋す。各地沿道の歡迎人幾萬とも知れず大將始め各艦長は東京上陸直ちに參内拜謁の上優渥なる勅語を賜はる。
○十月二十三日、東京灣で我國空前の凱旋艦隊式舉行さる。參列の諸艦百七十餘隻、英國の支那艦隊十二隻、米艦一隻參加す。陛下淺間艦に御召し御親閱遊ばされ左の勅語を賜ふ。
朕親ク凱旋ノ海軍ヲ閲シ其軍容整齊士氣大ニ振フヲ觀太タ之を憐フ倍々奮勵シ帝國海軍ノ名聲ヲ發揚セヨ、東郷大將は將士を代表し勅答文を捧ぐ。其日拜觀の爲に集る者二十萬人越て二十四日東京市は上野公園にて海軍凱旋歡迎會を開催す。○十一月、伊勢大廟に戰捷報告祭舉行さる
○十二月二十五日、第二十二回帝國議會召集さる。

明治三十九年

伊勢大廟戰捷報告二十二議會
西園寺内閣成立
振替口座の始め
御降家
鐵道國有法制定
大觀兵式
電車燒打
子供博覽會の始め
海軍記念日
横濱築港成
女子判任官
朝鮮と滿洲
米國排日問題起る

○一月七日、桂内閣辭職し西園寺内閣成立す。自由主義の内閣として歡迎さる。
○三月一日より、振替貯金口座開始世界で第二番目の實施國となつた、その成績は言ふでもない吾等が便利してゐる處にある。
○三月、朝香、竹田兩宮家創立。三月一日御降家一家を創立あらせられた。
○三月三十日、鐵道國有法公布さる。墺國に次ぎ世界で二番目である「京釜鐵道」買収さる。
○陸軍凱旋大觀兵式舉行さる。四月三十日全國各師團の代表隊青山練兵場に參集、大山元帥總指揮官兒玉大將參謀長、福島、井口、松井將軍參謀の下に軍旗百十九旗、兵員四萬有餘分別式を行ひ、陛下文武百官及外國武官を従へられ親しく御閱兵遊さる。
○四月、東京市街電車値上反對の市民大會日比谷に開催群衆市會に殺到、電車を燒打し、兇徒騷擾事件起る。
○子供博覽會の始め、五月上野公園内に同文館主催で開催したるを濫觴として年々各地で開催さるやうになつた。
○最初の海軍記念日舉行さる。此日は三十八年五月二十七日日本海海戰に我聯合艦隊バルチック艦隊を撃滅した日である。
○五月、横濱築港落成し、盛大なる落成式を擧ぐ。
○七月、郵便爲替貯金管理局に女子判任官採用の道が開けた。
○八月一日、關東都督府官制公布、朝鮮駐劄條令公布され、滿洲朝鮮に於ける日本の地位は確保さるに至る。
○九月、旅順鎮守府條例公布さる。
○十月十五日、米國桑港に於いて、邦人小學兒童學校から放逐さる、「排日」の最初。

南滿鐵道成
二十三議會
年賀特扱始
金錢登錄器
漁獲發動機
始め

足尾銅山暴
動起る
癩病院設置
氣球隊設置
米國野球團
來る
別子銅山騷
樺太廳開設
一位局薨去
在郷軍人會
始
グリーニン
第廿議會
精米機械
西洋式造花

○十一月廿六日、南滿洲鐵道株式會社成立する。
○十二月廿五日、第二十三回帝國議會召集する。
○年賀狀特別扱の開始、十二月十五日より始めて年賀郵便特別扱ひ開始する。
○金錢登錄器の輸入、本年春以來、大日本愛國貿易株式會社の手に依つて特約輸入販賣する本器は至る處小賣店の頭を飾つてゐる。
○此年、水産局の獎勵で静岡縣水産試験場の富士丸に小型石油發動機の使用をしたのが始まりで、次いで茨城縣の筑波丸が使用した嚙矢である。

明治四十年

○二月四日、足尾銅山坑夫三千六百名罷業す、電線を切斷、放火、襲撃等暴動化し、五月軍隊出動鎮壓す。
○二月五日、奥村五百子歿す、愛國婦人會を生み出した女傑天命六十二歳。
○二月、東京市外灘谷町に癩病院始めて開設する。
○四月、慶應義塾米國のセントルイス野球團を招聘し始めて外國の選手を迎ふ。又この時招聘費八千圓を支出するため、一圓、五十錢、三十錢の入場料を取る。
○別子銅山坑夫暴動起る、五月、住友家經營する四國別子銅山に暴動起る。
○五月、樺太廳式を舉行する。
○六月廿一日、仙臺東北大學新設する。
○明治天皇の御生母一位局薨去す。(十月)局は從一位大納言中山忠能の御息女慶子の方であつた。
○在郷軍人會の創始、十二月十五日より勅令によりて在郷軍人會を全國的に組織せしめらる。
○八月、白洋舎なるクリーニング店が出来、以來各所にその看板をみるやうになつた。
○十二月廿五日、第二十回帝國議會召集する。
○此年精米機ナショナル號發明されそれより各種の精米機が發明され最近胚芽米専用機が發明された。
○日露役の戦勝に酔つた國民の生活は非常な勢ひで向上して了つた。かういふ時代に西洋風造花が流行となるのも當然と云へば言へないことがない。

明治四十一年

財界の大恐
慌
辰丸事件
出齒龜の由
來
肥料取締法
實業の世界
眉山と獨歩
競馬の始め
銚子無電成
バーゲンデ
ー始
女優養成の
始
戊申詔書換
發さる

○一月十八日、東株拂込額五十圓株は、一躍七百八十圓に暴騰したものが、二十一日には二百圓方暴落し、諸株共下落を重ね、我國最初の經濟恐慌を出現した。
○二月五日、日本商船第二辰丸武器密輸入の嫌疑で清國砲艦に抑留日本國旗を引下され大問題となる。
○三月二十二日、府下西大久保町植木職池田龜太郎なる痴漢が性來の出齒にして又穴覗きを好む色情狂で或婦人の湯歸りを待伏せて暴行殺害したのが發覺して處刑されたのである。以來わいせつ關つた行爲を出齒龜と云ふ。
○四月十三日法律第五十一號肥料取締法公布する。
○五月、快男子野依秀一、廿四歳で實業の世界を創刊する。又、實業通信眞宗の世界等出してゐる。
○五月十二日、川上眉山自殺する。
○六月、兵庫縣鳴尾村に始めて競馬場新設され、六月二十日、國木田獨歩三十八歳を以つて歿した。
○六月、東京市今川橋松屋呉服店がバーゲンデーと稱して賣出しをなしたのが大當りになつたので、以來都鄙至る處で何々デーが盛んに行はるやうになつたのである。
○九月十五日、新派俳優優川上晋次郎女優養成を開始する、帝國劇場の補助もあり有力なものであつた。
○十月十三日、戊申詔書換發さる人心漸く奢侈に流れ、物價騰貴し、民衆は生活に困難するに及び、戊申詔書換發さる。

朕惟フニ方今人文日ニ就リ月ニ將ミ東西相倚リ彼此相濟シ以テ其ノ福利ヲ共ニス朕ハ爰ニ益々國交ヲ修メ友義ヲ悖シ列國ト與ニ永ク其ノ慶ニ頼ラムコトヲ期ス願ミルニ日進ノ大勢ニ伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセムトスル固ヨリ内國運ノ發展ニ須ツ戦後日向淺ク庶政益々更張ヲ要ス宜ク上下心ヲ一ニシ忠實業ニ服シ勤儉儉産ヲ治メ惟レ信惟レ義醇厚俗ヲ成シ華ヲ去リ實ニ就キ荒怠相誠メ自彊息マサルヘシ

禁煙車の始
支那の貨物
排人のホーム
の始
千里眼世間
を騒がす
鬼権殺さる
圖書館開始
第廿五議會

憲法發布記
日糖事件
大阪大火
虎姫大地震
國技館始
政友會大會

ハルビンの
悲劇
鐵道青年會
ルル式の始
高架鐵道始
廿六議會開
雄辯會生る
調査始
帝劇の始
銚子の大嵐
佐久間艇長

抑々我カ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト我カ光輝アル國史ノ成跡トハ炳トシテ日星ノ如シ憲ニ克ク恪守シテ
礪ノ誠ヲ輸サハ國運發展ノ本近ク斯ニ在リ朕ハ方今ノ世局ニ處シ我カ忠良ナル臣民ノ協翼ニ倚藉シ
テ維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖宗ノ威徳ヲ對揚セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ
御名 御璽

明治四十一年十月十三日

○十月一日より禁煙列車創められた。○臺灣縦貫鐵道全通十月廿四日その全國式舉行する。以後三ヶ月に及ぶ。
○十一月一日、支那香港に於て日貨取扱清國商店排日暴徒の爲破壊掠奪さる。以後三ヶ月に及ぶ。
○婦人ホームの創設、此年大阪婦人矯風會の附屬として北區に婦人ホーム設立さる。
○此年熊本の御船千鶴子千里眼を以て透視念寫をなし、又丸龜の人長尾郁子も透視念寫をなし一時
心理學界の問題となる。○七月六日、大阪府鶴岡木村權右衛門凶刃に倒る。
○此年日比谷圖書館創始、東京日比谷公園の一隅に市營日比谷圖書館開始さる。
○十二月二十五日、第二十五期帝國議會召集さる。

明治四十一年

○二月十一日、憲法發布二十年祝典舉行さる。二月二十七日、非政友派合同し、立憲國民黨組織さる。
○四月十三日、改正耕地整理法公布さる。
○五月二十五日、日糖事件判決下る。日糖社長酒匂常明は裁判進行中自殺し、元兇秋山一裕、磯村音
助を始め高津伊藤福川恒川遠藤及代議士栗原、横井、白井、村松以下二十餘名夫れく處刑さる。
○七月三十一日、大阪大火延焼一萬六千八百戸。八月二日、新潟市大火延焼四百六拾餘戸。
○八月十四日、虎姫山下大地震滋賀縣虎姫村地方大地震ありて被害激甚。
○六月二日、兩國國技館成る。六月二日、此の秋から優勝旗制定さる。
○九月十五日、政友會設立十週年記念大會公園政友會本部にて同會設立十週年の記念大會を舉行す。
九時頃同黨員田屋豊松(三十八)が受付所の傍で政友會股友の壯士川上行義(五十四)を殺害す。

○九月廿四日、伊藤博文ハルビンで韓人安重根に射殺さる。伊藤公は韓國統監を辭職し樞密院議長と
なり、十月十四日より滿洲視察の途に上り、極東巡視中の露國大藏大臣「ココソソフ」とハルビンで
會見する爲め二十六日午前九時ハルビン驛に到着す。此時既に先着の露國大藏大臣「ココソソフ」
の先導の下にブラットホームに整列せる露國軍隊の前まで行つた時韓人安重根は群衆の中より短銃
で伊藤公を狙撃すること六回、内三發は命中し公の右肺を貫き、「やられた」との聲と共に後に墮る。
天皇陛下には直ちに未松謙澄、西紳六郎、侍醫桂秀馬を現場に派遣され、二十六日博文を従一位に叙
し國葬を賜ふ。軍艦秋津外大連に急航し、公の遺骸を搭載、十一月四日日比谷公園で國葬を行ひ、府
下大井村字谷垂に埋葬す。尙、安重根は日頃排日主義を唱へたる者で、露國官憲に逮捕され、我領事
館は四十二年二月十四日死刑に處し連類者を懲役に處す。
○十二月、鐵道青年會は從業員と其家族の修養福利を増進するを目的で生れた。
○十一月二十一日、鹿兒島本線全通、最大難所とされた矢嶽隧道はルル式によりて竣工した、この日
より門司鹿兒島間四百軒は直通した。
○十二月、東京上野より山手廻り新橋までの電車(今日の省線)この日開通する。
○十二月廿四日、第廿六期帝國議會召集さる。

明治四十三年

○二月、野間清治氏大日本雄辯會を創始する。
○二月、内務省衛生局が全國の温泉についてラヂウム調査を開始したのが流行のはじめである。
○三月一日、帝國劇場開場式を挙げる。同時に森律子、村田嘉久子、初瀬浪子、河村菊江等が藝術
の神聖を叫んで、新しい女優として舞臺に立ち、劇界に一大センセーションを捲き起した。
○三月十二日、千葉縣銚子沖に大暴風起り出漁中の遭難漁夫二千人を出すの慘狀を呈した。
○四月十五日、潜水艇遭難、廣島灣内で演習中の第六號潜水艇沈没し、乗込員一同窒息死す、艇長佐久
間大尉(三二)は從容一死を知らざるもの、如く沈没するまでの經過を遺書する。

廣瀬中佐銅像
セル袴始
樺太神社祀
朝鮮併合
朝鮮總督府
をおく
公式飛揚
南極探検
九州帝大
スキ一の始開成

○五月廿九日、東京神田須田町の廣瀬中佐杉野曹長等の銅像除幕式を擧げる。
○セル地の袴流行始め、女はメリンス男はセル地の行燈袴が流行しだしたのは此頃からのことである。
○八月十七日、官幣大社樺太神社創祀さる。
○八月二十二日、我統監寺内正毅と韓國總理大臣李完用との間に「韓國皇帝は韓國全部に關する一切の統治權を完全且つ永久に日本皇帝陛下に譲與し」外八條に亘る日韓併合條約が成立す。朝鮮は茲に完全に我國に合併され、二十九日勅令により韓國を朝鮮と、韓國皇帝を李王と改稱す。朝鮮は茲に韓國皇帝を李王と稱する事になった。十月一日統監府を廢し朝鮮總督府とし寺内伯を總督に任ず、又新に朝鮮貴族を設く。
○十一月、代々木練兵場に於て日野大尉「クラデー」式單葉飛行機を、徳川大尉「フアルマン」式複葉飛行機を操縦する。
○十一月三日、帝國在郷軍人會東京九段坂上借行社に於て發會式を擧ぐ。
○十一月二十八日、南極探検隊長白瀬中尉一行二十七名と共に午前八時二重橋外に至り皇居を拜し出發の途出とす。此時白瀬中尉は極地に樹てるべき國旗と極地に埋める同情者芳名録とを前に置き「臣白瀬誠惶頓首百拜シテ今上陛下ノ闕下ニ伏奏シ奉ル臣謹愛ニ本日ヲ期シ南極探検ノ途ニ就カントス今ヤ一行ノ部下ヲ率キテ今上陛下ノ闕下ヲ拜スルニ當リ一ハ以テ廣大無邊ナル聖恩ヲ謹謝シ奉リ一ハ以テ臣等一行ノ素思ヲ貫徹セン事ヲ誓ヒ奉ラントス今上陛下ヲ希クハ臣等ガ微衷ヲ嘉納シ賜ハン事ヲ誠惶誠恐頓首百拜シテ申ス」と告別の辭を讀む。而して一行は午後三時半南丸にて芝浦を出帆、難航を三十分の地點に達し、開南島と命名し國旗を樹て歸途に就く。
○十二月、東北帝國大學及九州帝國大學官制公布さる。○十二月廿五日第廿七議會召集さる。
○この年十二月、東國陸軍中佐テオドル・フォン・レルヒ越後の高田に於て、堀内聯隊長始め隊員にスキを練習す。間もなく信越スキークラブ生れる等こゝにスキが普及化しやがてスポーツ化さる。

明治四十四年

大逆事件判決
濟生會生る
展望車始

○一月十八日、大逆事件判決、幸徳秋水一派の大逆事件の判決下る。四十三年五月、長野縣大林區署明科製材所職工宮下太吉爆彈數個を密造せること發覺、續いて幸徳傳次郎、菅野スガ、古河力作等と結託し大逆を企てたる事實を探知、幸徳以下二十五名檢擧され、次の如き判決を受く。「死刑、幸徳傳次郎(四一)菅野スガ(三一)森近運平(不明)宮下太吉(三七)新村忠雄(二五)古河力作(二八)奥宮健之(五四)大石誠之助(四五)成石平四郎(三〇)松尾卯一太(三三)新美卯一(三三)内山愚童(三八)坂本清馬(二七)高木顯明(四三)峰尾節堂(二七)崎久保清一(二七)成石勘三郎(三一)佐々木道元(二三)飛松與次郎(二三)武田九平(三七)岡本頼一郎(三一)三浦安太郎(二四)岡林寅松(二八)小松丑治(二八)。有期懲役十一年、新田融(三一)同八年新村善兵衛(三一)」。右の趣、天聽に達し明治天皇陛下は坂本清馬以下十一名を特に死一等を減じ、無期懲役に處す旨恩命を下る。幸徳以下他の者は一月二十四日東京監獄にて死刑執行さる。
○又、時の總理大臣桂太郎、内務平田東助、文部小松原英太郎、農商務大浦兼武四相の待責書捧呈に對し二十日優詔を賜り其の職に留まる。
○二月十一日、濟生會設立計畫成る。紀元節の嘉幸に際し左の施藥救療の詔勅を賜ふ。
朕惟フニ世局ノ大勢ニ隨ヒ國庫ノ伸張ヲ要スル事方ニ急ニシテ經濟ノ狀況漸ニ革リ人心動モスレバ其歸向ヲ謬ラントス政を爲スモノ宜ク此ニ鑒ミ倍々憂勤シテ業ヲ勸メ教ヲ敦クシ以テ健全ノ發達ヲ遂ゲシムベシ若シ夫レ無辜ノ窮民ニシテ醫藥給セズ天壽ヲ終ルコト能ハザルハ朕ガ最モ軫念シテ措カザル所ナリ、乃チ施藥救療以テ濟生ノ道ヲ弘メントス茲ニ内帑ノ金ヲ出シ其資ニ充テシム卿等克ク朕ガ意ヲ體シ宜シキニ隨ヒ之レヲ措置シ永ク衆庶ヲシテ頼ル所アラシムル事ヲ期セヨ又、御内帑金百五十萬圓を下賜された、この恩賜金を基本として濟生會設立さる。桂侯會長となり全國の富豪亦出資し御下賜金と合せて全国各地に施療所を設く。
○二月五日、文藝獎勵會委員會及通俗教育調查展望車の始、本年から東海山陽線にのみ實施さる。○二月五日、文藝獎勵會委員會及通俗教育調

- 小倉の大火
- 南北正閏問題
- 吉原大火
- 山形市大火
- 電氣事業法
- 山陰線全通
- 電車市營成
- 俳優養成所
- 清國革命起る
- 九州大演習
- 小村侯死
- 市電罷業
- 廿八議會開
- 逝ける名人

○一月十八日、小倉市朝日町遊廓より出火、貸座敷二十餘戸を焼く。
 ○二月二十一日、代議士藤澤元造は南北正閏教科書事件に付き衆議院に質問書を提出し世論亦囂々たりしが政府の意見も遂に南朝を正統と決定猶明治天皇を百二十一代としたのを百二十二代と改訂する
 ○四月七日、午前十一時三十分東京新吉原貸座敷新花井樓から出火、吉原全部を焼盡し大門外を焼拂ひ、日本堤を越え田中町吉野町地方今戸町及び下谷龍泉寺町の一部を焼失し遂に南千住に及ぶ。焼失戸數六千餘、明曆江戸大火以後二回目の大火にて死者多數出ず。○五月八日、山形市大火あり。
 ○四月三十日、電氣事業法公布さる。○六月一日、山陰線竣成し開通式を舉行する。
 ○八月一日、東京市は東京鐵道株式會社の電車全部を買収し市營とする。
 ○八月十七日、大阪俳優養成所設立さる。
 ○八月廿四日、南滿洲鐵道株式會社設立公布さる。
 ○十月十日、清國武昌に革命起る。黃興、主謀者にして起ち、孫逸仙は米國にあつて劃策した、此時我が高知縣人萱野長知は同志數人と共に黃興の壯舉を援けた。清朝之を征する能す終に南京を陥る。
 ○十一月、中旬九州肥筑で陸軍大演習舉行さる。明治天皇陛下には御統監の爲め十一月九日東京を御發轅御西下あらせられ、十日午後零時二十五分門司驛にて、ポイントに異變が出來御召列車脱線した。幸ひ玉體恙あらせられ、陛下にはその日久留米に御着、直ちに大本營に入らせらる。其節、鐵道員一名自己の不注意を責め切腹した。
 ○十二月十五日、日英米露國間に締結せる臘肭獸保護條例公布さる。
 ○十一月二十五日、前外務大臣小村侯逝く。○十二月廿八日、華族戒飾令公布される。
 ○十二月三十日、東京市電運轉手、車掌六千餘人手當問題から一月二日迄總罷業す。四十名檢擧さる。
 ○十二月廿三日、第二十八期議會召集さる。
 ○此年逝ける人は、袁太七郎、松井直吉、島地黙雷、勝峯大徹、桂文治、竹本綾太夫、河島醉、龜上人、觀世鐵之丞、谷干城、大島圭介、下瀬雅充、市川團藏、鳩山和夫、川上音次郎、古澤滋、荒木寛政、木下藤次郎、芝金土佐太夫

第七編 大正天皇 御代十五年記

第一章 大正元年度より十五年迄記

大正元年

明治四五年七月三十日大正と改元

- 東京人口
- 清朝亡ぶ
- 朝鮮總督暗殺企
- 探檢隊歸
- 桂公後藤男渡歐
- 最後の行幸
- 明治天皇御不例

○東京市の人口百六十二萬人 此頃市役所の調べでは東京市の總人口百六十二萬人にして、内東京生れのもの七十九萬人で地方生れは八十三萬人であるとは、よく調べたものである。
 ○二月十二日、清國皇帝退位し、袁世凱氏臨時共和政府を組織する。舊曆元旦を以て中華民國と改む。續いて孫文(逸仙)は革命軍大元帥、中華民國臨時大總統に就任した。
 ○二月十日、朝鮮總督暗殺陰謀破る。基督教の信者で朝鮮基督教青年會の牛耳を取り聲望全道に高い男爵尹致昊に日頃總督政治に不平を抱いて居る外國宣教師等が彼等を煽動したので遂に朝鮮總督暗殺の陰謀を企てる事になつた。而し幸に早く我官憲の知る處となり四十四年九月から陰謀者の大檢擧を斷行首魁を初め與黨盡く縛につぎ未然に防ぐ事が出來た。
 ○六月廿日、南極探檢隊歸る後援會主催の下に南極探檢隊活動寫眞を催さる。
 ○七月六日、桂公爵は後藤男爵と共に日露協会の用件を兼ね歐洲大陸を漫遊の途に登る。二十一日露都に到着した。一行は官民一同の歓迎をうけ總理大臣コトツフ氏等は特に桂公の旅宿を訪ひ極東政策に付いての意見全く一致日露協約成立を報せられるやうになつた。これ共偶々明治天皇御不例の報に接し蒼惶として歸途につく。
 ○七月十日、天皇陛下東京帝國大學卒業式に行幸、優等卒業者には恩賜品の御沙汰があり御機嫌麗しく御還幸になつた次で同十五日は些か御不例ではあつたが押して臨時樞密院會議に出御遊ばされたがこれが明治天皇最後の行幸であらせられた。
 ○七月二十日、突如明治天皇御重患に渡らせ給ふ旨宮内省より發表があつた。
 ○陛下御重患に渡らせらるゝとの悲報に接し全國の臣民は驚愕し深く謹慎の意を表し、全國各所の神

國を擧げて
驚愕
各國又哀愁
皇后陛下身を以て御平癒を祈らせ
大正天皇御踐祚
大正改元
御大禮議會
先帝追號
義人正造逝
明治天皇御大葬
乃木大將夫妻殉死

社佛閣に祈願所を設けて御病氣御平癒の祈願をなし日夜御容體書の發表を憂待し奉る、殊に宮城二重橋の前は折柄の炎暑もいとはず、砂上にひさまぎ祈願する老若男女幼少の輩日々數千人に及んだ。○訂盟各國よりも我が皇室の不例を傳へて皇帝大統領その他著名の官民から御見舞の電報を捧呈するもの毎日數百通に及んだ。
○皇后陛下には振天府脇に祭壇を設けられ女官等と共に伊勢の皇祖を遙拜して御平癒を祈願あらせられたけれども聖上の御容體は刻一刻險惡を報ぜられ、遂に三十日午前零時四十三分を以て神去りました時に鳳壽六十一であらせられた。
○七月三十日、午前一時皇太子嘉仁親王殿下には明治大帝崩御につき人皇第百二十三代の天皇として萬世一系の皇統を繼承あらせらるべく宮中賢所に於て踐祚の御式を擧げさせ給ふ。
○七月三十日、改元、明治を改めて大正を元とする旨令された。
○八月二十一日、第二十九回帝國議會(臨時會)召集さる。
○八月二十五日、先帝大行天皇を明治天皇と御追號あらせらる。
○九月四日、志士田中正造逝、民權家として起ち、後ち足尾銅山の鑛毒問題防止のために盡したる人。
○九月十三日、午後七時三十分明治天皇の御靈柩は御輦車に奉安し奉り、天皇陛下御名代、皇太后陛下御名代を始め大喪使總裁大喪使祭官長以下祭官の人々及び文武百官に至る迄御奉送申し上げ其列一里以上及び午後十時三十分に至り青山葬場殿に御着あらせらる。茲に於いて天皇陛下皇后陛下皇太后陛下及び各國元首の御名代は御出迎ひ申上げ葬場殿に安置し奉り午後一時には天皇陛下御親臨前庭に於て誄歌を捧げられた。やがて特別列車に靈柩を奉安し奉る、明る十四日午後五時十分桃山停車場に御着、夫より葱華葦に移し奉り百五名の八瀨童子之を捧持し桃山御陵御須屋に奉安し御名代閑院宮殿下始め大喪使祭官等の祭事ありて後御陵の中に神隠れ給ふた。
○九月十三日、御大喪の當日乃木大將夫妻は殉死された。大將夫妻は一度先帝御重患の趣き發表せられた時は深く憂慮申上げ身を以て之に代る事を神佛に祈られたが崩御の後は深く門を閉ぢて出でられず、御大葬の當日には陛下御眞影の御前に跪き、御發殯の號砲と共に大將は軍刀を以て切腹し、夫人静子は懷劍を以て自害し果てられた。辭世に曰く

拓殖博覽會
生蕃來る
大觀艦式
西園寺閣倒
桂内閣成る
電氣機關始
ゴルフとジ
ゴマ流行
製繩機械
三〇議會
議會停會
憲政擁護の
大運動
山本内閣成

うつし世を神さりませし大君の御あとしたひて我はゆくなり。 臣 希典 上
いでましてかへりこぬ日のなれど今日御幸に逢ふぞかなしき。 靜子
○十月、上野不忍池畔に拓殖博覽會を開き樺太及朝鮮、滿洲、臺灣の生産物を陳列し且つこれ等殖民地の風景文物等を畫繪又は人形を以て紹介した。
○十月、生蕃の内見學、臺灣生蕃の一行内地觀光の爲めに來る。
○十一月十二日、横濱沖大觀艦式御親閱の爲め天皇陛下行幸あらせらる、其折の參列の艦數百三十三隻、噸數四十四萬三千八百三十噸であつた。
○十二月十四日、朝鮮二個師團増設問題の爲め西園寺内閣總辭職す。
○十二月二十一日、内大臣、侍從長、桂公爵再び内閣を組織す。超然内閣の出現に反對して護憲運動起る。○この春以來、信越線碓氷隧道に電氣機關車使用する。
○この年始めて我國にゴルフ渡來し、以來全国各地にゴルフ場が設けられ、紳士淑女間に素嗜しく流行しつゝある。他方民衆の間にはフランス映畫『ジゴマ』が持つて囃され悪い奴といふ意味に『ジゴマ』といふ新語が流行するに至つた。○此年、製繩機は發明され、農界を裨益すること夥だしい。
○十二月二十四日、第三十回帝國議會召集さる。

大正一一年

○一月二十一日、第三十議會は開會劈頭停會を命ぜられた、是は桂公が一度宮中の内大臣となり再び内閣總理大臣となり藩閥内閣を組織した爲め民衆の大反對を受けた。
○二月十八日、又々衆議院再停會を命ぜられたので、朝來議院附近に群集した數萬の民衆は非常に憤激し喧嘩甚しかつたので之を制するため出張したる騎馬巡查が民衆を馬蹄にかけたので、群衆の激昂一層甚だしく、夜に入るや遂に都國民、やまと、報知、二六等の新聞社襲撃となり、又上野警察署を始め市内四十餘ヶ所の交番に焼打を演ず。
○三月二日、輿論の反對に遭ひ桂内閣總辭職し、山本權兵衛伯政友會の後援を以て内閣を組織する。

孫文來る
三崎町大火
沼津の大火
宗氏暗殺
飛行將校遭難
直富全通
排日法案
武石氏墜落
小學生溺死
無電實驗
五人殺し
大洪水
局長刺殺
桂公薨去
早大記念

○二月十四日、支那志士孫逸仙大人來朝野の有志大いに歡迎する。
○二月廿日、午前一時頃神田三崎町救世軍殖民館から出火し折柄西北の烈風で火は忽ち燃え廣がり焼失戸數二千五百餘に及ぶ。○三月三日、静岡縣沼津に大火があつた全町の三分二焼けた。
○三月二十三日、支那革命黨の志士宗教仁、袁世凱の放つたる刺客のために上海で暗殺さる。
○三月二十八日、日華國民協會發會式舉行、兩國有志出席盛會であつた。
○三月二十八日、陸軍飛行將校砲兵中尉木村鈴四郎歩兵中尉徳田金一の兩氏所澤から帝都訪問の歸途墜落し名譽の死を遂ぐ、是れ我國最初の飛行家の遭難である。
○四月一日、直江津富山間に鐵道開通する。
○五月三日米國加州議會は日本人土地所有禁止法案を可決した爲めに我國民論沸騰し政府攻撃になつた。
○五月、武石飛行士墜落慘死民間飛行家、茨城縣人武石浩波氏は大阪朝日新聞主催の都市聯絡飛行を試み大阪から京都深草練兵場に着陸の際墜落して慘死んだ。
○五月六日日本郷湯島小學校の五年生徒市川に遠足を試み栗市の渡船場で渡船轉覆の爲め三名溺死した。
○六月四日、我が鳥瀉、横山の兩技師及北村技師によつて苦心の結果、發明されたる遞信省式無線電話器は横濱遞信省倉庫の屋上八十尺の高所と港内に碇泊する天洋丸との間にその實驗を行ひ好成績を收めた。
○二本榎の五人殺し 七月二十日有名な芝二本榎工藤家五人殺し及び同町小澤丑松外二人殺しの犯人荒内鎌太郎遂に捕縛せらる。
○七月二十六日、暴風雨襲來府下及び近縣大害を蒙る又東北地方二十年來の洪水で慘狀を極む。
○九月五日、外務省政務局長阿部守太郎氏は刺客岡田滿の爲めに自宅に於て刺殺さる。
○九月九日、對支問題國民大會を日比野公園に開く大盛會。
○十月十日、桂公爵は三田の邸に於て薨去せられ十九日世田ヶ谷松陰神社の側に葬る。
○十月十七日、早稻田大學創立三十年式舉行す。此日大隈伯初め高田學長外重なる人々は希臘古代の服裝をなし早稻田の健兒三千を率ゐる提灯行列を爲し皇居二重橋前で萬歳を唱へた。
○十月十七日、北陸線岩瀨驛に於て列車衝突し死者二十四名重傷者九十名を出す。此日東京市中は前將軍に敬意を表し各學校は休業し毎戸吊旗を掲げ業を休む者多く歌舞音曲を停止した。
○十九日、臺灣革命的陰謀首領捕はる臺灣陰謀事件の首謀者羅福星臺北淡水で捕はる。
○東北北海道地方大凶作 此年東北及び北海道大凶作の爲め大慘狀を極めた。
○カチューシャの唄 全國に流行 翻譯劇及小説全盛を極め、島村抱月の組織した藝術座の女優松井須磨子の扮した『復活』の女主人公カチューシャの唄は全國津々浦々にまで歌はれた。
○此年、山田眞南、平沼專藏、坪井正五郎、林董、市川九女八、伊藤左千夫、鈴木藤三郎等逝く。
○十二月二十四日、第三十一回帝國議會召集さる。

列車大衝突
前將軍薨
臺灣陰謀
東北凶作
カチューシャ流行
名士名人逝
三十一議會

大正三年

愛鷹沈没
櫻島噴火
内閣彈劾
大隈内閣成
大正博覽會
皇太后陛下崩御

○一月五日、静岡縣駿河灣内で汽船愛鷹丸沈没して二十三名は救助され船長始め百餘名の者溺死す。
○一月十二日、鹿兒島縣櫻島大爆發然も震動數日に亘り島内の諸村は盡く全滅し又鹿兒島市に強震或は降灰の爲め家屋倒壊し他に避難する者多く尙附近の諸國に災害を及ぼした。
○二月十日、山本内閣彈劾案提出 衆議院に内閣彈劾案出づ。此日比谷公園では國民大會を催し群集衆議院前に集り民黨に聲援して喧嘩を極める。夜に入り中央新聞社毎夕新聞社を襲撃する。又當時海軍收賄問題(シーメンス事件)起り海軍革清會現はる本問題に付いて司法當局は極力醜類の檢舉に努め事蹟大にあらる。
○三月廿三日、大隈内閣成立する 山本總理大臣以下總辭職し、大隈内閣成る。
○大正博覽會開催 三月廿日より大正博覽會開催さる、總裁に閑院宮殿下を戴き東京市の主催に基くもの今迄にない大規模の博覽會であつた。
○四月十一日、皇太后陛下御崩御遊された皇太后陛下には沼津御用邸に御遊寒中遂に崩御遊ばされた

寶塚歌劇
重松中尉慘死
五歳の法主
皇太后御大葬
シメメンズ事件
西國大暴風
世界大動亂の始
青島砲撃
臨時議會
山東軍活躍
南洋艦隊
青島の犠牲

○寶塚少女歌劇の始め 四月、關西寶塚温泉場に少女歌劇團が創始された。
○四月廿六日、重松飛行中尉はモ式第六號に搭乗して青山練兵場から所澤への歸途、急速な悪氣流に相遇し最も勇敢な操縦を行ひ遂に我航空界の名譽なる犠牲者となつた。
○五月十二日、我國宗教界の霸王本願寺の宗務大改革が行はれ二十日新法主光昭君當年五歳で蓮臺に乗り本願寺の血脈の絶えるのが免れた。
○五月廿四日、午後八時四十分皇太后陛下の御大葬行はせられた、之より先き本月十日陛下御在世中の御威徳を仰ぎて昭憲皇太后と御諡號遊された。
○五月廿九日、海軍大疑獄である收賄問題の張本人松本澤崎等に關する犯罪確定公表せられた。即ち海軍中將松本和は懲役三年追徴金四十萬九千八百圓、海軍大佐澤崎猛は懲役一年追徴金一萬千五百圓松本澤崎は宣告と同時に剝官勳等功級褫奪位記返上を命ぜられた。
○六月、中旬、中國四國及九州地方大暴風あり被害頗る多かつた。
○八月一日、世界大動亂の第一日とも云ふべき日である。此日獨逸露宣戰三日獨逸白五日英獨逸十一日獨逸宣戰となる、先きにセルビアの一年青年が獨逸皇太子暗殺したるに起因し、塞埃洪國間に本問題が波及して遂に列強宣戰となる。去る七月廿八日獨逸宣戰あり本戰禍に英國の加擔は曳て我國にも及ぼし遂に八月十五日我國政府は獨逸國政府に最後通牒を發し、膠州灣租借權無條件返附を迫り、廿三日日獨逸宣戰大詔發となつた。
○九月二日、我陸軍は支那山東半島の一角に上陸した獨逸膠州灣青島占領の目的である。
○五月、六月、七月と三度の臨時帝國議會召集さる。
○九月五日、我山東遠征軍は海軍飛行機に依て敵偵察を行ひ猶敵地深く入り敵の無線電信所海兵團等に爆彈投下を行ひ多大の損害を與へ我國航空史の第一頁を飾つた。時の勇士は和田大尉金子少佐武部中尉藤澤中尉大崎中尉である。
○十月十四日、我南洋艦隊は獨逸ヤルト島及アリアナ島マーシャル島東西カロリン島等を占領する。
○十月十八日、我高千穂艦は膠州灣封鎖事業中獨逸艦隊エス九十號の發射水雷の爲めに沈没、生存者三名を殘すのみ。エス九十號は即時逃走中坐礁し乗員は陸地に遁走した。

青島砲撃
岩越西線通
青島陥落
函館大火
俘虜收容
炭礦爆發
三十五議會
東京驛成
名家名人逝
有坂砲發明者
暹王來朝
對支廿一箇條
岩下清周
大博疑獄
長距離飛行
海飛墜落

○十月三十一日、青島軍總攻撃を開始する。十一月十三日、陸海軍に勅語を賜ふ。
○十一月一日、岩越線新瀉間全通し上野新瀉間直通となる。
○十一月十日、東京實業組合の提灯行列があつた。電氣局では花電車を運轉する事三日間、十三日は關西特別大演習を以て、天皇陛下大阪へ御發進十九日演習終了觀兵式を大阪東練兵場に舉行された。
○十一月二十二日、青島俘虜數千人着いた、淺草東本願寺及び習志野その他へ收容する。
○十二月二日、若鍋炭礦爆發し御救恤として御下賜金があつた。○又函館大火焼失六百戸。
○十二月七日、帝國議會通常開院式あり、御行幸御勅語を賜ふ。十二月八日、青島出征艦隊凱旋す。
○十二月廿日、新設中央停車場を東京驛と號し開場せらる。十二月十八日、花の日會を催された。
○此年、伊東祐享、石井十次、青木周藏、高島嘉右衛門、岡千仞、長谷場純孝、高砂浦五郎、押川春浪、濱野茂等逝く。
大正四年
○一月十一日、世界を驚かした有坂式大砲の發明者陸軍中將有坂成章氏年六十歳で逝く。
○一月二十七日、暹羅王弟カムカントット殿下同妃殿下御同伴モンゴリヤ號で御來朝あらせられた殿下は現國王陛下の御末弟であらせらる。
○二月二日、對支「二十一條」秘密條約第一次交渉開始さる。
○二月六日、メキシコ沿岸巡航中の軍艦淺間暗礁に擱坐す。
○二月十四日、大阪北濱銀行頭取岩下清周等資金八百萬圓を亂用した事件で拘引さる。
○二月十七日、午前十時東京府理事官高橋清太郎等他數人は大正博覽會の經理課長であつた時の收賄事件暴露して東京監獄に收監さる。
○二月二十三日、所澤陸軍飛行場と大阪間の長距離飛行は陸軍所澤飛行隊によつて舉行された行程一百二十五里空の勇者は澤田阪元の兩中尉であつた。
○三月七日、安達大尉武部中尉梁瀨一等水兵を載せた海軍飛行機追濱飛行場附近に墜落し三名慘死す

大正五年

- 首相要撃
- 到叙日本史
- 國士頭山翁
- 北鐵祝賀式
- ミスス來る
- 簡易保險始
- 女學士出る
- 函館大火
- 工場法施行
- 南法大地震
- 華族御訪露
- 乃木家再興
- 神宮地鎮祭
- 皇太子冊立
- 伊勢進水式
- ダブレット
- 事件
- 名家名人逝

○一月十二日、暴漢福田某の一派、大隈首相を歸邸途上に要撃せしむ幸ひに被害を免かれた、三月三十一日、國士頭山翁等對支問題につき大に同志を叫合して活動する。

○五月、白柳秀湖に於て北海道鐵道開通一千里祝賀式を舉行する。

○五月二十九日、米人飛行家ミス氏來る東京の夜の空を飛行す。

○六月五日、簡易保險法制定され、簡易保險法發布さる、來る十月一日より實施となつた。

○七月十日、東北帝國大學理科大學第三回授與式を舉行し、數學科牧田ら子、化學科黒田ナカ子何れも理學士となる。女學士の嚆矢とす。又女文學士二名も出る。

○七月十五日、函館大火災、焼失家屋二千餘戸に及ぶその他損害甚大。

○八月二日、工場法施行令制定。○八月二十六日、臺灣南投地方に大地震あつた。被害甚大。

○八月四日、乃木將軍殿下聖旨を奉じて露國に赴かる。○九月二日、華族世襲財産法公布さる。

○九月十一日、乃木將軍殿下御祭に際し、乃木家再興の恩命毛利元智氏に下り伯爵に叙せらる。

○九月十六日、明治神宮御敷地代々木原に地鎮祭執行せらる。

○十月十日、憲政會發會式を舉げるその前身は改進黨、改名して進歩黨となり、更らに同志會と改まり又憲政會となつた。今の民政黨の前身である。

○十一月三日、第一皇子迪宮裕仁(御寶殿十六)を立てて皇太子冊立の御式を舉げさせらる。

○十一月十二日、神戸川崎造船所に於て、軍艦「伊勢」の進水式舉行さる。

○十一月二十九日、青森本線下り列車が、下田古間木兩驛間に於て貨物列車と正面衝突死傷百數十人を出した。衝突の原因は下田驛助役がダブレットの處置を怠慢したのにある。

○此年、小山正太郎、高島綱之助、北垣國道、加藤弘之、今村紫江、富田鐵之助、安部井磐根、高田實、海上嵐平、夏目漱石等である。

大正六年

- 帝國議會解散
- 山路愛山逝
- 露國第一次革命起る
- 總選舉
- 倉庫爆發
- 米澤大火
- 宮崎丸遭難
- 外交調査會
- 農業倉庫法
- 物價調節令
- 安全地帯始
- 北陸大地震
- 寺内内閣成
- 小紙幣發行
- 金輸出禁止
- 太子冊立式
- 國技館燒く
- 株式界騒ぐ
- 桐野炭坑

○一月十四日、横須賀軍港内にて、軍艦筑波火藥庫爆發して沈没、死傷二百餘名に及ぶ。

○一月二十五日、帝國議會を解散さる。○三月八日、陸軍飛行家澤田中尉墜落して惨死する。

○三月十五日、我が國が生んだ史論大家山路愛山逝く、享年五十四であつた。

○三月十六日、露國に第一次革命起りニコラス帝を廢してケレンスキー氏共和政府を立つ、同年十一月七日、ボルシエヴィキ革命起り、勞農政府樹立された。

○四月二十日、以て總選舉を施行さる。○五月五日、大阪安治川畔にある、東京倉庫會社藥品庫大爆發し、附近の民家を破壊し焼失し死傷者も夥しく其爆音遠く十里四方に及ぶ。

○五月二十二日、羽前米澤市に大火あり焼失家屋二千餘戸に及ぶ。

○五月三十一日、歐洲航路の日本郵船會社船宮崎丸英吉利海峡で獨逸潛航艇の爲に撃沈せらる。

○六月六日、外交調査會組織せられ犬養毅、原敬、伊東巳代治氏其他政府要路の人々委員に任命さる。

○六月二十一日、第卅九回特別議會召集さる。○七月廿一日、農業倉庫法公布さる。

○八月三十日、物價調節令公布さる。

○九月一日、日本橋區白木屋前市電停留所に一區劃を定めて安全地帯と定め、乗降客の安全を圖つた。

○九月二十七日、北陸線に大地震にりがあつて筒井驛海中に突入した。

○九月、歐洲大戦は世界の金融市場を不安ならしめ、日本政府は金の海外輸出を禁止するに至つた。

○十月四日、大隈内閣總辭職す。○十月九日寺内内閣成立する。

○十月三十日、補助銀貨の臨時代用として五拾錢、貳拾錢、拾錢の小額紙幣發行された。

○十一月三日、迪宮裕仁親王立太子式を舉られ市民の提灯行列其他他數々祝賀の催し市中大いに賑ふ。

○十一月二十九日、東京東兩國の國技館失火し同館及回向院類焼する。

○十二月廿五日、第四十回帝國議會召集さる。十三日、獨逸皇帝媾和の提議を爲して株式界騒ぐ。

○十二月二十二日、福岡縣桐野炭坑爆發し坑夫三百六十餘名惨死する。

大正七年

- 製鐵疑獄
- 踏切番の犠牲
- 米騒動突發
- 日米共同出兵
- 原内閣成立
- 島村抱月逝
- 休戰條約成
- 簡易食堂始
- 民謡流行
- 獨帝亡命

○四月十九日、枝光製鐵所の大疑獄の豫審決定せられ、製鐵所技師萩原時二博士その他收賄罪が成立した。先きに押川長官は災の身に及ぶ事を恐れて自殺した。

○踏切番の犠牲 五月十九日、午前一時東京發下り下關行直行列車が府下碑文谷踏切りに差掛つた時、交通を遮る開閉機の開いて居た爲め通行人を轢殺したので踏切番竹内芳松、須山由五郎の兩人は自分の職責を重んじ時を移さず兩人共次の列車で轢死した。

○八月八日、一月以來米價暴騰又暴騰一石二十四圓であつたものが遂に四十五圓ともなつた。この時富山縣滑川町漁婦達米屋を襲撃したのに端を發し約三週間に涉つて全国的に内亂状態に陥り、戒嚴令まで布かる騒動となつた。十二日夜半には東京市にも各所に騒擾起り連夜打続いた爲め陛下には細民を憐ませ賜ふ大御心から内帑金三百萬圓を御下賜せられたのである。

○八月十二日、大正六年十一月ロシアに革命起りシベリアにも革命と内亂が惹起したので、日米兩國は浦鹽に共同出兵した。○八月十六日、穀物收用令を公布せらる。○十一月、土方久元薨す。

○九月二十九日、原内閣成立す是我國政黨内閣の初めである。○十一月、昌平橋に開かれた、神田慈善會の食堂が始りである。

○十一月五日、文士島村抱月、四十七歳で逝く。

○十一月、獨逸敗戦し、歐洲大戰休戰條約成立し、こゝに世界は平和の光に浴すに至つた。

○簡易食堂の流行の始め、一ぜんめしやの看板が簡易食堂と替つたのは昌平橋に開かれた、神田慈善會の食堂が始りである。

○この年以後民謡大流行す。世界大戰は我國に素晴らしい好景氣を招來し、世風漸く亨樂に流れた。またまこの風潮に乗じて進取的な安來節、全國津々浦々に唄はれ、又植民地味豊かな鴨綠江節、素朴慕はしき小原節等雪崩の如く流行した。

○十二月、獨逸皇帝ウイヘルム世界的大混亂を起し、又獨逸帝國を革命の慘禍に陥らしめて、遂にオランダに亡命したが後遂に退位せしめらる。

- 四十一議會ガソリン
- 穀摺機械
- 須磨子自殺
- 自動車取締
- 講和全權
- 西伯利亞出兵
- 萬歲事件
- 仙臺大火災
- 開墾助成法
- 席織機械の發明
- 金澤大火災
- 山田憲の鈴辨殺
- ヴェルサイユの講和條約成る
- 世界戦争の犠牲調
- 太平洋横斷懸賞

大正八年

○十二月廿五日、第四十一回帝國議會召集さる。○此頃來、消防機ガソリン唧筒盛んに使用せる。○此の年、穀摺機の發明及電氣動力の應用される、農家の手間を省くこと多し。

○一月五日、女優松井須磨子愛人島村抱月の跡を追ふて自殺する、年三十四歳であつた。

○一月十一日、自動車取締令公布さる。

○世界大戰に對する我が講和全權委員下の諸氏に被仰付る。西園寺公望、牧野伸顯、松井慶四郎、珍田捨巳、伊集院彦吉の外に隨行員があつた。此日神戸出帆、佛國に向つた。

○二月十二日、勞農軍隊とシベリアで日本軍激戦、死者二百四十名。四月十三日宇都宮師團シベリアに出兵。翌一月高田師團更に出兵す。

○三月一日、朝鮮京城に騒擾あり以後暴動六ヶ月に涉り各地に官憲と衝突流血の慘有萬歲事件といふ。

○三月二日、仙臺市大火、焼失家屋六百七十餘戸に及ぶ。○四月四日、開墾助成法公布さる。

○此年席織機發明され、農家の副業としての企業の發達を將來した。

○五月十九日、北陸金澤市大火、焼失家屋一千二百餘戸に及ぶ。○外米商鈴木辨藏を撲殺し死體を切りきざみトラクに詰めて信濃川に遺棄したこと暴て死刑となる。

○六月八日、歐洲大戰の總決算として交戦國の各代表外四百名巴黎郊外ヴェルサイユ宮殿に集まり、午後三時十分議長クレマンソーの宣告の後二十ヶ國の全權は順次調印を終つた。我全權は西園寺公望公である。講和條約の結果、獨逸は戦敗國として、戦費の負擔、各國への賠償、アルサス・ローレンの佛國への割讓、チエツコ・スロバキア・ポーランドの獨立、軍備の制限等をする事となつた。

○七日、此度の世界大戰に於ける戦費と死傷は、聯合國側千八百億死者四百八十七萬人、負傷千八百萬人同盟國では九百六十億死者二百九十萬人、負傷七百六十萬人と云ふ恐ろしい數であつた。

○七月一日、米國飛行家ビロ太平洋横斷飛行を企て、トーマス・インズ最初の成功者には五萬弗を懸賞

下關東京間
マラソン
平和祝賀會
板垣退助逝
岐阜縣の大
寛城子事件
新聞社のス
トライキ
列車大衝突
驛待タクシ
小學生犠牲
二部教授始
飛行郵便始
志自岐沈没
協調會成立

贈る旨を發表す。これが太平洋横斷の企と懸賞の嚆矢。
○下關東京間マラソン 七月二十二日、金栗選手東京朝日の後援で下關・東京間二百九十三里の都市
○國際航空法 七月三十日、巴里に於て國際航空法規起草。各國に對し其領域上空の絕對主權
を認めると共に國籍の如何を問はず航空の自由を與ふこととなる。
○七月一日、平和祝賀會東京市主催にて盛大に舉行され帝都の民衆は提灯行列で『平和の光』を歡呼
す。又當日陸軍は平和記念の大觀兵式を舉行し東宮殿下御閱兵遊さる。
○七月十六日、板垣退助伯逝く。享年八十三歳。明治七年前鮮問題で參議を辭して以來國會開設、自
由民權擴張の爲めに一生を捧ぐ。『板垣死すとも自由は死せず』とは大隈侯が改進黨を起した時を記念
するたのみの一世の名言であつた。○七月、岐阜縣八幡町大火、二千五百戸を焼く。
○八月一日、東京に印刷工の大罷業起り、都下の日刊新聞は全部休刊四日間に亙り、市民は暗夜に提
灯を失つた如くであつた。
○七月三十一日、東海道線垂井驛附近に於て神戸發一二等急行列車衝突し内田信也外十數名の死傷者
を出した。
○八月十日、驛待自動車の元祖タクシ開業さる。最初は僅か六輛の運轉であつた。
○八月十一日、芝櫻田小學校三年生小川慶三は三名の友人と共に日比谷公園に遊び歸途山下門手前に
てやまと運轉手養成所の自動車に轢かれ重傷を負ふ。
○八月、東京市内の小學校不足をつけ小石川、下谷、淺草等小學校續々二部教授を開始す。
○八月二十日、東京・大阪間郵便飛行水田、山縣、佐藤の三機によつて始めて企てられ、續いて定期
郵便飛行及旅客飛行の航空路開始さる。
○八月十五日、軍艦志自岐は種ヶ島附近にて暴風雨のため沈没、石川中佐以下乗組員百十數名死す。
○八月十七日、徳川家達公、澁澤男等の主唱による協調會本日設立總會開かる。基金一千萬圓にし
て勞資の協調のために貢獻せんとするを目的とする。

八時間労働
實現
京城の爆彈
光鮮の發見
派遣軍撤兵
砲兵廠罷工
池上會式の
混亂
市營食堂成
神近市子愛
人を斬る
第一回國際
労働代表
人事相談始
松本訓導の
殉職
演習悲慘事
市營浴場
帝大購買組
合

○九月一日、大阪大日本紡績會社は本日より八時間労働制を實施す。我國に於ける八時間労働制の嚆矢。
續いて九月一日より神戸川崎造船所でも施行。
○九月二日、齋藤實新朝鮮總督一行京城着、午後○時十分到着の利那二兎漢のため爆彈を投ぜられ
總督の帶革に破片命中せるも無事、村田少將負傷す。
○八月二十三日、長野高女校長河野齒藏氏は北海道にアイヌ研究中旭岳に於て光鮮を發見。
○九月二十七日、ウラジホ第一次派遣軍撤兵し、此の日大谷大將凱旋す。
○八月二十九日、砲兵工廠の罷業擴大し、小石川本廠、板橋、王子工廠にて罷業參者六千五百名に達
し、軍隊出動し之を鎮壓す。
○十月十二日、東京名物の一つ池上本門寺の御會式に男女二十餘萬の人出、近年稀の大混亂に陥り午
後十時群衆大森驛線路上に數百名雪崩込み電車と衝突十一名即死。
○十月十六日、東京市に豫算百五十萬で市營公設市場及簡易食堂が設置されることに決定。
○十月二日、大正六年葉山日蔭茶屋に於て愛人大杉榮を殺害せんとした神近市子は此日二ヶ年の獄中
生活を終へて出獄す。
○十月十一日、第一回國際労働會議派遺政府代表鎌田榮吉、労働代表榎本卯平一行出發す。尙労働代
表に高野博士官選せられ承諾したるも労働者側の反對のため拒絶し、此の事件で帝大教授を辭任す。
○十月、岡田監時代警視廳に人事相談を開始する此れが相談部の嚆矢
○十一月二十日、東京麹町區永田小學校児童が府下井之頭公園に遠足した際、一児童は過つて玉
川上水の激流に墜ちた、同校訓導松本虎雄は教へ子を救はんとし却つて溺死した。訓導の殉職は
眞に教育界の龜鑑として、世を擧げて訓導の美しい最後を賞讃した。
○十月二十六日、房州沖に於て海軍大演習中軍艦日向の主砲破裂し、分隊長伊藤少佐以下三十名死傷
し、附近にあつた驅逐艦濱風は激浪のため惨死し加島艦長も負傷す。
○十月二十八日、東京府は深川方面に公設浴場を開設す。二百人位入浴出来る設備で安理髮所、娛樂場
も併置。
○十二月八日、東大教授の吉野博士が理事長、資金三萬圓で帝大に購買組合設立さる。學校に於ては

流行性感冒
帝國ホテル
大火

大正九年

労働劇
華奢を戒む
賄征伐
普選大示威
森戸辰男事件
國技館成る
スキー流行
私大學士出現
流感又流行
罷工と軍隊

購買組合以後全国的に發展するに至る。
○十二月、悪性流行感冒全國に瀰漫し軍隊の患者七千死者二百餘名、民間の患者百餘萬人と概算さる。
○十二月二十四日、第四十二回帝國議會召集さる。
○十二月二十七日、帝國ホテル新館百十號室より出火、新館二階建二百四十坪全部焼失す。

○一月五日、堺利彦、荒畑寒村、岩佐作太郎等は新年餘興として労働劇『停電』を平民俱樂部に上演
凡らくプロ演劇の嚆矢。
○一月十日、世界大戦好景氣中に限りなく、ふくらんだ、華奢の風を戒むる詔書下る。
○二月十日、早稲田大學學生に端を發し、都下全學生間に下宿料値下待遇改善の『賄征伐』運動起る。
○二月十日、普選案上程され百十一團體五萬七千人が芝と上野から日比谷へ大示威運動を行ひ、遂に千餘名は政友會本部に殺到し大衝突を演ず。
○一月十四日、帝大助教森戸辰雄氏は『クロボトキン研究』の論文筆稿事件で起訴され、本日休職を命ぜらる。
○一月十五日、大鐵傘の國技館は竣工したるを以て古式に依り盛大に開館式を舉行、三段構は栃木山と鳳が務む。

○一月、スキー大流行。二、三兩日に伊吹山で最初のスキー大會開催され、赤倉に練習せる帝大スキー團はこの年スキー部を新設す。
○一月二十日、早稲田、慶應の二私立大學新大學令によつて最先に認可さる。これで私立から始めて帝大同格の『學士』が生る。
○一月、流感益々猖獗を極め、東京市内は死者毎日百名を超え、街路はマスクの行列の感を呈す。
○二月五日、八幡製鐵所の職工二萬は總罷業を開始。大熔鑪の火は消ゆ。指揮者淺原健三、軍隊出動十一日鎮壓、白根長官責任を引いて辭職する。

○二月二十一日、平塚雷鳥、市川房枝、山田わか、奥むめお等によつて新婦人協會設立、婦選獲得
女權獲得運動に乗り出す。
○二月二十六日、普選案は憲・國・實の三派單獨にて提案され何れも衆議院で否決され最後の憲政會修正案が本會議に上提せられたる所原政友會内閣は本日議會を解散し國民の總意に問ふこととなつた。
○三月十三日、矢島揮子八十歳は、萬國婦人矯風會大會に出席のため渡歐する。
○三月十三日、勞農ロシアの尼港に於て、我居留民はバルチザンのため七百餘名虐殺さる。四月二十日『尼港救援軍』出兵し我軍は直にシベリアへ出兵し沿海州一帯を保障占領するに至つた。八月六日には尼港殉難者に對して御内帑金二千三百圓御下賜さる。
○三月二十一日、東京市電は今日より地圖入新乗替切符を使用す。切符大節約と共に乗客の便利増進さる。
○三月二十六日、二月以來岩手縣下に於て熊谷松藏、漆原淨林の兩名は幼児の生贖を取つて上流社會に賣つてゐたことが判り檢査さる。
○四月二十一日、山縣飛行士始めて東京・大阪無着陸懸賞飛行に成功した。所用時間往復六時間四十分飯沼機は丹澤山に墜落した。
○四月八日、東京市は始めて女視學を採用し、水野やす子を任命する。
○四月二十八日、元朝鮮王世子李垠殿下は梨本宮方子女王と御成婚さる。
○四月三十日、上野署では上京する地方青年の保護のため本日より上野驛構内に『人事相談所』を設け、地方青年女子を悪桂庵の魔手から救ふ。
○四月、此の頃より大不景氣襲來し、銀行破綻株式暴落、事業休止し失業者續出、流言飛び世情騷然。
○五月十日、總選舉施行され、開票の結果政友二六七名、憲政一〇九名、國民二九名中立四九名當選。
○五月十五日、鐵道院を廢し鐵道省を置く。この日又、國勢院を置く。
○五月二十二日、邦文タイプライター發明者杉本京太氏は邦文モノタイプ發明に成功、邦文活版界を革命する。
○五月三十一日、軍艦『陸奥』横須賀港で進水する。皇后陛下、東宮殿下御台臨。

新婦人會成
第四十三議會解散
婦人矯風會
尼港事件起
新乘換券
生贖を賣る
東京大阪往復飛行
女視學の魁
李王御成婚
上野驛構内人事相談所
不景氣襲來
總選舉成果
邦文タイプライター
陸奥進水

○二月二十一日、平塚雷鳥、市川房枝、山田わか、奥むめお等によつて新婦人協會設立、婦選獲得
女權獲得運動に乗り出す。
○二月二十六日、普選案は憲・國・實の三派單獨にて提案され何れも衆議院で否決され最後の憲政會修正案が本會議に上提せられたる所原政友會内閣は本日議會を解散し國民の總意に問ふこととなつた。
○三月十三日、矢島揮子八十歳は、萬國婦人矯風會大會に出席のため渡歐する。
○三月十三日、勞農ロシアの尼港に於て、我居留民はバルチザンのため七百餘名虐殺さる。四月二十日『尼港救援軍』出兵し我軍は直にシベリアへ出兵し沿海州一帯を保障占領するに至つた。八月六日には尼港殉難者に對して御内帑金二千三百圓御下賜さる。
○三月二十一日、東京市電は今日より地圖入新乗替切符を使用す。切符大節約と共に乗客の便利増進さる。
○三月二十六日、二月以來岩手縣下に於て熊谷松藏、漆原淨林の兩名は幼児の生贖を取つて上流社會に賣つてゐたことが判り檢査さる。
○四月二十一日、山縣飛行士始めて東京・大阪無着陸懸賞飛行に成功した。所用時間往復六時間四十分飯沼機は丹澤山に墜落した。
○四月八日、東京市は始めて女視學を採用し、水野やす子を任命する。
○四月二十八日、元朝鮮王世子李垠殿下は梨本宮方子女王と御成婚さる。
○四月三十日、上野署では上京する地方青年の保護のため本日より上野驛構内に『人事相談所』を設け、地方青年女子を悪桂庵の魔手から救ふ。
○四月、此の頃より大不景氣襲來し、銀行破綻株式暴落、事業休止し失業者續出、流言飛び世情騷然。
○五月十日、總選舉施行され、開票の結果政友二六七名、憲政一〇九名、國民二九名中立四九名當選。
○五月十五日、鐵道院を廢し鐵道省を置く。この日又、國勢院を置く。
○五月二十二日、邦文タイプライター發明者杉本京太氏は邦文モノタイプ發明に成功、邦文活版界を革命する。
○五月三十一日、軍艦『陸奥』横須賀港で進水する。皇后陛下、東宮殿下御台臨。

職業紹介所
伊機飛來
時の記念日
四十三議會
慶大病院始
永井氏懲罰
八八艦隊決
國鐵委員選
全國野球始
國際オリム
ピック
五大ボート
榛名艦破裂
伊香保大火
國勢調査
日曜學大會
社會同盟
明治神宮鎮

○六月一日、失業對策として公益職業紹介所は各都市に生れつゝあつたが、神田の中央職業紹介所事務開始され、職業紹介は公益事業として無料で取扱はる。
○六月一日、伊國フェラリー、マジエロ兩中尉は羅馬、東京間の訪日飛行に成功。「空の黒船來」として驚異すると共に「日伊」親善の使者として官民盛大に歓迎をする。
○六月十日、「時の記念日」始て舉行正午を期して市民に正しい時を合せ「時間の觀念」を發達せしむ。
○六月廿九日、第四十三回帝國議會特別議會召集さる。
○七月一日、慶應大學病院開院さる。
○七月九日、永井柳太郎氏八日の臨時議會で「西にレーニン、東に原敬」と演説し懲罰に附せらる。
○七月九日、八八艦隊の建造案特別議會を通過し、海軍は大正十六年迄に戦艦、巡洋艦各四隻及附隨の中艦多數建造の豫定。
○八月十一日、我官營企業最初の試みとして鐵道従業員現業委員の選舉行はる。
○八月十四日、全國中等學校優勝野球第一回大會本日より鳴尾球場にて開始さる。觀衆三萬人。
○八月十五日、アントワープに第八回國際オリムピック大會舉行。日本より熊谷、金栗、佐野選手等嘉納氏引率の下に出場。
○九月一日、日本漕艇協會發會式を舉行し、九月二十三、四兩日隅田川に於て第一回五大學對抗ボート・レース舉行。
○九月十三日、北海道沖にて演習中の榛名艦破裂し死傷十數名を出した。
○九月三十日、伊香保町全焼し、豪奢を誇つた温泉場焼失、避暑客大混雑を呈す。
○十月一日、我國最初の第一回國勢調査行はる。日本の人口七六、九八九、三七九人（男九〇八、九三一九五人、女三八、〇八五、一八四人）以後十年目毎に行はれ、其間五年目毎に簡易調査が施行。
○十月五日、世界日曜學校第八回大會は東京驛前にて開催の處會場焼失のため、日比谷公園で舉行、各國から代表者六百餘名出席會衆二萬。
○十一月一日、本日より三日間明治神宮鎮座祭舉行され工費五百萬圓、日子六ヶ年を費し、内苑の敷

座祭
青年代表參
拜
臺灣大暴風
市議癡獄
青年に令旨
を賜ふ
對米國民大
會

地二十二萬七千餘坪、本殿其他建造物の建坪六百五十坪、鬱蒼たる緑の中に神々しき神殿は一般に拜觀を許さる。拜觀の人出一日二百萬人、明治大帝の御聖徳を慕ひ全國の青年團は神宮御造營の砌り、勞力奉仕をなし、皇室尊崇、君民一致の美はしき國民性を發輝した。續いて十一月二十三日には全國青年團代表は明治神宮を參拜した。
○十一月八日、臺灣に大暴風雨襲來し被害甚大御皇室からは賑恤のため御帑内金一萬二千圓御下賜。
○十一月十六日、東京市會議員中に土木業者より收賂の疑獄起る。
○十一月二十二日、今上陛下未だ皇太子にてあらせられし御時全國青年團に令旨を賜つた。
○十一月二十二日、國運ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ諸子能ク内外ノ情勢ニ顧ミ恒ニ其ノ本分ヲ處シ奮勵協力以テ所期ノ目的ヲ達成スルコトニ勤メム事ヲ望ム。
○十二月二日、加州排日問題聯合大會開催され十二日には上野公園に對米問題國民大會開催さる、排日反對、對米強硬の國論喚起さる。
○二月七日、北海道夕張炭坑坑夫一萬人は賃銀二割減反對を叫んで總罷業決行。
○二月十一日、神戸親和女學校六百名の女生徒は三教諭解職反對を叫んで同盟休校する。
○二月十二日、大本教本部「邪教」として檢舉され出口王仁三郎、淺野和三郎等收容さる。
○同日全國町村長會議創立總會開催され、自治政治の進歩發達を期す。
○二月、内地鮮人の思想行動不穩を極め京濱間三千名の鮮人労働者學生等は秘密結社を組織し、社會主義同盟に加入。
○二月十六日、前朝鮮中樞院贊議閔元植、東京驛ホテルに於て暗殺さる。
○二月十八日、寶塚郵便局長等八名は大正七年末郵便切手二百三十四萬圓横領せる事發覺收容さる。
○二月二十日、原政友會内閣不信任案衆議院本會議に上提せらる。此日山王の森で憲政會院外團示

大正十年